

CAS-UB User Guide V4.0

CAS-UB 利用ガイド

CAS-SUPPORT

2016年10月19日発行 V4.0 初版



CAS電子出版
<cas-ub.com>

ごあいさつ

この度は「クラウド型汎用書籍編集・制作サービス」(CAS-UB)をご利用いただきありがとうございます。CAS-UBは、出版物の編集・制作を支援するサービスです。

現在、出版物を流通手段として、紙と新しい電子端末の二つを使えるようになっており、しばらくの間、紙と電子端末の両方を出版手段として使う時代が続くと考えられます。紙の出版物は決められた判型にページレイアウトされていますが、電子書籍形式では、ページサイズが可変であることを前提に制作する必要があり、紙への出版ワークフローでは効率が悪くなります。CAS-UBは、紙のための出版ワークフローに代わるデジタルファーストのワークフローを提案するものです。CAS-UBを使うと紙と電子書籍の双方を同時に制作でき、紙の出版物と電子書籍の双方をよりスムーズに制作できます。

サポートについて

CAS-UBをお使いいただく上で、お困りの点やご質問がございましたらCAS-UBサポート担当(cas-support@antenna.co.jp) (mailto:cas-support@antenna.co.jp)宛のメールにて承りますので、お気軽にお問い合わせください。

凡例

- 1) 画面は強調：(例) 記事編集は記事編集画面を表します。
- 2) 画面の遷移は⇒：(例) 生成⇒PDFのレイアウト設定 生成画面で、PDFのレイアウト設定のリンクをクリックすることを示します。
- 3) 画面の設定項目名は【項目名】：(例)【基本文字サイズ】はPDFのレイアウト設定画面の設定項目の基本文字サイズを示します。
- 4) 選択肢・入力データは「選択肢」：(例)【基本文字サイズ】「9pt」はPDFのレイアウト設定画面の設定項目の基本文字サイズ項目に「9pt」を入力したことを示します。
- 5) 処理の実行ボタンまたは選択の確定のボタン [ボタン]：(例) [PDFを生成] は、生成画面の「PDFを生成」ボタンを示します。

目 次

ごあいさつ	i
第1章 CAS-UB サービスの概要	1
1.1 CAS-UB とは	1
1.2 出力形式	1
第2章 CAS-UB による出版物の制作	3
2.1 CAS-UB における記事と出版物の概要	3
2.2 CAS-UB サービスへのログイン	4
2.3 はじめてのEPUB制作～Wordから取り込むまで	5
2.4 はじめてのEPUB制作～書誌編集	9
2.5 はじめてのEPUB制作～EPUBの生成	12
2.6 完成したEPUBをiBooksで表示	14
第3章 CAS-UB の画面と機能	17
3.1 ホーム(出版物一覧)画面	17
3.2 出版物新規作成	20
3.3 記事編集画面	21
3.4 記事内容入力と保存	23
3.5 記事の書き方・基本	25
3.6 マークアップと自動処理	27
3.7 記事の追加	28
3.8 記事の構成を編集する	29
3.9 記事の移動	31
3.10 記事の削除	33
3.11 記事の内容表示	35
3.12 内容表示のテーマの選択	37
3.13 外部データ入力画面	38
3.14 インポート	38
3.15 WordPressのインポート	40
3.16 プレーンテキストのインポート	41
3.17 SVGのZIPのインポート	41
3.18 ドラフト	42

3.19 画像のアップロード	43
3.20 検索	46
3.21 置換	47
3.22 表紙と奥付に使われる項目の入力	49
3.23 タイトルとサブタイトルのルビと縦中横	57
3.24 PDF/EPUBなどの生成	58
3.25 EPUBの生成設定	60
3.26 Kindleの生成設定	67
3.27 Webページを生成	67
3.28 HTMLヘルプの生成設定	69
第4章 記事の種類	71
4.1 記事の種類一覧	71
4.2 出版物の種類と構成	75
4.3 本文の記事による階層化と本文見出しのレベル設定	78
4.4 手作りの記事と自動生成の記事	80
第5章 データ管理	85
5.1 履歴	85
5.2 バックアップ	86
5.3 リストア	87
5.4 出版物の削除	89
第6章 マークアップの基本	91
6.1 マークアップとは	91
6.2 はじめてのマークアップ	92
第7章 マークアップ支援機能	95
7.1 マークアップ支援ボタン	95
7.2 各ボタンの機能説明	96
第8章 CAS記法のマークアップリファレンス	111
8.1 編集対象要素の一覧	111
8.2 段落	112
8.3 見出し	115

8.4 見出しテキスト内のマークアップ	117
8.5 記事タイトル	118
8.6 記事タイトル内のマークアップ	119
8.7 箇条書き	121
8.8 用語定義リスト	124
8.9 ブロック範囲指定とブロックの特殊化	125
8.10 キャプション	126
8.11 イメージと図版（画像）	127
8.12 表	130
8.13 コラム	134
8.14 要約（サマリー）	134
8.15 注記（ノート）	135
8.16 ブロック引用	135
8.17 整形済みブロック	136
8.18 埋め込みブロック	138
8.19 インクルード	139
8.20 ブロック数式	141
8.21 水平線と強制改ページ	143
8.22 強調	145
8.23 圏点	146
8.24 ルビ	146
8.25 縦中横	147
8.26 上付き・下付き	148
8.27 強制改行	148
8.28 注	149
8.29 イメージと図版（インライン）	150
8.30 範囲指定	151
8.31 索引の指定	152
8.32 タイプライター	153
8.33 URLと記事へのリンク	154
8.34 記事内の特定位置に目印（ID）をつける	156
8.35 記事内の特定位置を参照する（ID参照）	158
8.36 アンカーテキストのマークアップ	159
8.37 インライン数式	160
8.38 コメントアウト	160

第9章 CAS記法の属性マークアップリファレンス	163
9.1 属性指定の詳細	163
9.2 組み込みクラス属性値一覧	166
9.3 組み込み属性と属性値	169
9.4 フォントの埋め込みとフォントの指定	169
9.5 ブロックマージン	173
9.6 画像の回り込み	174
9.7 文字色と背景色	177
第10章 コンテンツやマークアップに使う記号・文字・単位	179
10.1 記号や空白をそのまま使う（エスケープ）	179
10.2 円記号（¥）の扱い	180
10.3 予約済みの記号	180
10.4 文字のUnicode番号を直接指定	181
10.5 単位	181
第11章 縦組の指定	183
11.1 本全体の縦組（本の開き方）	183
11.2 編集時の文字進行方向の指定	183
11.3 PDF生成時：記事毎の文字進行方向指定	184
11.4 EPUB生成時：記事毎の文字進行方向指定	186
第12章 EPUBのレイアウト指定	189
12.1 CSSのテーマ	189
12.2 CSSのテーマの機能と設定変更	189
12.3 レイアウトのカスタマイズ（ユーザー・スタイルシート）	191
第13章 メルマガ変換	195
13.1 メルマガEPUB変換機能の利用方法	195
13.2 メルマガ変換ルール	197
13.3 メルマガUテンプレート	198
13.4 メルマガKテンプレート	201
13.5 メルマガTテンプレート	204
13.6 メルマガHテンプレート	207

第 14 章 その他の情報・設定など	213
14.1 公開プロフィール	213
14.2 出版物のオーナー	214
14.3 執筆チームメンバー	216
14.4 他の出版物の設定をコピーする	217
14.5 記事のファイル名	218
14.6 SVG 記事	218
14.7 参考文献の自動生成	219
14.8 数式の記述	220
14.9 EPUB3 の目次	221
14.10 自動生成記事のタイトル変更	221
付録：数式リファレンス	223
注釈一覧	233
図表一覧	235
索引	239

第1章 CAS-UB サービスの概要

1.1 CAS-UB とは

CAS-UB は、出版物の編集・制作のためのサービスです。Web ブラウザを使って原稿を入力・編集できます。原稿をクラウド・サーバーに保存し、複数の著者や編集者が同時に作業を進め、出版物作成の効率をあげることができます。

CAS-UB は、次の特長があります。

- 1) 著者と編集者が、クラウド・サーバーにおいた原稿を共同で編集して本を作る、リアルタイム・コラボレーションができます。
- 2) 執筆→編集→校閲→リリース→原稿の修正という過程を何回も回して、出版物内容の品質向上を図れます。
- 3) ひとつのコンテンツから電子書籍である EPUB と印刷向けの PDF を自動的に作成できます。
- 4) 著者や編集者は、レイアウトのことを考えずにコンテンツの制作だけに集中できます。
- 5) 出版物のレイアウトをテーマとして用意しています。EPUB や PDF の生成時にテーマの中から選択して指定でき、新しいデザインが不要です。
- 6) 契約したその日からサービスをお使いいただけます。ソフトウェアの初期導入コストや運用コストを考える必要がありません。

1.2 出力形式

CAS-UB は、出版物を次のファイル形式で出力できます。

PDF (PDF/X-1a:2001, PDF1.3/1.4/1.5/1.6/1.7)

EPUB3.0 (以下、EPUB3 と略記)

EPUB2.0 (以下、EPUB2 と略記)

Kindle (MOBI、 Kindle 向け EPUB)

HTML ヘルプ (Microsoft HTML Help Workshop でコンパイルできるソースファイル)

Web ページ (Web 閲覧向けの HTML)

※ EPUB3 の固定レイアウトとメディアオーバーレイはサポートしていません。

第2章 CAS-UB による出版物の制作

2.1 CAS-UB における記事と出版物の概要

2.1.1 出 版 物

CAS-UB は、電子書籍用の EPUB や Kindle MOBI フォーマットの電子ファイル、および印刷や POD (プリントオンデマンド) 向の PDF ファイルを編集・制作するサービスです。これらの生成物を総称して「出版物」といいます。MOBI は EPUB から変換で作りに出せますので、本ガイドでは EPUB と MOBI については、必要に応じて区別して書いています。

2.1.2 記 事

出版物の原稿はテキストや画像などです。原稿は編集しやすい分量、読みやすい分量、レイアウトなどで分けてクラウド・サーバー上にファイルとして保存します。このファイルを「記事」と言います。出版物は多数の記事から構成されます。各記事は、表紙、本扉、前書、目次、本文(章、節、項、目)、後書、索引、奥付などの位置・役割が与えられます。こうした役割により「記事の種類」を設定します。

CAS-UB では、各記事のテキストを執筆・加筆・訂正・マークアップする記事編集、出版物の中で記事の順序や階層構造を並べ替える構成編集を行いません。

関 連 第4章 記事の種類 (p. 71)

2.1.3 生 成

編集作業が終わった出版物を EPUB や PDF 形式で作成(生成)します。生成処理は出版物を構成する多数の記事から出版物を作り出します。EPUB は記事ひとつひとつをファイルにしてそれをパッケージとしてまとめてひとつの出版物を構成します。PDF は出版物の中の記事をひとつに連結してから作成します。

EPUB や PDF の生成の際には、記事を集めるだけでなく、コンテンツのマークアップと書誌情報から目次・索引や表紙・奥付けなどを自動生成します。

2.1.4 レイアウト

CAS-UB では出版物レイアウトはテーマとして用意しています。

- EPUB で、テーマとしていろいろなレイアウトを用意しています。EPUB の生成で好みのテーマを選択します。テーマのカスタマイズができます。
- PDF はあらかじめ最適な版面になるようにレイアウト設定を調整していますが、さらにお好みに応じて設定変更とカスタマイズができます。

2.1.5 出版物の言語

出版物の新規作成時に出版物の言語を指定します。たとえば、CAS-UBでは章番号の自動生成ができますが、これは本文の章だけをカウントします。その際、日本語は'第'X'章'といった接頭辞・接尾辞を付けますが、英語は'Chapter'がつきます（接頭辞・接尾辞は変更可能）。

出版物の言語は、出版物設定画面の「出版物の言語を選択」で変更できます。

2.1.6 出版物の種類

CAS-UB V4.0で新規作成すると出版物の種類が「書籍3」（日本語または英語）となります。「書籍3」は、縦組PDF制作で使われる多様なページレイアウト切替ができるように記事の種類を増やしました。V2.3では出版物の種類は「書籍2」（日本語または英語）でした。「書籍2」及びそれ以外の出版物の種類を指定する機能は残っていますが、これは過去との互換性を維持する目的です。

2.2 CAS-UB サービスへのログイン

作業は、Webブラウザで <http://a.cas-ub.com> から、CAS-UBへログインして行います。画面右上の「ログイン」をクリックしてください。



図1 CAS-UB のログイン画面

ログインに成功すると、ホーム（出版物一覧）画面が表示されます。

The screenshot shows the CAS-UB user interface. At the top left is the CAS-UB logo with the tagline 'Cloud Authoring Service for Universal Book'. To the right are navigation links: 'ユーザー情報', '公開プロフィール', and 'ログアウト'. Below the logo is a button labeled '出版物新規作成'. To the right of this button are links for '出版物新規作成', 'Word変換', 'メルマガ変換', 'ディスク使用量', and 'CAS-UB修正情報'. The main heading is 'supportさんの著者ページ'. Below this is a 'ヒント' (Hint) section. The central heading is '出版物一覧'. Underneath is the text 'supportさんの出版物'. There are two tables. The first table has columns: '出版物識別名', '出版物タイトル', '作成日', and '処理'. The second table has columns: '出版物識別名', '出版物タイトル', '作成日', 'オーナー', and '処理'. At the bottom, there is a copyright notice: 'Copyright© 2011-2015 Antenna House Inc. All Rights Reserved.' and links for 'このサイトについて', '利用規約', and '個人情報保護方針'.

図2 ホーム（出版物一覧）画面

2.3 はじめての EPUB 制作～Word から取り込むまで

CAS-UB による出版物の作成の流れを理解していただくためホーム（出版物一覧）画面から開始して EPUB3 を作成する流れを説明してみます。Word で原稿を用意して、その原稿からはじめることが多いでしょうから、Word の原稿を用意するところから説明します。

2.3.1 ステップ1：Word の原稿を用意する

まず、Word2007 以降の版で原稿を執筆します。Word の印刷プレビューで見ますと、でき上りは全体で5ページとなりました。

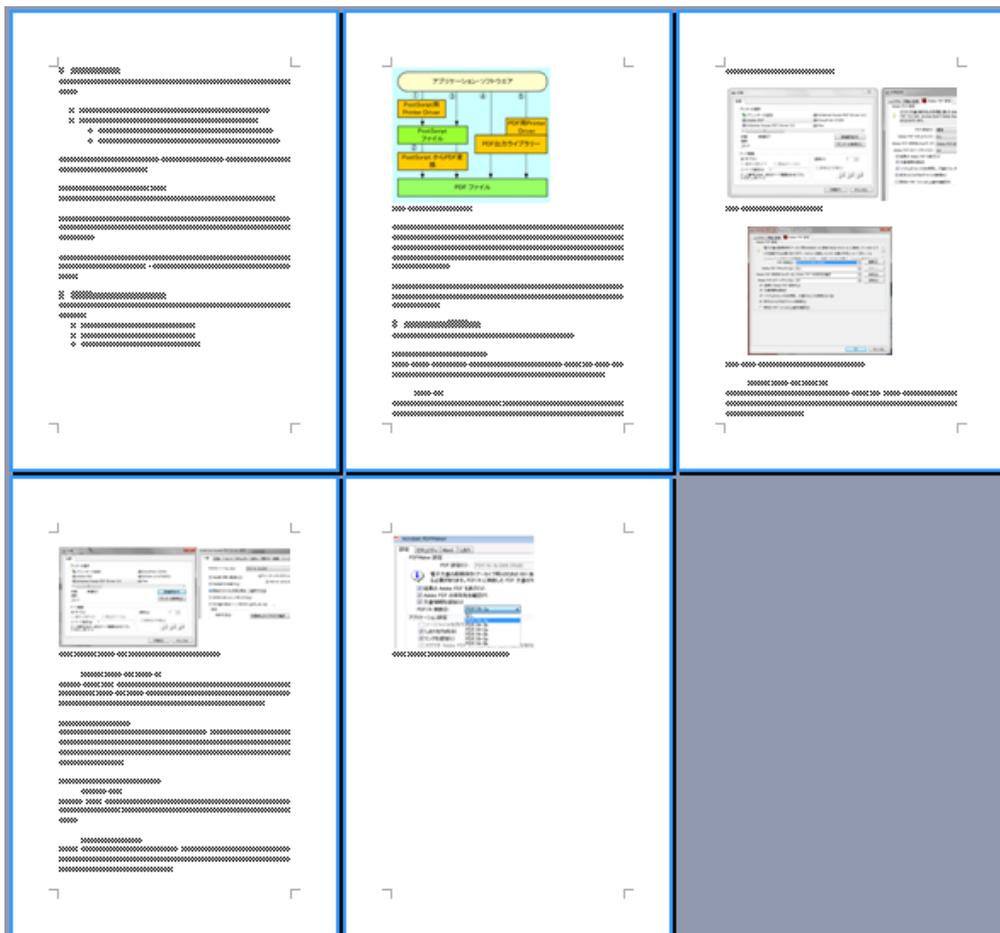


図3 Word文書の印刷プレビュー

CAS-UBにうまく取り込むには、Word文書での書式指定はできるだけWordのスタイル機能を使います。この文書では、Wordのスタイルを使った簡条書きを作成し、原稿の見出しには図のようにアウトラインを設定しています。

1. PDF/Aについて(レベル1)
 - PDF/Aの準拠レベル(Conformance Level)(レベル2)
2. PDF/Aの作成方法と準拠レベル(レベル1)
3. 各種ツールのPDF/A作成(レベル1)
 - 仮想プリンタ方式によるPDF/A作成(レベル2)
 - Adobe PDF (レベル3)
 - Antenna House PDF Driver 5.0 (レベル3)
 - Antenna House PDF Server V3 (レベル3)
 - PostScriptからPDFへ変換(レベル2)
 - アプリケーションから直接PDF/A作成(レベル2)
 - Microsoft Office (レベル3)
 - Microsoft用PDFMaker (レベル3)

図4 Word原稿のアウトライン

できあがった原稿はWordのdocx形式、ファイル名を「PDF/Aの作り方.docx」として保存し

ます。

2.3.2 ステップ2：出版物新規作成

今回はCAS-UB側で出版物を作ります。まず、ログイン後のホーム（出版物一覧）画面（p. 17）で左上の「出版物新規作成」をクリックします。



図5 出版物新規作成

なお、CAS-UBにはWordの原稿を直接EPUB3に変換する「Word変換」もあります。Word変換を使えば途中のステップを全部飛ばしてEPUB3を生成できます。ただし、きめ細かい編集や設定を行なえません。そこで、ここではWordをインポートしてEPUBをステップ・バイ・ステップで作成してみます。

2.3.3 ステップ3：出版物ファイル名とタイトルを設定

出版物のファイル名やタイトルを設定します。ファイル名は「how-to-PDFA」、出版物のタイトルは「PDF/Aとその作り方」とします。このふたつが必須項目です。それ以外の設定は変更しないで、一番下の「作成」ボタンをクリックします。

出版物新規作成

* は必須の項目です。

全般

オーナー名	support
出版物識別名 *	<input style="width: 100%;" type="text" value="how-to-PDFA"/> <p style="font-size: small;">CAS-UBシステムで使う名前。6文字以上25文字まで。 1文字目は半角英文字。2文字目からは、半角英文字、半角数字と半角'-'（ハイフン）。最後は半角英文字か半角数字。</p>
出版物タイトル *	<input style="width: 100%;" type="text" value="PDF/Aとその作り方"/> <p style="font-size: small;">出版物のタイトル、書名。1文字以上100文字まで。</p>
作成方法	<input type="text" value="デフォルトの設定で新規作成"/>
出版物の言語	<input type="text" value="日本語"/>
<input style="border: 2px solid red; border-radius: 50%; padding: 5px 15px;" type="button" value="作成"/>	

[互換モード](#)

図6 ファイル名とタイトルの設定

サーバー上で「作成」処理が終わると、記事がなにもない出版物がCAS-UBのサーバー上にできます。

2.3.4 ステップ4：外部データ入力でWordファイルをインポート

ステップ1で原稿をWordで作成しましたので、このWordファイルをインポートします。このためには[外部データ入力]をクリックします。



図7 外部データ入力をクリック

すると外部データ入力画面になります。

関連 外部データ入力画面 (p. 38)

インポートファイルの形式は「Microsoft Word 2003 XML」とします。(この指定で docx 形式のファイルを変換できます。) インポート先は「主原稿」とし、記事に分割するアウトラインレベルは「1」とします。いずれもデフォルト値のままです。ここで、[参照] ボタンをクリックして、最初に準備したWord文書を開きます。

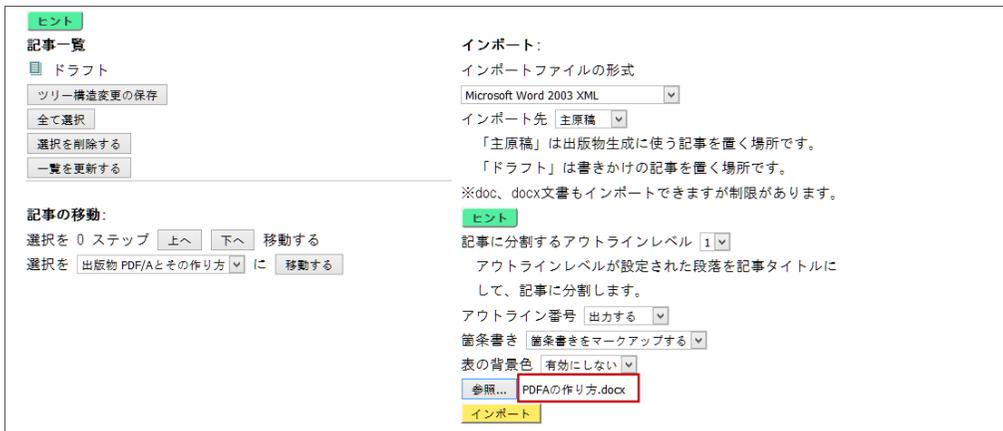


図8 原稿のWordファイルを指定する

これで準備ができましたので、[インポート] ボタンをクリックします。すると画面に「インポート開始」と表示されてから「記事の変換中」という表示が出て、しばらくすると「主原稿」に変わります。

記事の変換中 ⇨ 主原稿

記事一覧

ドラフト

図9 インポート完了

画面の表示が「主原稿」に変わるとインポートが完了しています。そこで [主原稿] をクリックすると画面が切り替わり、インポートされた最初の記事の記事編集画面が表示されます。

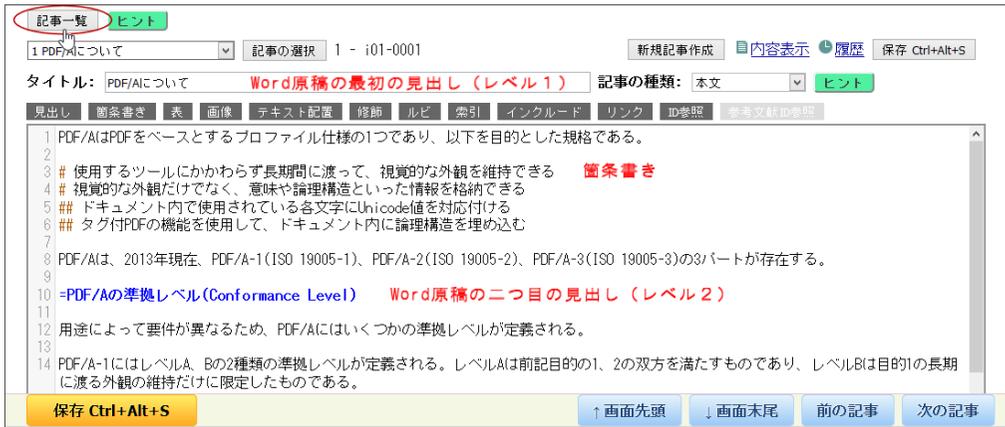


図 10 最初の記事の記事編集画面

記事一覧 をクリックすると、インポートされた記事の一覧が表示されます。



図 11 インポートが成功すると記事が三つできる

Wordの原稿をインポートした結果、アウトライン1のレベルで分割されて三つの記事になっています。Wordの見出しが、各記事のタイトルになります。記事タイトルの左のペンシルアイコン(/) をクリックすると、その記事内容を編集できます。ペンシルアイコンに枠が付いている記事が編集中の記事です。必要があれば記事内容を追加したり訂正したりできます。

再度 **記事一覧** をクリックすると、記事一覧が消えます。

2.4 はじめての EPUB 制作～書誌編集

CAS-UB では、表紙と奥付に出力するデータを書誌情報から引用しますので、表紙と奥付に

記載が必要な項目は書誌情報に記入しておきます。また、書誌情報は、EPUB3などのメタデータとして登録されます。

書誌情報は、書誌編集画面で登録します。



図12 書誌編集の選択

「その他のメニュー」をクリックすると表示されるメニューから「書誌編集」をクリックすると書誌編集画面に移ります。著者のプロフィールと版数・発行年月日を入力します。

画面下部の「プロフィールへ」をクリックするとプロフィールの項目位置が表示されます。「改定履歴へ」をクリックすると版数・発行年月日の項目位置が表示されます。



図13 書誌編集画面下部の操作ボタン

「記事編集」をクリックすると、設定を保存して最後に編集していた記事の編集画面に戻ります。書誌編集画面に来る前に記事編集をしていなかったときは、先頭の記事の編集画面に移ります。

2.4.1 著者のプロフィール

書誌編集画面のプロフィール・著者を選んで「編集」ボタンをクリックし、さらに「追加」をクリックします。



図14 著者のプロフィール追加

著者のプロフィール編集画面が表示されますので、ここで、必要事項を入力します。今回は、「著者の名前（ペンネーム）」、「著者のプロフィール」、「公開する連絡先」の欄に記入しました。

出版物プロフィール編集

著者

名前 (ペンネーム)

フリガナ

プロフィール (800文字まで)

アンテナハウス株式会社が運営するCAS-UBのサポートチームです。利用ガイドなどのドキュメントをCAS-UBで制作しています。

所属・肩書き

公開する連絡先

図 15 著者のプロフィール項目に入力

入力完了したら、[保存] ボタンをクリックして戻ります。

2.4.2 版数・発行年月日の設定

書誌編集画面で改訂履歴を選んで [編集] ボタンをクリックし、版数と発行年月日を入力して [追加] ボタンをクリックして戻ります。

改訂履歴

版数	発行年月日	説明	編集
↓			
改訂履歴編集			
追加したい改訂履歴情報			
版数	発行年月日	説明	処理
<input type="text" value="1.0"/>	<input type="text" value="013年8月12日"/>	<input type="text"/>	追加

図 16 版数と発行年月日の入力

2.4.3 設定の保存

設定の保存は、画面上部の [記事編集] [生成] のどちらかをクリックすると、設定内容を保存してクリックした画面に移ります。[記事編集] をクリックすると、設定を保存して最後に編集していた記事の編集画面に戻ります。書誌編集画面に来る前に記事編集をしていなかったときは、先頭の記事の編集画面に移ります。

[記事編集](#) [生成](#)
書誌編集

図 17 書誌編集画面上部の操作リンク

また、画面の最下部にある [記事編集] ボタンでも変更した設定を保存して、記事の編集画面に移ります。

関 連 3.22 表紙と奥付に使われる項目の入力 (p. 49)

2.5 はじめての EPUB 制作～EPUB の生成

EPUB を生成するには、一番上のメニューで「生成」をクリックします。



図 18 生成画面への切り替え

クリックすると生成画面に切り替わります。EPUB3 の生成の前に生成設定を変更します。

2.5.1 一般で CSS のテーマを選択

EPUB3 の [一般] をクリックします。



図 19 一般設定

クリックすると、一般設定画面になります。ここで、【CSSのテーマ】を設定します。お好みのレイアウトのテーマを選択したら、右上の [保存] ボタンをクリックして変更を保存してください。

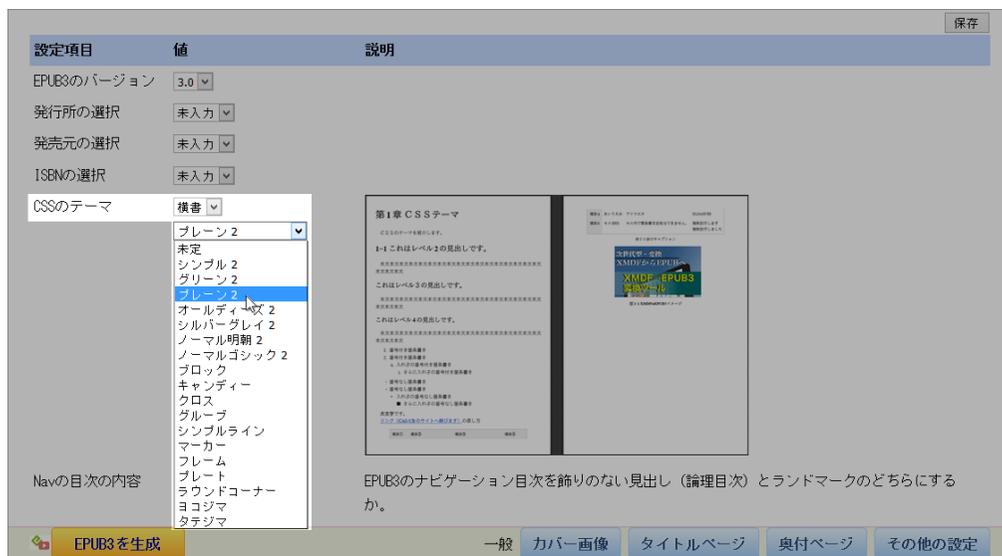


図 20 一般で CSS のテーマを選択

CSS のテーマを選択しないと、【CSS のテーマ】一覧の先頭のテーマが採用されますので、必要があれば好みのテーマに変更してください。「未定」を選択すると、EPUB3 を生成した

ときレイアウト指定のない状態となります。

【CSSのテーマ】の一覧は、「横書」と「縦書」に分けてあります。縦書のテーマを使いたいときは、「縦書」を選んでからテーマを指定してください。



図21 縦書のCSSのテーマを選択

設定の保存（生成）

生成の設定は、[保存] ボタンをクリックしなくても他の画面に移るときに自動保存されます。このため[保存] ボタンのクリックを忘れても変更した設定は有効です。変更した設定を保存せず破棄したいときは、設定を元に戻してから他の画面に移るか、設定画面を表示しているブラウザのタブを閉じてください。

2.5.2 カバー画像

EPUBではカバー（表紙）画像が必要です。カバー画像を指定しないと自動生成されますので、今は設定しません。

カバー画像の自動生成

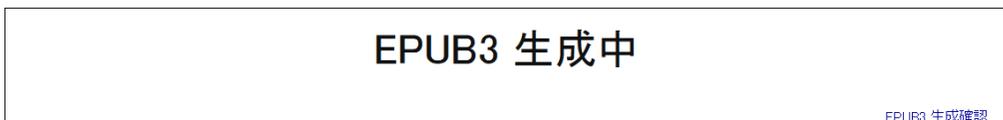
EPUB3の「カバー画像」設定でカバー用の画像（cover.pngなど）を指定しない場合、CAS-UBはタイトルページからカバー画像を自動生成します。

2.5.3 EPUBの生成実行

「EPUB3を生成」をクリックすると、「生成確認」と大きく表示されて生成を開始します。



図22 EPUB3生成



EPUB3 ダウンロード

[Dropboxに保存](#)
[EPUB3 生成確認](#)

生成には少々時間がかかります。「ダウンロード」に表示が変わったら生成完了です。

2.5.4 ダウンロード

「ダウンロード」をクリックすると生成されたEPUBがダウンロードされます。

ブラウザの設定によってはダウンロードされずにブラウザ上でEPUBが表示される場合があります。このときは表示されてから「コピーを保存」で保存するか、「ダウンロード」表示を右クリックすることで表示されるメニューから「名前を付けてリンク先を保存」（ブラウザにより表現が異なる場合があります）を実行するなどしてください。

生成の完了を待たずに他の作業をしたり、ログアウトしてPCをシャットダウンしても、生成処理は行われていますので、後で生成結果をダウンロードできます。生成画面で、[… を生成] の下に生成済み … ダウンロードといったリンクが表示されていれば、そのリンクから前回生成した結果をダウンロードできます（生成済みのファイルは、システムのメンテナンス時などに削除されますので保持期間は保証できません）。



図 23 前回の生成結果をダウンロードする

2.6 完成した EPUB を iBooks で表示

完成した EPUB3 を iBooks で表示してみましょう。

2.6.1 カバー画像とナビゲーション

カバー画像は CAS-UB で自動生成したものです。（ナビゲーション）目次は、デフォルト値で章と節までを取り込んでいます。なお、ナビゲーション（目次）に取り込むレベルは一般設定の【目次の生成】で変更できます。



図24 表紙とナビゲーション

2.6.2 第3章の先頭

第3章の先頭部分です。

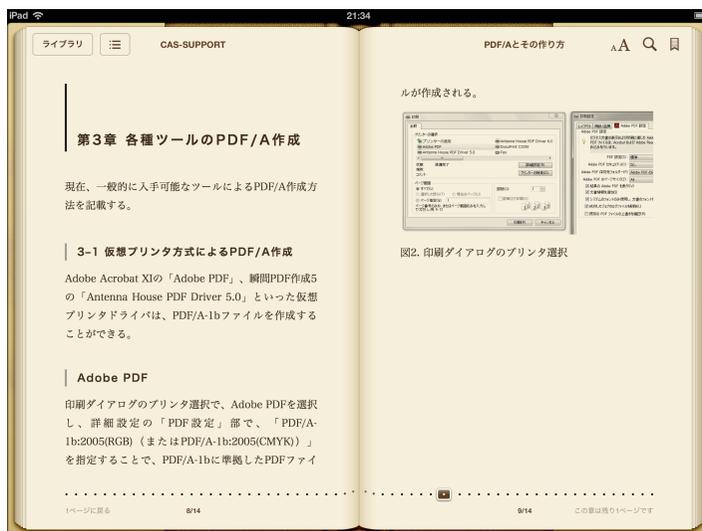


図25 第3章の先頭部分

2.6.3 本文の最後と奥付け

本文の最後の部分と奥付けです。奥付けは、書誌情報から自動生成しています。奥付けを生成しない設定もできます。

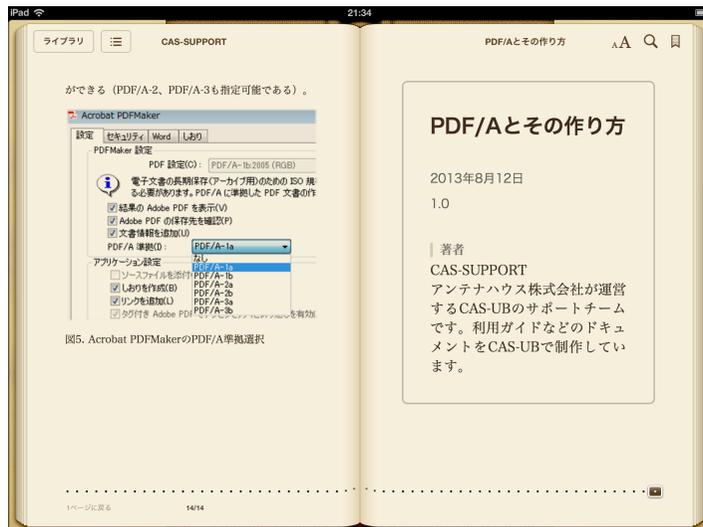


図 26 本文の最後と奥付け

第3章 CAS-UB の画面と機能

CAS-UB の主な機能を、画面とともに説明します。

3.1 ホーム（出版物一覧）画面

CAS-UB にログインすると、出版物一覧画面がでます。

The screenshot shows the CAS-UB user interface. At the top, there is a navigation bar with links for 'ユーザー情報', '公開プロフィール', and 'ログアウト'. Below this, there are buttons for '出版物新規作成' and a menu for '出版物新規作成', 'Word変換', 'メルマガ変換', 'ディスク使用量', and 'CAS-UB修正情報'. The main heading is 'supportさんの著者ページ'. A 'ヒント' (Hint) box is present. The main section is titled '出版物一覧' and 'supportさんの出版物'. It contains two tables of publications.

出版物識別名	出版物タイトル	作成日	処理
denshi-shoseki-no-jidai	電子書籍の時代	2015-03-10 13:20:46+0900	編集 生成 書誌編集 削除 バックアップ
how-to-PDFA	PDF/Aとその作り方	2015-03-09 15:20:46+0900	編集 生成 書誌編集 削除 バックアップ

執筆チームメンバーとして参加している出版物

出版物識別名	出版物タイトル	作成日	オーナー	処理
sample1	学問のすすめ	2014-11-21 08:10:04+0900	cas-support	編集 生成 書誌表示

Copyright © 2011-2015 Antenna House Inc. All Rights Reserved. [このサイトについて](#) | [利用規約](#) | [個人情報保護方針](#)

出版物一覧画面には、三つのパートがあります。

3.1.1 画面右上

This close-up shows the top right corner of the dashboard, including the 'ユーザー情報', '公開プロフィール', and 'ログアウト' links, and the '出版物新規作成' button.

ユーザー情報

ユーザー情報の登録内容を、確認・修正できます。

公開プロフィール

公開プロフィール (p. 213) を、登録・修正します。

ログアウト

CAS-UB からログアウトします。

3.1.2 CAS-UB ログの下



出版物新規作成

新規の出版物を作成します。最初に行う作業なので、目立つように左側にも [出版物新規作成] ボタンがあります。(関連項目：3.2 出版物新規作成 (p. 20))

メルマガ変換

メルマガ変換を実行します。(関連項目：13.1 メルマガ EPUB 変換機能の利用方法 (p. 195))

Word 変換

Word 変換を実行します。Word 変換については、別途『CAS-UB Word インポートと Word 変換の利用ガイド』を用意しています。<http://www.cas-ub.com/howto/support.html> よりダウンロードできます。

ディスク使用量

作成済の出版物ごとのディスク使用量を確認できます。

CAS-UB 修正情報

定期メンテナンスなどでの修正履歴を表示します。定期メンテナンスは、毎週木曜日の夕方 18:00 から 2 時間程度行っています。

3.1.3 ヒント

[ヒント] ボタンをクリックすると、この画面から実行できる主な機能についての簡単な説明が表示されます。

ヒント表示右上隅の [×] をクリックすることで、ヒント表示が消えます。



図1 ヒント表示を閉じる

ヒントの説明文が多いときは、別のタブまたはウィンドウで表示されます。

3.1.4 出版物一覧

～さんの出版物

あなたがオーナーの出版物が表示されます。(関連項目：オーナー (p. 214))

執筆チームメンバーとして参加している出版物

他の人がオーナーで、あなたが執筆チームメンバーになっている出版物が表示されま

す。(関連項目：執筆チームメンバー (p. 216))

一覧の並べ替え

一覧の上にある項目名表示をクリックすると、一覧を並べ替えることができます。

項目名表示をクリックすると、項目名表示の色が変わります。その状態で、項目名表示をクリックすると、項目の文字コード順に一覧が並べ替えられます。更に再度、項目名表示をクリックすると、逆順に並べ替えられます。

supportさんの出版物

項目名をクリックすると背景色が変わり一覧が並べ替えられる

出版物識別名	出版物タイトル	作成日	処理
how-to-PDFA	PDF/Aとその作り方	2015-03-09 15:20:46+0900	編集 生成 書誌編集 削除 バックアップ
denshi-shoseki-no-jidai	電子書籍の時代	2015-03-10 13:20:46+0900	編集 生成 書誌編集 削除 バックアップ
books20150310	本を作ってみよう	2015-03-10 14:36:44+0900	編集 生成 書誌編集 削除 バックアップ

supportさんの出版物

再度クリックすると逆順に並べ替えられる

出版物識別名	出版物タイトル	作成日	処理
books20150310	本を作ってみよう	2015-03-10 14:36:44+0900	編集 生成 書誌編集 削除 バックアップ
denshi-shoseki-no-jidai	電子書籍の時代	2015-03-10 13:20:46+0900	編集 生成 書誌編集 削除 バックアップ
how-to-PDFA	PDF/Aとその作り方	2015-03-09 15:20:46+0900	編集 生成 書誌編集 削除 バックアップ

出版物の編集

出版物一覧の右側にある処理欄にある「編集」をクリックすると、出版物の記事編集 (p. 23) 画面に移ります。

supportさんの出版物

出版物識別名	出版物タイトル	作成日	処理
books20150310	本を作ってみよう	2015-03-10 14:36:44+0900	編集 生成 書誌編集 削除 バックアップ
denshi-shoseki-no-jidai	電子書籍の時代	2015-03-10 13:20:46+0900	編集 生成 書誌編集 削除 バックアップ
how-to-PDFA	PDF/Aとその作り方	2015-03-09 15:20:46+0900	編集 生成 書誌編集 削除 バックアップ

執筆チームメンバーとして参加している出版物

出版物識別名	出版物タイトル	作成日	オーナー	処理
sample1	学問のすすめ	2014-11-21 08:10:04+0900	cas-support	編集 生成 書誌表示

生成

PDF/EPUB などの生成画面に移ります。(関連項目：3.24 PDF/EPUB などの生成 (p. 58))

書誌編集

書誌情報の編集画面に移ります。(関連項目：3.22 表紙と奥付に使われる項目の入力 (p. 49))

削除

出版物を削除します。(関連項目：5.4 出版物の削除 (p. 89))

バックアップ

バックアップ画面に移ります。出版物内容のバックアップファイルを作成してダウンロードできます。また、バックアップファイルのリストアもバックアップ画面で行います。(関連項目：5.2 バックアップ (p. 86)、5.3 リストア (p. 87))

3.2 出版物新規作成

3.2.1 出版物新規作成の設定項目

「出版物新規作成」をクリックすると、出版物新規作成画面になります。

出版物新規作成

＊は必須の項目です。

全般

オーナー名 support

出版物識別名 ＊ **必須項目です**
CAS-UBシステムで使う名前。6文字以上25文字まで。
1文字目は半角英文字。2文字目からは、半角英文字、半角数字と半角'-'(ハイフン)。最後は半角英文字か半角数字。

出版物タイトル ＊ **必須項目です**
出版物のタイトル、書名。1文字以上100文字まで。

作成方法 デフォルトの設定で新規作成

出版物の言語 日本語

作成

互換モード

図2 出版物新規作成画面例

- オーナー名
あなたのユーザー名が表示されます。
- 出版物識別名
CAS-UBシステムが出版物を識別するための名前です。他のユーザーが既に使用している名前を指定するとエラーになりますので別の名前を指定してください。出版物識別名は、作成後に変更できません。なお、'CAS-UB'で始まる出版物識別名は本サービス用に予約済みですので使用できません。
出版物識別名は、6文字以上25文字までで、1文字目は半角英文字。2文字目からは、半角英文字と半角数字と半角'-'(ハイフン)。最後は半角英文字か半角数字としてください。
- 出版物タイトル
出版物のタイトル(著書名)を指定してください。出版物タイトルは作成後に変更できません。
- 作成方法
初めて出版物を作成する場合は、「デフォルトの設定で新規作成」を指定します。
 - デフォルトの設定で新規作成 : まったく新規に出版物を作成します。

- 他の出版物の設定をコピーする : 作成済みの出版物の設定をコピーして使えます。出版物の内容はコピーされません。「コピー元出版物」のプルダウンをクリックすると、自分がオーナーになっている出版物と執筆チームメンバーになっている出版物の一覧が出ますので、利用したい出版物タイトルを選んで、[作成] ボタンをクリックしてください。指定した出版物の設定をコピーした空の出版物が作成されます。
 - 他の出版物の設定と内容をコピーする : 作成済の出版物の設定と内容をコピーして新しい出版物にします。「コピー元出版物」のプルダウンをクリックすると、自分がオーナーになっている出版物の一覧が出ますので、コピーする出版物を指定します。
- 出版物の言語
作成する出版物の言語を指定します。日本語以外の出版物を作成するときは「英語」にしてください。

関 連 コピーされる設定値 (p. 217)、14.2 出版物のオーナー (p. 214)、14.3 執筆チームメンバー (p. 216)

「デフォルトの設定で新規作成」の設定項目

出版物の言語 : 出版物の言語を指定します。日本語と英語のいずれかになります。言語により自動生成する項目の初期値などが変わります。言語は後で変更できます。

互換モード

出版物の言語「日本語」で新規作成すると出版物の種類は「書籍 3」となります。2015年9月以前のCAS-UBでは、作成する出版物に合わせて出版物の種類を指定していましたが、「書籍 3」ではすべての出版物に対応できるように仕様を変更しました。そして、PDFの生成時に出版物に合うテーマを選択するようになっています。EPUB生成では、すべてのCSSテーマを指定できるようになっています。

もし、以前のバージョンと同じ設定項目、同じ既定値で新規出版物を作りたい場合は、互換モードから作成してください。互換モードでは以前のバージョンと同様の出版物の種類を指定して作成できます。

画面右下にある「互換モード」をクリックすることで互換モードの出版物新規作成画面になります。

関 連 記事編集画面 (p. 21)、3.4 記事内容入力と保存 (p. 23)

3.3 記事編集画面

「出版物新規作成」が完了すると、最初に記事編集画面になり、新規の記事の入力と保存ができます。「作成方法」に「他の出版物の設定と内容をコピーする」を指定したときは、先頭の記事の記事編集画面となります。

入力と保存の操作方法は、記事内容入力と保存 (p. 23) を参照してください。



図3 記事編集画面

3.3.1 記事編集画面間の移動

記事編集画面の左上にある **記事一覧** をクリックすると記事一覧が表示されますので、記事一覧から編集したい記事タイトルの左にある  アイコンをクリックすると、その記事の記事編集画面になります。

記事編集画面から他の画面に移ると、どの記事を編集していたか記録されます。他の画面で記事編集をクリックすると、直近に編集していた記事の記事編集画面に戻ります。



図4 記事編集画面から他の画面に移ると
「記事編集」で直近の記事編集画面に戻れます

関 連 3.8.1 (p. 29)、3.2 出版物新規作成 (p. 20)、ホーム(出版物一覧)画面 (p. 17)

3.3.2 記事編集画面でできること

記事編集画面では、入力と保存のほかに次の操作ができます。

- 手作りの記事の作成 (p. 81)
- 記事の修正履歴の参照 (p. 85)
- 記事の内容表示 (p. 35)
- 編集時の文字進行方向の指定 (p. 183)
- 記事タイトルを本文に出力するか出力しないかの指定 (p. 118)
- 記事タイトルを目次に出力するか出力しないかの指定 (p. 118)

- 画像のアップロード（マークアップ支援ボタン）（p. 99）
- インクルードテキストのアップロード（マークアップ支援ボタン）（p. 104）
- 3.7 記事の追加（p. 28）
- SVG 記事作成（p. 218）
- ID 一覧を更新する：見出しやキャプションなどを追加したとき、すぐには ID 参照の一覧に追加した ID が反映されません。設定したばかりの ID を参照したいときは、編集画面下の [ID 一覧を更新する] ボタンをクリックし、表示が更新されるのを待ってから [ID 参照] してください。
- 記事順序・階層の変更（p. 31）
- 記事の削除（p. 33）

3.4 記事内容入力と保存

記事の入力・保存は、記事編集画面で行います。

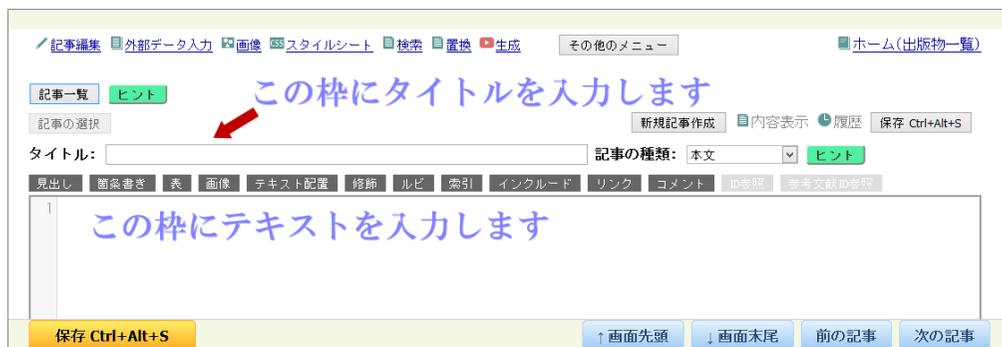


図5 記事内容編集画面

3.4.1 記事の入力

記事のタイトルは「タイトル」欄に入力します。記事の本文テキストは下の大枠内で入力・編集します。

関連 記事タイトル（p. 118）

3.4.2 記事の保存

記事は一定のタイミングで自動的にサーバーに保存されます。また記事編集画面の上または下にある [保存 Ctrl+Alt+S] ボタンをクリックして保存できます。



図6 記事内容保存ボタン

[保存 Ctrl+Alt+S] ボタンをクリックして保存したときは、メッセージが表示されます。



図7 保存成功の通知

保存せずにブラウザのタブや、ブラウザ自身を閉じたりすると、前回自動保存からのタイミングによっては入力途中の内容は保存されずデータが失われるかもしれません。

3.4.3 別の記事を編集する

記事編集画面のまま、次の三つの方法で別の記事に移って編集できます。

- 1) 画面右下にある、[前の記事] ボタンで、一つ手前の記事に移ります。[次の記事] ボタンで、次の記事に移ります。
- 2) 画面左上少し下の [記事の選択] の左のドロップダウンをクリックすると記事タイトルの一覧が表示されるので、編集したい記事をドロップダウンから選んで [記事の選択] をクリックすると、その記事に移ります。
- 3) 画面左上の [記事一覧] をクリックすると記事一覧 (p. 29) が表示されます。移りたい記事タイトル左の  をクリックすると選んだ記事が編集対象になります。  をクリックすると、記事の内容表示画面に移ります。

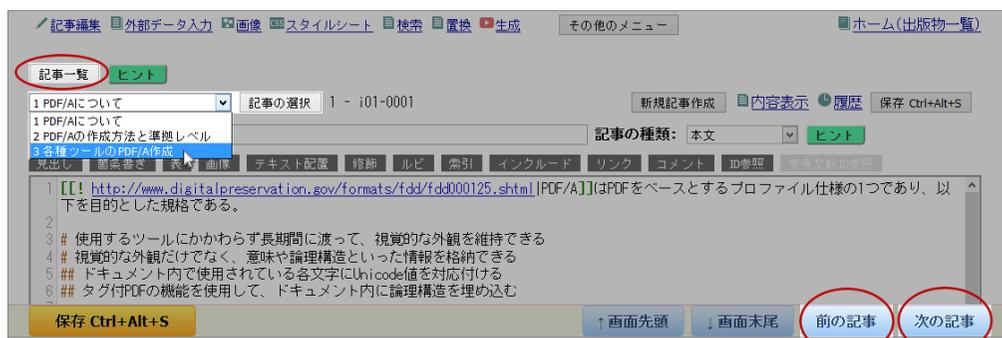


図8 移りたい記事を選択

関連 3.8.1 (p. 29)

記事内容を編集後、保存しないで他の画面に移動しようとする、IE以外のブラウザでは、警告メッセージを表示します。編集内容を保存するなら「OK」をクリックします。「キャンセル」をクリックすると編集内容をキャンセルして、選択した記事に移動します。

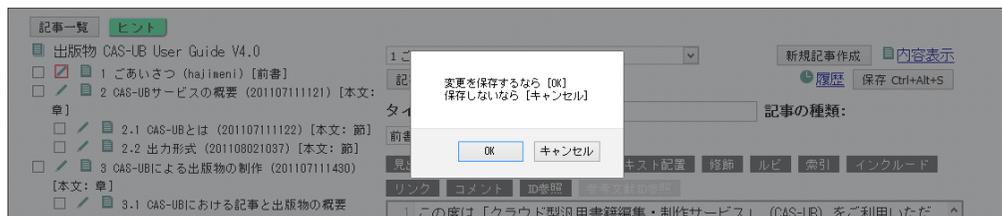


図9 保存してないときの警告

3.5 記事の書き方・基本

ここではCAS-UBで記事を書くときの基本を説明します。詳しい説明は第6章 マークアップの基本 (p. 91)～第10章 コンテンツやマークアップに使う記号・文字・単位 (p. 179)を参照してください。

記事の内容を書き方の基本は電子メールのように書く方法です。つまり、段落毎に空の行を置いて区切り、段落の先頭を字下げしません。

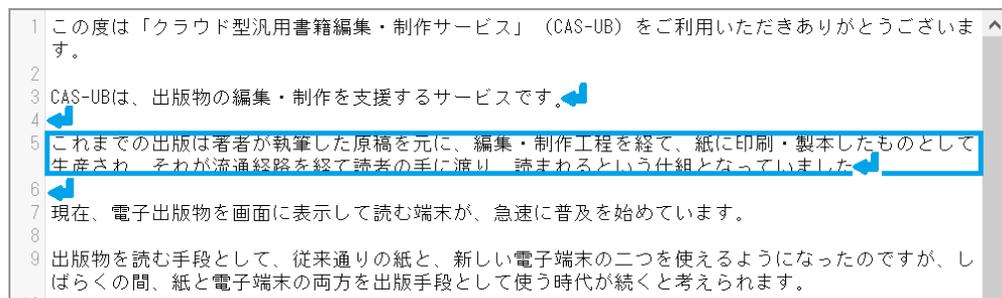


図10 CAS-UBで書く段落

上のようになるとPDFやEPUBでは段落は次のように表示されます。

この度は「クラウド型汎用書籍編集・制作サービス」(CAS-UB)をご利用いただきありがとうございます。
CAS-UBは、出版物の編集・制作を支援するサービスです。

これまでの出版は著者が執筆した原稿を元に、編集・制作工程を経て、紙に印刷・製本したものとして生産され、それが流通経路を経て読者の手に渡り、読まれるという仕組となっていました。

現在、電子出版物を画面に表示して読む端末が、急速に普及を始めています。

出版物を読む手段として、従来通りの紙と、新しい電子端末の二つを使えるようになったのですが、しばらくの間、紙と電子端末の両方を出版手段として使う時代が続くと考えられます。

図 11 段落の区切り (EPUB)

段落の区切り方の詳細や段落途中で改行する方法は次を参照してください。

関 連 段落 (p. 112)、強制改行 (p. 148)

段落の先頭字下げや段落間の空きはスタイルシートで設定します。スタイルシートはEPUBでは「CSSのテーマ」としてあらかじめ用意しており、さらに先頭字下げや段落間の空きの有無は調整できます。

関 連 12.2 CSSのテーマの機能と設定変更 (p. 189)

PDFではレイアウトの詳細設定で変更できます。

関 連 PDFの「レイアウト詳細設定」については、<http://www.cas-ub.com/howto/support.html>で入手できる「CAS-UBによるPDF生成のためのガイド」で解説しています。

3.5.1 記事サイズの制限

ひとつの記事内容の制限は60KBです。記事を大きくしすぎてそのサイズを超えると保存時に分割を促すメッセージが出ます。記事の分割は、弟の記事を作成し記事の種類を「記事の続き」にして、前の記事の後半部分を移して保存してください。

関 連 記事の種類「記事の続き」(p. 73)

3.5.2 ファイル名の制限

CAS-UBで扱うことのできるファイル名は、半角のアルファベットと数字および'-'です。

また、ファイルには拡張子が必須で、ベースネームと拡張子の間は'.'で区切ってください。

3.6 マークアップと自動処理

3.6.1 マークアップ

CAS-UB では、見出し、箇条書き、表のような構造指定、あるいは体裁などの指示をマークアップで指定します。マークアップによって、次に説明する自動処理もできます。

3.6.2 タイトル・見出しの番号

- PDF や EPUB を生成するときタイトル・見出し・図番号・表番号を自動採番できます（自動番号付けを使わない設定もできます）。
- 記事内で行の先頭に '=' を付けると見出しのマークアップとなります。見出しのレベルは '=' の個数で指定します。

3.6.3 目次

EPUB 専用の目次は、記事のタイトルと記事内の見出しから自動作成します。また、EPUB の記事としての目次はユーザーが用意した場合はそれを使い、用意していない場合は自動生成できます。但し、どのレベルまでを目次に出すかは、生成画面の EPUB 一般設定と、PDF レイアウト設定のレイアウト詳細設定で指定します。

関連 EPUB の生成設定 (p. 60) EPUB3 の目次 (p. 221)

PDF の目次は自動生成できます。

関連 PDF の生成設定については、<http://www.cas-ub.com/howto/support.html> で入手できる「CAS-UB による PDF 生成のためのガイド」で解説しています。

3.6.4 マークアップなどから生成する記事

CAS-UB では、本文の中で適切なマークアップがあるとき、図表一覧、巻末注釈、索引、参考文献表を生成できます。

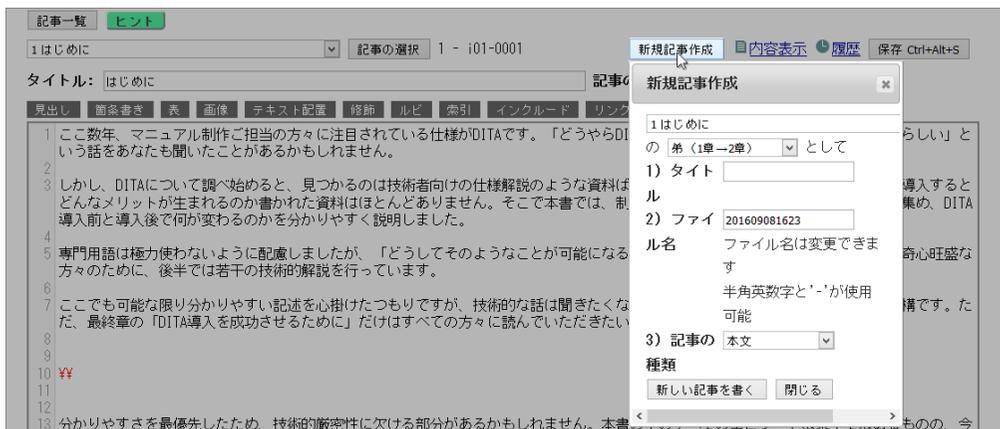
- 図表一覧
図と表のキャプションを集めて図表一覧を作成します。
- 巻末注釈
注釈の内容を集めて巻末注釈を作成します。
- 索引
マークアップで索引語として指定されているものを集めた上で、並び替え用のキーの順に並び替えて索引のページを作ります。
- 参考文献
bib ファイルから参考文献表を生成できます。

関連 PDF/EPUB などの生成 (p. 58)

3.7 記事の追加

新規の記事は、記事編集画面で追加できます。

記事編集画面の編集枠右上にある、「新規記事作成」ボタンをクリックすると、新規記事作成の設定項目が表示されます。



一番上の枠に現在編集中の記事タイトルが表示されます。この枠をクリックすると、出版物名及び既存の記事タイトルの一覧が表示されます。新規の記事の挿入位置は、この欄で指定する親または兄となる記事と、その記事との関係で決定します。

関係に「弟（1章→2章）」を指定したときは、編集中的の記事または指定の記事と同レベルで、直後の位置に挿入されます。

関係に「子（1章→1章1節）」を指定したときは、編集中的の記事または指定した記事の子レベルの最後に挿入されます。

1) 記事タイトルに、記事タイトルを入力してください。

2) ファイル名は、記事作成後は変更できません。必要があれば、ここでファイル名を変更してください。ファイル名に使用できる文字は、半角英数字と'-'のみです。

3) 記事の種類の設定値は「本文」です。枠をクリックすると記事の種類の一覧がでますので、必要があれば変更してください。記事の種類は、記事を作成した後で変更できます。

【新しい記事を書く】をクリックすると、指定に従って新しい記事が追加され、新しい記事の編集状態になります。

3.8 記事の構成を編集する

3.8.1 記事一覧を出す

記事編集画面で **記事一覧** をクリックすると記事タイトルが一覧表示されます。再度

記事一覧 をクリックすると記事一覧が消えます。

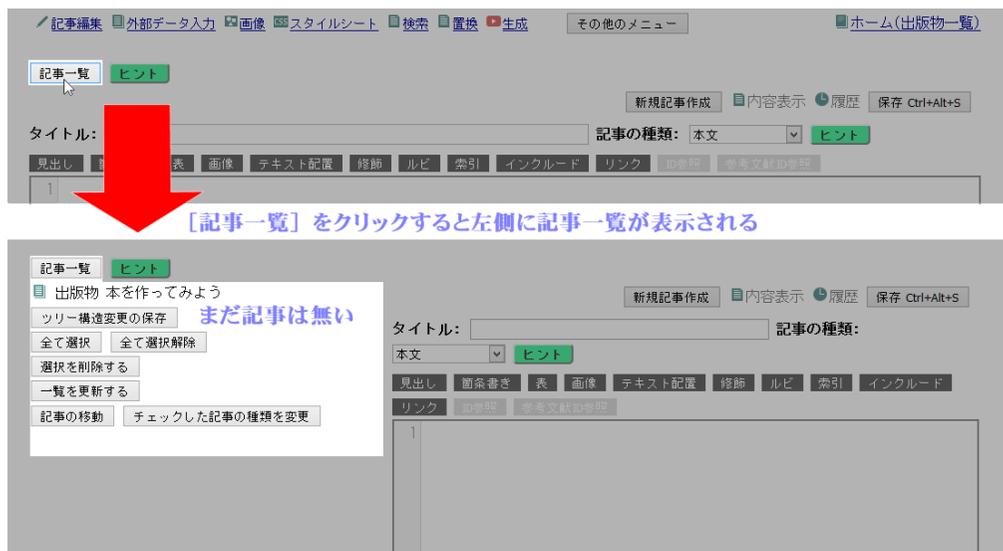


図 12 記事一覧を出す



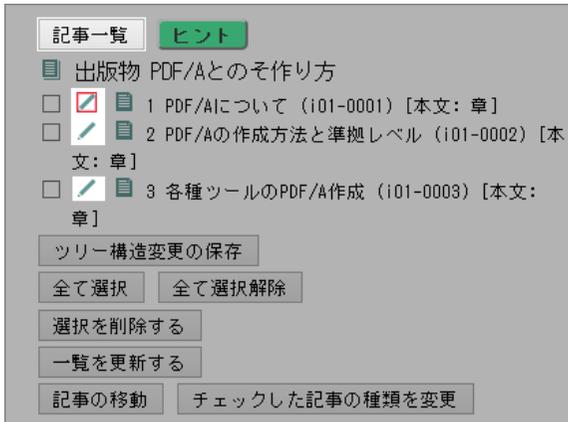
図 13 記事一覧の表示例

3.8.2 記事一覧でできること

- 記事の移動 (p. 31)
記事一覧で、出版物の記事の順序変更、階層の変更ができます。
- 記事の削除

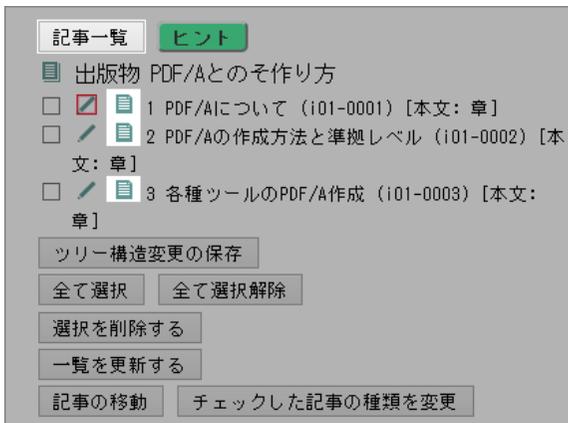
- 記事の削除 (p. 33)
- 記事の編集 (p. 23)

記事一覧から記事を選んで編集するには、記事タイトル表示の左にあるペンシルアイコン (✎) をクリックします。枠の付いているペンシルアイコン (✎) の記事が、現在編集集中の記事です。



- 記事の内容表示 (p. 35)

記事タイトル表示左にある、プレビューアイコン (📄) をクリックすることで、記事の内容表示ができます。内容表示でマークアップミスの確認や、入力ミスの確認ができます。



注記 関連：記事の内容表示に CSS テーマを適用する (p. 37)

- 記事の種類の変更 (p. 71)
- 記事の種類を一括変更できます。

3.9 記事の移動

記事の位置を動かしたいときは、記事一覧を出して、移動したい記事タイトルの左にある をクリックしてチェックマークを付けます。

注記 関連：3.8.1 (p. 29)

記事一覧の下にある【記事の移動】をクリックすると、記事の移動についての操作項目が表示されます。

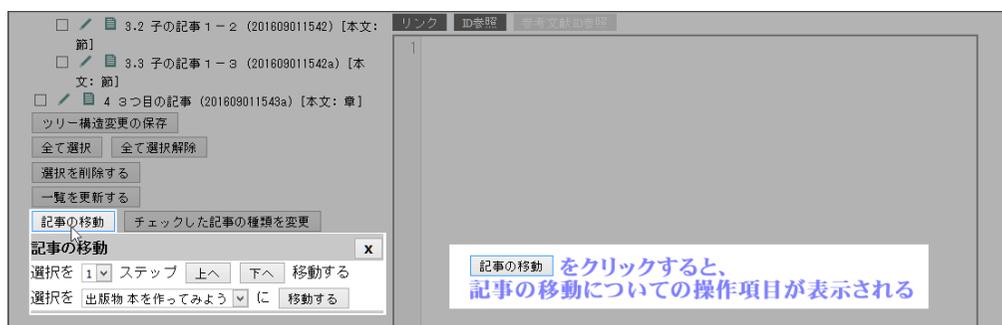


図 14 記事の移動についての操作項目

3.9.1 同じレベルの記事間の移動

同じレベルの記事間での前後移動は、記事タイトル表示の下にある【上へ】【下へ】ボタンをクリックしてください。チェックマークを付けた記事が前後に移動します。【上へ】ボタンの左側にある数字で一度にいくつ移動するかを指定できます。指定した記事に子の記事があるときは、子の記事も一緒に移動します。

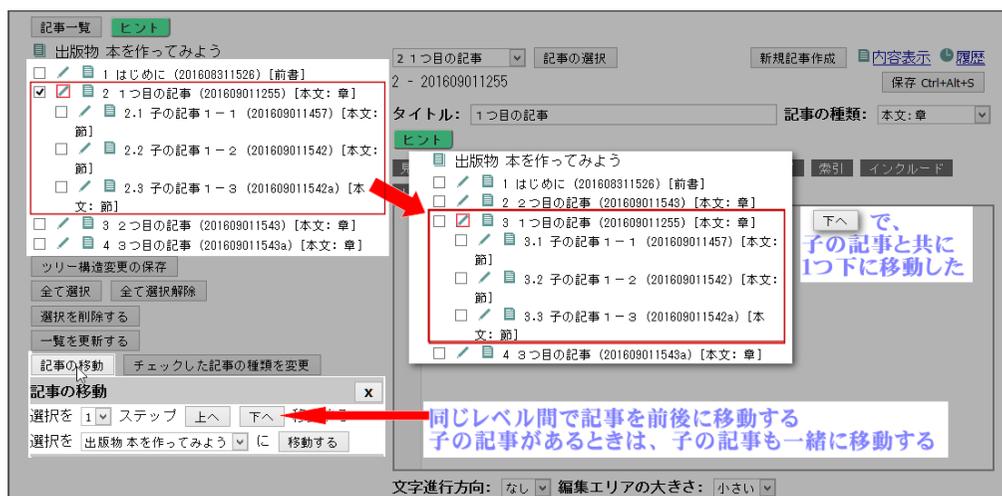


図 15 同じレベルの記事間の移動

3.9.2 任意の位置への移動

レベルの異なる記事の子の位置に移したいときは、[移動する] ボタンの左にあるプルダウンで移動先の記事を指定してから [移動する] ボタンをクリックしてください。

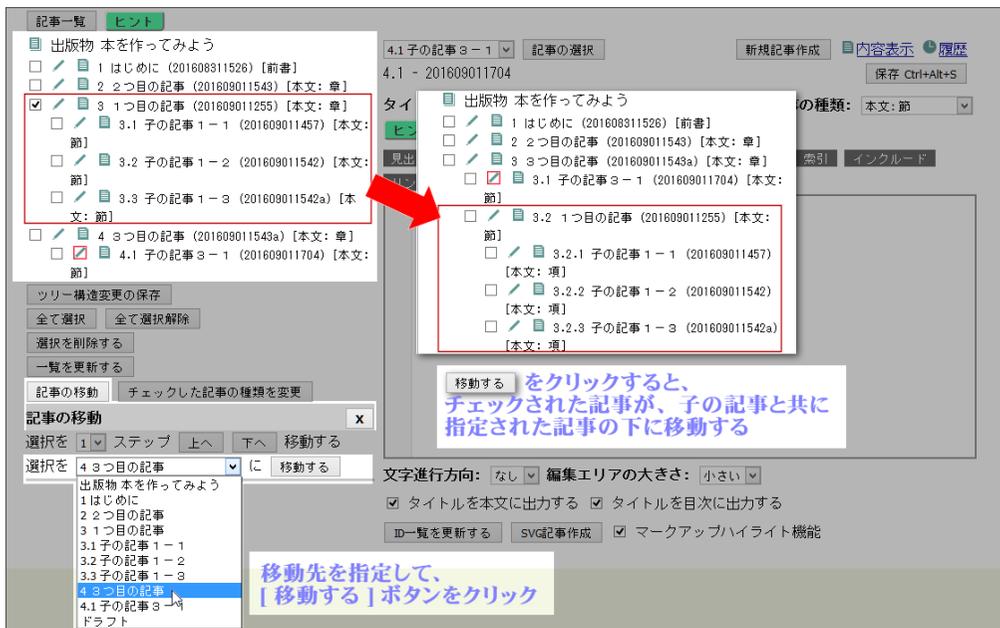


図 16 記事を任意の記事の下に移動する

3.9.3 ドラッグ&ドロップによる移動

記事タイトル表示をマウスでドラッグ&ドロップする方法でも記事を移動できます。

記事一覧で、記事タイトル表示をマウスの左ボタンでドラッグして、移動先で左ボタンを放す（ドロップ）すと、記事を移動できます。この場合、記事一覧の下にある [ツリー構造変更の保存] をクリックしたときに、移動結果が実際の記事順序に反映されます。[ツリー構造変更の保存] をクリックしないと、ドラッグ&ドロップによる記事の移動結果は無効となりますのでご注意ください。

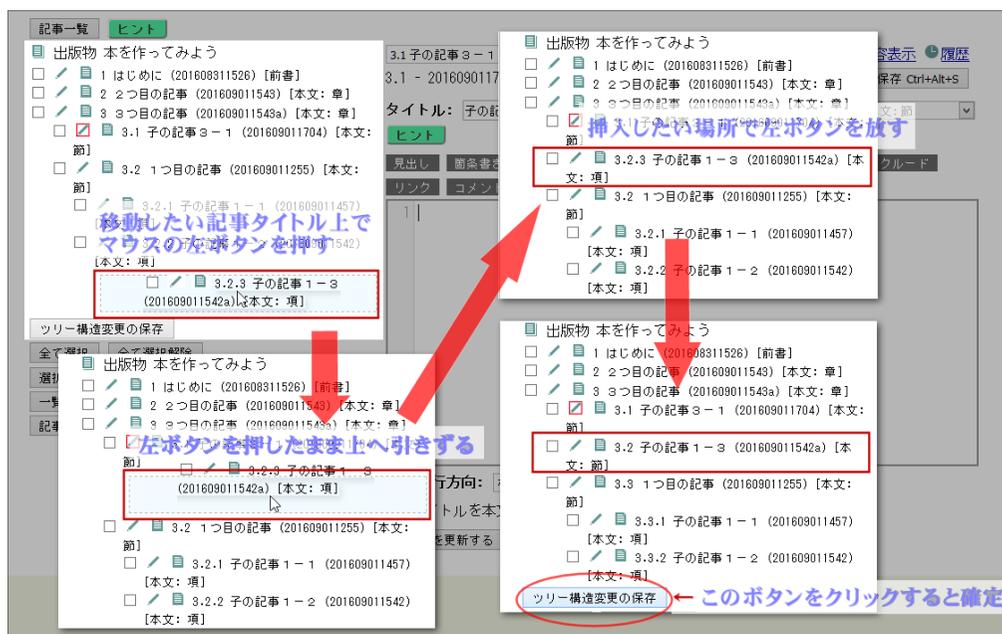


図17 ドラッグ&ドロップによる記事の移動

ドラッグ&ドロップでも、移動対象の記事に子の記事があれば、子の記事も一緒に移動します。

3.10 記事の削除

不要な記事の削除は、記事一覧を出して、記事一覧の記事タイトルの左にある にチェックマークを付けてから、記事一覧の下にある「選択を削除する」ボタンをクリックします。親の記事を削除すると、子の記事も削除されます。

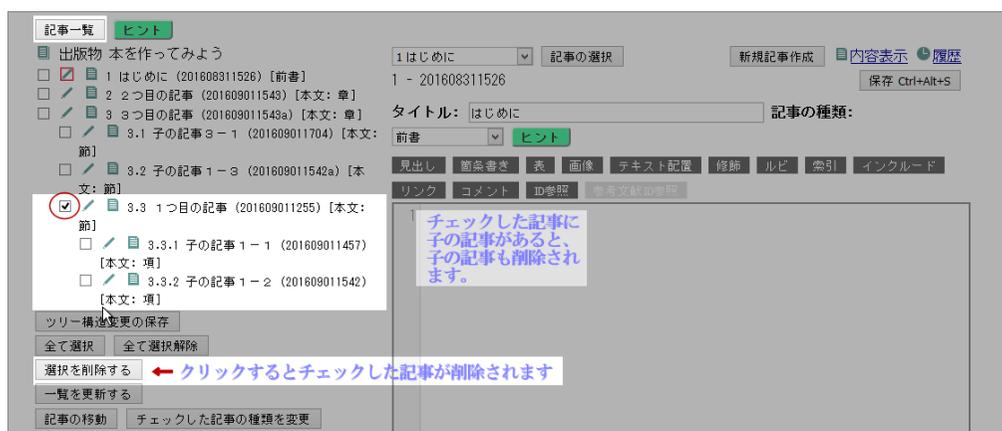
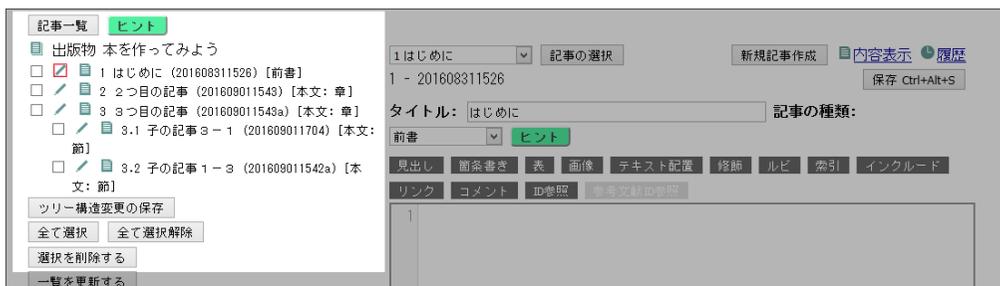


図18 チェックした記事が削除される

「選択を削除する」ボタンをクリックすると、削除対象ファイル名の一覧が表示されますので、削除してよいなら「削除」ボタンをクリックしてください。

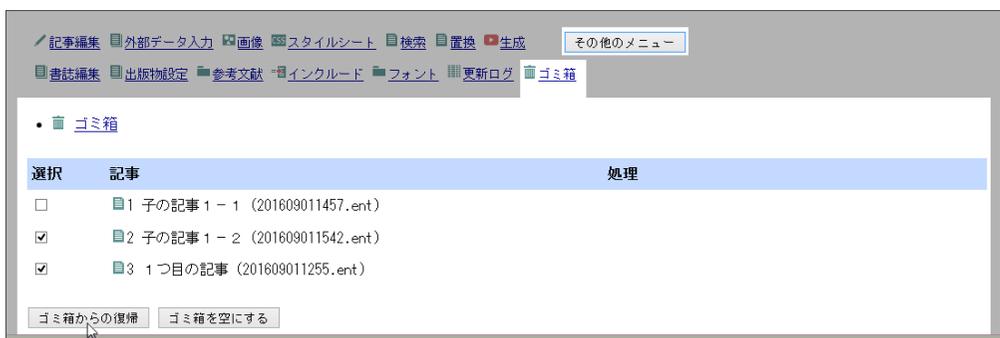


【削除】 ボタンをクリックすると、記事が削除されます。



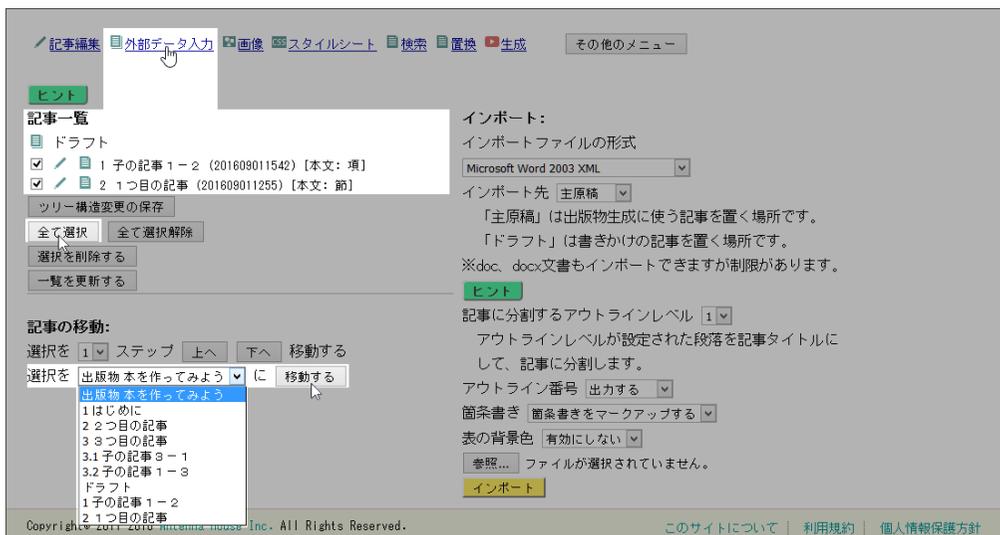
3.10.1 削除した記事の復帰

削除した記事はゴミ箱に入ります。



復帰させたい記事があれば、ゴミ箱画面で、記事タイトル左の にチェックマークを付けてから【ゴミ箱からの復帰】ボタンをクリックします。

復帰した記事は、外部データ入力画面のドラフトに入りますので、ドラフトから主原稿へ移動してください。



【ゴミ箱を空にする】で、ゴミ箱内の記事がすべて消去されます。



図 19 ゴミ箱を空にする

関 連 3.18 ドラフト (p. 42)、3.9 記事の移動 (p. 31)

3.11 記事の内容表示

記事編集画面の編集枠上にある「内容表示」をクリックすると、現在編集集中の記事内容のマークアップを反映させた結果をブラウザで表示します。

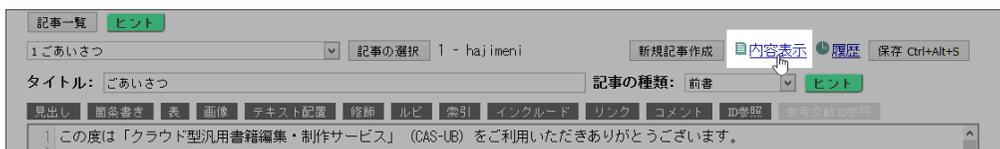


図 20 内容表示

また、記事一覧で、記事タイトル左のプレビューアイコン (📄) をクリックすると、編集集中の記事とは別の記事の内容を直接表示できます。

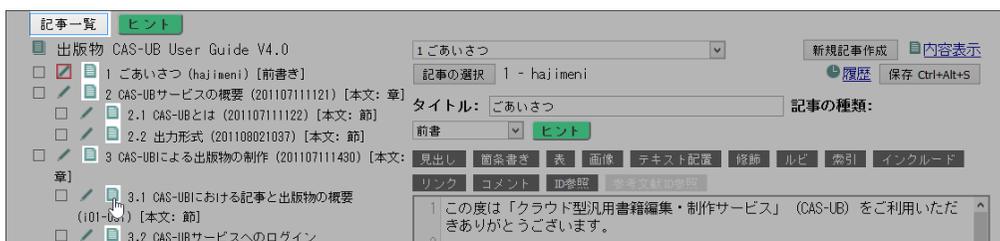


図 21 記事一覧から内容表示

3.11.1 内容表示での操作

画面上右（縦書表示のときは画面右側）にあるナビゲーションメニューで記事を移動します。また、表示の中に ID 参照や URL 参照があれば、リンクのクリックで参照先の記事内容や Web ページが表示されます。

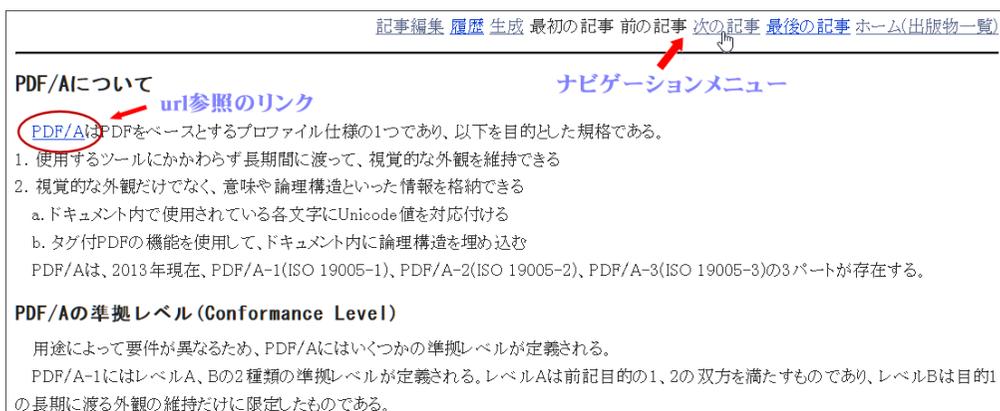


図 22 内容表示例

内容表示には、「内容表示のテーマの選択 (p. 37)」で、EPUB 等用の CSS のテーマ (p. 189) を反映させることもできます。また「ユーザー・スタイルシート (p. 191)」の CSS は常に表示に反映されます。

内容表示画面のナビゲーションメニューでは、次の操作ができます。

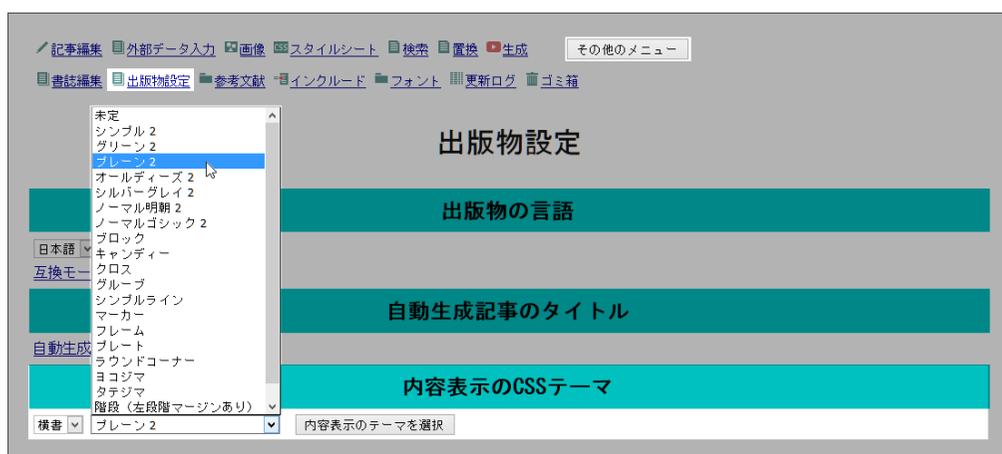
- **記事編集**
表示中の記事の記事編集画面 (p. 21) に移ります。
- **履歴**
表示中の記事の編集履歴 (p. 85) を表示します。
- **生成**
EPUB3、PDF などの生成画面 (p. 58) に移ります。
- **最初の記事**
編集集中の出版物の最初の記事内容を表示します。
- **前の記事**
表示中の記事のひとつ前の記事内容を表示します。

- 次の記事
表示中の記事の次の記事内容を表示します。
- 最後の記事
編集中の出版物の最後の記事内容を表示します。
- ホーム（出版物一覧）
ホーム（出版物一覧）画面（p. 17）に移ります。

3.12 内容表示のテーマの選択

CAS-UB では、EPUB3/EPUB2/Kindle 用に「CSS のテーマ」を用意しており、各ファイルの生成時に適用できます。記事の内容表示画面にも「CSS のテーマ」を反映させられます。

内容表示に適用する CSS テーマは、出版物設定画面の下側にある「内容表示の CSS テーマ」で指定します。「CSS のテーマ」の一覧は、横書と縦書に分けてあります。左端のプルダウンで横書または縦書を指定し、その右のプルダウンで「CSS のテーマ」を選択したのち [内容表示のテーマの選択] ボタンをクリックしてください。



縦書のテーマを使いたいときは、「縦書」を選んでから「CSS のテーマ」を指定してください。



注意 縦書用の「CSS テーマ」は、Google Chrome のような縦書に対応したブラウザでのみ縦書表示になります。Mozilla Firefox や IE では、縦書表示になりません（最新の Mozilla Firefox や Windows 10 の Edge では縦書き表示できるようです）。

関連 12.1 CSS のテーマ（p. 189）

3.13 外部データ入力画面

外部データ入力画面では、次の作業を行います。

- Wordなどのインポート (p. 38)
- ドラフトに置かれた記事の編集と整理 (p. 42)

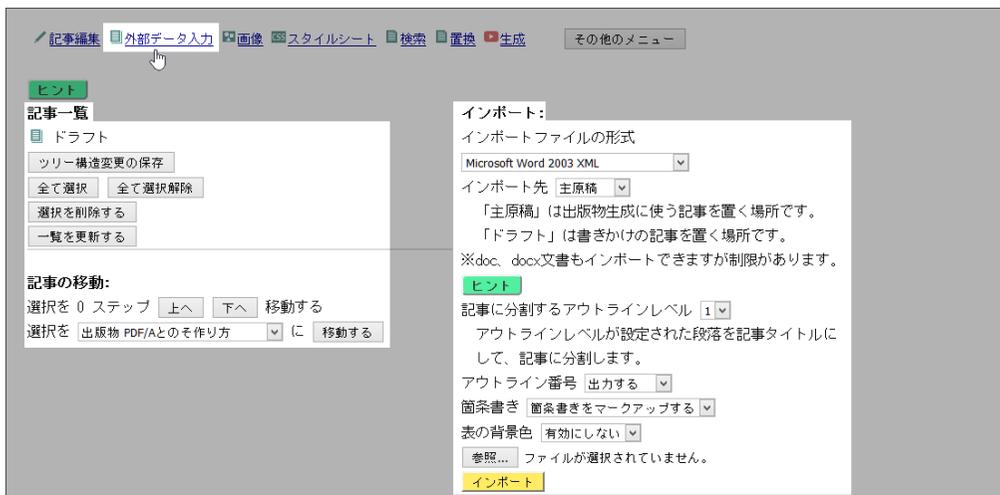


図 23 外部データ入力画面

注意 Web ブラウザのウィンドウ幅が狭いとき、インポートは記事一覧関連表示の下に表示されます。

3.14 インポート

CAS-UBでは、以下の形式のファイルをインポートできます。

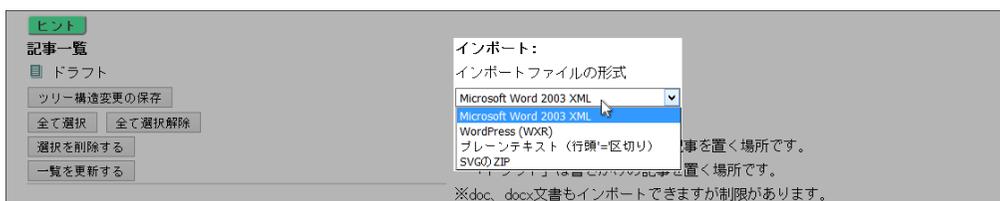
- Microsoft Word
- WordPress
- プレーンテキスト
- SVGのZIP

ファイルのインポートは、外部データ入力画面で実行します。



3.14.1 インポートファイルの形式を指定

インポートファイルの形式により、設定項目などが異なりますので、「インポートファイルの形式」を変更すると、表示も切り替わります。



インポートファイルごとの設定については、それぞれの解説を参照してください。

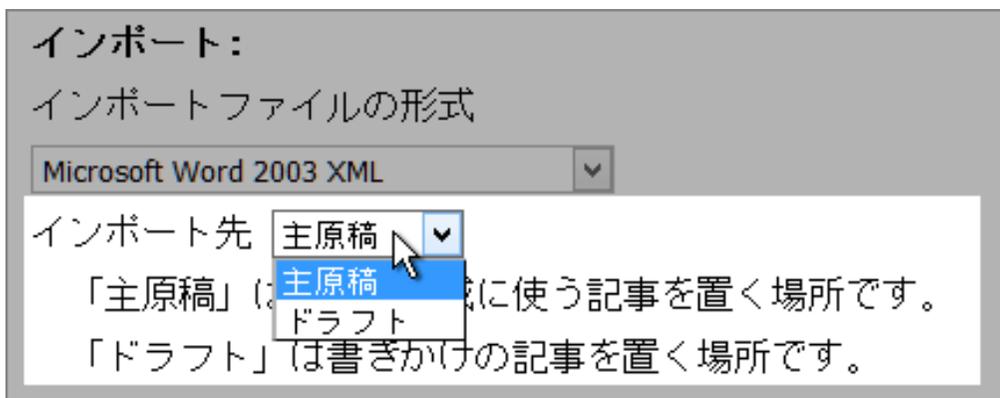
Microsoft Word 文書のインポートについては、『CAS-UB Word インポートと Word 変換の利用ガイド』を別資料として用意しています。<http://www.cas-ub.com/howto/support.html> より PDF 版と EPUB 版をダウンロードできます。

それ以外については続く節で説明しています。

- WordPress のインポート (p. 40)
- プレーンテキストのインポート (p. 41)
- 複数の SVG ファイルの ZIP アーカイブ (p. 41)

3.14.2 インポート先

インポート先で、インポート結果の置き場所を指定します。



「主原稿」と「ドラフト (p. 42)」が選択できます。

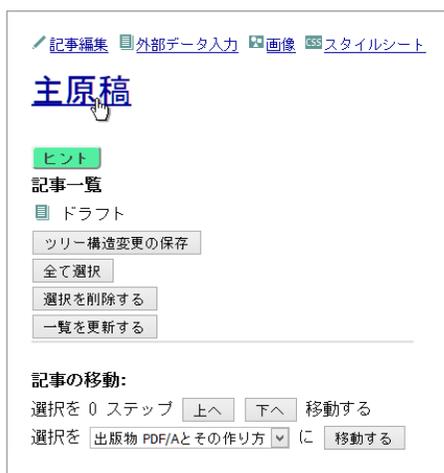
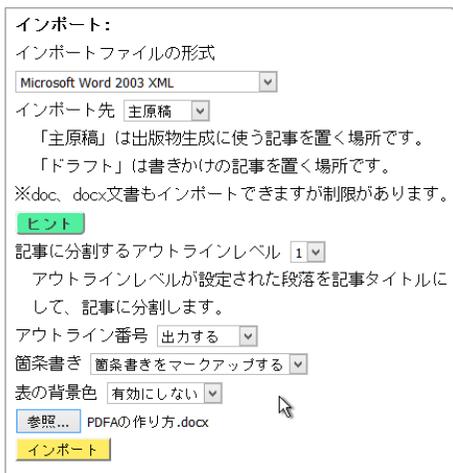
インポート結果をすべて使用するなら「主原稿」を指定してください。

インポート結果の一部だけを利用するなら、「ドラフト」を指定して、インポート後に必要な記事のみを主原稿に移動するとよいでしょう。

3.14.3 インポートの実行

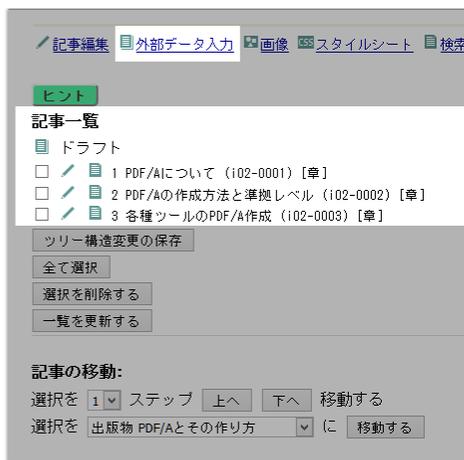
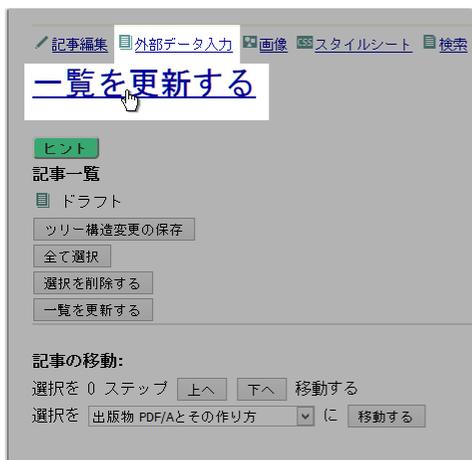
[ファイルを選択] ボタンをクリックしてインポートするファイルを指定します。次に [インポート] ボタンをクリックするとインポートを開始します。

インポート先が「主原稿」のときは、画面左に大きく「主原稿」と表示されたら完了です。「主原稿」の表示をクリックすると記事編集画面に移ってインポート結果を確認できます。



参照... ボタンをクリックして
 選択されたファイル名が表示され
 インポート ボタンをクリックすると
 インポートされる。

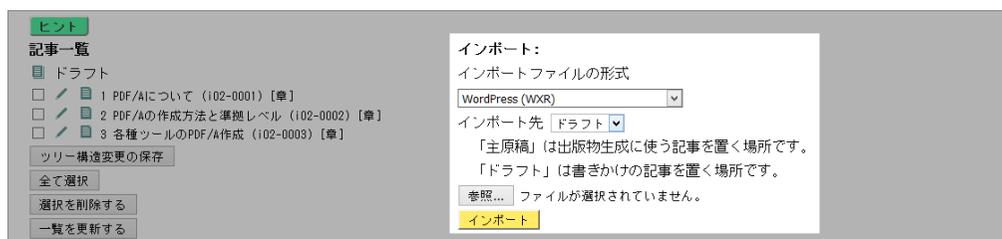
インポート先が「ドラフト」のときは、インポートが完了すると画面左に「一覧を更新する」と大きく表示されますので「一覧を更新する」をクリックしてください。画面左側に、インポートされた記事の一覧が表示されます。



3.15 WordPress のインポート

WordPress のインポートでは、WordPress のエクスポート形式ファイル (WRX) に対応しています。

「インポートファイルの形式」に「WordPress (WXR)」を選択すると、表示が次のようになります。



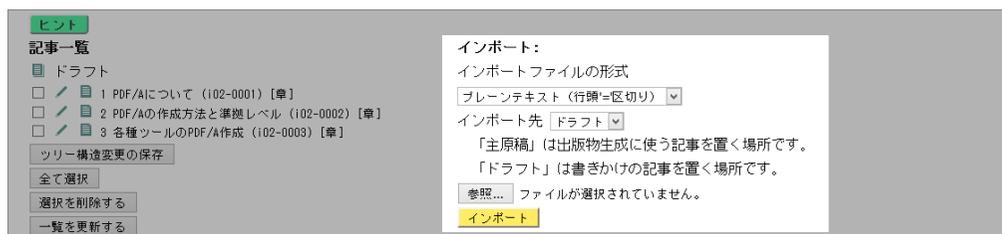
WordPressの記事ごとに、分割してインポートします。

関連 「外部データ入力画面 (p. 38)、3.14 インポート (p. 38)

3.16 プレーンテキストのインポート

プレーンテキストのインポートでは、文字エンコーディングは UTF-8, UTF-16, Shift-JIS, EUC, JIS に対応しており、自動判別されます。

「インポートファイルの形式」に「プレーンテキスト (行頭 '=' 区切り)」を選択すると、表示が次のように変わります。



プレーンテキストのインポートでは、行の先頭に = があると、その行を記事タイトルとして分割します。

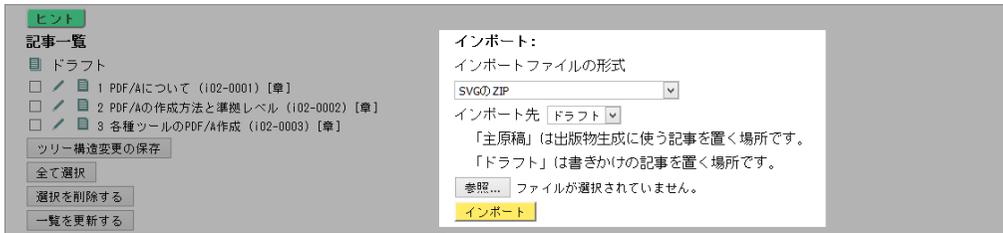
関連 「外部データ入力画面 (p. 38)、3.14 インポート (p. 38)

3.17 SVG の ZIP のインポート

SVG ファイルの ZIP のインポートでは、複数の SVG ファイルを ZIP 形式でまとめたファイルを、SVG 記事 (p. 218) としてインポートできます。

SVG の ZIP をインポートすると、ZIP に含まれる SVG ファイルひとつ1つが、個別の SVG 記事としてインポートされます。

「インポートファイルの形式」に「SVG の ZIP」を選択すると、表示が次のように変わります。



SVGのZIPを3.19 画像のアップロード (p. 43) でアップロードすると、JPEG などと同様に画像ファイルとして扱うことができます。

関 連 「外部データ入力画面 (p. 38)、3.14 インポート (p. 38)

3.18 ドラフト

ドラフトは、採用未定の部分など暫定的な記事を置くための場所です。
ドラフトは、外部データ入力画面にあります。

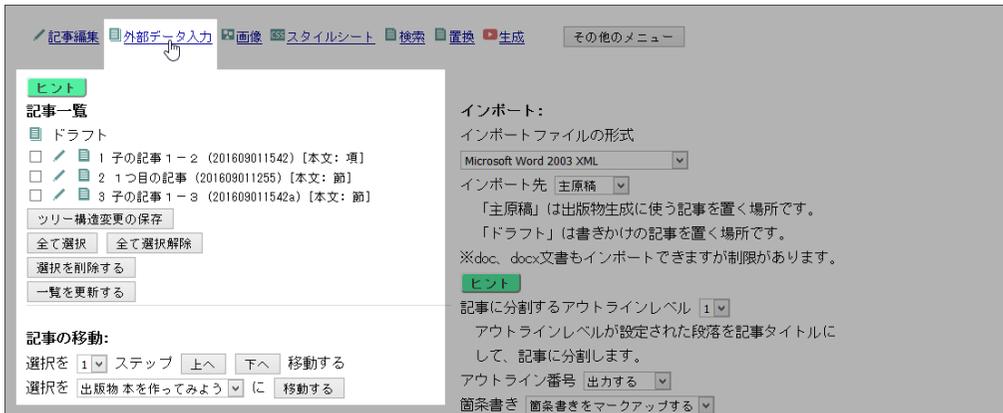


図 24 ドラフトに記事があるときの表示例

3.18.1 ドラフトに記事を入れる

ドラフトに記事を置くには、次の方法があります。

- Wordなどのインポート (p. 38)
インポート先に「ドラフト」を指定します。
- 主原稿の記事編集画面から移動 (p. 31)
記事の移動で、移動先にドラフトを指定します。
- 削除した記事を復活 (p. 34)
ゴミ箱画面 (p. 33) で [ゴミ箱から復帰] を実行すると、ドラフトに記事が移動します。

3.18.2 ドラフトにある記事の操作

ドラフトに置かれた記事には、次の操作ができます。操作方法は、記事編集画面の記事一覧での操作とほぼ同じです。

- 移動 (p. 31)
- 削除 (p. 33)
- 内容表示 (p. 35)
- 編集 (p. 29)

3.18.3 記事の移動

記事編集画面の「記事の移動 (p. 31)」と同じ操作で、主原稿へもドラフト内の別の位置へも記事を移動できます。移動したい記事をチェックしておき、移動先を指定してから [移動する] ボタンをクリックしてください。

3.18.4 記事の削除

削除したい記事をチェックしておき、[選択を削除する] ボタンをクリックすると、チェックしてある記事がゴミ箱に移ります。

3.18.5 記事の内容表示

記事タイトル左にある  をクリックすると記事内容をブラウザで表示します。

3.18.6 記事内容の編集

記事タイトル左にある  をクリックすると、ドラフトの記事編集画面 (p. 21) に移ります。

3.19 画像のアップロード

出版物の本文中のイメージ (ラスター) 画像や図版 (ベクトル画像)、表紙 (カバー画像)、表紙や奥付のロゴに画像を使えます。これらはすべて画像管理 (画像) 画面で管理します。画像は出版物ごとにアップロードする必要があります。出版物をまたいでの利用はできません。

画像は、記事編集画面と、画像画面からアップロードできます。

3.19.1 記事の編集中に画像をアップロードする

記事の入力・編集中に画像をアップロードできます。詳細については「画像-マークアップ支援機能 (p. 99)」を参照してください。

3.19.2 画像画面

メイン・メニューの「画像」で画像画面に移ります。

画像画面では、単独画像のアップロード、複数画像の一括アップロード、アップロード済画像の削除といった操作ができます。

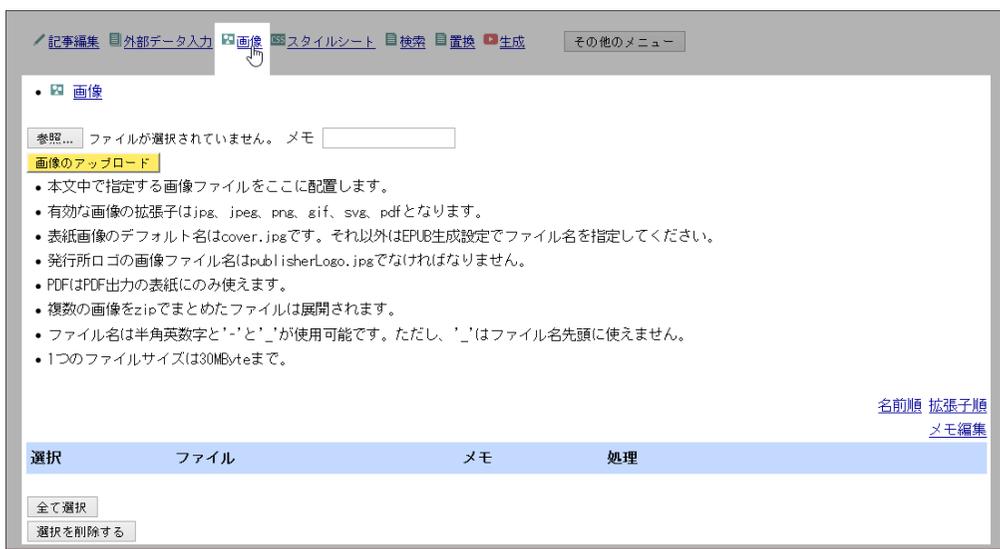


図 25 画像の画面

画像のアップロード

画像のアップロードは、左側にある「参照」ボタンをクリックして、アップロードするファイルを指定してから「画像のアップロード」ボタンをクリックしてください。画像がアップロードされて画面下部の画像一覧に名前が表示されます。既に同名の画像ファイルがアップロードされているときは上書きの確認表示が出ます（Internet Explorer では上書きの確認はできません）。



図 26 アップロードする画像を指定して「画像のアップロード」ボタンをクリックする

複数の画像を一度にアップロードしたいときはZIPファイルでまとめたものをアップロードしてください。ZIPファイルを展開した内容が登録されます。ZIPファイルをアップロードしたときは、上書きの確認を行いませんのでご注意ください。



図27 アップロードされている画像の一覧

アップロードできる画像ファイルには下記の制限があります。

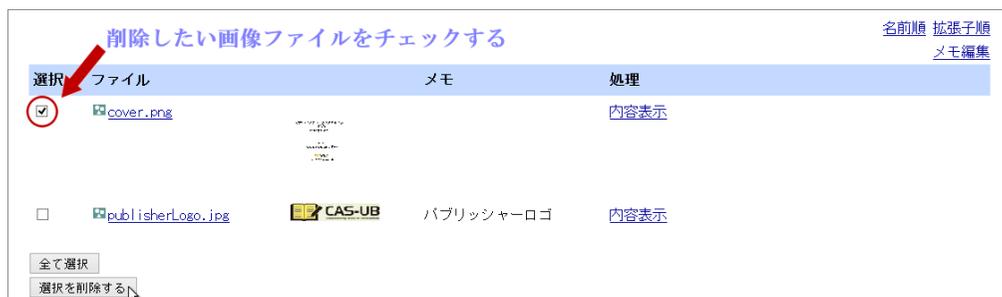
- ファイル形式はイメージ（ラスター）画像は JPEG、PNG、GIF です。ベクトル画像は SVG、PDF です。
- 有効な画像の拡張子は、jpg, jpeg, png, gif, svg, pdf です
- PDF は PDF 出力の表紙にのみ使用できます
- 複数の画像を zip でまとめたファイルはアップロード後に展開されて登録されます
- ファイル名は、半角英数字 と '-' と '_' 以外使用できません
- ひとつのファイルサイズは 30MByte までです
- 表紙画像のデフォルト名は cover.jpg です。それ以外は生成時に表紙内容設定（PDF）、カバー画像（EPUB3/EPUB2）でファイル名を指定してください
- 出版社のロゴファイルは publisherLogo.jpg でなければなりません

アップロードの際に画像にコメントを付けることができます。ファイルを指定してから、[画像アップロード] ボタンの手前にあるメモ欄にコメントを入力して [画像アップロード] ボタンをクリックしてください。

アップロードした画像が、jpg, jpeg, png, gif のときは、ファイ一覧にサムネイル（画像の縮小版）が表示されます。

画像の削除

アップロード済の画像を削除するには、削除したい画像ファイル名の左にある をクリックしてチェックマークを付けてから [選択を削除する] ボタンをクリックしてください。



[選択を削除する] ボタンをクリックすると、次のように確認表示が出ますので、ほんとうに削除してよければ [削除] ボタンをクリックしてください。指定した画像ファイルが削除

されます。



画像の削除には、非常に時間がかかることがあります。

画像の削除が完了すると「一覧を更新する」と大きく表示されますので、「一覧を更新する」をクリックしてください。



図 28 画像の削除が完了すると「一覧を更新する」と表示されるのでクリックしてください

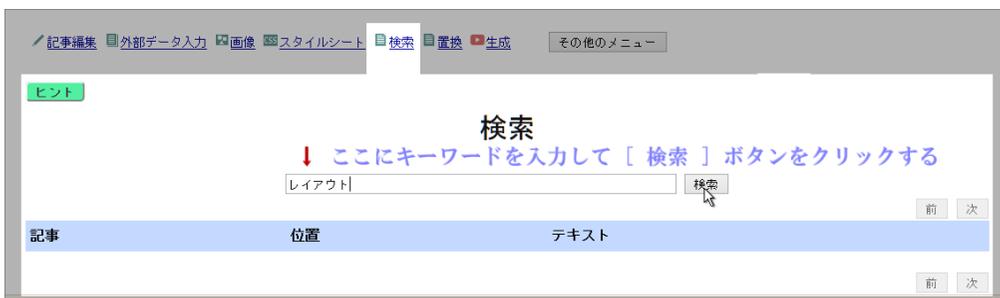
3.20 検 索

検索画面で、任意のキーワードが含まれる記事を検索できます。



- 入力した文字列がそのまま検索キーワードになります。
- 空白などもそのまま検索されます。
- 改行を含む文字列は検索できません。

入力枠に検索キーワードを入力して [検索] ボタンをクリックすると検索結果が表示されます。



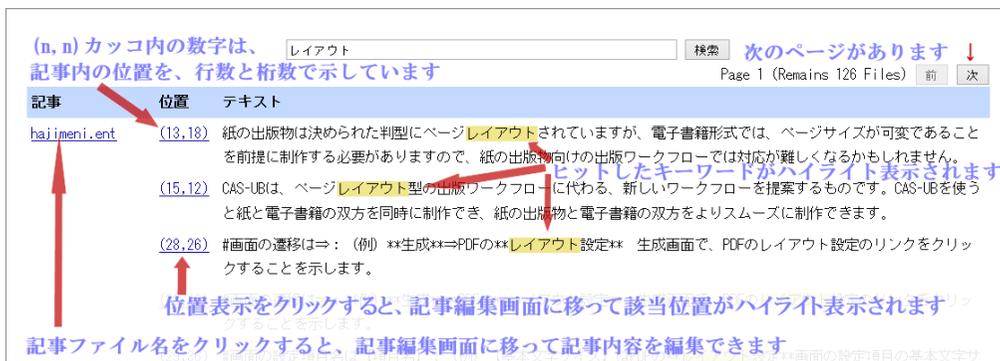


図 29 検索結果の表示例

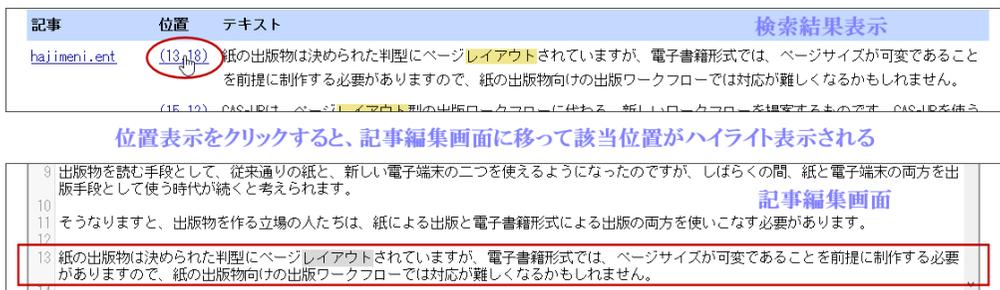


図 30 編集画面での検索文字列のハイライト表示例

注意 マークアップハイライトがオンになっていないと、記事編集画面での検索文字列のハイライト表示はされません。

注意 記事内の検索は、ブラウザの検索機能をご利用ください。但し、マークアップハイライトがオンになっていると記事内検索ができません。記事内検索が必要なときは記事編集画面の編集枠下にある「マークアップハイライト機能」のチェックを外して実行してください。

関連 3.4 記事内容入力と保存 (p. 23)、3.21 置換 (p. 47)

3.21 置 換

置換画面で、任意の文字列を編集中の出版物全体から検索して、別の文字列に置き換えます。





図 31 置換の実行

置換元: に、置換元の文字列を入力し、置換先: に、置換先文字列を入力してから、[置換開始] ボタンをクリックしてください。

置換元の文字列が見つかった部分が、その前後を含めて一覧されます。

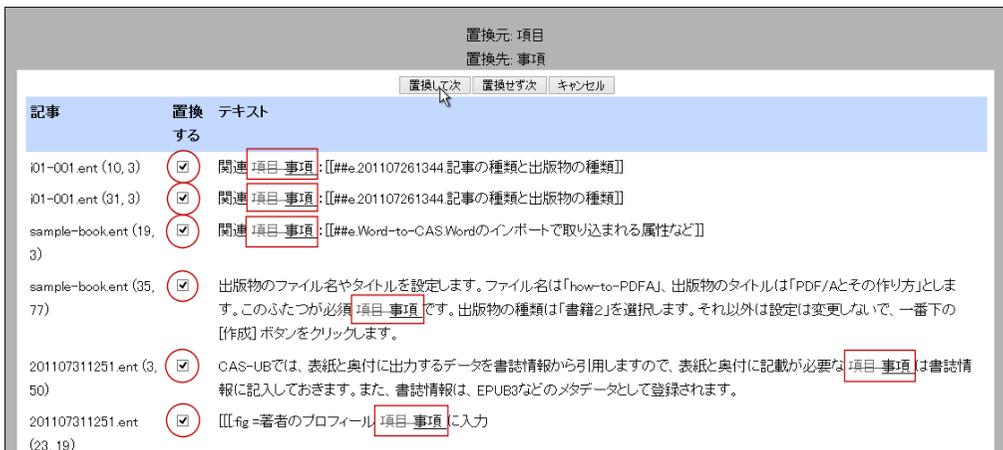
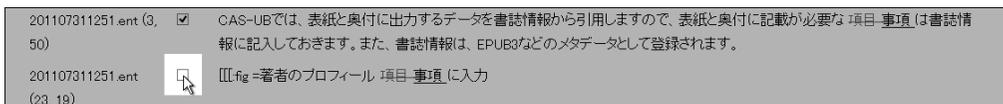


図 32 置換元文字列の検索結果表示例

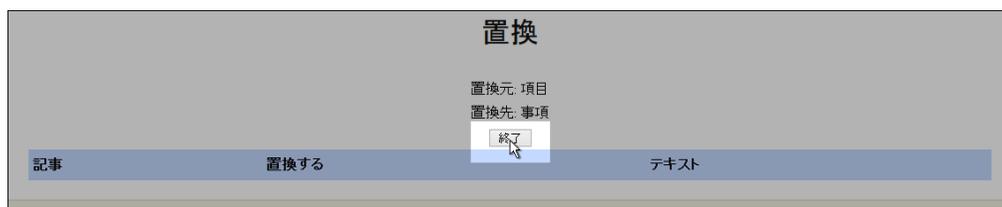
[置換して次] ボタンをクリックすると、表示されている一覧にある置換元文字列を置換先文字列に置き換えて、次の一覧を表示します。

[置換せず次] ボタンをクリックすると、表示している一覧を置換しないで、次の一覧を表示します。

一部だけ置き換えたくない場合は、置き換えたくない場所のチェックを外してから [置換して次] ボタンをクリックしてください。



置換対象をすべて処理すると、[終了] ボタンが出ます。[終了] ボタンをクリックすると、再度、置換作業を繰り返すことができます。



注 意 置換元文字列が一覧されないときも [置換して次][置換せず次] ボタンが表示されている場合は、他に置換対象があります。

関 連 3.20 検索 (p. 46)

3.22 表紙と奥付に使われる項目の入力

表紙や奥付を自動生成するときには、書誌情報の項目内容が引用されますので、書誌編集画面で必要な項目を入力してください。

図 33 書誌編集画面

以下、「表紙」というときはCAS-UBで表紙の自動生成機能を使う場合に該当します。表紙にできあいの画像を使うときは該当しません。またEPUBではタイトルページ(本扉に相当する)を自動生成できますが、タイトルページにも自動生成する表紙と同じ内容を出力します。

出版物タイトルは必須ですが、その他の項目は必須ではありません。

全般 (p. 50)

出版物タイトル [表紙・奥付]、出版物サブタイトル [表紙・奥付]、出版物タイトル (優先) [表紙・奥付]、出版物サブタイトル(優先) [表紙・奥付]、出版物レーベル [表紙]

プロフィール (p. 51)

著者 [表紙・奥付]、編著者 [表紙・奥付]、監修者 [表紙・奥付]、訳者 [表紙・奥付]、
監訳者 [奥付]、編者 [表紙・奥付]、制作者 [奥付]、装丁者 [奥付]、イラストレータ
ー [奥付]

著作権 (p. 53)

著作権者 [奥付]、著作権表記 [奥付]

管理番号 (p. 53)

ISBN [奥付]

改訂履歴 (p. 54)

版数 [表紙・奥付]、発行年月日 [表紙・奥付]、説明 [奥付]

発行所 (p. 55)

発行者 [奥付]、会社名 [表紙・奥付]、電話番号 [奥付]、ウェブ [奥付]、メールアドレス [奥付]

発売元 (p. 56)

会社名 [奥付]

発売元は、発行所と発売元が異なるときのみ記入してください。

印刷 (p. 56)

印刷会社名 [奥付]

製本 (p. 56)

製本会社名 [奥付]

3.22.1 修正内容の保存

これらの項目の修正内容は、入力項目末尾にある [保存] ボタンをクリックすると保存され、出版物の生成結果に反映されます。また、画面左下の [記事編集画面へ] または、入力項目先頭の上にある「生成」などをクリックすると、修正内容が保存されてから、クリックした画面に移ります。



3.22.2 全 般

- 出版物タイトル [表紙・奥付]
出版物新規作成時に入力していますが、いつでも変更できます。
- 出版物サブタイトル [表紙・奥付]
出版物にサブタイトルを付けることができます。
- 出版物タイトル (優先) [表紙・奥付]、出版物サブタイトル (優先) [表紙・奥付]
タイトル、サブタイトルにルビ (p. 146) や縦中横 (p. 147) を使うため V3.0 で追加しました。詳しくは 3.23 タイトルとサブタイトルのルビと縦中横 (p. 57) を参照して

ください。

- 出版物レーベル [表紙]
「x x 新書」といったブランド名や、シリーズ名などを付けることができます。

3.22.3 プロフィール

- 著者

著者は複数名の登録ができます。

- 名前(ペンネーム) [表紙・奥付] : 著者の本名またはペンネーム、執筆チーム名など。複数登録すると、登録した名前が、表紙と奥付にすべて出ます。
- プロフィール [奥付] : 著者のプロフィール。複数登録すると、登録した人のプロフィールが奥付にすべて出ます。

- 編著者 [表紙・奥付]、監修者 [表紙・奥付]、訳者 [表紙・奥付]、監訳者 [奥付]、編者 [表紙・奥付]、制作者 [奥付]、装丁者 [奥付]、イラストレーター [奥付]

それぞれ複数登録できますが、先頭に登録されている 名前(ペンネーム) のみが出ます。プロフィールは出ません。登録の手順は著者と同様です。

プロフィール

ここに指定したものを表紙や奥付に出力します。

すでにある出版物からプロフィールをコピーする

[編集]をクリックすると編集画面に移ります

著者	名前(ペンネーム) プロフィール	所属・肩書き	連絡先	<input type="button" value="編集"/>
編著者	名前(ペンネーム) プロフィール	所属・肩書き	連絡先	<input type="button" value="編集"/>

出版物プロフィール編集トップ

著者

名前(ペンネーム)	フリガナ	プロフィール	所属・肩書き	連絡先	処理
<div style="color: blue; font-weight: bold; font-size: large;">[追加]をクリックするとプロフィールを追加できます</div>					
<input type="button" value="追加"/>					
<input type="button" value="チームメンバーの公開プロフィールをコピーする"/>					
<input type="button" value="戻る"/>					

出版物プロフィール編集

著者

名前
(ペンネーム)

フリガナ

プロフィール
(800文字まで)

CAS-UBのサポート担当

所属・肩書き

公開する連絡先
(メールアドレス、
電話、住所など)

[戻る](#)

図 34 プロフィール入力画面

名前（ペンネーム）と、必要があればプロフィールを入力して [保存] をクリックすると、プロフィールが登録されます。

通知:

- 出版物プロフィールを更新しました。
- 出版物情報を更新しました。

出版物プロフィール編集トップ

著者

名前(ペンネーム)	フリガナ	プロフィール	所属・肩書き	連絡先	処理
support	サポート	CAS-UBのサポート担当	CAS-UBチーム	cas-support@antenna...	編集 削除

[戻る](#)

著者が複数いるときは、再度 [追加] をクリックして、プロフィールを追加してください。「戻る」をクリックすると、プロフィール編集を終了します。

参 考 著者などのプロフィールは出版物ごとに登録する必要がありますが、「公開プロフィール (p. 213)」が登録されていれば、執筆チームメンバーになっている出版物のプロフィールに公開プロフィールをコピーできます。

3.22.4 著作権

• 著作権者 [奥付]

複数行の入力が可能です。著作権者の名前または、法人名、団体名などを入力してください。

• 著作権表記 [奥付]

複数行の入力が可能です。Copyright © 2016 …… といった著作権表記を入力してください。

著作権	
著作権者	<input type="text" value="アンテナハウス株式会社"/>
	200文字まで。
著作権表記	<input type="text" value="Copyright © 2011-2013 Antenna House, Inc. All rights reserved."/>
	200文字まで。

※ これらの項目を修正したときは、画面一番下にある [保存] ボタンを必ずクリックしてください。

製本	
製本会社名	<input type="text"/>
<input type="button" value="保存"/>	
<small>Copyright © 2011-2016 Antenna House Inc. All Rights Reserved. このサイトについて 利用規約 個人情報保護方針</small>	

3.22.5 管理番号

ISBN を登録します。ひとつの出版物に複数の ISBN を割り当てているときは、すべてを書誌情報に登録しておいて、PDF や EPUB を生成する際に使用するものを指定できます。

関連 「EPUB の一般設定 (p. 61)」

PDF の「一般設定」については、<http://www.cas-ub.com/howto/support.html> で入手できる「CAS-UB による PDF 生成のためのガイド」で解説しています。

管理番号	
	番号は先頭の“ISBN”も含めて入れてください。
ISBN 1	<input type="text" value="ISBN:000-4-15-03111"/>
ISBN 2	<input type="text" value="ISBN:000-4-15-03111"/>
ISBN 3	<input type="text" value="ISBN:000-4-15-03111"/>
ISBN 4	<input type="text"/>
ISBN 5	<input type="text"/>

※ これらの項目を修正したときは、画面一番下にある [保存] ボタンを必ずクリックして

ください。

製本	
製本会社名	<input type="text"/>
<input type="button" value="保存"/>	
Copyright © 2011-2016 Antenna House Inc. All Rights Reserved. このサイトについて 利用規約 個人情報保護方針	

3.22.6 改訂履歴

改訂履歴は、表紙には最後に登録したもののみが出ます。奥付には、最初に登録したものと最後に登録したものが出ます。

- 版数 [表紙・奥付]
初版、第二版、といった版数を入力します。
- 発行年月日 [表紙・奥付]
発行年月日を入力します。日付の形式に制限はありません。
- 説明 [奥付]
版についての説明が必要なら入力してください。

改訂履歴の追加と修正は、項目右にある [編集] ボタンをクリックしてください。改訂履歴の編集画面に移ります。

改訂履歴			
版数	発行年月日	説明	<input type="button" value="編集"/>

改訂履歴編集			
追加したい改訂履歴情報			
版数	発行年月日	説明	処理
<input type="text" value="初版"/>	<input type="text" value="2018年7月発行"/>	<input type="text"/>	<input type="button" value="追加"/>
戻る			

改訂履歴に追加する項目を入力して、画面右の [追加] ボタンをクリックすると改訂履歴が追加されます。

通知:

- 改訂履歴を追加しました。
- 出版物情報を更新しました。

改訂履歴編集

版数	発行年月日	説明	処理
<input type="text" value="初版"/>	<input type="text" value="2013年7月発行"/>	<input type="text"/>	削除 <input type="button" value="更新"/>

追加したい改訂履歴情報

版数	発行年月日	説明	処理
<input type="text"/>	<input type="text"/>	<input type="text"/>	<input type="button" value="追加"/>

[戻る](#)

追加した改訂履歴を修正したいときは、修正してから項目右の [更新] ボタンをクリックしてください。修正履歴の内容が更新されます。

改訂履歴編集

版数	発行年月日	説明	処理
<input type="text" value="初版"/>	<input type="text" value="2013年7月発行"/>	<input type="text" value="限定公開版"/>	削除 <input type="button" value="更新"/>

版数、発行年月日、説明、の内容を修正して、
[更新] ボタンをクリックする

追加したい改訂履歴情報

版数	発行年月日	説明	処理
<input type="text"/>	<input type="text"/>	<input type="text"/>	<input type="button" value="追加"/>

[戻る](#)

「戻る」をクリックすると、改訂履歴編集が終了します。

3.22.7 発行所

発行所は、三つまで登録できますが、表紙と奥付に出るのはひとつ目だけです。項目右の [編集] ボタンをクリックすると、発行所の編集画面に移ります。

発行所

1		<input type="button" value="編集"/>
2		<input type="button" value="編集"/>
3		<input type="button" value="編集"/>

発行所・発売元編集

*がついている項目は必須の項目です。

発行所1	
発行者	<input type="text"/>
会社名*	<input type="text"/>
住所*	<input type="text"/>
電話番号*	<input type="text"/>
ウェブ	<input type="text"/>
メールアドレス	<input type="text"/>
<hr/>	
<input type="button" value="保存"/>	
削除	
戻る	

発行所の編集画面と発売元の編集画面は共通です。* が付いている項目は必須の項目なので必ず入力してください。

必要な項目を入力して[保存] ボタンをクリックすると、入力した内容が保存されて、書誌編集画面に戻ります。

削除 をクリックすると、登録内容が削除されて、書誌編集画面に戻ります。

戻る をクリックすると、修正を保存して書誌編集画面に戻ります。

3.22.8 発 売 元

発売元は、発行所と発売元が異なるときのみ記入してください。

発売元は、奥付に会社名のみが出ます。表紙には出ません。

登録の手順は、発行所 と同様です。

3.22.9 印刷会社名と製本会社名

印刷会社名と製本会社名は奥付にのみ出ます。これらの項目を入力・修正したときは、画面下の[保存] ボタンをクリックしてください。[保存] ボタンをクリックすると、入力内容が保存されて記事編集画面に移ります。

印刷	
印刷会社名	<input type="text"/>
製本	
製本会社名	<input type="text"/>
<hr/>	
<input type="button" value="保存"/>	

3.22.10 入力補助機能

書誌情報は入力項目が多いので、変更したい項目を簡単に出来るようにリンクボタンを用意しています。

画面下にある、[全般へ] [プロフィールへ] [著作権へ] [改定履歴へ] [発行所へ] の各ボ

タンで、それぞれの入力項目の先頭位置に移ります。これらのボタンをクリックしても項目の変更内容はクリアされません。



3.23 タイトルとサブタイトルのルビと縦中横

自動生成の表紙、タイトルページと奥付の内容は書誌情報から生成します。V3からタイトルページと奥付の書名（タイトル）とサブタイトルにルビと縦中横（縦組のとき）を使えるようになりました。PDFとEPUB両方とも有効です。

V2.3までと互換にするため、出版物の新規作成の際に入力するタイトルにはルビと縦中横を使えません。書名とサブタイトルにルビと縦中横を指定するには 書誌情報での出版物タイトル（優先）、出版物サブタイトル（優先）にタイトルとサブタイトルを入力し、CAS記法でルビと縦中横をマークアップします。

オーナー名	tkobayashi
出版物識別名	CASNewfeature
出版物タイトル *	CAS-UB V3 の新しい機能 1文字以上100文字まで。
出版物サブタイトル	2015年9月17日 100文字まで。
出版物タイトル(優先) V3.0で追加	(((CAS-UB キャスユービー))) [[[:tcy V3]]] の新しい機能 100文字まで。CAS記法でルビと縦中横を指定できます。
出版物サブタイトル(優先)	2015年[[[:tcy 9]]]月[[[:tcy 17]]]日 100文字まで。CAS記法でルビと縦中横を指定できます。

図35 書誌情報画面のマークアップ（例）

PDFのタイトルページを縦組にすると次のように出力されます。

2015年9月17日
 CAS-UB
キャスユービー
 V3
 の新しい機能

図36 タイトルページのルビと縦中横

3.24 PDF/EPUBなどの生成

PDFやEPUB3などの生成は、生成画面で実行します。



3.24.1 生成の条件設定

PDF、EPUB3、EPUB2 など、ファイル形式別に設定メニュー（一般、表紙内容設定、奥付け内容設定など）があります。生成の条件を変更するときは各設定メニューをクリックします。詳細は各ファイル形式別の生成設定を参照してください。

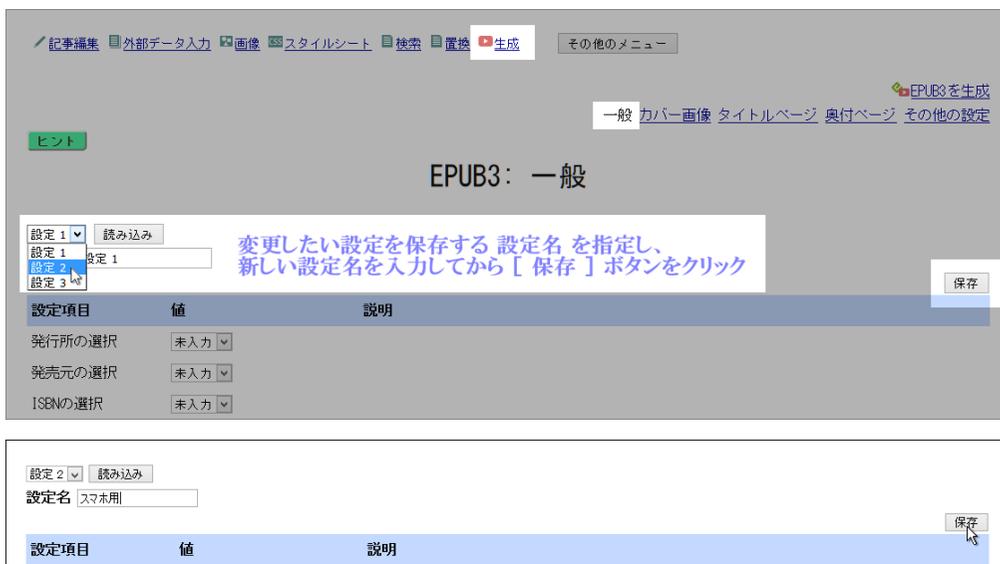
関連 3.25 EPUBの生成設定 (p. 60)、3.26 Kindleの生成設定 (p. 67)、3.28 HTMLヘルプの生成設定 (p. 69)

PDFの生成設定については、<http://www.cas-ub.com/howto/support.html>で入手できる「CAS-UBによるPDF生成のためのガイド」で解説しています。

3.24.2 生成設定の保存

生成の設定は、各生成メディアごとにそれぞれ3種類保存できます。

各設定画面の左側の「設定名」の上のプルダウンをクリックすると三つの設定名が表示されます。設定に名前を付けるには「設定名」右の枠に新しい設定名を入力して[保存]ボタンをクリックします。



保存が完了すると、「設定名」表示上のプルダウンに変更した設定名が表示されます。



保存した設定を使うには PDF を生成、EPUB3 を生成、EPUB を生成などのリンク脇のドロップダウンをクリックして、使用する設定名を選択し [保存] ボタンをクリックします。その後生成を実行します。

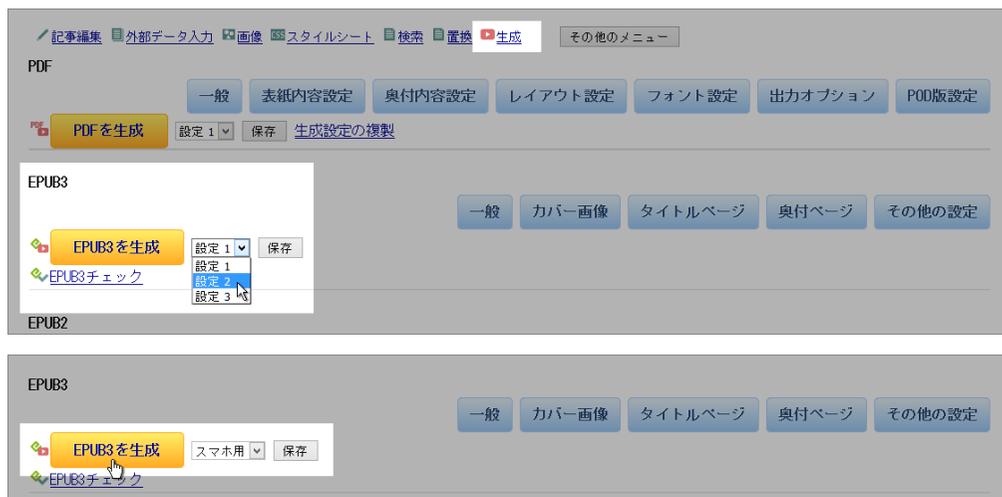


図 37 [保存] ボタンをクリックしてから生成を実行する

3.24.3 生成時のエラーについて

生成実行時に、次のような ID の重複エラーが出ることがあります。

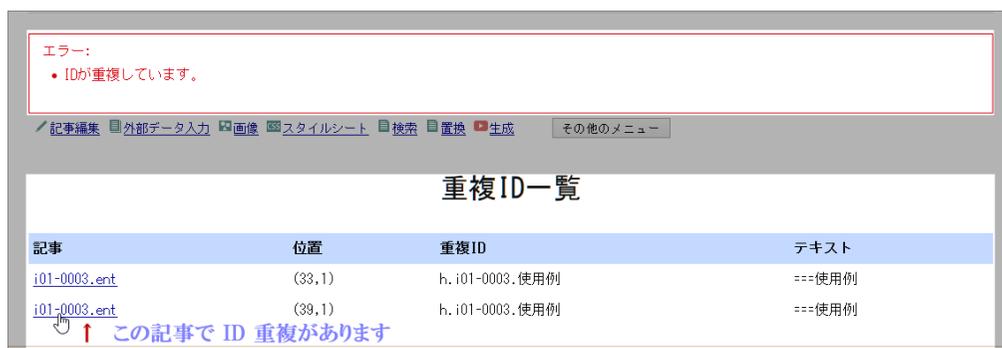


図 38 生成実行時のエラー表示例

ひとつの記事の中で同じ ID は使えません。

CAS-UB は、記事ファイル名と見出し (p. 115) または 8.10 キャプション (p. 126) から参照用の ID を自動生成しています。ひとつの記事の中に同じ見出しやキャプションが複数存在すると、ID が重複してエラーになります。

重複 ID 一覧に表示されている記事のファイル名をクリックすると、該当する記事内容が表示されますので修正してください。ひとつの記事中で、見出しやキャプションに同じ言葉を

複数使いたいときは、末端に ' #' + 識別文字' を付けて区別してください。識別文字には半角のアルファベットと数字が使えます。

例

```
=使用例  
  
lang = {en}  
  
=使用例#1  
  
lang = {ja}
```

関 連 8.10.1 キャプションの ID (p. 126)

3.25 EPUB の生成設定

EPUB3/EPUB2 の生成設定は、5つの画面に別れています。EPUB3 と EPUB2 で設定項目はほぼ共通ですが、設定内容は個別に保存されます。



図 39 EPUB3 生成設定

- 一般

EPUBのメタ情報とタイトルページ及び奥付向けに、書誌情報に登録されている項目のうち複数の値が登録できる項目で、どの値を使うかを指定します。また、CSSのテーマと、自動生成項目を生成するか否か、目次に出力する見出しの最大レベルなども指定します。

- カバー画像

- カバー画像

EPUBの表紙画像を指定します。本棚にならぶアイコンなどにも利用されます。

- タイトルページ

書誌情報からタイトルページに出力する項目を指定します。書誌情報が登録されていない項目は、出力するように設定しても出力されません。発行元ロゴは publisherLogo.jpg というファイル名で画像をアップロードしておく必要があります。(出版物の種類「ノート1」にはありません)

- 奥付ページ

書誌情報から奥付に出力する項目を指定します。書誌情報が登録されていない項目は、出力するように設定しても出力されません。発行元ロゴは、タイトルページと同じ画像が使用されます。

- その他の設定

章節番号や図表番号の付け方や、図表番号一覧の見出しについての指定をします。設定を変更したら、各設定画面右下の[保存]ボタンをクリックして設定を保存してください。

設定は、3種類保存できます。生成実行時に使用する設定を指定してください。

関連 設定の保存（生成）(p. 13)

3.25.1 一般設定

- EPUB3のバージョン
通常はEPUB3.0で生成します。EPUB3.1で生成する必要がある場合は3.1に変更してください。
- 発行所の選択
書誌情報に発行所が登録されていないときは「未入力」と表示されます。発行所が複数登録されているときは、どれを使うか選択できます。
選択した情報は、タイトルページ、奥付、EPUB3/EPUB2のメタ情報に使用されます。
- 発売元の選択
書誌情報に発売元が登録されていないときは「未入力」と表示されます。発売元が複数登録されているときは、どれを使うか選択できます。
選択した情報は、タイトルページ、奥付、EPUB3/EPUB2のメタ情報に使用されます。
- ISBNの選択
書誌情報にISBNが登録されていないときは「未入力」と表示されます。ISBNが複数登録されているときは、どれを使うか選択できます。
選択した情報は、タイトルページ、奥付、EPUB3/EPUB2のメタ情報に使用されます。
- CSSのテーマ
デザインテーマを選択します。好みのものを指定してください。
EPUB3の「CSSのテーマ」は、横書と縦書に分けてあります。縦書のテーマを使いたいときは、「縦書」を選んでからテーマを指定してください。
「CSSのテーマ一覧」をクリックすると、用意されているCSSのテーマの適用例が一覧表示されますので参考にしてください。CSSのテーマを選択すると、選択したCSSのテーマのサンプル画像が表示されます。
- Navの目次の内容（EPUB3のみ）
EPUB3のナビゲーション目次（Nav）内容を、飾りのない見出し（論理目次）と、ランドマークのどちらにするかを指定します。
- 論理目次の生成レベル（EPUB3のみ）
Navが論理目次のとき、目次に表示する見出しのレベルを設定します。
「記事のみ」では、記事のタイトルだけを目次とします。レベルを指定すると、記事中の指定レベルの見出しまで目次に追加します。「全部」では、すべてのタイトルと見出しが出ます。
- EPUB2と互換の目次（EPUB3のみ）
EPUB3に、EPUB2と互換の目次も入れるかどうかを選択します。通常は不要ですが、EPUB2

と互換の目次を必要とするリーダー向けに生成する場合はチェックしてください。

- **EPUB2と互換の目次の生成レベル** (EPUB3のみ)
目次内容を指定します。「記事のみ」では、記事のタイトルだけを目次とします。レベルを指定すると、記事中の指定レベルの見出しまで目次に追加します。
- **iBooks向けメタ情報** (EPUB3のみ)
CSS テーマのフォント指定を iBooks で有効にするための設定を、EPUBのメタ情報に追加します。
- **章扉を作る** (EPUB3のみ)
チェックすると、記事の種類が **章** の記事タイトルのみのファイル (章扉) が自動生成され、元記事のタイトルのみが非表示になります。
 - **章扉の文字進行方向** (EPUB3のみ)
なし：CSS テーマの文字進行方向になります。
横書：CSS テーマの文字進行方向にかかわらず横書になります。
縦書：CSS テーマの文字進行方向にかかわらず縦書になります。
- **タイトルページ**
タイトルページを生成するか否かを選択します。
- **本文の目次** (EPUB3のみ)
本文中に目次を生成するか、生成しないかを指定します。記事の種類が「ユーザー作成目次」の記事があれば、そちらを優先し「生成する」が指定されても本文の目次は生成されません。
- **本文の目次の生成レベル** (EPUB3のみ)
本文の目次に表示する見出しのレベルを指定します。「記事のみ」では、記事のタイトルだけを表示します。レベルを指定すると、記事中の指定レベルの見出しまでを表示します。「全部」では、すべてのタイトルと見出しが表示されます。
- **奥付**
奥付を生成するか否かを選択します。
- **索引**
索引を生成するか否かを選択します。
- **図表一覧**
図表一覧を生成するか否かを選択します。
- **巻末注釈**
巻末注釈を生成するか否かを選択します。
- **参考文献**
参考文献を生成するか否かを選択します。参考文献画面に.bibファイルが登録されていない場合は生成されません。また記事の種類が「参考文献表」の記事は、この設定にかかわらず表示されます。
- **Navのランドマーク** (EPUB3のみ)
Navにランドマークを追加するか否かを選択します。「Navの目次の内容」にランドマークを指定しているときは、論理目次とランドマークの内容が同じになります。

- PDF 用の図表サイズ指定

PDF 生成では属性で指定した図表サイズが有効ですが、EPUB3/EPUB2 にサイズ指定をそのまま反映することはできないので、指定を削除するか、CSS スタイルに変換して残すかを指定してください。「別途設定する」を指定するとサイズ指定は削除されます。CSS スタイルに変換して残しても、サイズ指定が正しく適用されるかどうかはリーダー依存です。

- 自動生成記事の文字進行方向設定（EPUB3 のみ）

次の自動生成記事の文字進行方向を変更できます。

- タイトルページ：自動生成されるカバー画像もこの設定に従います。
- 目次
- 索引
- 図表一覧
- 奥付
- 巻末注釈
- 参考文献

関 連 次の自動生成記事は、出版物設定画面の「自動生成記事のタイトル設定 (p. 221)」でタイトル文字列を変更することができます。

- 目次
- 索引
- 図表一覧
 - 図表一覧 図一覧
 - 図表一覧 表一覧
- 奥付
- 巻末注釈
- 参考文献

関 連 14.9 EPUB3 の目次 (p. 221)

3.25.2 カバー画像

カバー（表紙）は常に画像ファイルを使います。自分で表紙画像を用意していないときは、カバー画像を「未定」のままにしておくと、タイトルページを画像化して使用します。

- カバー画像ファイル名

右の枠をクリックすると、画像フォルダにアップロード済みの画像ファイル名が一覧されますので、カバー画像に使用するファイル名を選択してください。

このメニューで新たな画像をアップロードもできます。[ファイルを選択] ボタンをクリックしてアップロードする画像ファイルを指定してから、[画像のアップロード] ボタンをクリックすると指定した画像ファイルがアップロードされます。アップロードする前に「メモ」欄に画像についてのメモを入力しておくと、画像画面の一覧にメモも表示されます。

3.25.3 タイトルページ設定

書誌情報から引用する項目のうち、いくつかの項目は、有効にするか無効にするかを選択できます。また、発行所ロゴ画像を使用は、ここからアップロードできます。各項目内容は「3.22 表紙と奥付に使われる項目の入力 (p. 49)」で情報が登録されていないときは出力されません。

出版物の種類によっては、出力されない項目があります。

- タイトル (常に有効)
- サブタイトル (常に有効)
- 発行年月

改訂履歴に最後に登録された発行年月日が引用されます。

- 版数

改訂履歴に最後に登録された版数が引用されます。

- 発行所ロゴ
- 発行所ロゴ画像

発行所ロゴ画像を新たにアップロードしたいときは、[ファイルを選択] ボタンをクリックしてアップロードする画像ファイルを指定してから、[画像のアップロード] ボタンをクリックして画像ファイルをアップロードしてください。アップロードする前に「メモ」欄に画像についてのメモを入力しておくこと、画像画面の一覧にメモも表示されます。アップロードした画像は、ファイル名を publisherLogo.jpg に変更して登録されます。既に publisherLogo.jpg があるときは上書きされます。

- 発行所
- 著者 (常に有効)
- 編著者
- 監修者
- 訳者
- 監訳者
- 編者
- プロジェクトの概要
- キーワード

3.25.4 奥付ページ設定

書誌情報から引用する項目のうち、いくつかの項目は、有効にするか無効にするかを選択できます。また、発行所ロゴ画像を使用するときは、タイトルページからアップロードできます。

各項目内容は「3.22 表紙と奥付に使われる項目の入力 (p. 49)」で情報が登録されていないときは出力されません。

出版物の種類によっては、出力されない項目があります。

- 執筆者情報

- タイトル（常に有効）
- サブタイトル（常に有効）
- 発行年月（常に有効）
改訂履歴に最後に登録された発行年月日が引用されます。
- 版記述（常に有効）
改訂履歴に最後に登録された説明が引用されます。
- 版数（常に有効）
改訂履歴に最後に登録された版数が引用されます。
- 初版発行年月（常に有効）
改訂履歴に最初に登録された発行年月日が引用されます。
- 初版版記述（常に有効）
改訂履歴に最初に登録された説明が引用されます。
- 初版版数（常に有効）
改訂履歴に最初に登録された版数が引用されます。
- 著者（常に有効）
- 編著者（常に有効）
- 監修者（常に有効）
- 訳者（常に有効）
- 監訳者（常に有効）
- 編者（常に有効）
- 制作者（常に有効）
- 装丁者（常に有効）
- 図版制作者（常に有効）
- レーベル（常に有効）
- 発行者（常に有効）
- 発行所（常に有効）
複数登録されているときは、一般設定（p. 61）で選択しておいてください。
- 発売元（常に有効）
複数登録されているときは、一般設定（p. 61）で選択しておいてください。
- ISBN（常に有効）
複数登録されているときは、一般設定（p. 61）で選択しておいてください。
- 著作権者（常に有効）
- 著作権表記（常に有効）
- 発行所ロゴ
発行所ロゴ画像は、タイトルページ設定（p. 64）からアップロードできます。
- 発行所（常に有効）

3.25.5 その他の設定

EPUB3/EPUB2 の生成内容について、次の設定ができます。

- 見出しに付加する連番をどのレベルまで自動生成するか
「0:番号なし」から「1:章のみ」(レベル1のみ)「2:章と節」(レベル2まで)・・・「6」(レベル6)まで指定できます。
- 章番号のプレフィックス
見出しレベル1(章)番号の前に付ける文字を指定します。
例:第1
- 章番号のポストフィックス
見出しレベル1(章)番号の後ろに付ける文字を指定します。
例:1章
- 章番号と節番号のデリミタ
章番号と節番号の間の区切り文字を指定します。選択肢は、CSSテーマが縦組用の場合と横組の場合で異なります。
 - 横 : 1-1(二分ダッシュ)、1.1(ピリオド)、1・1(中点)、1・1(半角カタカナ中点)
 - 縦 : 1-1(二分ダッシュ)、1—1(全角ダッシュ)、1・1(中点)、1・1(半角カタカナ中点)
- 図表番号の付与
図表番号を付けるか否かを指定できます。
- 図表番号の形式
図表番号の形式を指定します。選択肢は、CSSテーマが縦組用の場合と横組の場合で異なります。
 - 横 : 1(図表番号のみ)、1-1(二分ダッシュ)、1.1(ピリオド)、1・1(半角カタカナ中点)
 - 縦 : 1(図表番号のみ)、1-1(二分ダッシュ)、1—1(全角ダッシュ)、1・1(中点)、1・1(半角カタカナ中点)
- 図番号のプレフィックス
図番号の前に付ける文字を入力してください。不要な場合は文字を削除してください。
- 表番号のプレフィックス
表番号の前に付ける文字を入力してください。不要な場合は文字を削除してください。
- 図表一覧 大見出し
自動生成される図表一覧の大見出しを指定します。見出しを入力してください。
デフォルト値:図表一覧
- 図表一覧 中見出し(図一覧見出し)
自動生成される図表一覧中の図一覧見出しを指定します。見出しを入力してください。
デフォルト値:図一覧
- 図表一覧 中見出し(表一覧見出し)
自動生成される図表一覧中の表一覧見出しを指定します。見出しを入力してください。
デフォルト値:表一覧
- 参照先のアンカー文字列の見出し番号・図表番号

見出しやキャプションを参照 (p. 158) したときのアンカー文字列に、見出し番号や図表番号を付加するか否かを指定します。

- 参照先のアンカー文字列の見出し・キャプション

見出しやキャプションを参照 (p. 158) したときのアンカー文字列に、見出し文字列やキャプション文字列を付加するか否かを指定します。

- フォントをサブセット化する

フォント画面でアップロードされているフォントファイルを EPUB に埋め込む際に、フォントファイルをそのまま埋め込むか、必要な部分だけ (サブセット) にして埋め込むかを指定します。

注 意 「参照先のアンカー文字列の見出し番号・図表番号」と「参照先のアンカー文字列の見出し・キャプション」の両方で「付与しない」を指定したときは、アンカー文字列が「参照先」という文字列に置き換えられます。

関 連 EPUB の生成 (p. 58)

3.26 Kindle の生成設定

CAS-UB では、Amazon Kindle Paperwhite で表示できる、MOBI 形式と、Amazon KDP の入稿に使用できる、Kindle 向け EPUB を生成できます。

「Kindle を生成」で、MOBI と Kindle 向け EPUB が生成されます。

生成に関する設定は、EPUB の生成設定 (p. 60) とほぼ同じなので、EPUB の生成設定 (p. 60) を参照してください。



図 40 Kindle の生成設定

関 連 生成の実行 (p. 58)

3.27 Web ページを生成

Web ページを生成は、EPUB3 の内容を Web ブラウザで閲覧しやすいように整理して ZIP にまとめたものです。ZIP を解凍すれば、そのまま Web ブラウザで閲覧できます。

Web ページを生成では、EPUB3 の生成設定がそのまま引き継がれますので、EPUB3 の生成設定が必要です。EPUB3 の「一般」設定で、本文の目次は必ず生成するように設定してください。

3.27.1 Web ページを生成の一般設定

Web ページを生成に必要な設定のほとんどは EPUB3 の設定で行いますが、Web ページ専用の

設定項目についてはWeb ページを生成の「一般」で設定します。

設定項目

- トップの URL : 目次の先頭につけるリンクのリンク先 URL (1)
- トップの名前 : トップの URL のアンカーテキスト
何も指定しなければリンクは挿入されません
- リンクの URL : 目次の先頭につけるリンクのリンク先 URL (2)
- リンクの名前 : リンクの URL のアンカーテキスト
何も指定しなければリンクは挿入されません
- ナビゲーションの言語 : ページ送りのためのナビゲーションの言語を日本語と英語で
選択できます
- 目次と本文を分割した index-multiview.html を生成する : 左に常に目次を表示し、右
に記事内容を表示する index-multiview.html を生成します
通常の目次は index.html です
- index.html に JavaScript のリンクと JavaScript を保存するディレクトリとファイルを
新たに生成する : index.html に `<script type="text/javascript" src="scripts/
script.js"></script>` を挿入し、scripts フォルダを作成して空のスク립トファイル
script.js を生成します

3.27.2 リンクとナビゲーションのレイアウトなど

index.html に埋め込まれるリンク (「トップの URL/名前」「リンクの URL/名前」) は、次の
ように xhtml に挿入されます。

```
<p class="to_home">  
<a href="http://・・・/">トップ</a>  
  <span class="not-separates">  
<a href="http://・・・/">リンク</a>  
</span>  
</p>
```

各記事に挿入されるナビゲーションは、次のように xhtml に挿入されます。

<body …> の直後

```
<div class="nav-top"><a href="i01-0009.html">前へ</a> <a href="i01-0011.html">次へ</a></div>
```

</body> の直前

```
<div class="nav-bottom"><a href="i01-0009.html">前へ</a> <a href="i01-0011.html">次へ</a></div>
```

表示をカスタマイズしたいときは、上記で付けられてる属性値を利用して、style.css に
設定を追加してください。

注 意 各記事に挿入されるナビゲーションは、Web ページを生成の一般設定で、「目次と

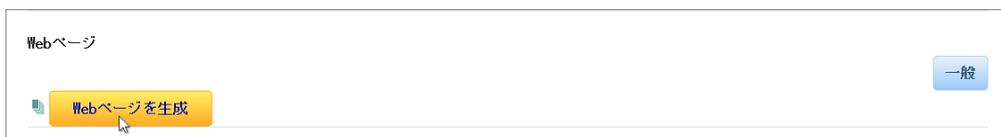
本文を分割した index-multiview.html を生成する」を生成する にしたときと生成しない にしたときで構成が異なります。生成しない の場合、各ページに目次へのリンクも挿入されます。

3.27.3 Web ページの生成の実行

Web ページを生成は、生成画面で実行します。



生成画面の「Web ページを生成」をクリックすると、PDF などの生成と同様に「Web ページ生成中」と大きく表示されます。「Web ページ 生成中」が「Web ページ ダウンロード」に変わったら生成完了です。「Web ページ ダウンロード」をクリックすると生成された Web ページの ZIP ファイルがダウンロードされます。



3.28 HTML ヘルプの生成設定

HTML ヘルプの生成で、Microsoft HTML Help Workshop でコンパイルできるソース一式が生成できます。生成された ZIP ファイルを解凍して、中に含まれる拡張子が .hhp のファイルを Microsoft HTML Help Workshop で開けば、そのままコンパイルできます。

- Microsoft HTML Help Workshop で使用できる文字コードは Shift-JIS のみです。HTML ヘルプの生成を前提に出版物を作製する場合は、Shift-JIS コードの範囲外の文字を使わないようご注意ください。
- 状況依存のヘルプを作成するときは、アプリケーションのヘルプ ID に対応付けられたファイル名（拡張子は不要）と同じ名前で、記事を作成しておく必要があります。

HTML ヘルプの設定画面は、「一般」「カバー画像」「タイトルページ」「奥付ページ」の4つがありますが、「一般」以外は、EPUB の設定と同じなので、そちらを参照してください。



図 41 HTML ヘルプの生成設定

3.28.1 一般設定

- 発行所の選択

書誌情報に発行所が登録されていないときは「未入力」と表示されます。発行所が複数登録されているときは、どれを使うか選択できます。

選択した情報は、タイトルページ、奥付、EPUB3/EPUB2のメタ情報に使用されます。

- 発売元の選択

書誌情報に発売元が登録されていないときは「未入力」と表示されます。発売元が複数登録されているときは、どれを使うか選択できます。

選択した情報は、タイトルページ、奥付、EPUB3/EPUB2のメタ情報に使用されます。

- ISBNの選択

書誌情報に ISBN が登録されていないときは「未入力」と表示されます。ISBN が複数登録されているときは、どれを使うか選択できます。

選択した情報は、タイトルページ、奥付、EPUB3/EPUB2のメタ情報に使用されます。

- CSSのテーマ

デザインテーマを選択します。独自のCSSを使用したいときは「未定」を指定します。独自のスタイルシートは、スタイルシート (p. 191) 画面で style.css と関連ファイルをアップロードしてください。

- タイトルページ

タイトルページを生成するか否かを選択します。タイトルページに独自の画像を使用するときは「生成しない」としてください。画像は「カバー画像 (p. 63)」で指定します。

- 奥付

奥付を生成するか否かを選択します。

- 索引

索引を生成するか否かを選択します。

- 巻末注釈

巻末注釈を生成するか否かを選択します。

- 参考文献

参考文献を生成するか否かを選択します。参考文献画面に.bibファイルが登録されていない場合は生成されません。また記事の種類が「参考文献表」の記事は、この設定にかかわらず表示されます。

- PDF用の画像サイズ指定 HTMLヘルプでも、PDF生成向けに属性で指定した画像サイズは有効ですが、指定を削除することもできます。

関連 EPUBの生成設定 3.25.2 カバー画像 (p. 63)

EPUBの生成設定 3.25.3 タイトルページ設定 (p. 64)

EPUBの生成設定 3.25.4 奥付ページ設定 (p. 64)

生成の実行 (p. 58)

第4章 記事の種類

4.1 記事の種類一覧

CAS-UBの記事には記事の種類を指定します。

4.1.1 記事の種類役割

記事の種類はCAS-UBの自動処理で重要な役割を果たしています。EPUBやPDFなどを生成するテーマで、本の構成、自動番号付けやレイアウト指定に記事の種類を使っています。たとえば、次のような指定を組み込んでいます。

- 記事の種類が属する区分毎に並び替えを行います。たとえば、「後書」を指定した記事はかならず本文の後に置きます。4.2.2 記事の並び替え (p. 75) を参照。
- 生成時に本文の章、節、図、表に番号を自動的に付けられます。たとえば、章番号は記事の種類「本文: 章」の記事タイトルを対象にします。
- 目次を自動生成するとき、その挿入位置を前後の記事の種類を見て決定します。4.2.3 自動生成記事の挿入位置 (p. 77) を参照。

PDFにおける記事の種類役割

- 目次を自動作成するとき、「カバーページ」、「タイトル前」、「タイトルページ」、「プロフィール」、「奥付」は目次に表示しません。4.2.4 目次に表示しない記事 (p. 77) を参照。
- ノンブルを振るとき、そのスタート番号やりセットする位置の記事の種類により決定しています。「記事スタイル」機能で記事の種類毎にレイアウトをカスタマイズすることができます。「記事スタイル」機能については、「CAS-UBによるPDF生成のためのガイド」(CAS-UB サポート&ガイド (<http://www.cas-ub.com/howto/support.html>) より配布) を参照してください。

EPUBにおける記事の種類役割

EPUB生成時には、記事の種類は次のように扱います。

- 手作りの記事は、編集時に設定したファイル名のままEPUBのコンテンツを構成するファイルとして登録します。
- 自動生成の記事は、記事の種類に応じたファイル名で、出版物の種類で設定されている順序でEPUBのファイルとして登録します。
- 記事の種類情報は、各記事(XHTMLファイル) body要素のクラス(class)属性値として設定します。
- 記事の種類毎に、それぞれのレイアウトを設定する固有のCSSをリンクします。

詳細については、「CSSレイアウトのカスタマイズガイド」(CAS-UB サポート&ガイド (<http://www.cas-ub.com/howto/support.html>) より配布) を参照してください。

4.1.2 V4.0 で使える記事の種類一覧

縦組商業書籍では、索引や権利関係のページを横組に設定したり、参考文献ページの文字サイズ、一行文字数、行送りを本文と変更するなど多様なページレイアウト指定が混在しています。CAS-UB V4.0 で使える記事の種類は、表 1 記事の種類一覧 (p. 72) に示すとおりです。

表 1 記事の種類一覧

記事の種類	説明
カバーページ (表紙)	EPUB では出版物の先頭に挿入します。ユーザーが用意した画像を使うか、自動的に作成する画像を使うかなどの指定ができます。指定は PDF と EPUB で個別に行うことができます。
タイトル前	タイトルページの前の扉。英語の本の半扉などを想定しています。
タイトルページ (本扉)	自動生成のタイトルページと、通常の記事と同じように手作業で作成するタイトルページを使えます。 自動生成は出版物のタイトルと書誌情報から自動生成します。手作りのタイトルページがあるときは生成する指定にしても生成されません。
権利関係	PDF 生成でも EPUB 生成でも、「権利関係」の記事は常にタイトルページの直後に配置されます。
献辞	権利関係の後に配置されます。
前書	権利関係の後に配置されます。
目次	自動生成の目次と、通常の記事と同じように手作業で作成する目次が使えます。自動生成では PDF 生成時に本文の前に挿入されます。EPUB 生成では EPUB のナビゲーションファイル (nav.xhtml) として出力し、さらに本文の目次 (オプション) としても出力できます。目次に出力するレベルは PDF と EPUB それぞれで指定できます。手作りの目次があるときは設定にかかわらず自動生成されません。
目次後	目次の後に配置されます。
本文の扉	書籍本文の扉です。
プロローグ	序章などで使います。
本文: 章	本文です。 記事一覧で第 1 階層 (出版物直下) にある本文は章として扱われます。 第一階層にあって初出の「未定」も章として扱われます。
本文: 節	本文です。 記事一覧で第 2 階層にある本文は節として扱われます。
本文: 項	本文です。 記事一覧で第 3 階層にある本文は項として扱われます。
本文: 目	本文です。 記事一覧で第 4 階層にある本文は目として扱われます。
エピローグ	本文の最後に配置されます。終章などで使います。
付録	巻末に配置します。

後書	巻末に配置します。
謝辞	巻末に配置されます。
巻末注釈	手作業の記事中の「注 (p. 149)」のマークアップから自動生成します。
図表一覧	図とキャプションのマークアップから自動生成します。本文の後に挿入されます。図表一覧にはキャプションの付いていない図表は記載されません。キャプションの付いた図表がひとつもない場合、図表一覧は出力されません。
参考文献	手作りで作成するほか、bib ファイルから自動生成することもできます。
索引	索引 (p. 152) のマークアップから自動生成します。索引がマークアップされていない場合は出力されません。
プロフィール	奥付の直前に出力されます。著者プロフィールを手作りしたいときに使います。
奥付	自動生成の奥付と手作りの奥付を使えます。 最後に出力されます。書誌情報から奥付に出力する項目を引用して生成します。指定は PDF と EPUB で個別に行うことができます。自動生成の奥付と手作りの奥付は両方出力されます。
記事の続き	前の記事の続きとして処理されます。EPUB などでは生成時に前の記事と連結されてひとつのファイルになります。記事サイズが大きくなり過ぎて分割が必要などときに使用します。
未定	過去に作成した出版物との互換のためのものです。記事の種類は「未定」は使わないでください。

4.1.3 区分・クラス名

区分

区分は書籍の大きな構成です。出版物は、表紙、前付、本文、後付、奥付類の順序で構成されます。

記事の種類

日本語で編集中（ブラウザの優先言語が日本語のとき）に、記事編集において【記事の種類】に表示される名前です。（ ）で囲った記事の種類はCAS-UBの自動処理で作る記事のため、ユーザー向けの選択肢としては表示されません。

記事クラス名

記事の種類を表すアルファベットの名前です。EPUBではXHTMLファイルのbody要素のclass属性の値（<body class="">の""内）として設定します。また、PDFで記事毎にページレイアウトを指定する「記事スタイル」機能では記事クラス名を使います。「記事スタイル」機能については、「CAS-UBによるPDF生成のためのガイド」（CAS-UB サポート&ガイド(<http://www.cas-ub.com/howto/support.html>)より配布)を参照してください。

V3

○印はCAS-UB V3.0（2015年9月）から新規に追加した記事の種類です。

自動と手作りの項は4.4 手作りの記事と自動生成の記事（p. 80）を参照してください。

表2 「書籍3」の記事の種類

区分	記事の種類	記事クラス名	V3	自動	手作り	備考
表紙	(表紙)	cover		○	×	
前付	タイトル前	before-title	○	×	○	本扉の前の扉(半扉)
前付	(タイトルページ)	opening		○	×	EPUBのタイトルページ(本扉)
前付	(タイトルページ)	titlepage-auto	○	○	×	PDFのタイトルページ(本扉)
前付	(手作り)タイトルページ	titlepage		×	○	タイトルページを手で作成するとき
前付	権利関係	rights		×	○	デフォルトで改ページ(本扉の裏)
前付	献辞	dedication		×	○	
前付	前書	preface		×	○	前付記事
前付	(手作り)目次	mltoc		×	○	手作りの目次
前付	(目次)	mltoc		○	×	EPUB自動生成の目次
前付	(目次)	toc		○	×	PDF自動生成の目次
前付	目次後	preface-after-toc	○	×	○	目次の後の前付記事
本文	本文の扉	body-title	○	×	○	書籍本文の扉
本文	プロローグ	body-start	○	×	○	序章などで使うため
本文	章	chapter		×	○	章
本文	節	section		×	○	節
本文	項	subsection		×	○	項
本文	目	subsubsection		×	○	目
本文	エピローグ	body-end	○	×	○	終章などで使うため
後付	付録	appendix		×	○	
後付	後書	postface		×	○	後付記事
後付	謝辞	acknowledgment		×	○	
後付	(巻末注釈)	xnotes		○	×	本文に注があるとき自動生成
後付	(図表一覧)	loft		○	×	本文に図・表があるとき自動生成
後付	(手作り)参考文献	references		×	○	
後付	(参考文献)	references-auto		○	×	bibファイルがあるとき自動生成
後付	(索引)	publ-index		○	×	本文に索引があるとき自動生成
奥付類	プロフィール	profile	○	×	○	著者のプロフィールのため
奥付類	(手作り)奥付	colophon	○	×	○	手作りの奥付
奥付類	(奥付)	copyright		○	×	自動生成の奥付
その他	記事の続き	—		×	○	前の記事の続き

4.2 出版物の種類と構成

4.2.1 デフォルト出版物

CAS-UBの著者ページで出版物新規作成をクリックすると、新しい出版物の設定画面になります。

図1 新しい出版物の作成

出版物の言語 [日本語] を選んで新規作成すると内部的には出版物の種類が「書籍3」となります。V2.3で同じように新規作成した出版物は「書籍2」です。V2.3までに作成した出版物に対して、V3.0以降で強化された機能を適用するには「書籍3」に変更します。このためには出版物設定⇒出版物の種類をクリックして表示される画面で「日本語」または「英語」を選んで [出版物の種類を選択] をクリックします。

図2 出版物の種類を変更

4.2.2 記事の並び替え

- 1) 「書籍3」では、EPUB、PDF生成時に記事を前付、本文、後付、奥付類の区分ごとに並び変えます。区分については表1 記事の種類一覧 (p. 72) を参照してください。
- 2) 前付、本文、後付、奥付類の各区分内では、記事一覧 (p. 29) の順序のままになります。

互換性 「書籍2」は、EPUB生成時に記事の並び変えを行っていません。このため、EPUBは「書籍2」と「書籍3」で記事の順序が非互換となります。

例：編集時の記事の順序とPDF出力

次の図は、記事のタイトルに記事クラス名をアルファベットで入力し、記事の順序の記事一覧で記事クラス名のアルファベット順に並べた出版物です。なお、章、節、項、目は図のように本文を階層構造にすることで自動的に設定されます。

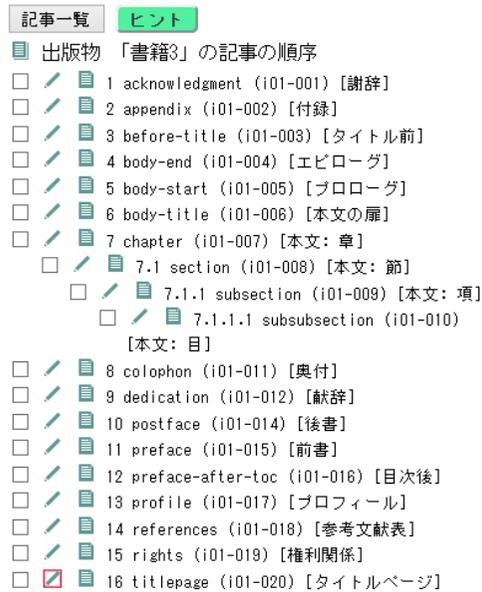


図3 記事一覧（記事編集画面）の記事の順序

各行は左から順に、チェックボックス、編集へのリンクアイコン、内容表示へのリンクアイコン、番号、記事のタイトル、(ファイル名)、[記事の種類]です。

本文の扉とプロローグ

本文の扉（記事クラス名はbody-title）とプロローグ（記事クラス名はbody-start）の区分はいずれも「本文」で同じです。生成物で本文の扉—プロローグの順にするには、記事一覧でこの順序にしておく必要があります。

PDF、EPUBなどの生成物では前付、本文、後付、奥付類の区分中では記事一覧での並び順になります。そこで、上の出版物のPDFを生成すると目次は次のようになります（目次の生成時にレベル1タイトルのみを目次にするように指定していますので、節、項、目は表示されません）。

目次

dedication	v
preface	vii
preface-after-toc	xi
body-start	1
body-title	3
第1章 chapter	5
1.1 section	5
body-end	7
acknowledgment	9
appendix	11
postface	13
references	15

図4 PDF生成(目次)での記事の順序

4.2.3 自動生成記事の挿入位置

- 1) 表紙は先頭に挿入します。
- 2) タイトルページはタイトル前があればその直後に、タイトル前がなければ表紙の直後に挿入します。
- 3) 目次は前書の後に挿入します。
- 4) 巻末注釈は英語・日本語とも図表一覧の前とします。
- 5) 図表一覧は、英語版は目次の直後(V2.3からV3で変更)。日本語は参考文献の前に挿入します。
- 6) 参考文献は索引の直前に挿入します。
- 7) 索引は後付の最後(奥付類の直前)に挿入します。
- 8) 奥付は最後に挿入します。

4.2.4 目次に表示しない記事

編集で【タイトルを目次に出力する】のチェックをはずすと記事のタイトルが目次に表示されなくなります。

文字進行方向: なし 編集エリアの大きさ: 普通
 タイトルを本文に出力する タイトルを目次に出力する
ID一覧を更新する SVG記事作成 マークアップハイライト機能

図5 タイトルを目次に出力しない

注 意 【タイトルを目次に出力する】のチェックをはずすと、その記事の子の記事も目次に出力されません。また、本文の途中の記事で【タイトルを目次に出力する】のチェックをはずすと見出し番号が正しく付加できなくなります。

PDF

PDFの目次には、次の記事の種類は表示されません。

- 表紙
- タイトル前
- タイトルページ
- 権利関係
- 目次
- 奥付類

EPUB

EPUBの本文の目次には、次の記事の種類は表示されません。

- 表紙
- 目次
- 奥付

その他の記事を目次に表示しないようにするには、記事編集画面で【タイトルを目次に出力する】のチェックをはずしてください。

4.3 本文の記事による階層化と本文見出しのレベル設定

4.3.1 コンテンツの階層化

一般の書籍の本文には、大見出し、中見出し、小見出しという見出しをつけて整理します。これはコンテンツの階層化にあたります。CAS-UBでは、コンテンツを階層化する方法として、①記事をつりー構造に配置する、②記事の本文の中で見出しのランクをマークアップするというふたつの方法があります。また、①、②を組み合わせる方法もあります。

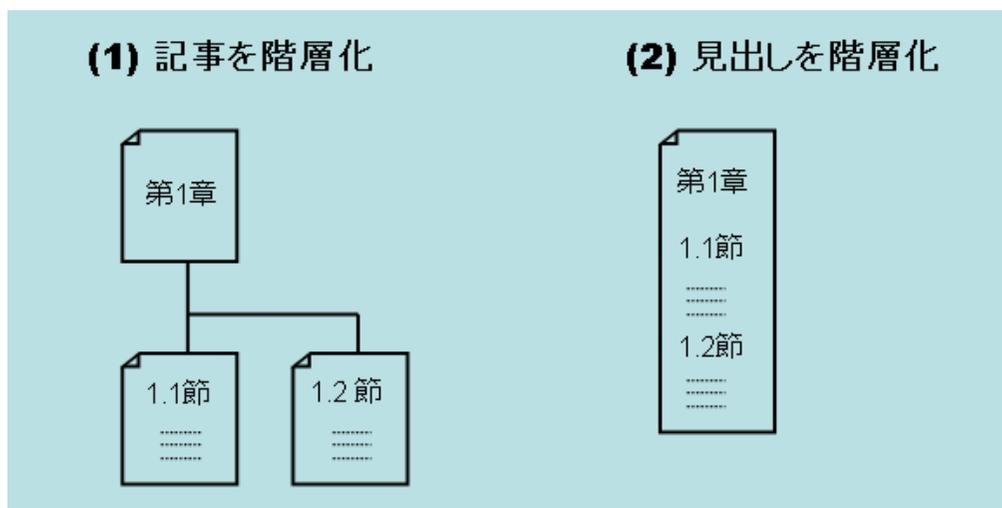


図6 ふたつのコンテンツ階層化

(1) 記事をツリー構造にする

本文を記述するための記事の種類は「本文」のみです。本文の記事を階層化することにより、自動的に「本文：章」「本文：節」「本文：項」「本文：目」となります。これらの記事を使い分けるときは、章の記事の下に節の記事をおき、節の記事の下に項の記事をおき、項の記事の下に目の記事をおくというようにツリー構造にしなければなりません。

記事のツリー構造の編集は、記事編集画面の記事一覧で行ないます。

注 意 「本文」以外の記事は、記事一覧で階層化しても生成時に並べ替えられて同じレベルになります。「本文」以外の記事で見出しを階層化したいときは、記事内に見出しリンクをマークアップしてください。

関 連 3.9 記事の移動 (p. 31)、3.8.1 (p. 29)

(2) 見出しリンクをマークアップする

記事の見出しのリンクをマークアップすると、見出しの階層化ができます。たとえば、「章」にはタイトルをつけます。さらに、章の本文には、ランク1（'='）からランク6（'====='）まで見出しのリンクをマークアップできます。このようにするとき、「章」のタイトルは章見出し、本文のランク1の見出しは節の見出し、ランク2の見出しは項の見出し、ランク3の見出しは目の見出しとなります。章見出しに続く本文または章のリードは章に続けて書きます。

関 連 8.3 見出し (p. 115)

4.3.2 記事の分割と階層化の使い分け

記事自体を階層化する方法と記事の中で見出しを階層化する方法のどちらを使っても、コンテンツの階層化は同等です。

PDF 生成

PDF 生成では、すべての本文記事をひとつに結合してから組版処理をします。記事をどのように分割しても生成される PDF のレイアウト結果は同じものとなります。PDF では記事の分割方法については考慮する必要はありません。階層化のみがレイアウトに影響を与えます。

EPUB 生成

EPUB の記事の分割は、次のように考えてください。

- EPUB3.0 のリーダーや Kindle は、ファイルの区切りで改ページします。EPUB では強制的に改ページしたい位置で記事を分けると良いでしょう。CAS-UB では強制改ページのマークアップがありますが、EPUB リーダーによっては強制改ページが行なわれません。
- 章扉のような、章のタイトルを 1 画面として、画面の上下・左右の中央にタイトルを配置するというレイアウトを実現するには、章のタイトルだけをひとつの記事とする必要があります（章扉については、生成の一般設定で「章扉を作る」をチェックすることで、章タイトルだけの記事を作らなくても章扉を生成できます）。
- 章扉を作らないで、章の開始で改ページして、章のタイトルと章の最初の節のタイトルを同一のページに配置するならば、章の本文の最初の節の見出しは、章の記事中に見出しをマークアップする必要があります。
- 節のタイトルで改ページするならば節毎に記事を分けます。節のタイトルでは改ページしないのならばすべての節を一つの記事の中で記述しなければなりません。
- 章と節で記事を分割して別の記事とする場合、章の下に節の記事を配置するように記事を階層化してください。

関 連 8.21 水平線と強制改ページ (p. 143)

4.3.3 HTMLHelp

HTMLHelp で、状況依存のヘルプ表示が必要な場合は、アプリケーションのメニューと記事のファイル名の対応付けを行ない、アプリケーションのメニューにあわせて記事を分割・階層化します。

4.4 手作りの記事と自動生成の記事

自動生成の記事

表 1 記事の種類一覧 (p. 72) で自動の欄に○印のある記事は、EPUB、PDF などの成果物を生成するときに CAS-UB の自動処理で内容を作りだす記事です。

手作りの記事

同表で手作りの欄に○のある記事は記事編集画面で内容を入力・編集する記事です。記事内容はキーボードで入力したり、他のアプリでコピーしたテキストをペーストして入力します。外部データ入力で Microsoft Word 文書などをインポートして記事の内容にもできます。

4.4.1 手作りの記事の作成

手作りの記事の種類は、記事編集画面の【記事の種類】で指定します。



図7 記事の種類を設定

4.4.2 自動生成の記事の作成

- 自動生成の記事はCAS-UBのプログラムで作ります。元データは次の表のようになっています。
- 記事を作成するかどうかは、4.4.3 PDFの自動生成記事 (p. 82)、4.4.4 EPUBの自動生成記事 (p. 83) を参照してください。
- 記事の種類によりCAS-UBが記事クラス名を設定します。

表3 自動生成の記事の作り方

記事の種類	元データ	備考
表紙	書誌情報からピックアップまたは表紙画像を指定します。	EPUBでは必須、PDFではオプションです。
タイトルページ	書誌情報からピックアップします。	書名(タイトル)とサブタイトル、発行日、発行所などを記載する本扉に相当します。EPUB、PDFともオプション
奥付	書誌情報からピックアップします。	EPUB、PDFともオプション
目次	前付、本文、後付のタイトルと見出しを集めます。	EPUB、PDFともオプション。EPUBでは「本文の目次」といいます。
参考文献	参考文献のbibファイルから作成します。	文献をbib形式でアップロードして用意してください。
巻末注釈	前付、本文、後付の記事内容の後注マークアップを一覧にします。	EPUB、PDFともオプション
図表一覧	前付、本文、後付の記事内容の特殊化した図と表のキャプションを一覧にします。	EPUB、PDFともオプション。
索引	前付、本文、後付の記事内容の索引マーク	EPUB、PDFともオプション

記事の種類	元データ	備考
	アップから索引語を取り出してキーでソートして作成します。	

関連 特殊化については、8.9 ブロック範囲指定とブロックの特殊化 (p. 125) を参照してください。

4.4.3 PDFの自動生成記事

PDFの自動生成記事を生成するかどうかは、生成⇒PDF一般で設定します。

表紙とタイトルページ

- 1) 表紙を生成するかどうかは、一般の【表紙】で指定します。表紙の内容は生成⇒PDF表紙内容設定で項目を選択します。
- 2) タイトルページを生成するかどうかは、一般の【タイトルページ】で指定します。内容は表紙内容設定で指定します。但し、タイトルページに画像は使えません。手作りのタイトルページ（【記事の種類】に「タイトルページ」を指定した記事）があるときは、自動生成のタイトルページは生成しません。

目次

- 1) 目次を生成するかどうかは、一般の【目次】で指定します。目次のレイアウトは、生成⇒PDFレイアウト設定⇒レイアウト詳細設定の【目次】で指定します。なお、手作りの目次（【記事の種類】に「目次」を指定した記事）があるときは、自動生成の目次は生成しません。

巻末注釈、図表一覧、参考文献、索引

- 1) 巻末注釈は本文につけた後注マークアップから生成します。巻末注釈を生成するかどうかは、一般の【巻末注釈】で設定します。「生成する」としても本文に後注マークアップがないと生成されません。
- 2) 図表一覧は本文の特殊化された図表から生成します。図表一覧を生成するかどうかは、一般の【図表一覧】で設定します。「生成する」としても本文に特殊化された図表がないと生成されません。
- 3) 自動生成の参考文献は参考文献にアップロードされているbibファイルから生成します。参考文献を生成するかどうかは、一般の【参考文献】で設定します。「生成する」としても参考文献にbibファイルがないと生成されません。手作りの参考文献（【記事の種類】に「参考文献」を指定した記事）の有無には左右されません。
- 4) 索引は、本文の索引マークアップから生成します。索引を生成するかどうかは、一般の【索引】で設定します。「生成する」としても本文に索引のマークアップがないと生成されません。

奥付

- 1) 奥付を生成するかどうかは、一般の【奥付】で指定します。日本語書籍はデフォルトで「生成する」、英語書籍はデフォルトで「生成しない」となっています。奥付の内容は生成⇒PDF 奥付内容設定で項目を選択します。手作りの奥付（【記事の種類】に「奥付」を指定した記事）の有無には左右されません。

4.4.4 EPUB の自動生成記事

EPUB の自動生成記事を生成するかどうかは、生成⇒EPUB 一般で設定します。

表紙とタイトルページ

- 1) EPUB は表紙を画像にします。表紙画像は必須であり、表紙を生成するかどうかの指定はありません。表紙の画像は生成⇒EPUB カバー画像で指定します。カバー画像が指定されていないときタイトルページから表紙用の画像を自動で作成します。ただし、カバー画像作成はフォールバック機能ですのでレイアウトや画像の品質はあまり高くありません。
- 2) タイトルページを生成するかどうかは、一般の【タイトルページ】で指定します。タイトルページの内容は生成⇒EPUB タイトルページで項目を選択します。なお、手作りのタイトルページ（【記事の種類】に「タイトルページ」を指定した記事）があるときは、自動生成のタイトルページは生成しません。

目次

- 1) EPUB3 ではナビゲーション形式目次（「nav の目次」）は必須で、CAS-UB は常に自動生成します。「nav の目次」の内容を一般の【Nav の目次の内容】で指定します。
- 2) 本文の目次はオプションです。本文の目次を生成するかどうかは、一般の【本文の目次】で指定します。なお、手作りの目次（【記事の種類】に「目次」を指定した記事）があるときは、本文の目次は生成しません。

巻末注釈、図表一覧、参考文献、索引

各記事を生成するかどうかは、生成⇒EPUB 一般で設定します。生成の仕組みは PDF と同じです。

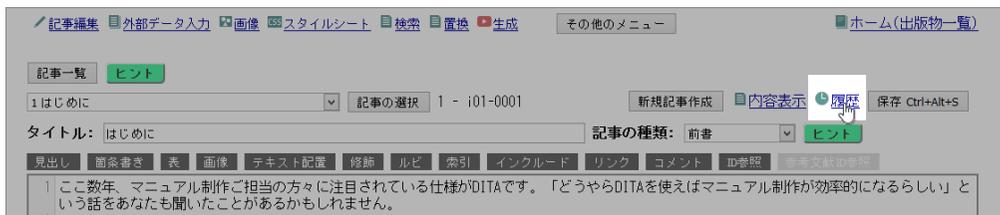
奥付

- 1) 奥付を生成するかどうかは、一般の【奥付】で指定します。日本語書籍はデフォルトで「生成する」、英語書籍はデフォルトで「生成しない」となっています。奥付の内容は生成⇒EPUB 奥付ページで項目を選択します。手作りの奥付（【記事の種類】に「奥付」を指定した記事）の有無には左右されません。

第5章 データ管理

5.1 履歴

記事内容は、ログイン後、最初に記事編集画面に入ったときの状態が履歴として保存されます。過去の状態を参照したいときは、記事の編集画面で「履歴」をクリックします。



履歴があれば、保存日時の一覧が表示されますから、参照したい日時の右にある「編集」をクリックしてください。そのときの内容で記事の編集状態になります。そこで保存をすると、そのときの内容が最新に置き換わります。



画面下部にある [差分を表示] で、現在の内容と履歴が保存されたときの内容の違いを確認できます。確認したい履歴日付のリビジョン番号を指定してから [差分を表示] をクリックしてください（リビジョン番号は、履歴の保存時に適当に割り当てられますので連続していません）。

2013年 10月 24日 付近の履歴 検索

リビジョン	コミット日時	
249	2013-01-25 14:48:56	編集
244	2013-01-17 17:20:42	編集
198	2012-04-13 10:06:48	編集
49	2011-11-22 11:27:23	編集

リビジョン [244] と [現状] の [差分を表示](#)

From revision 244: line 12, 11 lines. ← **リビジョン244の12行目から11行分と、**
 To working copy: line 12, 11 lines. ← **現状の12行目から11行分を比較**

前付け、本文、後付の大枠で構成され、本文は章と節で構成されます。出版物を構成する記事にはこの構造に沿った「**記事の種類**」の指定が必要になります。この指定は構成編集や記事の編集時に変更することができます。

[[[fig =書籍1の構造 **違いのある行**
 -[[book1-ja.png | book1-ja.png]] ← **リビジョン244**
 +[[book1-ja2.png | book1-ja2.png]] ← **現状**
]]]

[[[fig =記事の種類の指定
 -[[kiji-class.jpg | kiji-class.jpg]] ← **リビジョン244**
 +[[kiji-class2.png | kiji-class2.png]] ← **現状**
]]]

その他、表紙、目次、奥付などは、生成時に自動または半自動で付加されます。

5.2 バックアップ

出版物の状態を圧縮してZIPファイルとしてローカル(PCなど)にダウンロードできます。バックアップの目的は、オーナーが自分の手元にデータを保存しておくことができるようにすることです。

5.2.1 バックアップできるデータ

バックアップされるのはバックアップ時点の状態を表すデータのみです。各記事のバックアップ時点より前の内容データはバックアップされません。

このためリスト後には、記事の履歴内容は参照できなくなります。

注意 更新ログ(誰が、いつ、どのエントリーを編集したか)はバックアップされます。

5.2.2 バックアップのデータ形式

CAS-UBの内部では、次のデータ以外は業界標準を使っていますので、ZIPアーカイブを解凍すれば、比較的簡単にデータを再利用できます。

- Atomエントリー内で、ajax名前空間接頭辞で修飾された要素・属性はcas-ubで独自拡張したもので、他システムの互換性はありません。
- CAS記法は、CreoleWikiベースのWiki構文ですが、若干の修正と多くの拡張マークアップを含んでいます。

5.2.3 バックアップ操作

バックアップ操作ができるのは、自身がオーナーの出版物に限られます。

supportさんの著者ページ

出版物一覧

supportさんの出版物

出版物識別名	出版物タイトル	作成日	処理
books20150310	本を作ってみよう	2015-03-10 14:36:44+0900	編集 生成 書誌編集 削除 バックアップ
denshi-shoseki-no-jidai	電子書籍の時代	2015-03-10 13:20:46+0900	編集 生成 書誌編集 削除 バックアップ
how-to-PDFA	PDF/Aとその作り方	2015-03-09 15:20:46+0900	編集 生成 書誌編集 削除 バックアップ

執筆チームメンバーとして参加している出版物

出版物識別名	出版物タイトル	作成日	オーナー	処理
sample1	学問のすすめ	2014-11-21 08:10:04+0900	cas-support	編集 生成 書誌表示

Copyright © 2011-2015 Antenna House Inc. All Rights Reserved. [このサイトについて](#) | [利用規約](#) | [個人情報保護方針](#)

バックアップ画面で大きく表示されている「バックアップファイルのダウンロード」をクリックすると、バックアップファイルがダウンロードされますので、ファイル名に日時を入れるなどして管理してください。

出版物のバックアップ 本を作ってみよう

バックアップ

[バックアップファイルのダウンロード](#)

リストア

編集履歴はバックアップされません。リストアするとそれまでの編集履歴が失われます。

ファイルが選択されていません。

他の出版物のバックアップで上書きする。

5.3 リストア

ローカルPCなどにバックアップ (p. 86) した出版物の ZIP ファイルを CAS-UB のサーバにアップロードしてバックアップ時点の編集状態に戻す機能です。

バックアップしたデータをリストアすると、サーバ側の編集履歴が失われますのでご注意ください。

5.3.1 リストアの手順

リストアもバックアップ画面から実行します。

CAS-UB
 Conf. Authoring Service for Universal Book

ユーザー情報 ▶ 公開プロフィール ▶ ログアウト

出版物新規作成 Word変換 メルマガ変換 ディスク使用量 CAS-UB修正情報

supportさんの著者ページ

ヒット

出版物一覧

supportさんの出版物

出版物識別名	出版物タイトル	作成日	処理
books20150310	本を作ってみよう	2015-03-10 14:36:44+0900	編集 生成 書誌編集 削除 バックアップ
denshi-shoseki-no-jidai	電子書籍の時代	2015-03-10 13:20:46+0900	編集 生成 書誌編集 削除 バックアップ
how-to-PDFA	PDF/Aとその作り方	2015-03-09 15:20:46+0900	編集 生成 書誌編集 削除 バックアップ

執筆チームメンバーとして参加している出版物

出版物識別名	出版物タイトル	作成日	オーナー	処理
sample1	学問のすすめ	2014-11-21 08:10:04+0900	cas-support	編集 生成 書誌表示

Copyright © 2011-2015 Antenna House Inc. All Rights Reserved. [このサイトについて](#) | [利用規約](#) | [個人情報保護方針](#)

大きく「バックアップファイルのダウンロード」と表示されている下にある、[ファイルを選択] ボタンをクリックしてリストアする ZIP ファイルを選択すると、ボタンの右にファイル名が表示されますので、その右にある [バックアップファイルのリストア] ボタンをクリックするとリストアされます。

出版物のバックアップ 初めての本作り

バックアップ [編集](#)

バックアップファイルのダウンロード

リストア

編集履歴はバックアップされません。リストアするとそれまでの編集履歴が失われます。

[参照...](#) books20130730.p20131024.zip [バックアップファイルのリストア](#)

他の出版物のバックアップで上書きする。

リストアが成功すると、その旨、通知が表示されます。

通知:

- OK restore books20130730.p20131024.zip

バックアップ [編集](#)

バックアップファイルのダウンロード

リストア

編集履歴はバックアップされません。リストアするとそれまでの編集履歴が失われます。

[参照...](#) ファイルが選択されていません。 [バックアップファイルのリストア](#)

他の出版物のバックアップで上書きする。

5.3.2 ほかの出版物のバックアップで上書きする

リストアの既定の設定では、出版物識別名の異なるバックアップファイルを受け付けないようにしています。しかし、「ほかの出版物のバックアップで上書きする。」をチェックしておいて[バックアップファイルのリストア]を実行すると、出版物識別名が違っていてもリストアできます。

注 意 上書きされたほうのデータは完全になくなりますので、ご注意ください。

5.4 出版物の削除

不要な出版物の削除は、出版物一覧画面で、出版物識別名の右にある[削除]をクリックしてください。



supportさんの出版物

出版物識別名	出版物タイトル	作成日	処理
books20150310	本を作ってみよう	2015-03-10 14:36:44+0900	編集 生成 書誌編集 削除 バックアップ
denshi-shoseki-no-jidai	電子書籍の時代	2015-03-10 13:20:46+0900	編集 生成 書誌編集 削除 バックアップ
how-to-PDFA	PDF/Aとその作り方	2015-03-09 15:20:46+0900	編集 生成 書誌編集 削除 バックアップ

執筆チームメンバーとして参加している出版物

出版物識別名	出版物タイトル	作成日	オーナー	処理
sample1	学問のすすめ	2014-11-21 08:10:04+0900	cas-support	編集 生成 書誌表示

図1 出版物を削除する

次の確認メッセージが表示されますので、ほんとうに削除してよいなら[削除]ボタンをクリックしてください。出版物が削除されて出版物一覧画面に戻ります。

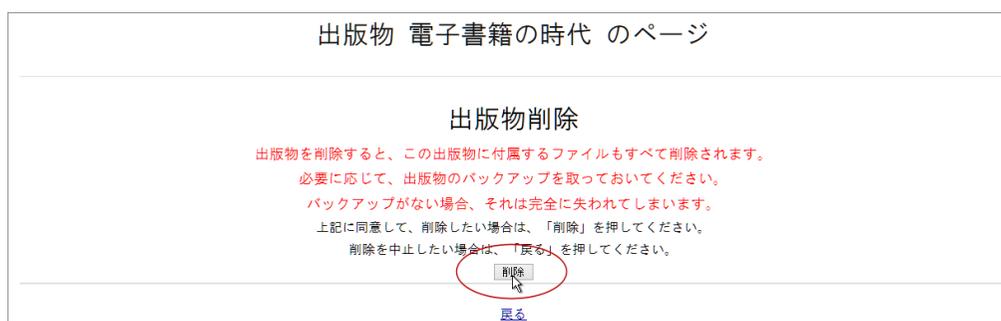


図2 出版物の削除確認

削除の実行をキャンセルしたいときは、[戻る]をクリックしてください。削除を実行せずに出版物一覧画面に戻ります。

第6章 マークアップの基本

6.1 マークアップとは

CAS-UBは、外部データ入力で、たとえばMicrosoft Wordのファイルを取り込んでEPUBやPDFにできます。しかし、それだけではCAS-UBの機能をフルに使いこなしていません。編集機能をフルに活用するにはマークアップについて理解して使いこなす必要があります。

6.1.1 CAS-UBの仕組み

CAS-UBは、原稿（記事ファイル）の入力・編集時にCAS記法という簡略記法で記事にマークアップします。生成処理ではマークアップを中間HTMLに変換し、中間HTMLファイルからEPUBやPDFを生成します。

こうした仕組みを採用している理由は、HTMLのタグを直接編集するには、HTMLについての専門的な知識が必要であり、また、タグの入力そのものにも手間がかかるためです。CAS記法を使うことでHTMLを詳しく勉強する必要がなくなり、またHTMLを編集するより手間が減ります。

CAS記法を使えば、HTMLについて詳しく知る必要はないのですが、それでも要素や属性についての基本的な知識は必要です。

6.1.2 マークアップ

記事の内容に要素や属性を示す印をつけることを「マークアップ」といいます。従来の編集作業におけるマークアップは、編集者がDTP制作者向けに原稿に付加している、見出し、箇条書き、体裁などの指示に相当します。CAS-UBでのマークアップは、原稿にCAS記法で要素と属性の印を付けることです。マークアップに用いる文字は半角のアルファベット・記号・数字です。

6.1.3 要素とは

HTMLで文書を構成する基本単位を「要素」といいます。具体的には、html（ルート要素）、body（本文）、p（段落）、div（ブロック範囲指定）、img（イメージ）、a（アンカー）などはHTMLの要素です。

- HTMLで使える要素の種類はHTMLの仕様で決まっています。
- CAS記法で記述できる要素はHTML仕様で使える要素の種類の一部です。

6.1.4 属性とは

要素には属性を付けられます。属性は要素の役割や表示のレイアウトを指定するために使います。

HTMLの属性は<要素名 属性名="value（属性値）">の形式をとります。属性名="value（属

性値)”の部分属性です。属性で一番多く使うのはクラス (class) 属性です。クラス属性は class="value"形式です。

- EPUB では使用できる属性が決まっています。使用できない属性を設定すると EPUB チェック時にエラーとなります。

属性の書き方

CAS 記法では要素マークアップの直後 (段落の場合は行頭) の ':' に続けて属性指定を置きます。

- クラス属性は、'要素マークアップ記号:属性値'の形式でマークアップします。
- その他の属性は、'要素マークアップ記号:属性名=属性値'の形式でマークアップします。
- 複数の属性を連続して書けます。

6.1.5 編集対象要素

CAS-UB (CAS 記法) で指定して、EPUB や PDF に指定を有効に出力できる要素と属性の組み合わせ (編集対象要素) は HTML と EPUB で使える要素と属性の一部です。

- 編集対象要素の一部は、メニューからダイアログで対話的に入力できます。詳しくは、第 7 章 マークアップ支援機能 (p. 95) を参照してください。
- すべての編集対象要素を使いこなすには、要素と属性を CAS 記法で直接記述する必要があります。

関連 第 8 章 CAS 記法のマークアップリファレンス (p. 111)

第 9 章 CAS 記法の属性マークアップリファレンス (p. 163)

6.2 はじめてのマークアップ

簡単な段落を例として、CAS 記法によるマークアップとそれがどのような HTML になるかを説明します。そして、成果物である EPUB、PDF のレイアウトにどのように反映されるかを説明します。

補足 CAS-UB のテーマで EPUB と PDF を作成するだけであれば、HTML について意識する必要はありません。自分で EPUB のレイアウトを変更するために CSS をカスタマイズする場合には、HTML を意識しなければなりません。

6.2.1 段落の例

段落は HTML では <p>~</p> で囲った要素として表します。CAS 記法での段落は、文章の前後を空行で区切ります。「段落 1」と「段落 2」の二つの段落を作るには間に空行 (先頭に改行を入力) を入力します。

段落 1

段落 2

6.2.2 HTML

そうすると次のようなHTMLになります。

```
<p>段落 1 </p>  
<p>段落 2 </p>
```

6.2.3 属性指定

「段落 1」を中央寄せ、「段落 2」を右寄せするには次のように入力します。

```
:center 段落 1  
:right 段落 2
```

6.2.4 属性指定したHTML

```
<p class="center">段落 1 </p>  
<p class="right">段落 2 </p>
```

6.2.5 成果物レイアウトへの反映

CAS-UB システムは、EPUB と PDF を作成するときのテーマを用意しています。そのテーマに「center」クラス属性には中央寄せ、「right」クラス属性には右寄せになるようにレイアウトを設定しています。そこで、成果物としてのEPUB と PDF を生成すると「段落 1」が中央寄せ、「段落 2」が右寄せになります。

テーマに組み込まれている属性については、第9章 CAS 記法の属性マークアップリファレンス (p. 163) を参照してください。

CAS-UB で生成する EPUB のレイアウトをカスタマイズするには、CSS スタイルシートを自分でカスタマイズします。12.3 レイアウトのカスタマイズ (ユーザー・スタイルシート) (p. 191) を参照してください。

第7章 マークアップ支援機能

7.1 マークアップ支援ボタン

7.1.1 マークアップ支援ボタンとは

マークアップ支援ボタンは、記事内容の編集画面のタイトルの下に配置しているボタンです。このボタンには代表的なCAS記法の組み合わせを割り当ててあります。マークアップ支援ボタンを利用すれば、CAS記法を覚えなくても主なマークアップ機能を使えます。



図1 マークアップ支援ボタン

7.1.2 マークアップ支援ボタンの操作

- 1) テキスト編集エリアでマークアップしたい範囲を選択します。
- 2) マークアップ支援ボタンをクリックします。
- 3) 各ボタンの機能に対応するダイアログが表示されますので、適切なテキストを入力、オプションをチェックします。
- 4) [CAS記法] ボタンをクリックします。
- 5) テキスト編集エリアにCAS記法によるマークアップが挿入され、ダイアログが閉じます。

7.1.3 マークアップ支援ボタンの一覧

CAS記法の組み合わせは非常に多種類になります。その中で比較的良く使うと思われる組み合わせだけをマークアップ支援ボタンに割り当てています。現在用意しているマークアップ支援ボタンは次の通りです。

- 1) 見出し (p. 96)
- 2) 箇条書き (p. 97)
- 3) 表 (p. 98)
- 4) 画像 (p. 99)
- 5) テキスト配置 (p. 101)
- 6) 修飾 (p. 102)
- 7) ルビ (p. 103)

- 8) 索引 (p. 103)
- 9) インクルード (p. 104)
- 10) リンク (p. 106)
- 11) コメント (p. 107)
- 12) ID 参照 (p. 107)
- 13) 参考文献 ID 参照 (p. 108)

7.2 各ボタンの機能説明

7.2.1 見出し

(1) 機能説明

- 見出しのランクに相当する数の '=' を段落の行頭に入れます。
- テキストを選択しないで、「見出し」ボタンをクリックしたときは行頭に見出しランクに相当する '=' を入力します。
- 段落テキストの一部分だけを選択した場合は、選択したテキストを見出しとして、その前後で段落を分割します (二つ目の図参照)。
- CAS 記法では見出しの前後には空行を置くのが原則です。そこで、ダイアログは見出し (選択したテキスト範囲) の「前後に空行を入れる」がデフォルト値になっています。

関連 8.3 見出し (p. 115)

(2) 操作

①見出しにしたい文字列を選択して、②[見出し] ボタンをクリックします。③ダイアログで見出しのランク (見出しランク 1～6 から選択) を選択して、[CAS 記法] ボタンをクリックします。④選択した文字列の上下に空行が入り、選択した行の先頭にマークアップ '=' が挿入されます。

(3) 使用例

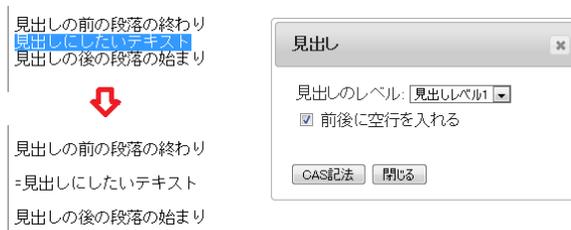


図2 見出しのマークアップ

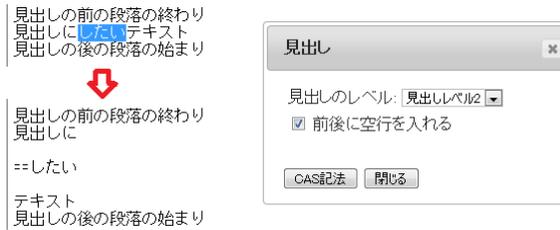


図3 見出しのマークアップ2

7.2.2 箇条書き

(1) 機能説明

- 複数の項目を選択して、各項目の行頭にダイアログで選択した箇条書き種類に対応する箇条書きマーク（'*'または'#'）が挿入されます。
- 「前後に空行を入れる」のチェックがオンならブロック全体の上下に空行を入れます。オフなら入れません（ネストした箇条書きにすることは「前後に空行を入れる」のチェックははずします）。
- 先頭から改行（[ENTER] キーで入力したコード）が入力されている箇所までが1項目です。テキスト入力エリアの右端で自然に改行している位置は項目の終わりではありません。

関連 8.7 箇条書き (p. 121)

(2) 操作

①ブロック範囲を選択して、②[箇条書き] ボタンをクリックします。③ダイアログで箇条書きの種類（番号なし、番号付き）を選択して、[CAS 記法] ボタンをクリックします。④選択したブロック範囲の上下に空行が入り、選択した各行の先頭に箇条書きのマークアップ（'*'または'#'）が挿入されます。

(3) 使用例

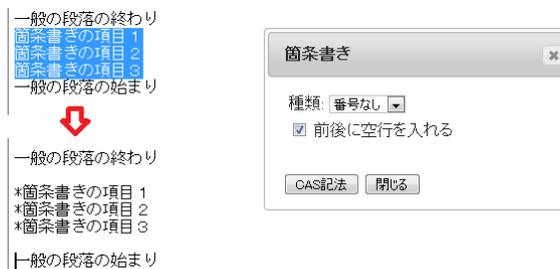


図4 番号なし箇条書き

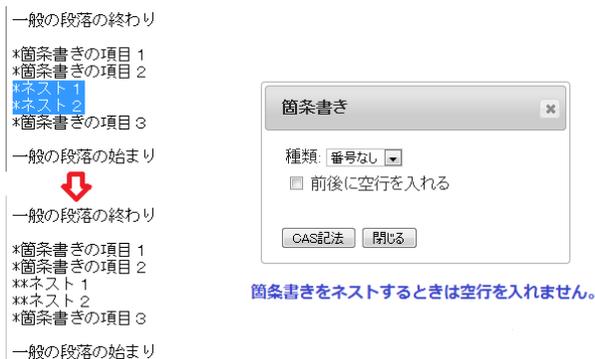


図5 簡条書きのネスト

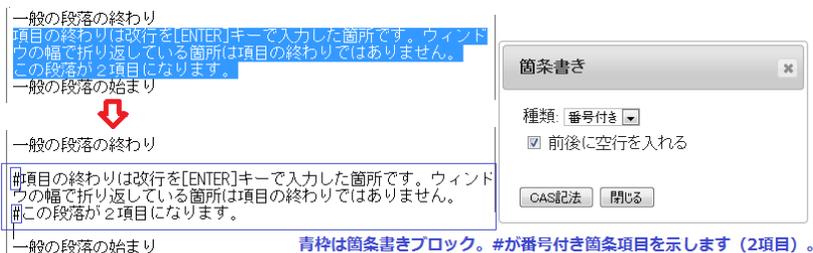


図6 項目の長い簡条書き

7.2.3 表

(1) 機能説明

- CAS 記法をつかうと n 行 m 列の表を作れます。[表] ボタンは、n 行 1 列の基本的な表を作るものです。表ボタンで入力したマークアップを元にして表の列を増やすには、行毎に列の区切りに ' | ' を入れます。すべての行で列数が一致している必要があります。
- 「表をブロック範囲指定で囲む」にチェックしたときは、表マークアップ全体を表の属性をもつブロック範囲指定で囲みます。
- 表のキャプション・テキストを入力できます。
- 「表をブロック範囲指定で囲む」がオフなら、ブロック範囲指定とキャプションともに出しません。
- 「先頭行を表のヘッダ行にする」がオンなら表の一行目が見出し行になるように設定します。
- 「先頭行を見出しセルにする」がオンなら表の一行目が見出しのセルになるように設定します。
- 表ブロックの前後には常に空行を入れます。

関連 8.12 表 (p. 130)

(2) 操作

① ブロック範囲を選択、② 「表」 ボタンをクリックします。③ ダイアログで表をブロック範囲指定で囲むかどうかチェック、(囲むとき) キャプションを入力します。またオプションで表の見出しセルを指定、④ [CAS 記法] をクリックします。⑤ 表の基本マークアップが挿入

されます。なお、選択したブロック範囲内の各行を表の1列目のセルにします。

(3) 使用例

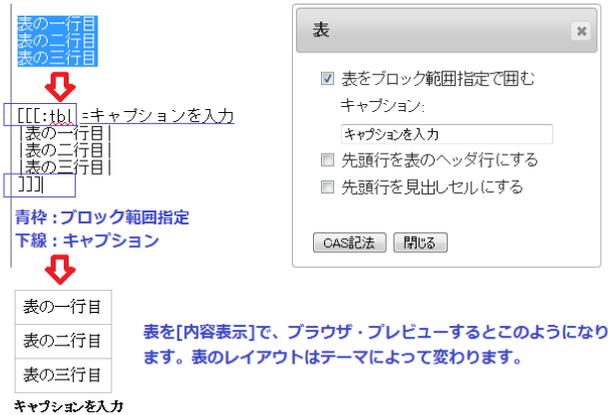


図7 ブロック範囲指定・キャプションあり

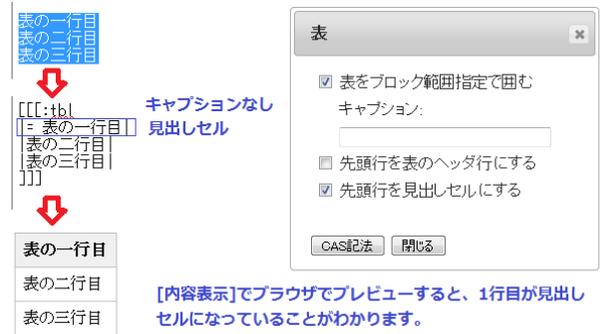


図8 ブロック範囲指定・1行目見出し

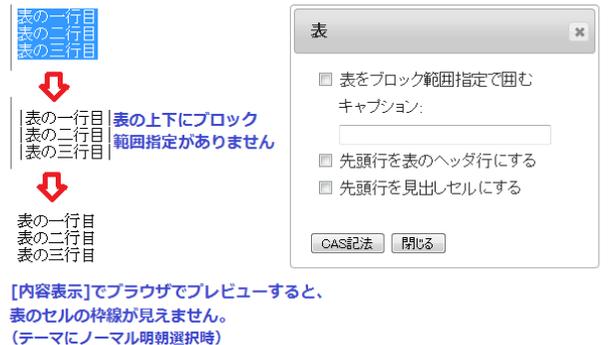


図9 ブロック範囲指定なし

7.2.4 画像

(1) 機能

- 画像（図版またはイメージ画像）の配置方法は複数の行にわたるブロック画像、または行中（インラインの）画像のどちらかです。ブロック画像として配置するなら「画像をブロック範囲指定で囲む」の設定をオンにします。

- ブロック画像にはキャプションを入力できます。なお、キャプションは必須ではありません。
- 画像をインラインで配置するなら「画像をブロック範囲で囲む」をオフにします。インライン画像は前後に空の行は置かず、キャプションを出さずに、テキスト内のカーソル位置に画像を挿入します。
- 画像ファイルはアップロード済みのものの一覧から選択するか、[参照] ボタンをクリックしてローカル（手元）のPCからアップロードすべき画像ファイルを選択します。画像をアップロードするときは内容についての「メモ」をつけることができます。
- 画像には必ず代替テキストをつけなければなりません。ダイアログで代替テキストを入力できます。もし、入力しないときは、画像のファイル名を代替テキストに使用します。

関 連 8.11 イメージと図版（画像）（p. 127）

（2）操作

①画像を配置したい箇所にカーソルを置きます。②「画像」ボタンをクリックします。③ダイアログで必要事項を入力します（利用例を参照）。④[CAS 記法] をクリックするとダイアログの指定内容をカーソル位置に挿入します。⑤図をアップロードするときは、アップロード済みのメッセージが表示されることを確認してから次の操作に進みます。

（3）利用例

画像を置きたい位置にカーソルを置きます
この下に画像を配置します。

↓

この下に画像を配置します。

```
[[[:fig =画像をアップロード キャプション
[[[FrankFult.jpg|フランクフルトのシチューランチ]]
]]]
代替テキスト
```

↓

この下に画像を配置します。 **「内容表示」でプレビュー**



画像をアップロード

画像

画像をブロック範囲指定で囲む（インライン画像はチェックしない）

ブロック画像のキャプション:

画像をアップロード

画像:

画像ファイルのアップロード

FrankFult.jpg **——— [参照]ボタンをクリックしてローカルのフォルダーを開いてアップロードしたい画像を指定します。**

メモ: フランクフルトにて

代替テキスト: フランクフルトのシチューランチ

画像はクラウド・サーバーの「画像」メニューで一覧できます。

<input type="checkbox"/>	 FrankFult.jpg		フランクフルトにて メモ	プレビュー
--------------------------	---	---	------------------------	-----------------------

図 10 ブロック画像の例



図 11 インライン画像の例

7.2.5 テキスト配置

(1) 機能

- CAS-UB で作成する日本語出版物の段落内テキスト配置のデフォルト値は両端揃えです。これを段落単位で行頭寄せ、中央寄せ、行末寄せに設定変更できます。
- 段落全体（テキストのブロック）を選択して配置を指定します。ブロック前後に空行を挿入します。既にブロック前後に空行があるときは空行を2重に入れる必要はありません。
- 段落テキストの一部分を選択した場合は、選択したテキストの部分で分割して新たにブロックにします。

関 連 9.2 組み込みクラス属性値一覧 (p. 166)

(2) 操作

①ブロックを選択します。②[テキスト配置] ボタンをクリックします。③ダイアログの「段落の配置」から設定を選択します。④[CAS 記法] をクリックします。

(3) 利用例

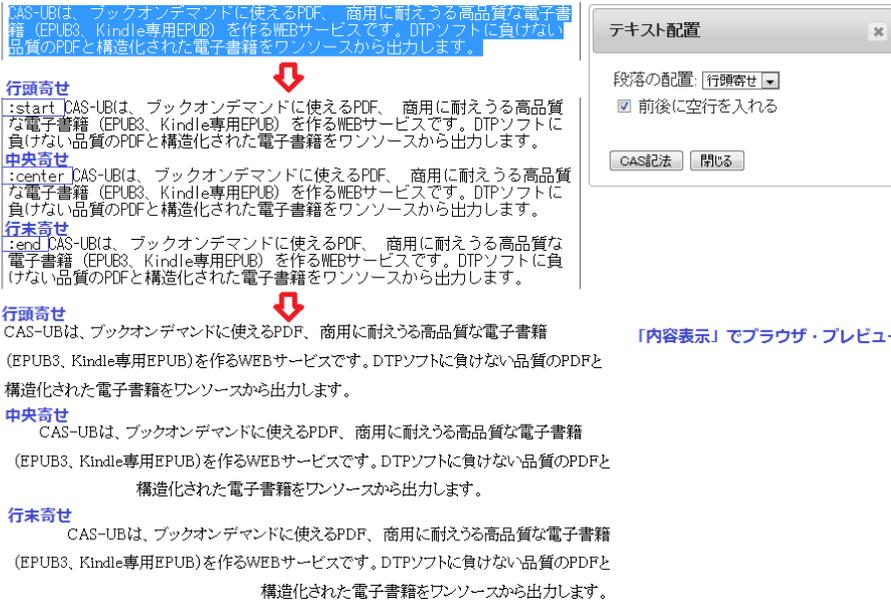


図 12 段落配置の設定例

7.2.6 修飾

(1) 機能

- インラインのテキスト（段落の一部）を対象として強調など文字修飾のマークアップを設定します。
- CAS 記法の強い強調（ボールド）、強調（イタリック）、注意（アンダーライン）の3種類と、圏点（ゴマ点、点、円）、縦中横を設定できます。
- マークアップ支援ボタンでは修飾の組み合わせは設定できません。修飾の組み合わせが必要なときは手作りでマークアップを設定してください。

関連 8.22 強調 (p. 145)、8.23 圏点 (p. 146)、8.25 縦中横 (p. 147)

(2) 操作

①テキスト範囲を選択、②[修飾] ボタンをクリックします。③ダイアログで修飾の種類を選択、④[CAS 記法] をクリックします。

(3) 利用例

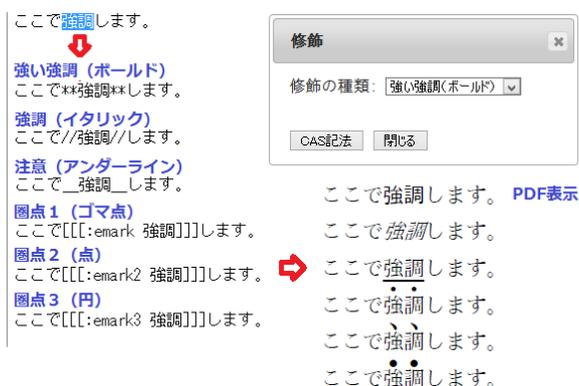


図 13 修飾の適用例

7.2.7 ルビ

(1) 機能

- ルビを設定したいテキストに対してルビのマークアップをつけます。

関連 8.24 ルビ (p. 146)

(2) 操作

①ルビを設定したい文字列を選択します。②「ルビ」ボタンをクリックします。③「振り仮名」にルビを入力して、[CAS 記法] ボタンをクリックします。

(3) 利用例

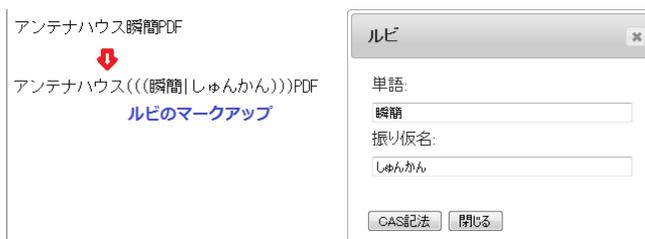


図 14 ルビのマークアップ例

7.2.8 索引

(1) 機能

- 単純な索引のマークアップができます。(入れ子の索引などの複雑な索引はマークアップを手作りしてください)。
- 索引語に拾いたい文字を指定すると、指定した文字を「単語」(索引語)として取り込みます。
- 索引語を、インライン範囲指定、強調、弱い強調のどれで囲むかを設定します。索引語を強調しないときはインライン範囲指定で、索引語を強調するときは強調または弱い強調で囲みます。
- 「索引にのみ表示」をオンにすると、索引語が非表示になります。
- 索引を並べるときの「読み」(ソートキー)を入力します。索引語が数字、アルファベッ

ト、かたかな、かなのときは読みを入力する必要はありません。索引のページでは読みの先頭から数字、アルファベット、かな、カタカナの順で索引語が並びます。

- 入れ子の索引は、CAS 記法を手作りしてマークアップしてください。

関連 8.31 索引の指定 (p. 152)

(2) 操作

①索引に拾いたい文字を選択します。②「索引」ボタンをクリックします。③索引語の範囲指定の種類を選びます。④索引語のよみを入力します。⑤[CAS 記法] をクリックすると索引の設定になります。

(3) 利用例

この文字を **索引語** とします。

ノーマル
この文字を[[[:index:key=さくいんご 索引語]]とします。

ボールド
この文字を**[:index:key=さくいんご 索引語]**とします。

イタリック
この文字を//[:index:key=さくいんご 索引語//とします。

索引にのみ表示にチェック
この文字を[[[:nodisp:index:key=さくいんご 索引語]]とします。

この文字を索引語とします。「内容表示」でブラウザ・プレビュー

この文字を索引語とします。

この文字を索引語とします。

この文字をとします。索引にのみ表示にチェックすると索引語が表示されません。

索引 (dialog box):
種類: ノーマル
単語: 索引語
読み: さくいんご
 索引にのみ表示
CAS記法 閉じる

図 15 索引を指定した例

7.2.9 インクルード

(1) 機能

- インクルードのマークアップを支援します。整形済みオプション、CSV を表にするオプションなどの指定ができます。
- インクルードするファイルは、出版物のインクルード・フォルダからファイルを指定するか、ローカル PC 上で指定してアップロードします。
- 「マークアップテキスト」にチェックするとインクルードするファイルをマークアップしたテキストファイルとして解釈することになります。
- 「整形済み」にチェックすると、インクルードするファイルを整形済みとして扱うオプションを指定します。
- 「CSV ファイルを表にする」(表オプション) にチェックすると、表オプションを出力します。
- 表オプションをオンにしたとき、「表をブロック範囲指定で囲む」設定をオンにすると表を囲むブロック範囲指定に表の属性をつけます。またキャプションを入力できます。
- 表オプションをオンのとき「一行目を見出しセルにする」をオンにすると 1 行目を見出しセルにするオプションを設定します。
- 表オプションをオンのとき「一列目を見出しセルにする」をオンにすると 1 列目を見出し

しセルにするオプションを設定します。

関連 8.19 インクルード (p. 139)、8.12 表 (p. 130)

(2) 操作

- ① インクルードしたい位置にカーソルします。
- ② 「インクルード」ボタンをクリックします。
- ③ ダイアログで諸設定をします。
- ④ インクルードするテキストファイルを指定します。
- ⑤ [CAS 記法] をクリックするとインクルード・マークアップを挿入します。

(3) 使用例

The screenshot shows a document editor with a dialog box titled "インクルード" (Include). The dialog has the following settings:

- インクルードテキスト: インクルードテキストファイルのアップロード
- 参照: to-be-included.txt
- マークアップテキスト (selected): テキストファイルをマークアップしたテキストとしてインクルードします
- 整形済み (pre):
- CSVファイルを表にする:
 - 表をブロック範囲指定で囲む
- キャプション:
- 見出しセルなし (selected)
- 一行目を見出しセルにする
- 一列目を見出しセルにする
- 前後に空行を入れる

Buttons: CAS記法, 閉じる

The document preview shows the following code being inserted:

```
<<include to-be-included.txt>>
```

The preview also shows a table with the following content:

表の見出し1	表の見出し2	表の見出し3
1行1列	1行2列	1行3列
2行1列	2行2列	2行3列

Below the table, the text "=表" and the table's caption are shown. The dialog also shows the raw text content of the file being included, with line numbers 1 through 9.

図 16 マークアップした表のテキストファイルをインクルード

The screenshot shows the same document editor and dialog box, but with the "整形済み (pre)" option selected in the dialog. The document preview shows the code:

```
<<include to-be-included.txt pre>>
```

The preview also shows the table content, but the text "=表" is now rendered as a code element. The dialog settings are:

- インクルードテキスト: インクルードテキストファイルのアップロード
- 参照: to-be-included.txt
- マークアップテキスト
- 整形済み (pre) (selected): 整形済みオプションを選択
- CSVファイルを表にする:
 - 表をブロック範囲指定で囲む
- キャプション:
- 見出しセルなし (selected)
- 一行目を見出しセルにする
- 一列目を見出しセルにする
- 前後に空行を入れる

Buttons: CAS記法, 閉じる

図 17 マークアップした表のテキストファイルを整形済みでインクルード

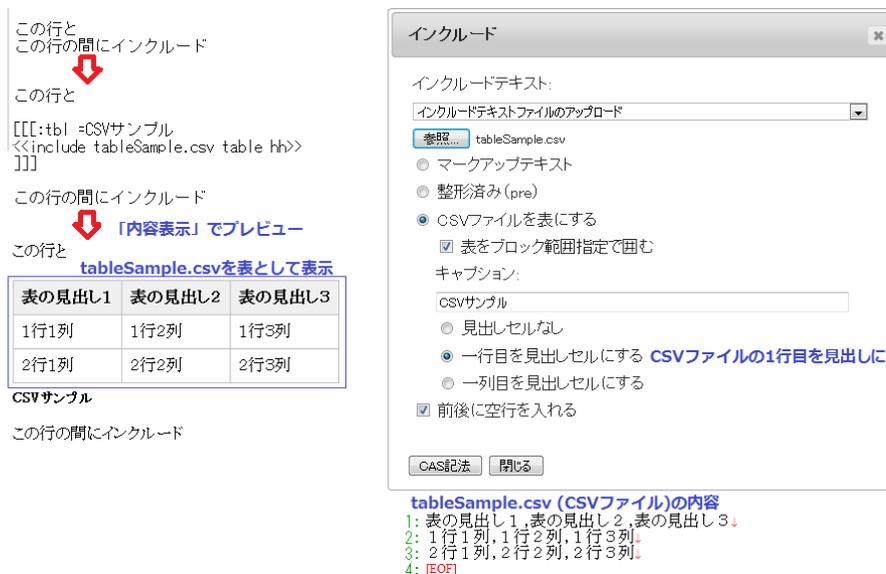


図 18 CSV ファイルを表としてインクルード

7.2.10 リンク

(1) 機能

- 外部の URL へのリンクを設定します。
- URL (http:, https:から開始する文字列) を選択したときは、「URL」のテキストエリアに選択したテキストを入れます。
- それ以外のテキストを選択したときは、「アンカーテキスト」に選択したテキストを入れます。
- なにも選択しないでリンクをクリックしたときは、「URL」と「アンカーテキスト」の両方とも空白とします。
- 「アンカーテキスト」が空白のときは URL がアンカーテキストになります。
- 「PDF にリンクを印刷する」をチェックしたとき、PDF に URL も表示します。
- 「リンクを新しいウィンドウで開く」をチェックしたとき、リンクをクリックすると新しいウィンドウが開くように指定します。

関連 8.33 URL と記事へのリンク (p. 154)

(2) 操作

① URL またはアンカーにするテキスト範囲を選択します。② [リンク] ボタンをクリックします。③ ダイアログで URL またはアンカーテキストに適切なデータを入力します。④ [CAS 記法] をクリックするとリンクのマークアップになります。

(3) 利用例

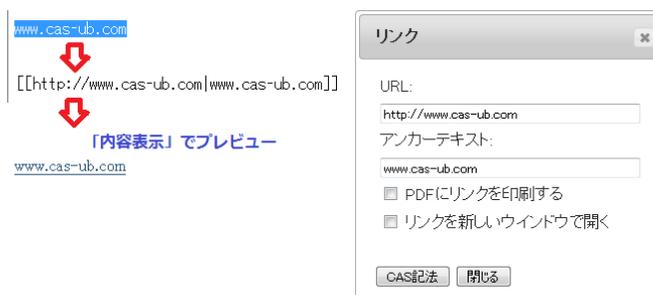


図19 リンクの設定例

7.2.11 コメント

(1) 機能

原稿を編集画面では残しておいて、PDFやEPUBなどの生成物では無視するときに使います。

(2) 操作

①対象とする範囲を選択します。②[コメント]ボタンをクリックします。③[CAS記法]をクリックするとコメントのマークアップになります。

(3) 利用例

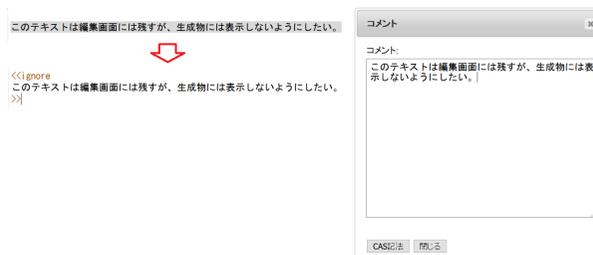


図20 コメントの設定例

7.2.12 ID 参照

(1) 機能

- CAS-UBではIDは、タイトル・見出し・キャプションには、自動的にIDがつきます。一方、数式と任意の位置にユーザーIDをつけられます。
- 「ID参照」には、自動的につけたIDとユーザーIDの一覧を表示します。
- 参照先のIDを選択して「CAS記法」ボタンをクリックします。
- 「アンカーテキスト」を入力しますと、ID参照のアンカーテキストになります。
- 「アンカーテキスト」を入力しないと、参照先のID位置の見出しなどからアンカーテキストを作り出します。

関連 8.35 記事内の特定位置を参照する (ID参照) (p. 158)

(2) 操作

①アンカーテキストを選択 (選択しないときは空白)、②「ID参照」のボタンをクリ

ック、③ダイアログで参照先の ID を選択して、必要ならアンカーテキストを入力します。④ [CAS 記法] をクリックすると ID 参照のマークアップになります。

(3) 利用例

* 「アンカーテキスト」を入力しますと、
* 「アンカーテキスト」を入力しないと、

[[[:ann =関 連#c
:left
]]]

↓

[[[:ann =関 連#c
:left [[#e.Bibliography.参考文献の自動生成|参考文献の自動作成]]
]]]

↓ 「内容表示」でプレビュー

- 「アンカーテキスト」を入力しますと、ID参照の
- 「アンカーテキスト」を入力しないと、参照先の

関連
[参考文献の自動作成](#)

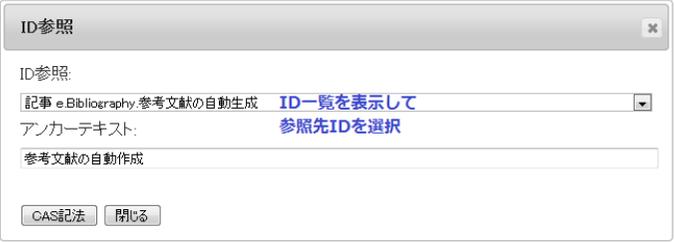


図 21 ID 参照のマークアップ支援

7.2.13 参考文献 ID 参照

(1) 機能

- 参考文献 (bib) ファイルの各文献に自動的に ID がつきます。また、参考文献に手作業で ID をつけることができます。
- 「参考文献 ID 参照」では参考文献の ID 一覧を表示します。
- 参考文献が設定されていないときは、参考文献の ID 一覧は表示しません。
- 参照先の ID を選択して「CAS 記法」ボタンをクリックします。
- 必要に応じて、本文中の参考文献参照用のテキストを「アンカーテキスト」に入力します。

関連 参考文献の自動作成 (p. 219)

(2) 操作

①アンカーテキストを選択 (選択しないときは空白)、②「参考文献 ID 参照」のボタンをクリック、③ダイアログで参照先の ID を選択して、必要ならアンカーテキストを入力します。④[CAS 記法] をクリックすると ID 参照のマークアップになります。

(3) 利用例

参考文献ID参照 ✕

参考文献ID参照:

参考文献 u.references.三木佳光2011管理職基礎講座.r ▼

アンカーテキスト: [参考文献IDを選択](#)

三木(2011) [アンカーテキストを入力](#)

参考文献 0



参考文献 ([[#u.references.三木佳光2011管理職基礎講座.r|三木 (2011)]])



[内容表示でプレビュー](#)

参考文献 ([三木\(2011\)](#))

第8章 CAS 記法のマークアップリファレンス

8.1 編集対象要素の一覧

要素には①ブロック要素と②インライン要素があります。見出し、段落、箇条書きなどはブロック要素です。範囲を指定した強調、リンクなどはインライン要素です。

8.1.1 ブロック要素

CAS 記法で使えるブロック要素は次の通りです。ブロック要素は、原則としてブロック範囲の前後に空行（行頭が改行の行）をおいてマークアップします。

- 段落 (p. 112)
 - セパレータ用段落 (p. 114)
- 見出し (p. 115)
- 記事タイトル (p. 118)
- 箇条書き (p. 121)
 - 番号付き箇条 (p. 122)
 - 番号なし箇条 (p. 122)
 - ラベル無し箇条書き (p. 124)
- 用語定義リスト (定義箇条) (p. 124)
- ブロック範囲指定とブロックの特殊化 (p. 125)
 - キャプション (p. 126)
 - イメージと図版 (画像) (p. 127)
 - 表 (p. 130)
 - コラム (p. 134)
 - 要約 (サマリー) (p. 134)
 - 注記 (ノート) (p. 135)
- ブロック引用 (p. 135)
- 整形済みブロック (p. 136)
- 埋め込みブロック (p. 138)
- インクルード (p. 139)
- ブロック数式 (p. 141)
- 水平線と強制改ページ (p. 143)

8.1.2 インライン要素

CAS 記法で使えるインライン要素は次の通りです。インライン要素はブロック要素の内部で使うのが一般的ですが、インライン要素のなかで組み合わせることもできます（但し組み合わせの制限があります）。

- 強調 (p. 145)
 - 強い強調 (ボールド) (p. 145)
 - 強調 (イタリック) (p. 145)
 - 注意を促す (アンダーライン) (p. 145)
- 圏点 (p. 146)
- ルビ (p. 146)
- 縦中横 (p. 147)
- 上付き・下付き (p. 148)
- 強制改行 (p. 148)
- 注 (p. 149)
- イメージと図版 (インライン) (p. 150)
- 範囲指定 (p. 151)
- 索引の指定 (p. 152)
- タイプライター (p. 153)
- URL と記事へのリンク (p. 154)
- 記事内の特定位置に目印 (ID) を付ける (p. 156)
- 記事内の特定位置を参照する (ID 参照) (p. 158)
- インライン数式 (p. 160)

注 意 CAS 記法のインライン要素のマークアップでは、途中に空行が入るとその直前でインライン要素の終了とみなします。

8.1.3 マークアップのネスト

CAS 記法では、ある要素マークアップの中での他の要素のマークアップ (マークアップのネスト) ができますが、制限があります。

- 見出しテキスト内のマークアップ (p. 117)
- 記事タイトル内のマークアップ (p. 119)
- キャプションのマークアップ (p. 127)
- 表のセル内のマークアップ (p. 131)
- アンカーテキストのマークアップ (p. 159)

8.2 段 落

ひと続きの文字列を段落と言います。段落を指定するための特別なマークアップ記号は使わずに、テキストを次の規則で段落にします。

- 段落と段落の区切りには空行が必要です。
 - 記事の最初の段落以外は、新しい段落を入力するには前に空行を入力しなければなりません。従って、本文中で段落を区切るには改行を 2 回入れる必要があります。
 - 記事の最後の段落以外で段落を終了するには、空行を入力する必要があります。
- 前の行の最後と次の行の先頭の両方が非 ASCII 文字のとき、前の行の最後の改行を削除

してふたつの行をつなげます。どちらかがASCII文字（英文など）のときは改行を削除しません。

- 行の先頭の空白文字は削除します。

8.2.1 改行

改行とはキーボードで [ENTER] キーを押して入力される制御文字であり、通常、画面には見えません。

8.2.2 ASCII文字

以下に列挙する、アルファベットと数字（0～9）、および記号類

```
!"#$%&'()*+,-./:;<=>?@
0123456789
ABCDEFGHIJKLMNPOQRSTUVWXYZ
abcdefghijklmnopqrstuvwxyz
{}~[*]^`_`
```

8.2.3 空白文字

画面上で空白（スペース）を表す文字には、①全角の空白文字¹⁾、②タブ²⁾、③半角空白文字³⁾があります。CAS記法ではタブと半角空白を空白文字として扱います。全角空白文字は空白文字として扱いません。

行頭の空白文字は削除しますが、全角空白文字は行頭にあっても削除しません。

例

(1) CAS 記法

行の先頭の空白は削除する。

行の最後の改行は削除する。

この行は前の行と連結して一つの段落となる。

段落と見出しや箇条書きなどの始まりは空行で区別する必要がある。

* この行は箇条書きにならずに前の行とつながっていると見なす。

段落の終わり

* この行は箇条書きになる。

```
CSS is a abbreviation
of Cascading Style Sheets.
```

(2) 表示例

- 1) かな漢字入力モードで [SPACE] キーを押して入力される文字
- 2) [TAB キー] を押して入力される文字
- 3) 英文字入力モードで [SPACE] キーを押して入力される文字

行の先頭の空白は削除する。

行の最後の改行は削除する。この行は前の行と連結して一つの段落となる。

段落と見出しや箇条書きなどの始まりは空行で区別する必要がある。 * この行は箇条書きにならずに前の行とつながっていると見なす。

段落の終わり

- この行は箇条書きになる。

CSS is a abbreviation of Cascading Style Sheets.

8.2.4 セパレーター用段落

段落間の空きを空けないか空けるかは、EPUB、PDF 生成のテーマ（スタイルシート）で指定します。「段落間により大きな空さを取りたい」時のため、ピリオド一文字だけの行で一定量の空きを作る専用の段落をつくれます。

- ピリオドだけの行は、HTML では<p class="line-gap" /> となります。
- EPUB ではセパレーターの空きは CSS で調整します。EPUB の CSS テーマで 1 行分の空きを設定しています。PDF では 1 行分の空きになります。
- ピリオド（'.'）のみの行、または、複数のピリオド行を連続させて使えます。
- ピリオド（'.'）のみの行は、前後が空行で行頭に':line-gap' 属性を付けた空の行と同じです。

例

(1) CAS 記法

段落 1

.

段落 2

.

.

.

段落 3

これは次と同じです。

段落 1

:line-gap

段落 2

:line-gap

:line-gap

:line-gap

段落 3

(2) 表示例

段落 1

段落 2

段落 3

これは次と同じです。

段落 1

段落 2

段落 3

注 意 ピリオド一文字だけの段落を書きたいときは、チルダエスケープします。

例

・ CAS 記法

```
~.
```

・ 表示例

.

8.3 見 出 し

行頭に '=' がある文章は見出しになります (前に空行が必要)。

- '=' の数で見出しのランクを表します。
- 終了の (右側の) 等号はオプションであり、開始と終了を両方入力する必要はありません。
- 左側の等号の前後に空白を置いても問題ありません。
- 行頭から始まる '=' に続いて '=' 以外の文字がないとエラーになります。 '=' の並びを飾りなど見出し以外の目的に使うときは、先頭の '=' をチルダでエスケープしてください。

例

(1) CAS 記法

```
= ランク 1 (最大)
```

```
== ランク 2
```

```
=== ランク 3
==== ランク 4
===== ランク 5
===== ランク 6
=== これもランク 3 #1 =
=== これもランク 3 #2 ==
=== これもランク 3 #3 ===
```

(2) 表示例

8.3.1 ランク 1 (最大)

ランク 2

ランク 3

ランク 4

ランク 5

ランク 6

これもランク 3

これもランク 3

これもランク 3

上述例の見出しランクは、HTML の h1～h6 タグに相当します。

見出しテキストには、漢字などにルビをつけたり、(縦書時) 縦中横の設定などマークアップができます。マークアップの方法は次の項を参照してください。

関 連 8.4 見出しテキスト内のマークアップ (p. 117)

10.1 記号や空白をそのまま使う (エスケープ) (p. 179)

8.3.1 出版物全体での見出しのレベル

EPUB 生成、PDF 生成の設定メニューには見出しのレベルの指定があります。生成メニューでは出版物全体の見出しレベルで指定します。

記事本文の見出しのランクと出版物の中における見出しのレベルの対応関係は次のようになります。

- 1) 最上位の記事タイトルがレベル 1。最上位の記事の種類は「章」なので「章」のタイトルがレベル 1 となります。
- 2) レベル 1 の記事本文中で '=' から始まる見出し (ランク 1 の見出し) は出版物の中ではレベル 2。章の本文のランク 1 の見出しは、出版物全体ではレベル 2 の見出し (節見出し) となります。
- 3) 記事自体を階層化したとき、たとえば、章の下位に「節」に相当する記事を置いたとき、その記事のタイトルはレベル 2 (節見出し) となります。レベル 2 の記事本文中で '=' から始まるランク 1 の見出しは出版物の中ではレベル 3 (項見出し) として扱います。

8.3.2 見出しへの ID 付与

- 見出しには ID をつけます。ID は見出しのテキストから自動的に作成します。

- 他の記事の中から見出しを参照するには ID 参照を使います。ID 参照の方法については 8.35 記事内の特定位置を参照する (ID 参照) (p. 158) を参照してください。

ID は記事内で重複できません。記事内に同じ見出しがあるときは、見出しの末尾に ' #' + 識別文字' を付けて区別してください。識別文字には半角のアルファベットと数字を使えます。

見出しテキストの中の

見出しテキストの中の '#' は、重複する ID を区別するため特殊な役割があります。 '#' を文字として使うときは '~#' のようにエスケープする必要があります。

但し、見出しの中の '~#' のエスケープが有効にならないことがあります。その場合、見出しの中の # (U+0023) は全角文字の ' #' に置き換えてみてください。

関連 10.1 記号や空白をそのまま使う (エスケープ) (p. 179)

8.4 見出しテキスト内のマークアップ

記事の見出しのテキスト (見出し文字列) 内には、段落内と同様にマークアップできます。但し、有効なマークアップはインライン要素のみです。箇条書きや表などブロック要素のマークアップは無効です。

見出しテキストにマークアップするときは、 '=' の直後に、半角縦棒 ('|') で挟んで ID 用見出し文字列をマークアップなしで記入し、その後マークアップした見出しを記入してください。

例

(1) CAS 記法

見出し文字列にルビのマークアップ

```
=|仙鳳趾は厚岸湾の端に位置する|(((仙鳳趾|せんぼうし)))は(((厚岸湾|あつけしわん)))の端に位置する
```



図1 見出しにルビのマークアップ

(2) 表示 (PDF 生成) 例

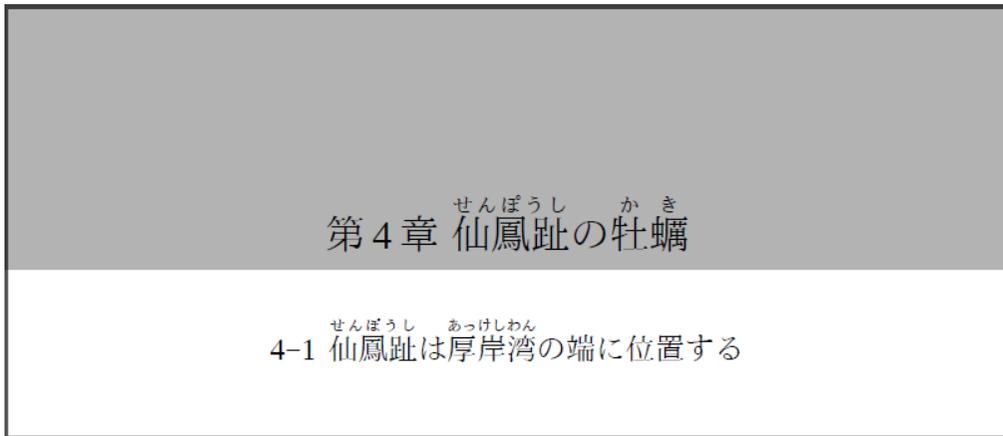


図2 見出しにルビのマークアップをしたときのPDF生成例

このとき、リンク用のIDには、| |内の「仙鳳趾は厚岸湾の端に位置する」が使用されます。

関連 8.6 記事タイトル内のマークアップ (p. 119)

8.10.2 キャプションのマークアップ (p. 127)

8.5 記事タイトル

EPUB、Kindle、Web ページの作成 (EPUB 等) では一つ一つの記事が XHTML ファイルとなります。PDF 生成ではすべての記事を一つに結合します。

このとき記事タイトルは次のように扱います。

- 1) EPUB 等では各記事 (XHTML ファイル) 先頭の見出し (body 直下の h1 要素) の内容として出力します。但し、h1 要素に記述できる内容かどうかはチェックしていません。PDF 生成では本文の見出しと同等の扱いとなります。
- 2) EPUB 等では各記事 (XHTML ファイル) のタイトル (title) の内容にもコピーします。

8.5.1 記事タイトルの用途

記事のタイトルは、次の用途に使用されます。

- ID 参照用の ID 文字列

他の記事で 8.35 記事内の特定位置を参照する (ID 参照) (p. 158) のマークアップをすると、記事タイトル位置へのリンクを設定できます。このとき記事タイトルが ID 文字列として使用されます。記事タイトルを変更したら、ID 参照のマークアップも修正する必要がありますので注意してください。

- 本文中の見出しとして表示

PDF でも EPUB でも、記事タイトルは見出しとして本文中に表示されます。本文に記事タイトルを表示しないときは記事編集画面の下にある「タイトルを本文に出力する」のチェックを外してください。

- 目次に表示

PDF では、目次を生成する見出しレベルを指定できます、PDF 生成設定で指定した見出

しレベルであれば、記事タイトルが目次に表示されます。デフォルト値では章（見出しレベル1）と節（見出しレベル2）の記事タイトルが目次に出力されます。

EPUBやKindleでは、記事タイトルはすべて目次に出力されます。表示させたくないときは、記事編集画面下の「タイトルを目次に出力する」のチェックを外してください。

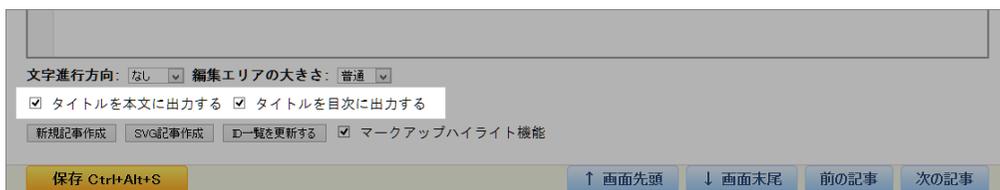


図3 記事タイトルを本文・目次に出すかどうか設定

8.5.2 記事タイトルの中の#

記事タイトルの中では' #'をそのまま使うことができます。

注意 但し、#を使った場合、記事への参照がエラーになります。ID参照を使うときは、#を全角文字に変更してください。

8.6 記事タイトル内のマークアップ

記事タイトルにもマークアップできます。但し、マークアップはインライン要素のみ有効です。箇条書きや表などブロック要素のマークアップはマークアップの内容とともに削除します。

8.6.1 PDF/EPUBの見出し

- 記事タイトルを見出し(h1)にするときは、次表「インラインマークアップの例」の右端の欄のようになります。
- '`'マークアップはチルダを取り去った文字となります。

EPUB等の'title'

- EPUBの生成では、記事タイトルのマークアップを、原則として削除して'title'の内容にコピーします。
- \$\$~\$\$で囲ったインライン数式は、数式がTeXならば、外側の\$を一つ削除し、内側の\$を残して'title'の内容にコピーします。数式がMathMLならば、\$\$~\$\$全体を削除します。

表1 インラインマークアップの例

マークアップ	マークアップ例	titleの内容	<h1>の内容
強調・ボールド	**強調**	強調	強調
強調・イタリック	//ここはemになる//	ここはemになる	ここはemになる

強調・下線	<u>underline</u>	underline	underline
ルビ	((難 むずか)) しい	難(むずか) しい	<ruby>難<rp></rp><rt>むずか</rt><rp></rp></ruby>しい
上付き	^^superscripted^^	superscripted	^{superscripted}
下付き	,,subscripted,,	subscripted	_{subscripted}
強制改行	強制改行¥¥あり	強制改行あり	強制改行 あり
注釈	作成する。((ここは注釈の内容です。))	作成する。ここは注釈の内容です。	EPUBで巻末注釈を生成すると本文は「作成する。^[1]」となり、巻末注釈(xnote.xhtml)に「[1]ここは注釈の内容です。」が記載され、本文と巻末注釈間に相互リンクが付きます。
イメージと図版	画像{{CAS-Mark.jpg CAS-Mark.jpg}}である	画像CAS-Mark.jpgである	画像である
範囲指定	範囲指定で[[[:emark この範囲]]]を囲む	範囲指定でこの範囲を囲む	範囲指定でこの範囲を囲む
タイプライタ	一例:{{** //this// **}}	一例: //this//	一例: //this//
URLと記事へのリンク	[[http://www.cas-ub.com cas-ub]]	cas-ub	cas-ub
ID参照	[[##t.201307071600.IDの種類.1 表1]]	表1	表1
インライン数式	\$\$y=X^2\$\$	\$y=X^2\$	<math><mrow><mi>y</mi></mrow><mo><msup><mi>X</mi><mn>2</mn></msup></math>
チルダ	~#1の売上げ	#1の売上げ	#1の売上げ

例

(1) CAS 記法

記事タイトルにルビのマークアップ



図4 記事タイトルにルビのマークアップ

(2) 表示 (PDF 生成) 例

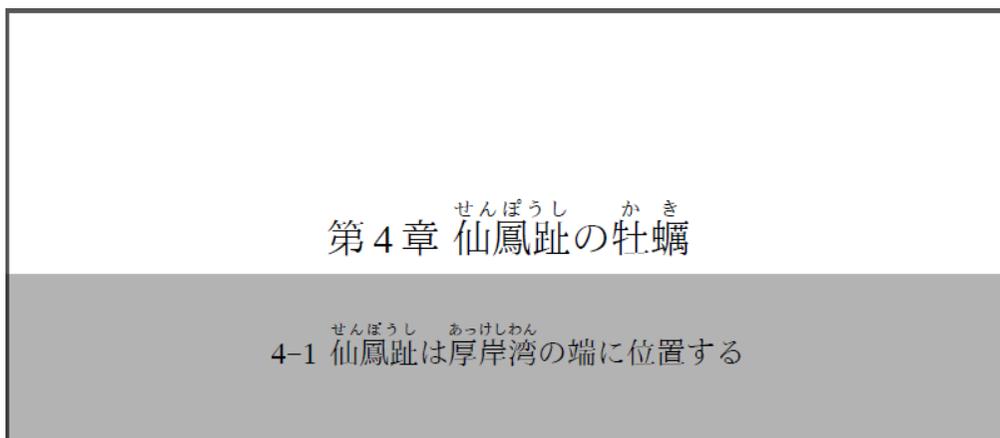


図5 記事タイトルにルビのマークアップをしたときのPDF生成例

このとき、リンク用のIDには、記事タイトルの文字列からマークアップを除いた「仙鳳趾(せんぼうし)の牡蠣(かき)」が使用され、EPUBの論理目次には「仙鳳趾(せんぼうし)の牡蠣(かき)」が使われます。EPUB本文の目次・見出し、PDF本文の目次・見出しには、ルビが付きます。

関 連 8.4 見出しテキスト内のマークアップ (p. 117)

8.10.2 キャプションのマークアップ (p. 127)

8.7 箇条書き

箇条書きのマークアップ規則は次の通りです。

- 箇条書きは全体としてひとつのブロックとなります。
 - 箇条書きブロック全体の前に空行が必要です。(但し、見出しの直後など例外として空行が不要です。)
 - 箇条書きのブロックは、空行で終了します。
- 各項目は行の先頭を '*' または '#' から開始します。行頭の空白文字は無視します。
 - 箇条書きの項目間に空行は不要です。
 - 項目は段落のように複数行に跨ることができます。
 - ひとつの箇条書き項目は、①次の箇条書き項目、②下位の箇条書き項目、③箇条書きブロックの終了、で終了します。
- 箇条書きブロックは、行の先頭 '*' または '#' の数でネストさせられます。但し、ネストはひとつずつ深くする必要があります。

注 意 PDF生成では、番号なし箇条書きのラベル文字や番号付き箇条書きのラベルスタイルを変更できます。この指定の詳細は<http://www.cas-ub.com/howto/support.html>からダウンロードできる「CAS-UBによるPDF生成のためのガイド」の番号なし箇条書きと番号付き箇条書きでご確認ください。

8.7.1 箇条書きの項目内のマークアップ

番号なし箇条書き項目の先頭文字を強調（ボールド）指定するときは、箇条書きのマークアップ’*’と強調のマークアップ’**’の間を空白文字で空けてください。

- 各項目の内部では主なインライン要素のマークアップができますが、それらは複数の項目に跨ることはできません。
- 項目内には空行を置けません。レイアウト上の改行は’¥¥’（強制改行）で指定します。

8.7.2 番号付き箇条書き

行頭が’#’から始まる段落が番号付き箇条となります。

例

(1) CAS 記法

```
# 第一項目
# 第二項目は2行にわたります。¥¥
第二項目の2行目です。
## 第二項目の下にネストした箇条書きの第一項目です。
## 同第二項目です。
# **第三項目は強調しています。**
```

(2) 表示例

- 1) 第一項目
- 2) 第二項目は2行にわたります。
第二項目の2行目です。
 - ① 第二項目の下にネストした箇条書きの第一項目です。
 - ② 同第二項目です。
- 3) 第三項目は強調しています。

8.7.3 番号なし箇条書き

行頭が’*’から始まる段落が、番号なし箇条となります。

番号なし箇条とボールドについて

箇条書きブロック中の先頭行以外で、’**’から開始する行を入力すると、ネストした番号なし箇条として処理します。行の途中にある’**’はボールドテキストの開始として処理しません。

例 2

(1) CAS 記法

```
* 第一項目
* 第二項目は2行にわたります。¥¥
第二項目の2行目です。
```

** 第二項目の下にネストした箇条書きの第一項目です。
 ** 同第二項目です。
 * **第三項目は強調しています。**

(2) 表示例

- 第一項目
- 第二項目は2行にわたります。
 第二項目の2行目です。
 - 第二項目の下にネストした箇条書きの第一項目です。
 - 同第二項目です。
- 第三項目は強調しています。

8.7.4 番号付きと番号なしの混在

番号付き箇条書きと番号無し箇条書きを混在できます。但し、番号付き箇条書きをネストするときは、番号付き箇条書きの中で1階層目からネストしなければなりません。

例3

(1) CAS記法

* 番号なし項目1
 * 番号なし項目2
 # 番号あり項目3-1
 # 番号あり項目3-2
 ** 番号なし項目4-1
 ** 番号なし項目4-2
 # 番号あり項目3-3
 ## 番号あり項目4-1
 ### 番号あり項目5-1
 ## 番号あり項目4-2
 # 番号あり項目3-4
 * 番号なし項目3

(2) 表示例

- 番号なし項目1
- 番号なし項目2
- 1) 番号あり項目3-1
- 2) 番号あり項目3-2
 - 番号なし項目4-1
 - 番号なし項目4-2
- 3) 番号あり項目3-3
 - ① 番号あり項目4-1
 - ① 番号あり項目5-1
 - ② 番号あり項目4-2
- 4) 番号あり項目3-4

- 番号なし項目3

8.7.5 ラベル無し箇条書き

番号無し箇条の'*'に'::nolabel'クラス属性を付けると、箇条書きのラベルが付かなくなります。原稿で番号がついている段落を箇条書きで表すときなどのために使います。

例4

(1) CAS 記法

```
*::nolabel 一、天下の政權を朝廷に奉還せしめ、政令宜しく朝廷より出づべき事。
*一、上下議政局を設け、議員を置きて万機を参贊せしめ、万機宜しく公議に決すべき事。
*一、有材の公卿・諸侯 ((及|および)) 天下の人材を顧問に備へ、官爵を賜ひ、宜しく従来有名無実の官を除くべき事。
```

(2) 表示例

- 一、天下の政權を朝廷に奉還せしめ、政令宜しく朝廷より出づべき事。
- 一、上下議政局を設け、議員を置きて万機を参贊せしめ、万機宜しく公議に決すべき事。
- 一、有材の公卿・諸侯^{および} 天下の人材を顧問に備へ、官爵を賜ひ、宜しく従来有名無実の官を除くべき事。

8.8 用語定義リスト

用語定義リストは、用語とその定義を対で記述する方式の箇条書きです。

- 行頭のアスタリスク '*' の後のハイフンふたつ '--' に挟まれた語句が用語となり、ふたつ目の '--' の後に用語の説明を書きます。
- 用語定義ブロック全体の前後に空行が必要です。
- 用語定義の項目間には空行は不要です。

例

(1) CAS 記法

```
*-- 用語1 --用語1についての説明
*-- 用語2 --用語2についての説明
```

(2) 表示例

用語1

用語1についての説明

用語2

用語2についての説明

8.9 ブロック範囲指定とブロックの特殊化

記事の中で、ある部分を範囲指定したいとき、三つの開き大括弧'[[[' (開始マークアップ) と三つの閉じ大括弧']]]' (終了マークアップ) で囲みます。

範囲指定マークアップは次の規則によってブロック範囲指定 (HTML の div 要素) またはインライン範囲指定 (HTML の span 要素) になります。

8.9.1 ブロック範囲指定

- 1) 開始マークアップの前に空行があること
- 2) 開始マークアップが行頭から始まること。行頭空白文字は削除します。
- 3) 開始マークアップに続き、属性 (':' から始まる文字列) と、キャプション ('=' から始まる文字列) を置くことができます。この後に改行があった場合にはブロック範囲指定の開始と解釈します。
- 4) 終了マークアップは行頭から始まること。行頭空白文字は削除します。
- 5) これ以外はインライン範囲指定となります。

属性はブロック範囲指定の役割・種類やレイアウトを指定するものです。ブロック範囲指定だけでは要素のグループ化の意味しか持たずレイアウト上の処理はありません。

例

(1) CAS 記法

```
[[[
ブロック範囲指定

* 箇条書き
** 箇条書き

この文章には//イタリック//を含んでいます。
http://www.antenna.co.jp/
]]]
```

(2) 表示例

ブロック範囲指定

- 箇条書き
 - 箇条書き

この文章にはイタリックを含んでいます。 <http://www.antenna.co.jp/>

注 意 上の例のようなブロック範囲指定だけでは文脈上の意味もなく表示上の区別もできません。

8.9.2 ブロックの特殊化

CAS 記法では、役割を特化したブロック範囲指定を 5 種類規定しています。これは特殊化

したブロックと呼ぶこともあります。特殊化したブロック毎に適切なレイアウト指定機能をデザインテーマに組み込んでいます。

表2 特殊化したブロック

クラス (種類) 名	意味
fig	図 (figure)
tbl	表 (table)
col	コラム (column)
sum	要約 (summary)
ann	注記 (annotation)

関 連 第9章 CAS 記法の属性マークアップリファレンス (p. 163)

8.10 キャプション

特殊なブロックには必要に応じてキャプションが付けられます。開始マーク'[[['と同じ行内で、'='の後に置いた文字列がキャプションとなります。キャプションはブロックにつけた見出しにあたります。

8.10.1 キャプションのID

特殊なブロックのキャプションにはIDを自動的に付与します。IDは記事内で重複はできませんので、記事内に同じキャプションがあるときは、キャプションの末端に '#' + 識別文字' を付けて区別してください。識別文字には半角のアルファベットと数字が使えます。

例

(1) CAS 記法

```
[[[:sum
属性名は sum であり、キャプションがない。
]]]

[[[:col = これはキャプション
属性名は col であり、キャプション付きとなる。
]]]
```

(2) 表示例

属性名は sum であり、キャプションがない。

これはキャプション

属性名は col であり、キャプション付きとなる。

8.10.2 キャプションのマークアップ

キャプションには、通常の段落内と同様にマークアップできます。

但し、有効なマークアップはインライン要素のみです。箇条書きや表などブロック要素のマークアップは無効です。

キャプションにマークアップするときは、'=' の直後に半角縦棒（'|'）2本に挟んで、ID用文字列をマークアップなしで記入し、その後にマークアップした見出しを記入してください。マークアップされたキャプションを終了するには空行を置きます。

例2

(1) CAS記法

```
[[[:tbl |=特殊化したブロック属性の種類|//(((特殊化|とくしゆか)))したブロック属性の種類//

|=クラス名|=意味|
|fig|図 (figure) |
|tbl|表 (table) |
|col|囲み記事 (column) |
|sum|要約 (summary) |
|ann|注記 (annotation) |
]]]
```

(2) 表示例

表3 ^{とくしゆか}特殊化したブロック属性の種類

クラス名	意味
fig	図 (figure)
tbl	表 (table)
col	囲み記事 (column)
sum	要約 (summary)
ann	注記 (annotation)

上の例ではキャプション全体を斜体にし、「特殊化」にルビをつけています。

注 意 キャプションにマークアップするとき、キャプションが複数行に渡ることができません。このため表の開始を識別するためにキャプションと表の開始の間にキャプションの終了を示す空行が必要です。

関 連 8.4 見出しテキスト内のマークアップ (p. 117)

8.6 記事タイトル内のマークアップ (p. 119)

8.11 イメージと図版 (画像)

写真のようなイメージ (ラスター) 画像、SVGのような線画 (ベクトル画像) を一括して

画像と言います。

画像を記事の中に表示するには、'`{画像ファイル名|代替テキスト}`'として記述します。

8.11.1 ブロック画像

画像を文章の行中に置くとインライン配置です。次のようにブロック範囲指定に'`:fig`'クラス属性を付加して特殊化したブロックで囲むとブロック画像になります。

```
[[[:fig
{{画像ファイル名|代替テキスト}}
]]]
```

注意 大きな画像は、PDFではブロック画像は版面に合わせて縮小されます。EPUBではリーダーに依存しますが、多くの場合画面幅に縮小されます。

例

(1) CAS 記法

このようにマークアップしたイメージは `{{CAS-Mark.jpg|CAS サービスマーク}}` インラインとして扱います。

イメージをブロックとして扱いたいときは、イメージを特殊化ブロックにします。

```
[[[:fig
{{CAS-Mark.jpg |CAS サービスマーク }}
]]]
```

上のイメージはブロック（独立の段落）として扱います。

(2) 表示例



このようにマークアップしたイメージは `{{CAS-Mark.jpg|CAS サービスマーク}}` インラインとして扱います。

イメージをブロックとして扱いたいときは、イメージを特殊化ブロックにします。



上のイメージはブロック（独立の段落）として扱います。

8.11.2 画像のキャプション

ブロック画像にはキャプションを付けられます。そしてキャプションにはIDが付与されます。

キャプションは、'`[[[:fig`'の後に半角空白と '=' を置き、その後に付けてください。

関連 8.10 キャプション (p. 126)

8.9 ブロック範囲指定とブロックの特殊化 (p. 125)

8.35 記事内の特定位置を参照する (ID参照) (p. 158)

V3.0から、PDFでは縦組のときに限り、画像のキャプションが長い時に図の幅で折り返します。(横組のときは、図の幅に合わせて折り返しません)。

例2

(1) CAS記法

```
[[[:fig =キャプション
{{CAS-Mark.jpg |CASサービスマーク }}
]]]
```

(2) 表示例



図6 キャプション

注意 キャプションはEPUBでは画像の下に出力されます。PDFではレイアウト詳細設定で上・下どちらに出すかを指定できます。

8.11.3 画像のサイズ指定

画像には属性でサイズを指定できます。幅の属性名は 'width'、高さは 'height' です。'{' の直後に ':属性名=値' の形式で指定してください。属性値は数値に単位を付けて指定します。属性値と画像のファイル名の間には半角空白が必要です。

関連 9.3 組み込み属性と属性値 (p. 169)

10.5 単位 (p. 181)

注意 画像のサイズ指定はPDF生成でのみ有効です。EPUBはサイズ指定をCSSのスタイルに変換できます (EPUBの生成設定 (p. 60) を参照)。但し、サイズ指定が正しく適用されるかどうかはリーダー依存です。

例3

(1) CAS記法

```
[[[:fig =width=30%を指定：版面の30%幅になります
{{:width=30% CAS-Mark.jpg | CAS-Mark.jpg}}
]]]
```

(2) 表示例

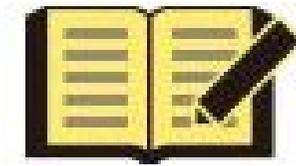


図7 width=30%を指定：版面の30%幅になります

注 意 上の表示例はPDFが対象です。EPUBでは生成設定とリーダー依存です。

8.11.4 画像の説明文

特殊化した画像には説明文を付けられます。

画像のキャプションと説明文の位置

特殊化した画像に、画像の説明文を付けたとき、それをPDFに出力できるようにしました。(V2.3までは画像の説明文を記述する機能はありません。)

```
[[[:fig =キャプション ←特殊化した図のマークアップとキャプション
  {画像ファイルを指定} ←画像ファイル名

一行空けて図の説明文を記述する ←図の説明文
]]]
```

キャプションの位置に関わらず、特殊化した画像の説明文は画像の下に配置します。画像のキャプションの位置は、生成⇒PDFレイアウト設定⇒レイアウト詳細設定の【図キャプションの場所】で指定します。

- 1) キャプションが画像の下ときは、キャプションの下に説明文を出します。
- 2) キャプションが画像の上ときは、画像の下に説明文を出します。

注 意 EPUBでは、画像のキャプションは常に画像の下に出ますが、説明文はキャプションの上に出てしまいます。

また、説明文は本文と区別ができないので、何らかのレイアウト調整をする場合は、適当な属性値を指定する必要があります。

画像の説明文のレイアウト

- 1) テキストインデントはなし。
- 2) 図の開始端に揃えます。
- 3) 長い時は、図の幅で折り返します。
- 4) フォントサイズはキャプションと同じです。
- 5) フォントファミリーは serif 体。

8.12 表

行と列から構成する簡単な表をマークアップできます。

注 意 セルを結合したり、斜線をいれたりした複雑な表は、①図版として別途作成して埋め込むか、②XHTMLの表として作成した上で埋め込みブロック機能(8.18 埋め込みブロック (p. 138))をつかって埋め込むことができます。

8.12.1 表のマークアップ

- 表ブロック全体の前に空行が必要です。
- 行頭の縦棒 ('|' (U+007C)) が表の行と最初のセルの始まりになります。
- 行内のセルの区切りは縦棒で分離します。
- 改行があると表の最後のセルと行の終了となります。
- 縦棒に続く等号 ('=') があるとき見出しのセルを示します。(ない時はデータセル)。

表ヘッダ行

ヘッダ行にしたい行の行頭に '|=:ah_head' を指定します。

- EPUB ではヘッダ行のレイアウトはテーマに依存します。
- PDF 生成では、表の途中で改頁するとヘッダ行を繰り返し挿入します。見出しのセルがあってもヘッダ行の指定がないと繰り返しません。

表の列幅指定

PDF 生成では、'|' に続いて (他の属性が指定されているときは前の属性に続けて) '|:width=<幅>' と指定することにより列幅を指定できます。<幅>は、数値に単位を付けて指定してください。

関 連 10.5 単位 (p. 181)

注 意 表の列幅は最初の行で指定してください。その指定は列全体に適用されます。

8.12.2 表のセル内のマークアップ

- セルの内部には、インライン要素のマークアップが使えます。但し、ルビのマークアップは使えません。インラインの数式 (MathML 等) を使うときは、数式が長くなっても途中で改行しないでください (セル内では改行できません)。
- セル内では、空行で段落を分けることができません。
- レイアウト上の改行は '¥¥' (強制改行) で指定します。

8.12.3 表の特殊化

表は、ブロック範囲指定に表属性 ('tbl' 属性) をつけていないときと、表属性 ('tbl' 属性) をつけて特殊化したときとでレイアウト上の扱いが異なります。

関 連 8.9 ブロック範囲指定とブロックの特殊化 (p. 125)

8.12.4 特殊化していない表

特殊化していない表は、次の特徴があります。

- キャプションがつかず、IDは付与されないので図表一覧に載りません。
- 本文内のマークアップした位置に成り行きで配置されます。
- 表の前後に空行はできません。
- 横組では左寄せ、縦組では上寄せに配置されます。
- 罫線が表示されません。

例

(1) CAS 記法

```
|=::ah_head 先頭行見出し 1-a |= 先頭行見出し 2-a |= 先頭行見出し 3-a |
|= 先頭列見出し 1-b |セル 2-b |セル 3-b |
|= 先頭列見出し 1-c |セル 2-c |セル 3-c |
```

(2) 表示例

```
先頭行見出し 1-a 先頭行見出し 2-a 先頭行見出し 3-a
先頭列見出し 1-b セル 2-b          セル 3-b
先頭列見出し 1-c セル 2-c          セル 3-c
```

8.12.5 特殊化した表

特殊化した表は、次の特徴を持ちます。

- 特殊なブロックにはキャプションを付けられます。キャプションを付けると、IDが付与され、ID参照が可能になります。
- 表の前後（横書では上下、縦書では左右）に空行が入ります。
- 表に罫線が表示されます。

関 連 8.9 ブロック範囲指定とブロックの特殊化 (p. 125)

8.35 記事内の特定位置を参照する (ID参照) (p. 158)

PDF生成における表のレイアウト

(1) 表の組方向

特殊なブロックの表には次のように組み方向を指定できます。

表4 PDF生成における表のレイアウト指定

マークアップ	組み方向指定	説明
[[[:tbl 表]]]	属性なし	ブロックの進行方向に表の行が進む表。表の途中で改ページが起きる。表ヘッダ行の指定があるとき表の途中で改ページが起きたらヘッダ行を繰り返す。
[[[:tbl:lrtb 表]]]	lrtb	横組のときは、属性なしと同じ。縦組のときは、表を横組の表とする。表の行が、上から下に進む。表が頁に収まらないときは途中で改ページが起きる。表ヘッダ行の指定があるとき、表の途中で改ページが起きたらヘッダ行を繰り返す。
[[[:tbl:as-fig 表]]]	as-fig	本文の組方向如何に関わらず、表は横組とし、図の設定を適用し

表]]]	て図と同じようにフロートさせる。表の途中では改ページしない。
----------	--------------------------------

(2) 表の配置

PDF レイアウトのデフォルト値では、特殊化された表は、①横組の表では左右の中央に、②縦組の表では上下の中央に配置します。次の指定により横組の表では左右に、縦組の表では上下に配置ができます。

表5 PDF生成における表の配置

マークアップ	説明
:tbl:start (または left)	横組では表全体を左寄せにします。縦組では表全体を上寄せにします。
:tbl:center	表全体の中央寄せにします。
:tbl:end (または right)	横組では表全体を右寄せにします。縦組では表全体を下寄せにします。

8.12.6 CSV形式の表の取り込み

インクルード機能を使うと、EXCELなどで作成したCSVファイルを表として取り込めます。

- CSVファイルをCAS-UBのインクルード・フォルダーにアップロードします。
- インクルード (マークアップ) でそのCSVファイルを指定します。

関 連 8.19 インクルード (p. 139)

8.12.7 インクルードのオプション

CSVファイルを表として取り込むときは、'table' オプションの指定が必須です。

CSVファイルの1行目または1列目を見出しのセルにするために次のオプションが使えます。

- hh -- 1行目を見出しとして扱う (|= とマークアップされる)
- vh -- 1列目を見出しとして扱う (|= とマークアップされる)
- hh vh -- 1列目1列目を見出しとして扱う。鍵形の見出し

オプションの指定方法

```
<<include foo.csv table>> -- すべてデータ欄 (td) として扱う。
<<include foo.csv table hh>> -- 1行目を見出し (th) として扱う。hh = horizontal headers
<<include foo.csv table vh>> -- 1列目を見出しとして扱う。vh = vertical headers
<<include foo.csv table hh vh>> -- 1行目1列目を見出しとして扱う。鍵形の見出し
```

CSVファイル形式

CSVファイルの拡張子は小文字で csv とし、テキストファイルの符号化はUTF-8としてください。また、'.csv' 以外にピリオドがあるとエラーになります。

例 2

(1) CAS 記法

```
<<include foo.csv table>>

[[[:tbl =CSV インクルード
<<include foo.csv table hh vh>>
]]]
```

foo.csv の内容

```
先頭行 1-a, 先頭行 2-a, 先頭行 3-a
先頭列 1-b, セル 2-b, セル 3-b
先頭列 1-c, セル 2-c, セル 3-c
```

(2) 表示例

```
先頭行 1-a 先頭行 2-a 先頭行 3-a
先頭列 1-b セル 2-b セル 3-b
先頭列 1-c セル 2-c セル 3-c
```

表 6 CSV インクルード

先頭行 1-a	先頭行 2-a	先頭行 3-a
先頭列 1-b	セル 2-b	セル 3-b
先頭列 1-c	セル 2-c	セル 3-c

8.13 コ ラ ム

特殊化したブロックでコラムを表現できます。

8.13.1 例

(1) CAS 記法

```
[[[:col =コラム
この文章はコラムの内部です。
]]]
```

(2) 表示例

```
コラム
この文章はコラムの内部です。
```

関 連 8.9 ブロック範囲指定とブロックの特殊化 (p. 125)

8.14 要約 (サマリー)

特殊化したブロックで要約のブロックを表現できます。

8.14.1 例

(1) CAS 記法

```
[[[:sum =要約
この文章は要約ブロックの内部です。
]]]
```

(2) 表示例

要約

この文章は要約ブロックの内部です。

8.15 注記（ノート）

特殊化したブロックで注記を表現できます。

8.15.1 例

(1) CAS 記法

```
[[[:ann =注記
この文章は注記の内部です。
]]]
```

(2) 表示例

注記 この文章は注記の内部です。

8.16 ブロック引用

段落単位の引用をブロック引用と言います。ブロック引用のマークアップは次の通りです。

- 行の先頭の'|>>'マークで開始し（前に空行が必要）、行の先頭の'|<<'で終了します。
- ブロック引用をネストできます。
- ブロック引用の中で各種のマークアップを使えます。

注 意 ブロック引用の中で他のブロック要素のマークアップをするとき、次のマークアップの前には空行を置いてください。

- 箇条書き
- 用語定義リスト
- 表
- 整形済みブロック
- 埋め込みブロック
- インクルード

・ 水平線

例

(1) CAS 記法

```
|>>
段落単位の引用（ブロック引用を開始します）。
|>>
この部分はブロック引用をネストしています。
* 箇条書き
** 箇条書き 2
* 箇条書き
//イタリック//
|<<
ブロック引用の続きです。
|<<
```

(2) 表示例

段落単位の引用（ブロック引用を開始します）。
この部分はブロック引用をネストしています。

- 箇条書き
 - 箇条書き 2
- 箇条書き

イタリック

ブロック引用の続きです。

8.17 整形済みブロック

整形済みブロックではブロック範囲内のマークアップを解釈しないでテキストをそのまま表示します。整形済みブロックでは他の箇所ではエスケープ文字として使われるチルダについても解釈しません。但し、V4.0 から 8.17.1 整形済みブロックでマークアップを有効にする (p. 137) 機能を追加しました。

- 行頭の三つの開き波括弧記号'{{{ 'だけの行がブロック開始マークアップです(前に空行が必要)。
- 行頭の三つの閉じ波括弧記号('}}}')だけの行が終了マークアップとなります。
- 開始から終了までの範囲が整形済みブロックとなります。
- 整形済みブロックの中に整形済みブロックを含める(ネストさせる)ことはできません。

例

(1) CAS 記法

```
{{{
この部分は整形済みブロックなので//イタリックにならず
//**ボールドにもならない。**
```

```
}}}
```

この部分は整形済みブロックの外なので//イタリックになり

```
//**ボールドにもなる。**
```

(2) 表示例

```
この部分は整形済みブロックなので//イタリックにならず
//**ボールドにもならない。**
```

この部分は整形済みブロックの外なのでイタリックになり ボールドにもなる。

8.17.1 整形済みブロックでマークアップを有効にする

整形済みブロック内でマークアップを使いたいときは、整形済みブロックの開始マークアップに `:markup` 属性を付けます。

整形済みブロック内で使用できるマークアップは、インライン要素のみです。

例

(1) CAS 記法

```
{{:markup
—   **入力 XML 文書 ( Hello.xml ) **   —
<?xml version="1.0" encoding="UTF-8" ?>
<doc>
<head>
<title>//サンプル//</title>
</head>
<body>
<p>//Hello World!//</p>
<p>>//はじめての//<b>//SimpleDoc//</b>//です。//</p>
</body>
</doc>
}}}
```

(2) 表示例

```
入力 XML 文書 ( Hello.xml )
<?xml version="1.0" encoding="UTF-8" ?>
<doc>
<head>
<title>サンプル</title>
</head>
<body>
<p>Hello World!</p>
<p>はじめての<b>SimpleDoc</b>です。</p>
</body>
</doc>
```

この例では、1行目で、下線と強い強調のマークアップを指定し、以降で、xml タグ以外にイタリックのマークアップを指定しています。

注意 整形済みブロックは、EPUB リーダーによっては行途中で折り返しされないものがありますので、長い文字列には適当な改行を入れておかないと、全体を判読できなかったり、リーダーによっては表示が崩れることがあります。

8.18 埋め込みブロック

CAS 記法で表現できない複雑な表を XHTML で作成して記事中に直接埋め込むことができます。

- 行頭の`<<embed` が埋め込みブロックの開始（前に空行が必要）。
- 次の行から埋め込みブロックです。埋め込みブロックの内容は XHTML の表のみ許可します。
- 行頭の`>>` が埋め込みブロックの終了。

注意 埋め込んだ内容は、そのまま PDF 生成・EPUB 生成に使われます。EPUB で利用が許されていないタグ付テキストを埋め込むと、EPUB チェックでエラーになりますので注意してください。

例

(1) CAS 記法

```
:center **XHTML で作成した表の埋め込み**

<<embed
<table border="1">
<tr><th colspan="2">ふたつのセルが結合されている</th></tr>
<tr><td>ああ</td><td>aaaa</td></tr>
<tr><td>いい</td><td>bbbb</td></tr>
<tr><td>うう</td><td>cccc</td></tr>
<tr><td>ええ</td><td>dddd</td></tr>
</table>
>>
```

(2) 表示例

XHTML で作成した表の埋め込み

ふたつのセルが結合されている	
ああ	aaaa
いい	bbbb
うう	cccc
ええ	dddd

(3) XHTML

```

<div class="__embeddedsection__">
<table border="1">
<tr><td colspan="2">ふたつのセルが結合されている</td></tr>
<tr><td>ああ</td><td>aaaa</td></tr>
<tr><td>いはい</td><td>bbbb</td></tr>
<tr><td>ううう</td><td>cccc</td></tr>
<tr><td>えええ</td><td>dddd</td></tr>
</table>
</div>

```

埋め込みブロックには'__embeddedsection__'という属性が付くので、CSSで埋め込みブロック内の表をカスタマイズしたいときは、'__embeddedsection__'を使ってCSSプロパティを指定してください。

注 意 '<<embed' . . . '>>' 中に埋め込める表はひとつだけです。複数の表を埋め込みたいときは、別の埋め込みブロックに分けてください。

関 連 12.3 レイアウトのカスタマイズ（ユーザー・スタイルシート）（p. 191）

8.19 インクルード

インクルードは外部のテキストファイルを取り込む機能です。たとえば、プログラムのソースファイルなどをそのまま出版物の中に取り込むときに利用すると便利です。

- インクルードはブロック要素なので、マークアップの前後に空行が必要です。
- インクルードテキスト内のマークアップも評価されます。
- インクルードにはオプションをつけてインクルードしたファイルの解釈を変更できます。
 - 'pre' オプションを指定すると、インクルードテキスト内容は「8.17 整形済みブロック（p. 136）」として扱われ、CAS記法の評価はされません。
 - インクルード機能を利用してCSV（カンマ区切り）形式の表を取り込むことができます。表として取り込む場合は 'table' オプションが必要です。詳細は次の項目を参照してください。

関 連 8.12.6 CSV形式の表の取り込み（p. 133）（表）

8.19.1 インクルード対象ファイルの形式

インクルードする対象ファイルの形式は次のようになります。

- ファイル形式はテキストファイルのみです。
- 符号化方式はUTF-8のみを扱うことができます。

8.19.2 インクルード対象ファイルの管理

- インクルード対象ファイルは、出版物毎にインクルード画面でアップロードします。

- アップロードしたファイルはCAS-UBのインクルード・フォルダーに保存されます。
- インクルード対画面で、インクルードテキストの削除、内容の確認などもできます。
- 記事の入力中にもアップロードできます。



例

(1) CAS 記法

include-test.txt の内容

本文の中に取り込まれるためのテキストです。

* インクルード対象ファイル形式は**テキストファイル**のみです。

pre オプションのないインクルード

```
<<include include-test.txt >>
```

pre オプションのあるインクルード

```
<<include include-test.txt pre>>
```

include-test.txt の内容

---ここから>

本文の中に取り込まれるためのテキストです。

* インクルード対象ファイル形式は**テキストファイル**のみです。

<ここまで----

(2) 表示例

pre オプションのないインクルード

本文の中に取り込まれるためのテキストです。

- インクルード対象ファイル形式はテキストファイルのみです。

pre オプションのあるインクルード

本文の中に取り込まれるためのテキストです。

* インクルード対象ファイル形式は**テキストファイル**のみです。

関 連 8.17 整形済みブロック (p. 136)、記事入力中のインクルードファイルのアップロード (p. 104)

8.20 ブロック数式

ブロック数式は、行頭からはじまる '\$\$' だけの行で前後を囲んで表します（ブロックの前に空行が必要）。

- 数式の表現には、MathML、AMSLaTeX を使えます。
- 数式に ID をつけるには、開始の '\$\$' の直後に ':#id@m' のようにします。'id' は ID 識別用の固有文字列です。
- ブロック数式に ID をつけた場合、数式番号を自動付加できます。付加するかどうかは、EPUB・PDF などの生成設定で指定します。

数式表現の詳細仕様は 14.8 数式の記述 (p. 220) を参照してください。

注 意 数式種別をもつ ID はブロック範囲指定にも付与できます。するとそのブロックに数式番号をつけることができます。

例

(1) CAS 記法

```

$$
<math xmlns="http://www.w3.org/1998/Math/MathML" display="block">
<mstyle scriptminsize="0">
  <mrow>
    <munder>
      <mo>&Product;</mo>
      <mrow><mi>i</mi><mo>&#x2208;</mo><mi>n</mi></mrow>
    </munder>
  <mspace width="-0.3em"/>
  <mrow>
    <mfenced open="(" close=")"><mrow>
      <munder>
        <mo>Σ</mo>
        <mrow><mi>j</mi><mo>&#x2208;</mo><mi>n</mi></mrow>
      </munder>
    </mrow>
  <mspace width="-0.3em"/>
  <mrow>
    <msub><mi>b</mi><mrow><mi>i</mi><mi>j</mi></mrow></msub>
    <msub><mover accent="true"><mi>x</mi></mover><mi>i</mi></msub>
  </mrow>
</mrow></mfenced>
</mrow>
<mo>=</mo>
<mrow>
  <mfenced open="(" close=")"><mrow>
    <munder>
      <mo>&prod;</mo>
      <mrow><mi>i</mi><mo>&#x2208;</mo><mi>n</mi></mrow>
    </munder>
  </mrow>
</mfenced>

```

```

    </munder>
<mspace width="-0.3em"/>
    <mrow>
      <msub><mover accent="true"><mi>x</mi><mo></mo></mover><mi>i</mi></msub>
    </mrow>
  </mrow></mfenced>
</mrow>
<mspace width="0.15em"/>
<mtext>per</mtext>
<mspace width="0.25em"/>
<mi>B</mi>
</mrow>
</mstyle></math>
$$

```

(2) 表示例

$$\prod_{i \in n} \left(\sum_{j \in n} b_{ij} x_j \right) = \left(\prod_{i \in n} x_i \right) \text{per } B$$

例 2

(1) CAS 記法 (TeX)

```

$$
\%prod_{i \in \mathbf{n}}
\%biggl(\%sum_{j \in \mathbf{n}} b_{ij} \hat{y}_j\biggr)
=\%biggl(\%prod_{i \in \mathbf{n}} \hat{y}_i\biggr) \det \mathbf{B}.
$$

```

(2) 表示例 (TeX)

$$\prod_{i \in \mathbf{n}} \left(\sum_{j \in \mathbf{n}} b_{ij} \hat{y}_j \right) = \left(\prod_{i \in \mathbf{n}} \hat{y}_i \right) \det \mathbf{B}.$$

例 3

ブロック数式への番号付け

ブロック数式には番号をつけることができます。番号は開始の\$\$の直後に':#id@m'の形式でつけます。#はID、@mはIDの種類が数式であることを意味します。

(1) CAS 記法

```

$$:#m6@m
<math xmlns="http://www.w3.org/1998/Math/MathML" display="block">
<mstyle scriptminsize="0">
  <mrow>
    <munder>
      <mo>&Product;</mo>
      <mrow><mi>i</mi><mo>&x2208;</mo><mi>n</mi></mrow>
    </munder>
  </mrow>
<mspace width="-0.3em"/>

```

```

<mrow>
  <mfenced open="(" close=")"><mrow>
    <munder>
      <mo>Σ</mo>
      <mrow><mi>j</mi><mo>&#x2208;</mo><mi>n</mi></mrow>
    </munder>
  </mfenced>
<mspace width="-0.3em"/>
  <mrow>
    <msub><mi>b</mi><mrow><mi>i</mi><mi>j</mi></mrow></msub>
    <msub><mover accent="true"><mi>x</mi><mo></mo></mover><mi>i</mi></msub>
  </mrow>
</mrow></mfenced>
</mrow>
<mo>=</mo>
<mrow>
  <mfenced open="(" close=")"><mrow>
    <munder>
      <mo>&prod;</mo>
      <mrow><mi>i</mi><mo>&#x2208;</mo><mi>n</mi></mrow>
    </munder>
  </mfenced>
</mrow>
<mspace width="-0.3em"/>
  <mrow>
    <msub><mover accent="true"><mi>x</mi><mo></mo></mover><mi>i</mi></msub>
  </mrow>
</mrow></mfenced>
</mrow>
<mspace width="0.15em"/>
<mtext>per</mtext>
<mspace width="0.25em"/>
<mi>B</mi>
</mrow>
</mstyle></math>
$$

```

(2) 表示例

$$\prod_{i \in n} \left(\sum_{j \in n} b_{ij} x_i \right) = \left(\prod_{i \in n} x_i \right) \text{per } B \quad (1)$$

上の数式番号を参照するときは数式 [[#u.201306301039.m6.m|(1)]] 参照のようにマークアップします。

8.21 水平線と強制改ページ

区切りのための水平線と強制改ページを入力できます。

8.21.1 水平線

- 行頭から連続4つのハイフン（'-'）記号を水平線とします（前に空行が必要）。
- ハイフンの前後には空白を置くことができますが、空白以外の文字があってははいけません。

ん。

- 二つの水平線を続けて引くには、間に空行が必要です。

例

(1) CAS 記法

```
----  
  
----
```

(2) 表示例

8.21.2 強制改ページ

連続4つの'+'記号で強制改ページとなります。

- 強制改ページのマークアップには、前後に空行が必要です。
- 強制改ページは、プレビューでは改ページされません。
- 強制改ページは、EPUBの場合、改ページするかどうかはリーダーに依存します。

注 意 たとえば、記事の末尾に強制改ページを入力した mobi 形式のファイル（パーソナルドキュメント）を Kindle Paperwhite で開くと、強制改ページのある先へ進むことができずリセットされます（Kindle 5.3.6 で確認）。Radium では強制改ページを指定しても改ページされません（Windows 版 0.9.1 で確認）。

例 2

(1) CAS 記法

```
++++
```

(2) 表示例

8.22 強調

段落中のひと続きの文字を強調する機能には、①強い強調（ボールド）、②強調（イタリック）、③注意を促す（アンダーライン）の三つあります。複数の行に渡る文字列を強調できません。

8.22.1 強い強調（ボールド）

強調したい文字列の前後を、アスタリスクふたつ '**' で挟むとボールドになります。

例

(1) CAS 記法

```
**ボールド**
```

(2) 表示例

ボールド

8.22.2 強調（イタリック）

強調（イタリック）は、必ずイタリックになるわけではなく、ビューアにより表示結果が異なることがあります。

例 2

(1) CAS 記法

```
//イタリック//
```

(2) 表示例

イタリック

イタリックとボールドを両方指定したいときは、イタリックを先に指定してください。ボールドを先に指定するとイタリックが無視され//がそのまま出力されます。

例 3

(1) CAS 記法

```
//**イタリックと強調**//
```

(2) 表示例

イタリックと強調

8.22.3 注意を促す（アンダーライン）

注意を促す（アンダーライン）は、必ずアンダーラインになるわけではなく、ビューアにより表示結果が異なることがあります。

例 4

(1) CAS 記法

文章の一部にアンダーラインをつけることができます。

(2) 表示例

文章の一部にアンダーラインをつけることができます。

8.23 圏 点

圏点は、強調 (p. 145) または 8.30 範囲指定 (p. 151) のクラス属性としてマークアップします。

圏点のクラス属性値は、emark、emark2、emark3 の 3 種類を使えます。PDF では「レイアウト詳細設定」の「圏点」で、emark、emark2、emark3 に、点、円、二重円、三角形、ゴマ点から割り当てできます。

注 意 ・ EPUB3 では、圏点の表示はリーダーに依存します。

・ 圏点を強調 (p. 145) でマークアップしても通常の EPUB3 リーダーでは強調になりません。

圏点がサポートされていない EPUB リーダーでは圏点の代替として強調になります。

・ アンダーラインと圏点指定の組み合わせはできません。

関 連 PDF の「レイアウト詳細設定」については、<http://www.cas-ub.com/howto/support.html> で入手できる「CAS-UB による PDF 生成のためのガイド」で解説しています。

例

(1) CAS 記法

```
**:emark 圏点にごマ点を指定**
```

```
//:emark2 圏点に点を指定//
```

```
[[[:emark3 圏点に円を指定]]]
```

(2) 表示例

●●●●●
圏点にごマ点を指定

●●●●●
圏点に点を指定

●●●●●
圏点に円を指定

8.24 ル ビ

ルビ (ふりがな) のマークアップは、親文字とルビ文字の対を”|”で区切り、その全体を 3

重丸括弧で囲います。

例

(1) CAS 記法

```
(((魷魷魷|ちみもうりょう)))
```

(2) 表示例

ちみもうりょう
魷魷魷

8.25 縦 中 横

英数字などの ASCII 文字は半角字形で表示されます。半角字形の文字は縦書の文章では右に 90 度回転して表示されます。このような文字列に縦中横を指定して正立させることができます。

- 注 意
- 縦中横に指定する文字数が多いと、左右の行と文字が重なることがあります。
 - EPUB リーダーによっては縦中横を表示できません。
 - EPUB リーダーによっては縦中横が 3 文字以上になると縦中横を解除して表示します。

例

(1) CAS 記法

```
[[[:tcy 30]]]年前に開店した中華食堂。
```

(2) 表示例（横書テーマでは無効）

30 年前に開店した中華食堂。



図8 縦書のテーマで表示した例

8.26 上付き・下付き

8.26.1 上 付 き

キャレットふたつ '^' に挟まれた文字列が上付きになります。

例

(1) CAS 記法

m^{2^2} (平方メートル)

(2) 表示例

m^2 (平方メートル)

8.26.2 下 付 き

コンマふたつ ',,' に挟まれた文字列が下付きになります。

例 2

(1) CAS 記法

$H_{,2,,0}$

(2) 表示例

H_20

8.26.3 上付き・下付き

例 3

(1) CAS 記法

$\Sigma^{5^,,n=1,,}$

(2) 表示例

$\Sigma_{n=1}^5$

8.27 強制改行

段落の中で強制的に改行するには、改行したい位置に '¥' (半角記号) を入力します。なお、¥記号を使えない場合は、-/で代替できます。

例

(1) CAS 記法

文中に¥があるとその位置で改行します。

この行の行末で改行したい。¥¥
 次の行は行頭から始めたい。
 ¥記号を使えない場合は-/-/でも強制改行できます。

(2) 表示例

文中に
 があるとその位置で改行します。この行の行末で改行したい。
 次の行は行頭から始めたい。 ¥記号を使えない場合は
 でも強制改行できます。

注 意 '¥' (U+005C) は、バックスラッシュですが、Windows の日本語環境では円記号で表示されます。

Mac では、Option + ¥ キーで入力します。

8.28 注

注は文章に補足的な説明やただし書きをつけるためのものです。注のマークアップは文中に注の内容を'(('と'))'で囲みます。この注はHTMLのプレビューでは()内に表示されます。注のマークアップはPDFとEPUBを生成する際に、1冊分集められて巻末注釈になります。

8.28.1 脚 注

注の開始マークアップの直後に':footnote'属性値を指定するとPDF出力時に脚注として扱います。脚注はPDFでは各ページ、段落、縦組の本では奇数ページに配置できます。配置方法はPDFレイアウト設定のレイアウト詳細設定で指定します。

注 意 EPUBでは':footnote'は使えません。':footnote'クラス属性を付けた注は文中に()で囲って表示します。

例

(1) CAS 記法

例1. 文章の中に注をつける方法((この文字列は注の文字列です))です。
 例2. この文章の末尾には注が付いています。((この注は書籍(紙)では章末にまとめる。))
 例3. この文章の末尾には注が付いています((:footnote この注はPDF出力のとき脚注となります。))。

(2) 表示例

EPUBの注と脚注

- 例1. 文章の中に注をつける方法^{注1)}です。
 例2. この文章の末尾には注が付いています。^{注2)}
 例3. この文章の末尾には注が付いています⁴⁾。

4) この注はPDF出力のとき脚注となります。

注と脚注の例

- 例 1. 文章の中に注をつける方法^{注1)}です。
- 例 2. この文章の末尾には注が付いています。^{注2)}
- 例 3. この文章の末尾には注が付いています¹⁾。

1) この注は PDF 出力のとき脚注となります。

注 釈 一 覧

注と脚注の例

- 1) この文字列は注の文字列です (p. 1)
- 2) この注は書籍 (紙) では章末にまとめる。(p. 1)

8.29 イメージと図版 (インライン)

画像を記事の中に表示するには、'`{画像ファイル名|代替テキスト}`'として記述します。画像を文章の行中に置くとインライン配置となります。

注 意 PDF では大きなインライン画像はそのままの大きさに配置されますので版面からはみ出します。EPUB ではリーダーに依存しますが、多くの場合画面幅に縮小されま
す。

8.29.1 画像のサイズ指定

画像には属性でサイズを指定できます。幅の属性名は 'width'、高さは 'height' です。'{' の直後に ':属性名=値' の形式で指定してください。属性値は数値に単位を付けて指定します。属性値と画像のファイル名の間には半角空白が必要です。

例

(1) CAS 記法

このようにマークアップしたイメージは `{{:width=2em CAS-Mark.jpg|CAS サービスマーク }}` インラインとして扱います。

(2) 表示例

このようにマークアップしたイメージは  インラインとして扱います。

関 連 9.3 組み込み属性と属性値 (p. 169)

10.5 単位 (p. 181)

注 意 画像のサイズ指定は PDF 生成でのみ有効です。EPUB はサイズ指定を CSS のスタイルに変換できます (EPUB の生成設定 (p. 60) を参照)。但し、サイズ指定が正しく適用されるかどうかはリーダー依存です。

8.30 範囲指定

範囲指定 (インライン) は、ブロック範囲指定と同じ記号 '[[[' (開き大括弧) と ']]]' を使います。範囲指定のマークアップをしたものの中で、ブロック範囲指定として認識されないものはインラインの範囲指定となります。

関 連 8.9 ブロック範囲指定とブロックの特殊化 (p. 125)

例

(1) CAS 記法

文章の一部に対して、`[[[:index:key=はんいをしていする 範囲を指定する]]]` のがインライン範囲指定である。

(2) 表示例

文章の一部に対して、範囲を指定するのがインライン範囲指定である。

注記 ※ この例では、範囲指定を使って索引のマークアップ (p. 152) をしています。

注 意 インライン範囲指定の内部に空行をおくことはできません。空行があるとその直前でインライン範囲指定は終了となります。

8.31 索引の指定

索引は、強い強調（ボールド）、強調（イタリック）または範囲指定を使って指定します。索引見出し語を要素の内容とし、そのkey属性の値として読みを指定します。単純な索引だけではなく、入れ子の索引を作ることができます。

8.31.1 単純な索引

例

(1) CAS 記法

```
**:index:key=でんししょせき 電子書籍**  
//:index:key=でんししょせき 電子書籍//  
[[[:index:key=でんししょせき 電子書籍]]]
```

(2) 表示例

電子書籍
電子書籍
電子書籍

8.31.2 索引見出し語を表示しない

索引見出し語が本文の表示・印刷に現れないようにするときは'nodisp'を使います。

例2

(1) CAS 記法

```
[[[:nodisp:index:key=でんししょせき 電子書籍]]] 電子的に配布する書籍
```

(2) 表示例

電子的に配布する書籍

注 意 nodispにより索引語を不可視にすると、EPUBリーダーによっては索引から索引語の位置に正しくジャンプしません。iBooks3.0ではこの問題のため、ファイルの先頭位置にジャンプします。

8.31.3 入れ子の索引

次のような入れ子の索引を作ることができます。

```
【て】  
  
電子書籍 .... 25  
-- 作り方 .. 38  
-- 歴史 .... 26
```

入れ子の索引は親の索引語と子の索引語に mindex を指定した上で、親の索引語には

prim、子の索引には second を指定します。

例3

(1) CAS 記法

```
[[[:mindex [[[:prim:key=でんしよせき 電子書籍]]] の [[[:second:key=つくりかた 作り方]]]
を述べる。]]]
```

(2) 表示例

```
電子書籍 133
  作り方 134
```

図9 親子索引

8.31.4 入れ子の索引をふたつ作る

ふたつの索引項目「電子書籍」と「作り方」を、「電子書籍/作り方」と「作り方/電子書籍」の両方の組み合わせで使いたいときは、次のようにマークアップします。

例4

(1) CAS 記法

```
[[[:index **:both:key=でんしよせき 電子書籍**の**:both:key=つくりかた 作り方**を述べる。]]]
```

(2) 表示例

```
作り方
  電子書籍 134

電子書籍
  作り方 134
```

図10 兄弟の索引

8.32 タイプライター

段落の文章の中で三つの開き括弧（'{{{')と三つの閉じ括弧（'}}}')で囲った範囲の中では、エスケープ文字であるチルダを含めてすべてのマークアップの解釈を行いません。HTMLのインラインの整形済み（タイプライター）の扱いとなります。

例

(1) CAS 記法

```
この括弧 {{{{{CAS-Mark.png |図は挿入されない}}}}
の中ではマークアップは解釈されない。
```

(2) 表示例

この括弧 ({{CAS-Mark.png |図は挿入されない}}) の中ではマークアップは解釈されない。

関 連 8.17 整形済みブロック (p. 136)

8.33 URLと記事へのリンク

8.33.1 外部リンク

外部の Web ページなどへのリンクは、'[[URL|アンカーテキスト]]' の形式で記述します。

- アンカーテキストを省略して'[[URL]]'のようにマークアップすることもできます。
- アンカーテキストを省略した場合、URLをアンカーテキストとして設定します。

例

(1) CAS 記法

```
* [[http://www.abc.co.jp/ |ABC社のWebページ]]
* ABC社のオンラインショップ : [[https://www.abc.co.jp/shop/html/]] (アンカーテキストを省略)
* ABCのWebページ (FTPサイト) : [[ftp://www.abc.co.jp/]]
```

(2) 表示例

- ABC社のWebページ
- ABC社のオンラインショップ : <https://www.abc.co.jp/shop/html/> (アンカーテキストを省略)
- ABCのWebページ (FTPサイト) : <ftp://www.abc.co.jp/>

注 意 CAS-UB では、URLを検出してアンカーを自動生成する処理は行いませんので、マークアップされていない URL はリンクされません。

8.33.2 URLの表示オプション

EPUB やPDFを一般的なビューアーで表示する場合は、アンカーをクリックするとリンク先にジャンプしますのでURLを表示させる必要がありません。

しかし、PDFを印刷した場合、URLが印刷されていないとリンク先を参照できません。このためCAS-UBでは、URLの前に感嘆符 '!' を付けるとPDF生成時にURLを出力します。'!' とURLの間には半角空白が必要です。

また、ブラウザ用にリンク先を別ウィンドウで開くオプション '>' もあります。

例 2

(1) CAS 記法

```
* [[! http://www.antenna.co.jp/ | アンテナハウストップ]]
* [[> http://www.antenna.co.jp/ | アンテナハウストップ]]
* [[!> http://www.antenna.co.jp/ | アンテナハウストップ]]
```

(2) 表示例

EPUB

- アンテナハウストップ (<http://www.antenna.co.jp/>)
- アンテナハウストップ
- アンテナハウストップ (<http://www.antenna.co.jp/>)

PDF

URLと記事へのリンク

- アンテナハウストップ (<http://www.antenna.co.jp/>)
- アンテナハウストップ
- アンテナハウストップ (<http://www.antenna.co.jp/>)

2

8.33.3 他の記事へのリンク

CAS-UBの出版物内の特定箇所を参照するにはID参照が基本です。詳しくは8.35 記事内の特定位置を参照する (ID参照) (p. 158) を参照してください。

例外として、出版物中の他の記事へのリンク機能も使えます。

リンク先は記事ファイル名から拡張子 ('ent') を除いて指定してください。

記事のファイル名は、記事一覧などで記事タイトルの右に表示しています。たとえば、この記事のファイル名は '201108021925a.ent' ですが、リンク先の指定では '.ent' を付けずに指定します。

アンカーテキストが指定されていないときは、EPUB/PDF生成時にアンカーテキストとして記事タイトルが挿入されます。但し、編集集中の「内容表示」(プレビュー)では記事タイトルを挿入する処理は行ないません。

例3

(1) CAS記法

- * [[201307271019]] を参照
- * [[201307271019|アンカーテキストあり]] を参照
- * [[##e.201307271019.記事の種類一覧]] を参照
- * [[##e.201307271019.記事の種類一覧|アンカーテキストあり]] を参照

注 意 上ふたつの例は他の記事へのリンク、下ふたつの例はID参照による他の記事への

リンクです。

(2) 表示例

- 4.1 記事の種類一覧 (p. 71) を参照
- アンカーテキストあり (p. 71) を参照
- 4.1 記事の種類一覧 (p. 71) を参照
- アンカーテキストあり (p. 71) を参照

8.34 記事内の特定位置に目印 (ID) をつける

CAS-UB の編集機能は ID 参照の設定を支援しています。本節と次の節で、CAS-UB の ID 参照で支援できるマークアップについて説明します。この他に、CAS 記法の属性付与を使えば EPUB などの文法として有効な ID 属性と ID 値をマークアップできます。この方法で入力した ID は CAS-UB の ID 参照機能の対象にはなりません。

関 連 9.1.2 ID 属性 (p. 164)

8.34.1 ID の付与と参照の関係

ある記事のある位置 (参照元またはアンカー) から、その記事または他の記事内の特定項目・位置 (参照先) を参照するには次のようにします。

- 1) 参照先に目印 (ID) をつける。
- 2) 参照元で ID 参照を設定する。

この節では ID のつけ方について説明します。次の節で ID 参照の方法を説明します。

8.34.2 自動付与する ID とユーザー付与 ID

CAS-UB の編集機能で ID 参照・参考文献 ID 参照の対象となる ID には①CAS-UB のシステムが自動付与する ID と、②ユーザーが編集時にマークアップするユーザー付与 ID の 2 種類があります。

8.34.3 自動付与する ID

タイトル、見出し、特殊なブロック (図・表など 5 種類) のキャプションには、自動的に ID を付与します。ID の値は文字列から自動的に生成したものとなります。

関 連 8.10 キャプション (p. 126)

表 7 ID の種類

付与対象	ID の種類 (ID 一覧 の表示)	説明
タイトル	記事	記事のタイトル・テキストを元に ID を作ります。
見出し	項目	本文中の '=' で開始する見出し段落のテキストから ID を作ります。
特殊なブ 図	図	[[[:fig から始まる行の '=' で開始するキャプションのテキストから

ロックの キャプシ ョン		IDを作ります。
	表	[[[:tbl から始まる行の'='で開始するキャプションのテキストから IDを作ります。
	要約	[[[:sum から始まる行の'='で開始するキャプションのテキストから IDを作ります。
	コラム	[[[:col から始まる行の'='で開始するキャプションのテキストから IDを作ります。
	注記	[[[:ann から始まる行の'='で開始するキャプションのテキストから IDを作ります。

次の ID は編集の ID 参照の一覧には表示されません。CAS-UB で注釈一覧や索引を作成するときのリンク作成用です。

- 注の内容に ID を付与します。後注（注釈一覧）を作成するとき、後注から注へのリンクを自動生成します。
- 索引語に ID を付与します。索引を作成するとき、索引語から本文へのリンクを自動生成します。

例

(1) CAS 記法

=自動付与する ID

(2) 表示例

- ID は参照時にジャンプする先の位置を表すものなので、内容表示、EPUB/PDF などでは表示できません。

(3) XHTML

- 内容表示で XHTML を確認すると次のようになっています。'id=' の後ろの引用符' "' で囲まれた部分が自動生成した ID です。

```
<div id="h.201108021925a.自動付与する ID"><h1>自動付与する ID</h1>...</div>
```

8.34.4 ユーザー付与 ID

ユーザー付与 ID は、要素のマークアップ直後の':#'に続く固有の文字列であらわします。固有の文字列はユーザー ID の識別用です。その後の'@'の後にオプションで用途を指定できます。用途を指定する文字として、'r', 'm', 'p'の3種類を使うことができます。

- CAS-UB は、ユーザーが指定した文字列を元にして、EPUB・PDF で使える ID を作り出します。

表 8 ID の種類

付与対象	ID の種類 (ID 一覧の表示)	入力の例
任意場所	用途指定なし	:#id-value
	参考文献	:#id-value@r
	数式 (任意のブロック)	[[[:#id-value@m
	ブロック数式	\$\$:#id-value@m
	任意の場所	:#id-value@p

注 意 任意のブロックに数式の ID を付けると、ブロックに数式番号を振ることができません。

例 2

(1) CAS 記法

```
*:#mikm1@r 三上 喜貴『文字符号の歴史 アジア編』共立出版 2002
```

(2) 表示例

- ID は、内容表示、EPUB/PDF などでは画面に表示されません。

(3) XHTML

- 内容表示で XHTML を確認すると次のようになっています。'id=' の後ろのダブル引用符 ('"') で囲まれた部分が、id の値となります。CAS-UB は、ユーザーが設定した文字列を加工して id の値を作成しています。

```
<li id="u.201112292212.mikm1.r">三上 喜貴『文字符号の歴史 アジア編』共立出版 2002</li>
```

8.34.5 ID の重複

ひとつの記事の中に同じ ID が出てくると生成時にエラーになります。異なる記事では同じ ID を使うことができます。

関 連 3.24.3 生成時のエラーについて (p. 59)

8.35 記事内の特定位置を参照する (ID 参照)

ID 参照は出版物内で ID をつけた箇所へのリンクを作成する機能です。ID の付与は前節を参照してください。

関 連 記事内の特定位置に目印 (ID) を付ける (p. 156)

ID 参照は'[[参照先 ID|アンカーテキスト]]'または'[[参照先 ID]]'と入力します。アンカーテキストを省略した場合、参照先の見出しまたはキャプションがアンカーテキストとして出力されます。

- '##' で始まる参照は CAS-UB の ID 参照です。生成時にプログラムが介入して、参照の変

換処理（章・節番号を付加、参照先テキストに置換など）を行いません。

- 指定された ID が出版物内に存在しない場合、内容表示でリンクをクリックすると「Link Error: Entry Deleted」というメッセージを表示します。

例

(1) CAS 記法

* (記事) [[#e.201108021925a.記事内の特定位置に目印_EF_BC_88ID_EF_BC_89をつける]]を参照
 * (記事) [[#e.201108021925a.記事内の特定位置に目印_EF_BC_88ID_EF_BC_89をつける|記事内の特定位置に目印 (ID) をつける]]を参照
 * (見出し) [[#h.201108021925a.自動付与する ID]]を参照

(2) 表示例

- (記事) 8.34 記事内の特定位置に目印 (ID) をつける (p. 156) を参照
- (記事) 記事内の特定位置に目印 (ID) をつける (p. 156) を参照
- (見出し) 8.34.3 自動付与する ID (p. 156) を参照

注 意 同一記事内の ID は '#' で始まる参照でも設定できます。

関 連 マークアップ支援ボタン-ID 参照 (p. 107)

8.36 アンカーテキストのマークアップ

外部参照や ID 参照のアンカーテキストでは、次のマークアップが有効です。

表 9 アンカー内で有効なマークアップ

意味	マークアップ
強い強調	**...**
強調 (イタリック)	<i>//...//</i>
注意をうながす (アンダーライン)	<u>..._</u>
ルビ	(((... ...)))
上付き	^{^...^}
下付き	_{,,.,.,,}
注釈	((...))
画像	{{... ..}}
インライン範囲指定	[[[...]]]
タイプライター (インライン Pre)	{{{...}}}
インライン数式	\$\$...\$\$

ブロック要素のマークアップに関しては無視します。

関 連 8.33 URL と記事へのリンク (p. 154)、8.35 記事内の特定位置を参照する (ID 参照) (p. 158)、マークアップ支援ボタン - ID 参照 (p. 107)

8.37 インライン数式

文章中に埋め込んだ数式は、インライン数式と言います。インライン数式は、段落の中の任意の位置に '\$\$' と '\$\$' で囲って記述します。

- 数式の記述には、MathML、AMSLaTeX を使えます。
- インライン数式には、数式番号をつけることはできません。

数式の表現についての詳細仕様は次を参照してください。

関 連 14.8 数式の記述 (p. 220)

例

(1) CAS 記法

```
数式 $$ 
```

(2) 表示例

数式 $B = (b_{ij})$ を $n \times n$ 行列とし、 $n = \{1, \dots, n\}$ とする。すると次の結果が…

8.38 コメントアウト

記事中の一部を無効にしたり、コメントを残したいときは、' <<ignore' と '>>' で囲った範囲の中に記入することでコメントアウトできます。

'<<ignore' と '>>' で囲った範囲は、内容表示にも生成結果にも一切出力されません。記事編集画面でのみ確認できます。

例

(1) CAS 記法

```
<<ignore
整形済みブロックでマークアップを有効にする機能は CAS V4.0 (2016/10) で追加された。
>>

:left CAS 記法

:left {{{markup
整形済みブロック内で**CAS 記法**を有効する
}}}

:left 表示例

{{{markup
整形済みブロック内で**CAS 記法**を有効する
}}}

<<ignore
:left で字下げを無効にしている
>>
```

(2) 表示例

CAS 記法

{{{markup

整形済みブロック内で**CAS 記法**を有効する

}}}

表示例

整形済みブロック内で CAS 記法を有効する

第9章 CAS 記法の属性マークアップリファレンス

9.1 属性指定の詳細

CAS 記法を属性マークアップの側面から整理します。

9.1.1 クラス属性

任意の要素にクラス属性をつけられます。クラス属性の値は、要素の分類や見え方の指定をするキーワードとして使います。

- クラス属性は、マークアップ記号の直後に':value'の形式で指定します。':'で属性を示し、classを省略して'value'だけ指定します。
- 一つの要素に複数のクラス属性値を連続して指定できます。連続して指定するときは、':value1:value2'のように間を空けないで記述します。
- 最後の属性値と他のマークアップの間に' ' (空白) は必要ありません。
- 最後の属性値と本文テキストの間は' ' (空白) で区切ります。

例

(1) CAS 記法

:center この段落にはclass="center"という属性が付きます。テーマにスタイル指定がありますので中央揃えになります。

(2) 表示例

この段落にはclass="center"という属性が付きます。テーマにスタイル指定がありますので中央揃えになります。

(3) HTML

```
<p class="center">この段落にはclass="center"という属性が付きます。テーマにスタイル指定がありますので中央揃えになります。</p>
```

テーマで使えるクラス属性値

CAS-UBのテーマでクラス属性値にレイアウトを設定しています。このクラス属性値を組み込みクラス属性値と言います。組み込みクラス属性の種類については 9.2 組み込みクラス属性値一覧 (p. 166) を参照してください。

クラス属性によるレイアウトカスタマイズ

EPUBを生成するときは、自分で自由にクラス属性値を決め、スタイルシートを作成してそのクラス属性値を使ってレイアウト指定の追加ができます。

関 連 12.3 レイアウトのカスタマイズ (ユーザー・スタイルシート) (p. 191)

PDFでは、':styleset1'～':styleset20'というクラス属性値を使ってPDFレイアウトをカスタマイズできます（スタイルセット機能：「CAS-UBによるPDF生成のためのガイド」（CAS-UB サポート&ガイド（<http://www.cas-ub.com/howto/support.html>）より配布を参照）。

9.1.2 ID 属性

ID属性は、HTMLで任意の位置に目印を付けるものです。':id=value'形式で指定します。'value'には記事内で固有の値を指定します。

- ID属性はクラス属性同様汎用の属性でありほとんどの要素に設定できます。
- ID属性値として使える文字の種類には制限があります。詳しくはXMLの仕様などを参照してください。

関 連 8.34 記事内の特定位置に目印（ID）をつける（p. 156）

例 2

(1) CAS 記法

ここで[[[:img:id=math_i1 {math_i1.png}]]はXXXを表わす。

(2) 表示例

ここで k はXXXを表わす。

(3) HTML

ここではXXXを表わす。

ID属性の利用

本項のID属性はHTML文法上は有効ですが、CAS-UBのID参照（8.35 記事内の特定位置を参照する（ID参照）（p. 158））機能の処理対象ではありません。

9.1.3 一般の属性

一般の属性は属性名と属性値の両方を指定します。

- ':attribute=value'の形式でattributeに属性名、valueに属性値を指定します。
- 属性名・属性値の文字列中に'=', ':', ' 'を入れたいときは直前に'~'を付けてエスケープします。
- 一つの要素に複数の属性と属性値を連続して指定できます。連続して属性と属性値をつけるときは、前の属性値の直後に':'を置きます。属性値の後ろに空白をはさまないでください。
- 最後の属性値と他のマークアップの間に' '（空白）は必要ありません。
- 最後の属性値と本文テキストの間は、原則として' '（空白）で区切ります。（本文テキストがかなや漢字で始まるときは空白で区切る必要はありません）。

注 意 CAS記法を使えば、一般の属性を自由にマークアップできます。しかし、EPUBの

仕様で許されていない一般属性を定義すると EPUB チェックでエラーになります。
また、PDF 生成では無視されます。

例 3

(1) CAS 記法

例として、言語指定をしてみます。

```
//:xml~:lang=en Hello, world//
```

(2) 表示例

Hello, world

(3) HTML

```
<em xml:lang="en">Hello, world</em>
```

例 4

(1) CAS 記法

段落にスタイル属性で境界線を付けてみます。これは EPUB でのみ有効です。

```
:style=border~:solid~ thin~ red この段落には赤の細実線で境界線が付いています。
```

(2) 表示例

この段落には赤の細実線で境界線が付いています。

(3) HTML

```
<p style="border:solid thin red">この段落には赤の細実線で境界線が付いています。</p>
```

コロン':', 空白' 'は、CAS 記法のマークアップでは属性の開始、区切りの役割をもちま
す。上の例では CAS 記法での役割をキャンセルするためにエスケープしています。

関 連 10.1 記号や空白をそのまま使う (エスケープ) (p. 179)

一般の属性の利用

図などのサイズ指定には属性名と属性値の設定を使います。図のサイズ指定については次
の関連項目を参照してください。

関 連 9.3 組み込み属性と属性値 (p. 169)

9.1.4 親要素に属性を付与

箇条書きや表のように要素が親子関係になっているとき親要素に属性を付けたいことがあ
ります。

たとえば、番号なし箇条書きは、CAS 記法では次のようにマークアップします。

```
*第一項目
*第二項目
*第三項目
```

これはHTMLでは次のようにul要素-li要素という2階層になります。

```
<ul>
<li>第一項目</li>
<li>第二項目</li>
<li>第三項目</li>
</ul>
```

このようなとき子供要素のマークアップ直後に'::'で属性を設定すると、その属性は親の要素に付きます。

例5

(1) マークアップ例

箇条書きのラベルを任意の記号に変更する例

```
*::noLabel ♠ 第一項目
*♣ 第二項目
*♥ 第三項目
```

(2) 表示例

- ♠ 第一項目
- ♣ 第二項目
- ♥ 第三項目

(3) HTML

```
<ul class="noLabel">
<li>♠ 第一項目</li>
<li>♣ 第二項目</li>
<li>♥ 第三項目</li>
</ul>
```

関連 表ヘッダ行 (p. 131)、8.7.5 ラベル無し箇条書き (p. 124)

9.2 組み込みクラス属性値一覧

次の表はCAS-UBのシステムであらかじめ処理を組み込んでいるクラス属性です。

表1 CAS-UB標準のクラス属性値

属性値	効果	使用可能な要素	PDF で 有効	EPUB3 で有効	EPUB2 で有効
:nodisp	非表示	注意(3)を参照 (p. 168)	○	○	○
:index	索引 (p. 152)	段落、インラインの範囲 指定 強い強調、強調	○	○	○

属性値	効果	使用可能な要素	PDF で 有効	EPUB3 で有効	EPUB2 で有効
:mindex	入れ子の索引 (p. 152)	段落、インラインの範囲指定 強い強調、強調	○	○	○
:prim	親索引 (p. 152)	入れ子の索引	○	○	○
:second	子索引 (p. 152)	入れ子の索引	○	○	○
:both	兄弟の索引 (p. 153)	入れ子の索引	○	○	○
:fig	特殊化した図 (p. 128)	ブロック範囲指定	○	○	○
:fig:fullpg	画像を1ページ丸ごと 使って配置	特殊化した図	○		
:fig:fullpg- l90	画像を1ページ丸ごと 使って配置 反時計回りに90度回転	特殊化した図	○		
:fig:fullpg- r90	画像を1ページ丸ごと 使って配置 時計回りに90度回転	特殊化した図	○		
:fig:float- start	画像を行頭に寄せてテ キストを回り込み (p. 174)	特殊化した図	○ ⁽⁵⁾	○	
:fig:float-end	画像を行末に寄せてテ キストを回り込み (p. 174)	特殊化した図	○ ⁽⁵⁾	○	
:tbl	特殊化した表 (p. 132)	ブロック範囲指定	○	○	○
:tbl:span-all	表を段抜きする	特殊化した表	○		
:sum	要約 (p. 134)	ブロック範囲指定	○	○	○
:sum:span-all	要約を段抜きする	特殊化した要約	○		
:col	コラム (p. 134)	ブロック範囲指定	○	○	○
:col:span-all	コラムを段抜きする	特殊化したコラム	○		
:ann	注記 (p. 135)	ブロック範囲指定	○	○	○
:ann:span-all	注記を段抜きする	特殊化した注記	○		
:footnote	脚注 (p. 149)	注	○		
:left	左 (上) 寄せ	段落、見出し、表のセ ル内	○	○	○
:left	左 (上) 寄せ	特殊化した表全体	○	○	
:start	左 (上) 寄せ	段落、見出し、表のセ ル内	○	○	○
:start	左 (上) 寄せ	特殊化した表全体、同図	○ ⁽⁴⁾	○	
:center	中央	段落、見出し、表のセ ル内	○	○	○
:center	中央	特殊化した表全体、同図	○ ⁽⁴⁾	○	
:right	右 (下) 寄せ	段落、見出し、表のセ ル内	○	○	○

属性値	効果	使用可能な要素	PDF で 有効	EPUB3 で有効	EPUB2 で有効
:right	右（下）寄せ	特殊化した表全体	○	○	
:end	右（下）寄せ	段落、見出し、表のセル内	○	○	○
:end	右（下）寄せ	特殊化した表全体、同図	○ ⁽⁴⁾	○	
:start1 :start2 :start3	左（上）マージン	段落、ブロック引用、整形済みブロック	○	○	
:end1 :end2 :end3	右（下）マージン	段落、ブロック引用、整形済みブロック	○	○	
:justify	両端揃え	ブロック		○	
:tcy	縦中横（p. 147）	インラインの範囲指定	○	○	
:emark :emark2 :emark3	圏点（p. 146）	インラインの範囲指定 強い強調、強調	○	○	
:smaller	文字サイズ小	任意		○	
:del	消し線	任意		○	
:(色名), :(色名)-bg	文字色と背景色 (p. 177) 基本 16 色（色名）は CSS 標準のカラー名 -bg は背景	任意		○	
:gaiji	外字画像を文字と同じサイズにする	外字画像の img 要素	○	○	
:line-gap	段落間の行間を空ける	段落	○	○	
::ah_head	表のヘッダ行の指定 (p. 131)	表の第 1 行第 1 列セル	○		
::nolabel	ラベルの無い箇条書き (p. 124)	番号無し箇条第 1 項目	○	○	
:inside-p	継続段落として扱う	段落	○		
:markup	整形済みブロック内のマークアップを評価する（p. 137）	整形済みブロック	○	○	○

注 意 (1) EPUB3.0 で有効に○印のついている属性値は、EPUB3 用のテーマで設定済みです。○印がつかない属性を使うには、ユーザースタイルシート（style.css）でユーザーがレイアウト指定してください。

(3) nodisp 属性値は CSS の 'display:none' プロパティ設定によって不可視としています。これを参照先（索引語などを本文中で不可視にするなど）に使用すると、EPUB リーダーによっては参照先 ID の位置に正しくジャンプしません。iBooks3.0 でこの現象を確認しています。

- (4) PDF では、属性指定による特殊化された図の配置指定は無効です。
- (5) PDF では、テキストの回り込みは、PDF 生成の「PDF：レイアウト詳細設定」 - 「図表レイアウト - 図版と表のフロートのさせ方」の指定が優先します。PDF では、回り込み属性の指定はコラム内でのみ有効です。

9.3 組み込み属性と属性値

CAS-UB であらかじめ処理を組み込んでいる一般属性と属性値がいくつかあります。これらは、そのままでは EPUB で文法上エラーになるため、EPUB 生成時に削除したり、形式変更するなどの処理を行います。

- マークアップ時に索引には 'key="よみ"' を設定します。CAS-UB の内部で索引作成（並び替え）処理を行なったあと EPUB 生成時に削除します。
- PDF 生成用に、図の幅、表の列の幅に 'width="値"' を設定できます。しかし、そのままでは EPUB3 生成で EPUB チェックするとエラーとなりますので、EPUB 生成時にスタイル属性 ('style="width:value; height:value"') の形式に変換するか削除するかを EPUB3 生成の設定で選択します。
- PDF 生成用に、図の高さに 'height="値"' を設定できます。しかし、そのままでは EPUB3 生成 EPUB チェックするとエラーとなりますので、EPUB 生成時にスタイル属性 ('style="width:value; height:value"') の形式に変換するか削除するかを EPUB 生成の設定で選択します。
- ブロックまたはインラインに対して ':lang=en など（言語コード指定）' または ':xml:lang=en など（言語コード指定）'

9.4 フォントの埋め込みとフォントの指定

EPUB では、ブロックやインラインのスタイルにフォント・ファミリー（フォント）を指定できます。しかし、指定したフォントが EPUB リーダーに備わっていないとフォント指定は有効になりません。どの EPUB リーダーでもフォント指定が有効になるようにするには、EPUB ファイルの中にフォントを同梱して、スタイル指定から同梱したフォントを参照する必要があります。これをフォント埋め込みと言います。

CAS-UB V2.3 より EPUB3 へのフォント埋め込み（サブセット埋め込み）ができるようになりました。また、CAS-UB システム上のフォントを EPUB に埋め込むこともできます。

フォント埋め込みを使う方法は次の通りです。

- 1) 「フォント」をクリックして、フォント画面を表示します。
- 2) 埋め込みに使いたいフォントを、ローカル PC からアップロードします。
- 3) アップロードした各フォントには、CAS-UB がクラス名を割り当てます。
- 4) フォントを指定したいブロックまたはインライン要素に、フォントに対応するクラス名を設定します。

9.4.1 フォント・ファイル管理画面

「フォント」をクリックするとフォント・ファイルを管理するフォント画面となります。



「参照」ボタンでローカルPCのフォント・ファイルを指定して、[フォントファイルのアップロード] ボタンをクリックすると、指定したフォントが出版物毎のフォント・フォルダーに登録されます。

注 意 フォントのファイル名は半角英数字と'-'と'_'が使用できます。フォントのファイル名に、かな・漢字などが使われているときはファイル名を変更してください。

各出版物の初期状態では、フォント・フォルダーには何も登録されていません。下の図は、三つのフォント (① ackaisyo, ② AoyagiKouzanFontT, ③ BokutachinoGothic) をアップロードした状態です。



図1 フォント・ファイル管理画面の例

9.4.2 フォントに割り当てたクラス名

フォント名は、フォントファイルの内部に記述されているデータです。フォントのクラス名はCAS-UBが自動的に割り当てたものです。

表2 フォント名とクラス名の例

ファイル名	フォント名	クラス名
ackaisyo.ttf	ackaisyo	font-ackaisyo
aoyagi.ttf	AoyagiKouzanFontT	font-AoyagiKouzanFontT
bokutachi.otf	BokutachinoGothic	font-BokutachinoGothic

例

フォントを適用したい箇所に、そのフォントのクラス名をCAS記法のクラスとして設定します。

(1) CAS記法

次はブロック範囲にフォントを指定する例です。

アンテナハウス株式会社は、東京都中央区に本社を置くソフトウェア製品の開発・販売会社である。

[[[:font-BokutachinoGothic アンテナハウス株式会社は、東京都中央区に本社を置くソフトウェア製品の開発・販売会社である。]]]

[[[:font-ackaisyo アンテナハウス株式会社は、東京都中央区に本社を置くソフトウェア製品の開発・販売会社である。]]]

[[[:font-AoyagiKouzanFont アンテナハウス株式会社は、東京都中央区に本社を置くソフトウェア製品の開発・販売会社である。]]]

(2) 表示例

アンテナハウス株式会社は、東京都中央区に本社を置くソフトウェア製品の開発・販売会社である。

アンテナハウス株式会社は、東京都中央区に本社を置くソフトウェア製品の開発・販売会社である。

アンテナハウス株式会社は、東京都中央区に本社を置くソフトウェア製品の開発・販売会社である。

アンテナハウス株式会社は、東京都中央区に本社を置くソフトウェア製品の開発・販売会社である。

図2 フォントを埋め込んだEPUBのiBooksによる表示例

※ 埋め込んだフォントの指定は、PDFでも有効です。

注 意 ・ フォント埋め込みをすると、アップロードしたフォントはEPUBの中に同梱して再配布されます。フォントを埋め込み再配布する場合は、各フォントの制作者・供給元のライセンス契約の再配布条件に準拠する必要があります。各フォントのライセンス契約を確認してください。

- ・ 埋め込んだフォントの難読化は行なっていません。
- ・ iBooks 3.1で埋め込んだフォントを有効にするには、EPUB生成の「一般」設定で [iBooks用メタ情報] をチェック（有効）してください。

9.4.3 CAS-UBのシステムフォントをEPUBに埋め込む

CAS-UBでは、以下のシステムフォントを使用できます。

表3 CAS-UBで用意している主なシステムフォント

フォント名	言語	スクリーン	特徴
IPAMincho (IPA 明朝)	ja(jpn)	Jpan	IPA 明朝 固定幅書体
IPAGothic (IPA ゴシック)	ja(jpn)	Jpan	IPA ゴシック 固定幅書体

IPAexNincho (IPA ex 明朝)	ja(jpn)	Jpan	IPA 明朝の欧文文字のみプロポーショナル書体
IPAexGothic (IPA ex ゴシック)	ja(jpn)	Jpan	IPA ゴシックの欧文文字のみプロポーショナル書体
IPAPMoncho (IPA P 明朝)	ja(jpn)	Jpan	IPA 明朝のプロポーショナル書体
IPAPGothic (IPA P ゴシック)	ja(jpn)	Jpan	IPA ゴシックのプロポーショナル書体
NotoSansJP	ja(jpn)	Jpan	Google Noto フォント日本語 (7ウエイト)
NotoSansSC	zh-CN	Hans	Google Noto フォント中国語簡体字 (7ウエイト)
NotoSansTC	zh-TW	Hant	Google Noto フォント中国語繁体字 (7ウエイト)
NotoSansKR	ko(kor)	Hang	Google Noto フォント韓国語 (7ウエイト)

以上の他にも、数種類欧文フォントを使用できます。

リーディングシステムにないフォントを指定すると、文字が表示されなかったり文字化けしますので、システムフォントもEPUBに埋め込む必要があります。

システムフォントの埋め込みは、[フォントの追加] ボタン左の枠をクリックするとシステムフォント名の一覧が表示されるので、埋め込むフォント名をクリックして選択してから[フォントの追加] ボタンをクリックしてください。



図3 システムフォント一覧の表示例

埋め込みを指定したシステムフォントは、ファイル名の先頭に「cas-ub-」が付いています。



図4 埋め込み指定したシステムフォント名の表示例

システムフォントも、アップロードしたフォントファイルと同様に、フォントを適用したい箇所にフォントのクラス名をCAS記法のクラスとして設定します。

関 連 9.1 属性指定の詳細 (p. 163)

9.5 ブロックマージン

文書中の特定ブロックの左右余白（縦組では上下余白）を文書全体とは別の値に設定できます。ブロックマージンを指定できるのは次のブロックです。

- 段落 (p. 112)
- ブロック引用 (p. 135)
- 整形済みブロック (p. 136)

ブロックマージンは、ブロックに属性をつける（9.1 属性指定の詳細 (p. 163) を参照）ことで指定します。ブロックマージン用のクラス属性名は次のとおりです。

表4 ブロックマージンの属性名

マージンの種類	属性名
ブロックの開始マージン 1	start1
ブロックの終了マージン 1	end1
ブロックの開始マージン 2	start2
ブロックの終了マージン 2	end2
ブロックの開始マージン 3	start3
ブロックの終了マージン 3	end3

9.5.1 PDF 生成時

余白幅は、PDFの「レイアウト詳細設定」の **ブロックマージン** で設定します。初期値はすべて 0em になっていますので、必要な値を設定してください。

表番号のプレフィックス	表
ブロックマージン	
ブロックの開始マージン 1	<input type="text" value="4em"/> start1
ブロックの終了マージン 1	<input type="text" value="2em"/> end1
ブロックの開始マージン 2	<input type="text" value="8em"/> start2
ブロックの終了マージン 2	<input type="text" value="4em"/> end2
ブロックの開始マージン 3	<input type="text" value="12em"/> start3
ブロックの終了マージン 3	<input type="text" value="8em"/> end3
参照先表示方法	

図5 ブロックマージンの設定例

9.5.2 EPUB 生成時

EPUB3用の各テーマには、ブロックマージンの初期値が次のように設定されています。

```
.start1 { margin-left: 1em; }
.start2 { margin-left: 2em; }
.start3 { margin-left: 4em; }
.end1 { margin-right: 1em; }
.end2 { margin-right: 2em; }
.end3 { margin-right: 4em; }
```

例

(1) CAS 記法

:start1:end1 この段落の開始マージンを start1 に設定された幅に変更し、終了マージンを end1 に設定された幅に変更します。

|>>:start3

このブロック引用の開始マージンを start3 に設定された幅に変更します。

[[[:tbl =ブロック引用の中の表

|=|= A|= B|= C

| 1 |あ|い|う

| 2 |か|き|く

| 3 |さ|し|す

]]]

|<<

{{{:start2:end3

****整形済みブロック****の左右余白を変更する。

開始マージンを :start2 にし、終了マージンを :end3 に設定。

}}}

(2) 表示例

この段落の開始マージンを start1 に設定された幅に変更し、終了マージンを end1 に設定された幅に変更します。

このブロック引用の開始マージンを start3 に設定された幅に変更します。

表5 ブロック引用の中の表

	A	B	C
1	あ	い	う
2	か	き	く
3	さ	し	す

****整形済みブロック****の左右余白を変更する。
開始マージンを :start2 にし、終了マージンを :end3 に設定。

関連 PDFの「レイアウト詳細設定」については、<http://www.cas-ub.com/howto/support.html>で入手できる「CAS-UBによるPDF生成のためのガイド」で解説しています。

9.6 画像の回り込み

9.6.1 画像の配置

CSS テーマの既定値では、ブロック画像とキャプションは中央に配置され、その後のテキ

ストは次のブロックに配置されます。

(1) CAS 記法

```
[[[:fig =PDF インフラストラクチャ解説#1
  {{PDFinfla-sam.jpg | PDFinfla-sam.jpg}}
]]]
```

PDF が生まれて約 20 年になる。今では PDF は HTML と並んで現代における情報流通のためのふたつの柱であり、情報化社会をささえる最重要インフラのひとつとなった。
(以下、略)

(2) 表示例

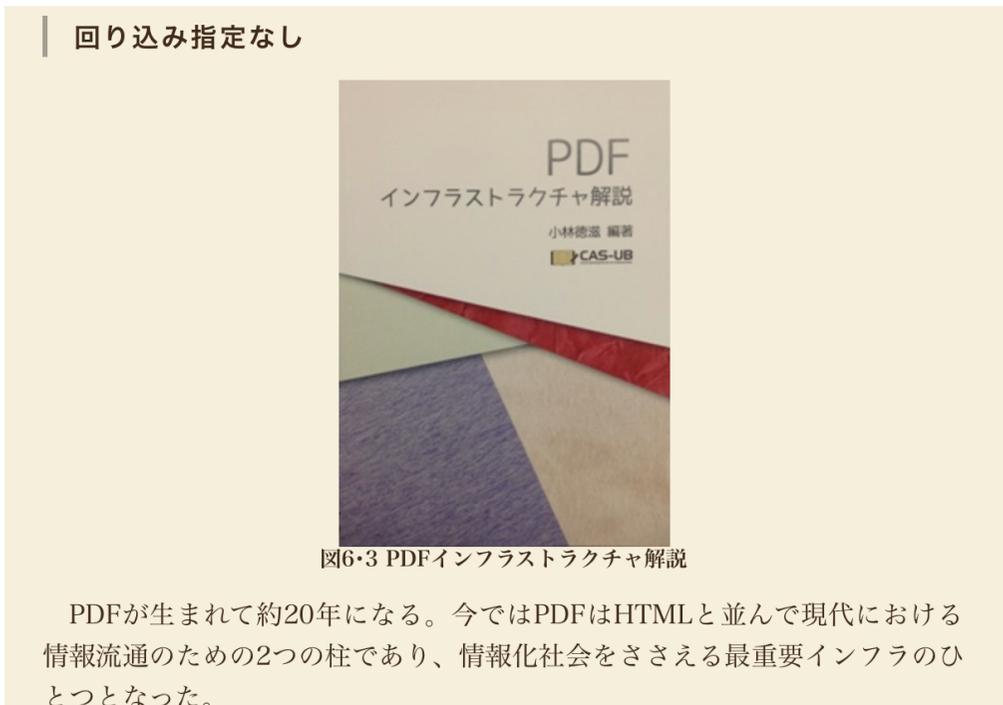


図6 画像の回り込みなし

9.6.2 回り込み指定をする例

ブロック画像にテキストを回り込ませるには、画像に対してクラス属性 'float-start' または 'float-end' を指定します。

注 意 PDFでの画像の回り込みは、PDF：レイアウト詳細設定の「図版と表のフロートのさせ方」で調整するため、クラス属性 'float-start' の指定は無効です。但し、コラム指定された特殊化ブロック (p. 134) 内では、PDFでも 'float-start' は有効です。

(1) CAS 記法

```
[[[:fig:float-start =PDF インフラストラクチャ解説#2
  {{PDFinfla-sam.jpg | PDFinfla-sam.jpg}}
]]]
```

]]]

PDF が生まれて約 20 年になる。今では PDF は HTML と並んで現代における情報流通のためのふたつの柱であり、情報化社会をささえる最重要インフラのひとつとなった。
(以下、略)

(2) 表示例

回り込み指定あり



図6・4 PDFインフラストラクチャ解説

PDF が生まれて約 20 年になる。今では PDF は HTML と並んで現代における情報流通のための 2 つの柱であり、情報化社会をささえる最重要インフラのひとつとなった。

PDF についてエンドユーザの立場で書かれた活用本は多数ある。また、PDF 仕様書は公開されており、ISO 標準にもなっているので PDF 製品を実装するための技術情報は不足していない。しかし、制作者や情報技術者のために PDF の技術的側面を解説した書籍は少ない。PDF を体系的に活用するには一定の前提となる知識が必要なのだが、そのような情報はあまり多くない。

本書は PDF についてバランスのとれた技術的解説書とすることを目指している。第一段階として、2005 年 10 月から 2008 年 7 月にかけて 1000 日間にわた

図 7 画像の回り込み

9.6.3 回り込みの解除

任意の位置で回り込みを解除したいときは、回り込みを解除したいブロックの先頭などにクラス属性 'float-clear' を指定します。

(1) CAS 記法

```
[[[:col = 「PDF インフラストラクチャ解説 電子の紙 PDF とその周辺技術を語り尽す」(2016 年 1 月発行)
```

```
:line-gap
```

```
[[[:fog:float-end
```

```
{PDF-144px.png}}
```

```
]]]
```

★2016 年 1 月、紙版（ペーパーバック）と電子書籍版（Amazon Kindle 本）を発売しました！
2015 年 12 月末まで無償配布していた「PDF インフラストラクチャ解説」に大幅加筆のうえ、副タイトルを付けて出版します。

:float-clear 内容紹介抜粋 20世紀を代表する技術のひとつであるPDFが生まれて約20年過ぎた。今ではPDFはHTMLと並んで現代における情報流通のための二つの柱であり、情報化社会をささえる最重要インフラの一つとなった。(中略)「PDF千夜一夜」ブログで取り上げなかった項目、2015年までの新たな動きについても追加している。

]]]

(2) 表示例

「PDF インフラストラクチャ解説 電子の紙PDFとその周辺技術を語り尽す」(2016年1月発行)

★2016年1月、紙版(ペーパーバック)と電子書籍版(Amazon Kindle本)を発売しました! 2015年12月末まで無償配布していた「PDFインフラストラクチャ解説」に大幅加筆のうえ、副タイトルを付けて出版します。

内容紹介抜粋 20世紀を代表する技術のひとつであるPDFが生まれて約20年過ぎた。今ではPDFはHTMLと並んで現代における情報流通のための二つの柱であり、情報化社会をささえる最重要インフラの一つとなった。(中略)「PDF千夜一夜」ブログで取り上げなかった項目、2015年までの新たな動きについても追加している。



9.7 文字色と背景色

文字色と背景色は、EPUB3ではCSS標準の16色をカラー名で指定できます。

表6 CSS標準カラー名一覧

カラー名	RGB値
black	#000000
gray	#808080
silver	#c0c0c0
white	#ffffff
maroon	#800000
red	#ff0000
purple	#800080
fuchsia	#ff00ff
green	#008000
lime	#00ff00
olive	#808000
yellow	#ffff00
navy	#000080
blue	#0000ff

teal	#008080
aqua	#00ffff

背景色は、カラー名の末尾に '-bg' を付けることで指定します。

注 意 色指定は RGB 値ではできません。

カラー名による色指定は、PDF と EPUB2 では無効です。

(1) CAS 記法

色指定 [[[red:yellow-bg 赤文字黄色背景]]]

[[[col:purple:aqua-bg =コラム内の背景色を水色にし文字色を紫にした
:purple 文字色は (purple)
]]]

(2) 表示例 (EPUB3)

色指定 **赤文字黄色背景**

コラム内の背景色を水色にし文字色を紫にした
文字色は (purple)

注 意 ブロックに付けた属性は、ブロック内の要素によっては継承されないことがあります。継承されないときは、その要素範囲にも属性指定が必要です。

例.

上記の CAS 記法例では、コラムブロック中の強い強調に文字色を再度指定しています。

purple 文字色は (purple)

XHTML は下記ようになります。

<p><strong class="purple">文字色は (purple) </p>

<p></p> にはコラムブロックに指定した文字色が継承されますが、強い強調には継承されないため、強い強調にも色指定をしています。

第10章 コンテンツやマークアップに使う記号・文字・単位

10.1 記号や空白をそのまま使う（エスケープ）

マークアップするための記号をマークアップ用途ではなく、記号のまま表示したい場合は、その記号の前に`~`（チルダ）を置きます。`~`（チルダ）を置くことをエスケープするといいます。

10.1.1 エスケープの規則

- 1) 直後の1文字だけをエスケープします。それ以上でもそれ以下でもありません。たとえば、`~`{{`}} とすると、`~`{{`}} はマークアップとして生き残ります。
- 2) エスケープはURLの内部では効果がありません。[[http://example.jp/~ichiro/]] とするとURLの中の`~`はそのまますべて文字として扱われます。
- 3) 整形済みまたはタイプライターの内部では、エスケープの効果がありません。

例

- 簡条書きの記号（*、#）をエスケープして簡条書きにしないとき。
- 属性名・属性値の文字列中に`=`、`:`、` ` ` を入れたいとき。

例2

次は索引のソートキーに空白を入れる例です。

(1) CAS 記法

索引のソートキーに“environment variable”のように空白を含む文字列を指定する例：

```
:nodisp:mindex **:both JAVA_HOME** **:both:key=environment~ variable environment variable**
```

(2) 表示例

PDFの索引の例：

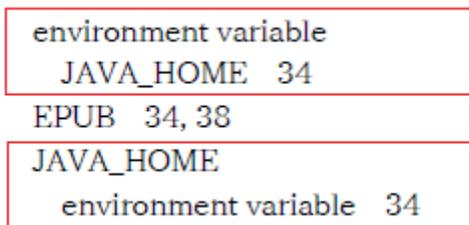


図1 索引の例

10.2 円記号 (¥) の扱い

Windows アプリケーションは、キーボードで円記号 (¥) をタイプすると、文字コードは U+005C が入力されます。そして、マイクロソフトの MS 明朝など多くの日本語フォントは、Unicode の U+005C を円記号 (¥) として表示します。このため、Microsoft Word などで作成した原稿では、円記号を表すのに U+005C を使うことが多くなっています。

しかし、Unicode では、U+005C はバックスラッシュです。Microsoft 以外の欧文フォントをはじめとして、日本語フォントでも U+005C をバックスラッシュで表示するものがあります。

EPUB では、字形は EPUB リーダーが内蔵するフォント依存となります。このため円記号を表すのに U+005C を使った場合、円記号になるかバックスラッシュになるかは予測できません。これを回避するには、フォント埋め込みが必要です。

元の原稿が円記号に U+005C を使っているとき、PDF 生成でこれを円記号 (¥) として表示するには、基本 (ラテン) フォントに IPA 明朝と IPA ゴシックを割り当てます。CAS-UB の PDF 生成ではフォントを埋め込みますので文字が化けることはありません。

関 連 PDF の「フォント設定」については、<http://www.cas-ub.com/howto/support.html> で入手できる「CAS-UB による PDF 生成のためのガイド」で解説しています。

Unicode は、円記号に U+00A5 を割り当てますので、できるだけこちらを使うようにしてください。U+00A5 は、Unicode 番号を直接指定 (p. 181) する方法で入力できます。

例

(1) CAS 記法

```
{{&#x00A5;}}3000
```

(2) 表示例

¥3000

10.3 予約済みの記号

CAS-UB は、将来における CAS 記法の拡張のために次の記号を予約しています。予約済みの記号を使いたい場合は、`'` でエスケープしてください。

- '@@'
- '##'
- '%%'
- '&&'
- '++'
- '""'

10.3.1 警告メッセージ

予約記号をエスケープなしで使用した場合、PDF または EPUB を生成するときに警告メッセージがでます。

例

(1) CAS 記法

```
@@
```

(2) 表示例

SYS-WARNING: @@ is reserved for future function. Please escape with tilde(~)

10.4 文字の Unicode 番号を直接指定

直接入力が困難な Unicode 文字、外字による絵文字や古代文字などは、Unicode の番号を直接指定できます。これを文字番号参照と言います。文字番号参照のマークアップは、'{{&' の 3 文字をマークアップの開始とし、'}}' でマークアップを終了します。複数の文字を続けて指定するときは、セミコロン ';' で区切って '&#' から文字番号を指定してください。

例

(1) CAS 記法

十進数指定

```
{{&#0169;&#0174;}}
```

十六進数指定

```
{{&#x00A9;&#x00AE;}}
```

(2) 表示例

十進数指定

©®

十六進数指定

©®

10.5 単 位

CAS-UB では、マークアップおよび生成の設定で値を指定するとき、単位が必要です。

CAS-UB で使用できる単位は次のとおりです。

10.5.1 絶対単位

表1 絶対単位

単位	意味	説明
pt	ポイント。1ポイントは72分の1インチ	主に文字サイズの指定に用います
pc	パイカ。1パイカは12ポイント	主に文字サイズの指定に用います
in	インチ。1インチは2.54センチメートル	主に幅や高さの指定に用います
cm	センチメートル	主に幅や高さの指定に用います
mm	ミリメートル	主に幅や高さの指定に用います

10.5.2 相対単位

表2 相対単位

単位	意味	説明
em	基本文字サイズの全角1文字分を1とする相対値	主に文字サイズや幅の指定に用います
rem	基本文字サイズの全角1文字分を1とする相対値	主に文字サイズや幅の指定に用います
lh	基本文字サイズの高さ（縦組では全角幅）+行間を1とする相対値	ブロック前後の空き量の指定に用います
%	上位ブロックに対する比率	主に幅や高さの指定に用います
px	ピクセル ・ EPUB3/EPUB2では出力機器（デバイス）の表示解像度などに依存 ・ PDFでは96dpiで換算した絶対単位となる	主に画像のサイズ指定に使用します

第11章 縦組の指定

11.1 本全体の縦組（本の開き方）

本全体の横組・縦組指定と記事毎の横組・縦組指定ができます。PDFとEPUBは本全体が横組のときは左開き、本全体を縦組にすると右開きになるよう生成されます。

11.1.1 PDF全体の横組・縦組指定

本全体の横組・縦組は、PDF：レイアウト設定画面で指定します。

本全体を縦組にするには、生成⇒PDFレイアウト設定の【テーマ】で「縦組書籍」または「縦組マニュアル」を選択して[テーマ選択]をクリックします。

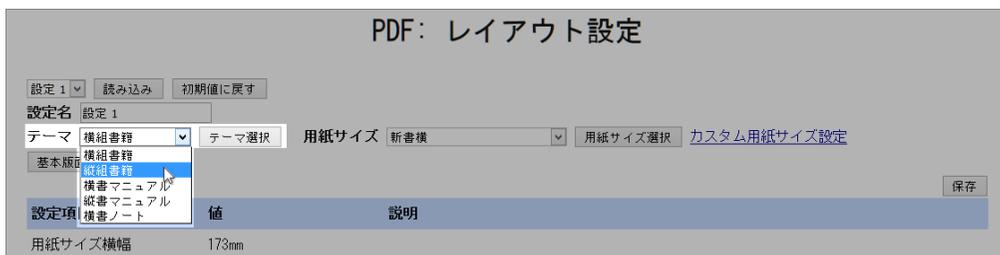


図1 PDF 縦組テーマの指定

11.1.2 EPUB3/Kindle 本全体の横組・縦組指定

生成⇒EPUB/Kindle一般の【CSSのテーマ】で「縦書」を選択し、表示されるテーマの一覧から好みのテーマを選択します。

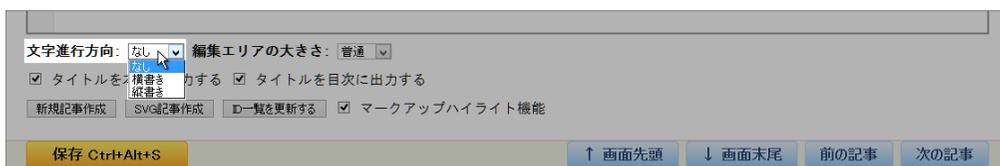
関連 12.1 CSSのテーマ (p. 189) を参照してください。

11.2 編集時の文字進行方向の指定

横組（左開き）の本では、一部の記事だけ縦組にすることはほとんどありません。それに対して縦組の本では本の一部を横組にすることが頻繁にあります。

さらに、EPUBでは縦組の本の中の画像や扉のタイトルを中央揃えするために、扉などのページに横組を指定する場合があります。これはEPUBリーダーの機能不足を補うための方便としての横組指定ですが、現実には、このような指定方法も良く使われます。

CAS-UBは記事編集画面 (p. 21) の、記事入力・編集枠の下にある【文字進行方向】で、文字進行方向の記事ごとに指定できます。



上で説明したようにPDFとEPUBとで縦組指定の目的が少し違うため、この設定は本文(章-節-項-目)についてPDF生成時とEPUB生成時で取り扱いに少し違いがあります。次の表を参照してください。

表1 手作り記事の文字組方向

区分	記事の種類名	手作り記事の文字組方向の扱い	
		PDFでは	EPUBでは
前付	タイトル前	有効	有効
前付	タイトルページ	有効	有効
前付	権利関係	有効	有効
前付	献辞	有効	有効
前付	前書	有効	有効
前付	(手作り)目次	有効	有効
前付	目次後	有効	有効
本文	本文の扉	有効	有効
本文	プロローグ	有効	有効
本文	章	有効	有効
本文	節	無効・章と同じ	有効
本文	項	無効・章と同じ	有効
本文	目	無効・章と同じ	有効
本文	エピローグ	有効	有効
後付	付録	有効	有効
後付	後書	有効	有効
後付	謝辞	有効	有効
後付	(手作り)参考文献	有効	有効
奥付類	プロフィール	有効	有効
奥付類	(手作り)奥付	有効	有効

11.3 PDF生成時：記事毎の文字進行方向指定

次にPDF生成時における記事の種類毎の文字組方向の指定方法を説明します。

11.3.1 表紙とタイトルページの文字組方向

PDFの表紙を作るときは画像のみを使うか、それとも背景画像を指定してタイトルページを重ねて作ります。

製本するとき

CAS-UBで作ったPDFから印刷・製本するときには表紙を作らず、くるみの表紙画像を別途

用意してください。

- 表紙とタイトルページの文字組方向はレイアウト詳細設定の表紙【文字組方向】で指定します。デフォルトは横組です。

11.3.2 扉の文字組方向

目次の扉

PDF のテーマが縦組書籍のときにかぎり、レイアウト詳細設定で目次の扉を作成できます。目次の扉を作成すれば目次の内容を見開きにできます。

目次の扉

目次の扉の作り方	<input type="text" value="扉は作らず、目次は奇数ページから始まる"/>	
目次の扉の文字組方向	<input type="text" value="横組"/>	
目次の扉のタイトルの行進行方向の開始位置	<input type="text" value="中央"/>	
目次の扉のタイトルの行進行方向の開始位置の値	<input type="text" value="30mm"/>	行進行方向の開始位置が指定するとき
目次の扉のタイトルの文字進行方向の揃え	<input type="text" value="中央"/>	
目次の扉のタイトルの文字進行方向の左右余白	<input type="text" value="10mm"/>	縦組のときは上下余白

図 2 目次の扉の生成機能

- 自動目次扉の文字組方向はレイアウト詳細設定の【目次の扉の文字組方向】で指定します。デフォルトは横組です。

章扉

章のタイトルを本文とは別建ての扉にできます。

- 章扉の文字組方向はレイアウト詳細設定の章扉【文字組方向】で指定します。デフォルトは横組です。

11.3.3 前付・後付・奥付類の文字組方法

前付・後付・奥付類の文字組方向は 11.2 編集時の文字進行方向の指定 (p. 183) で記事毎に文字進行方向を設定します。

たとえば、PDF【テーマ】で「縦組書籍」を選択した本で、権利関係（記事クラス名は rights）を横組にするには、編集の【文字進行方向】で「横組」にします。この時は EPUB の権利関係も「横書」になります。

11.3.4 奥付の文字組方向

自動生成の奥付の文字組方向は縦組時も横組をデフォルトに変更しました。

11.3.5 記事スタイル機能

PDFの記事は「記事スタイル」で個別に指定できます。PDF【テーマ】で「縦組書籍」を選択したときでも、たとえば、権利関係、謝辞、索引、参考文献だけ、それぞれ個別に記事スタイルで横組指定できます。

自動生成の記事の文字組方向は編集で指定はできません。記事毎の文字組方向は記事スタイルによる指定のみです。

手作り記事は、編集で文字進行方向を指定できます。編集の指定よりも記事スタイルの指定が優先します。

PDFの記事スタイルを使えば、EPUBとPDFで文字組方向を変えることもできます。たとえば、EPUBの権利関係は縦のままとし、PDFの権利関係のみ横組にしたいときは、次の内容の記事スタイル・ファイル（entrystyle-pdf.css）を用意して、スタイルシートにアップロードします。

```
.rights {  
  tbrl:no;  
}
```

自動生成の奥付は横組がデフォルトです。縦組にするなら、次の内容の記事スタイル・ファイル（entrystyle-pdf.css）を用意して、スタイルシートにアップロードします。

```
.copyright {  
  tbrl:yes;  
}
```

「記事スタイル」では文字組方向以外のレイアウト指定もできます。記事スタイルの詳細は「CAS-UBによるPDF生成のためのガイド」(<http://www.cas-ub.com/howto/support.html>)（更新予定）を参照してください。

11.4 EPUB生成時：記事毎の文字進行方向指定

11.4.1 手作り記事の文字進行方向

手作りの記事の指定は、11.2 編集時の文字進行方向の指定（p. 183）を参照してください。

必要な記事の値を設定して、画面右側の[保存]ボタンをクリックしてください。「なし」「縦書」「横書」を指定するとXHTMLのhtml要素にクラス属性値が設定されます。

表2 EPUB記事毎の文字進行方向クラス設定

文字進行方向	設定値
なし	なし
横書	<html class="hltr">
縦書	<html class="vrtl">

記事の縦組・横組を有効にするには、CSSのテーマで記事クラスの縦組・横組指定が必要

です。(CAS-UBのテーマは未完成です)。

関連 12.3 レイアウトのカスタマイズ (ユーザー・スタイルシート) (p. 191)

11.4.2 自動生成の記事

生成⇒EPUB 一般の一番下に用意されている自動生成記事の文字進行方向設定リンクをクリックします。

EPUB3: 一般

[自動生成記事の文字進行方向設定](#)

Copyright© 2011-2015 Antenna House Inc. All Rights Reserved.

図3 リンク

すると、自動生成の記事毎に文字進行方向を設定する画面になります。

自動生成ページの文字進行方向設定

設定項目	値
タイトルページ	なし
目次	なし 縦書き 横書き
索引	なし
図表一覧	なし
奥付	なし
巻末注釈	なし
参考文献	なし

保存

Copyright© 2011-2015 Antenna House Inc. All Rights Reserved. [このサイトについて](#) | [利用規約](#) | [個人情報保護方針](#)

図4 自動生成ページの文字進行方向設定画面

ここで「なし」「縦書」「横書」を指定するとXHTMLのhtml要素にクラス属性値が設定されます。

記事の縦組・横組を有効にするには、CSSのテーマで記事クラスの縦組・横組指定が必要です。(CAS-UBのテーマは未完成です)

注意 自動生成記事の文字進行方向の設定内容はEPUBでのみ有効です。カバー画像を自動生成する場合の文字進行方向はタイトルページと同じになります。

11.4.3 章 扉

章のタイトルを本文とは別建ての扉にできます。

章扉の作成と章扉の文字組方向は、生成⇒EPUB 一般で指定します。

- 章扉を作る：をチェックすると章扉が生成されます。
- 章扉の文字進行方向：なし（出版物全体の文字組方向と同じ）、横組、縦組を指定できます。

- 章扉を作ると、章扉と本文が分離されて別ファイルになり、章扉はタイトルだけのファイルになります。
- 章が記事タイトルだけのときは、ファイルの分離はされません。
- 章扉の XHTML には、<body>要素に属性値 'chapter-titlepage' が付加されます。

関 連 EPUB3 生成の一般設定 (p. 61)

第12章 EPUBのレイアウト指定

12.1 CSSのテーマ

EPUBのレイアウトはCAS-UBのシステムに用意している「CSSのテーマ」で指定します。「生成」画面の「EPUB3」→「一般」タブの「CSSのテーマ」で選択します。

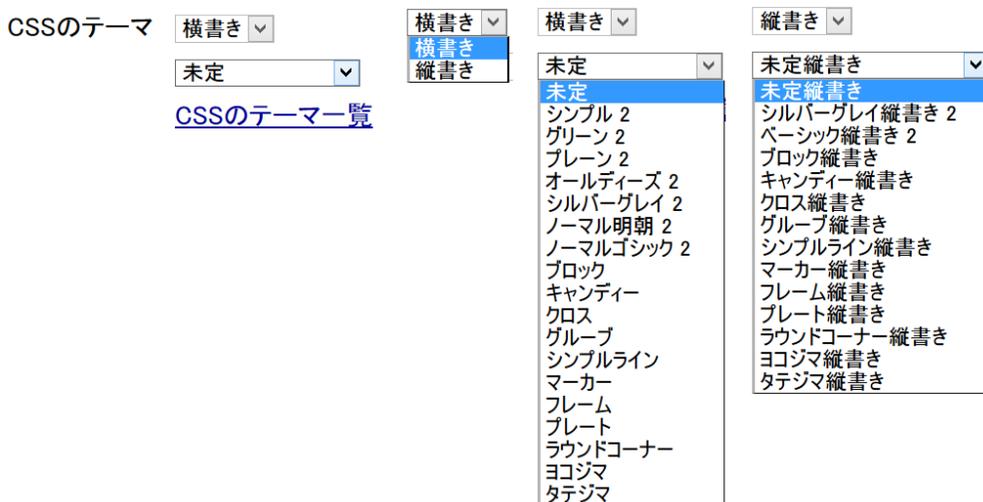


図1 横書・縦書テーマの一覧

12.1.1 レイアウトを変更したいとき

ユーザー・スタイルシートでCAS-UBで用意したテーマのレイアウトに対して自分流の変更を加えられます。

関連 12.3 レイアウトのカスタマイズ（ユーザー・スタイルシート）（p. 191）、3.12 内容表示のテーマの選択（p. 37）

12.2 CSSのテーマの機能と設定変更

12.2.1 テーマの機能

CAS-UBのテーマでは、次のようなきめ細かい設定を用意しています。

- 全テーマで圏点を利用可能です。
- 特殊化した表の左右配置を指定可能です。
- 特殊化した図の左右配置を指定可能です。
- 数式に数式番号を付与できます。
- 段落間の空き行指定ができます。

- 小さい文字の指定ができます。
- 消し線の指定ができます。
- ブロックの開始・終了マージンの初期値を設定してあります。
- 基本16色のクラス属性値を定義しています。
- 色指定を可能にしています。

12.2.2 レイアウト統一

ユーザーがカスタマイズし易いように、CSSのレイアウト指定をできるだけ同じ方法を採用しています。特に次の点は全テーマ共通です。

- 段落先頭行の字下げを1文字分に設定しています。
- 段落間の空きはありません。
- 表ブロックを指定（特殊化）しているときには、表とキャプションを左右中央に配置し、表の罫線を表示します。表のブロック指定をしていないときには表は行頭寄せとし表の罫線を表示しません。
- ブロック画像とキャプションは中央寄せに設定しています。
- 原則として段落両端揃えを設定しています。

12.2.3 設定変更（CSSの調整）

次の5項目については「CSSの調整」メニューを使って設定を変更できます。

- 1) 段落先頭行の字下げ
- 2) 段落間の空き
- 3) 表の罫線
- 4) 段落の揃え
- 5) 見出しの文字サイズ

12.2.4 設定変更メニューの表示

設定変更のメニューはスタイルシート画面の「CSSの調整」をクリックして表示します。

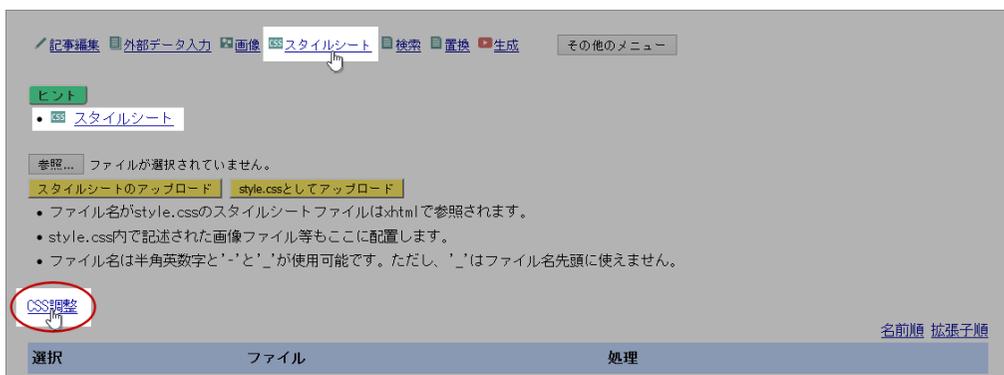


図2 CSSの調整へのリンク

次のCSSテーマの設定変更メニューを表示します。

CSS調整		
設定項目	値	説明
行頭字下げ	あり ▾	
段落間の空き（横書き）	なし ▾	
段落間の空き（縦書き）	なし ▾	
表の罫線	なし ▾	
左寄せ	なし ▾	
タイトルの大きさ	そのまま ▾	

保存

図3 テーマの設定変更

- 1) 段落先頭行の字下げを原稿で行なっているときは、字下げを「なし」に変更します。
- 2) 段落間の空きをあげたいとき、「あり」に変更します。
- 3) 特殊化していない表にも罫線をつけないとき、「あり」にします。
- 4) 段落の揃えを左寄せにしたいとき「あり」にします。
- 5) 見出しの文字サイズを、小さめ、中間、大きめに変更できます。

テーマの設定を変更したら、右上の「保存」をクリックします。すると、設定内容が「スタイルシート」の 'config.css' ファイルとして追加されます。

12.3 レイアウトのカスタマイズ（ユーザー・スタイルシート）

ユーザー・スタイルシートを追加して EPUB のデザインやレイアウトをカスタマイズ できます。

12.3.1 スタイルシートの扱い方

追加するスタイルシートは次のように扱います。

- スタイルシートのファイル名は `style.css` にする必要があります。CSS ファイルをアップロードする際に、ファイル名を `style.css` に変更できます。ご自分の PC で別のファイル名をつけても構いません。
- 符号化方式は UTF-8 にしてください。
- スタイルシートは出版物ごとに用意されるスタイルシートフォルダにアップロードします。
- スタイルシート内で画像を参照している場合は、その画像もスタイルシートフォルダにアップロードしてください。

ユーザー・スタイルシート作成には、<http://www.cas-ub.com/howto/support.html> からダウンロードできる「CSS レイアウトのカスタマイズガイド」を参考にしてください。

12.3.2 段落レイアウトのカスタマイズ

たとえば、「ノーマル明朝」の段落のレイアウトは次のように、字下げ「あり」(`text-indent:1em`) の設定で、段落間の空きは設定されていません。

```
p {
  position: relative;
  padding-left: 0;
  text-indent: 1em;
  line-height: 1.6;
}
```

EPUB3にはナビゲーション文書が必須である。これはHTML5のnav要素を使って作成し、電子書籍リーダーのナビゲーション用のパネルに表示するものである。EPUB2のときはNCX形式で作っていたものの後継であり、論理目次という言い方をすることもある。ここでは、EPUB3のnav形式のファイルを「ナビゲーション文書」という[11]。

一方、本文の見出しを取り出してリストにして並べ、リストの各項目から本文の当該見出しへのリンクを張ったXHTML5文書を作成して、この文書をEPUB3の本文内容文書のひとつとして扱うこともできる。これを「目次文書」という。目次文書はEPUB3リーダーからみたら本文の一部であるが、読者からみたら目次の役割を果たす。このようなものを視覚的な目次という言い方もできるかもしれない[2]。

図4 「ノーマル明朝」の段落レイアウト

段落に字下げをなしを指定し、段落間を空きを入れるには、次のような内容のstyle.cssを用意して、それをスタイルシート・フォルダーにアップロードします。

```
p {
  text-indent: 0;
  margin-top: 0.9em;
}
```

EPUB3にはナビゲーション文書が必須である。これはHTML5のnav要素を使って作成し、電子書籍リーダーのナビゲーション用のパネルに表示するものである。EPUB2のときはNCX形式で作っていたものの後継であり、論理目次という言い方をすることもある。ここでは、EPUB3のnav形式のファイルを「ナビゲーション文書」という[11]。

一方、本文の見出しを取り出してリストにして並べ、リストの各項目から本文の当該見出しへのリンクを張ったXHTML5文書を作成して、この文書をEPUB3の本文内容文書のひとつとして扱うこともできる。これを「目次文書」という。目次文書はEPUB3リーダーからみたら本文の一部であるが、読者からみたら目次の役割を果たす。このようなものを視覚的な目次という言い方もできるかもしれない[2]。

図5 「ノーマル明朝」の段落の字下げと空きを変更

上の字下げの例は、CSSの調整機能を使って調整もできます。詳しくは、12.2 CSSのテー

マの機能と設定変更 (p. 189) を参照してください。

注 意 CAS-UBのテーマで指定している内容を `style.css` の内容で上書きしたり打ち消すことができるかどうかは、CSSのカスケードリング規則によります。一般的には、`style.css` の内容はテーマの記述内容よりも詳しく記述する必要があります。このため、ユーザー・スタイルシートを作成するには、既存のテーマがどのように適用されているかを知っていなければなりません。詳しくは「CSS レイアウトのカスタマイズガイド」を参照してください。

第13章 メルマガ変換

13.1 メルマガEPUB変換機能の利用方法

CAS-UBのメルマガ変換では、メルマガファイルをアップロードしてEPUBに変換します。

自分で作成したメルマガであれば、この機能を使って制作したEPUB3は自由にお使いいただくことができます。(自分以外の作者のメルマガを変換した場合は、私的利用を超える利用は著作権者の許諾が必要です。)

13.1.1 メルマガEPUB変換機能の選択

CAS-UBにログインすると、ユーザー毎のホーム画面を表示します。メルマガ変換機能を使うにはホーム画面上で「メルマガ変換」のボタンをクリックします。



13.1.2 メルマガ変換機能のメニュー

次の画面がメルマガ変換機能のメニューです。この画面で「*」がついている項目は必ず入力してください。

変換設定

オーナー名	m-okawa
出版物識別名 *	<input type="text"/> ← クラウド上のファイル名 CAS-UBシステムで使う名前。6文字以上25文字まで。 1文字目は半角英文字。2文字目からは、半角英文字、半角数字と半角-（ハイフン）。最後は半角英文字か半角数字。
出版物タイトル *	<input type="text"/> ← 出版物の表題に相当 出版物のタイトル、書名。1文字以上100文字まで。
著者名	<input type="text"/>
ISBN	<input type="text"/>
発行所	<input type="checkbox"/>
発行所ロゴ	<input type="button" value="ファイルを選択"/> 選択されていません 発行所ロゴ画像ファイルを指定します。publisherLogo.jpgとして画像フォルダにアップロードされます。 有効な画像の拡張子はjpg、jpegとなります。
メルマガ種別 *	<input type="button" value="メルマガU"/> ← メルマガの種別（テンプレート種類） メルマガの雛形を選択します。自動変換で見出しなどを正しく設定できるためには雛形にそって記述されている必要があります。
CSSテーマ	<input type="button" value="ノーマル明朝 (EPUB3)"/>
iBooks向けメタ情報	<input type="checkbox"/>
メルマガテキスト *	<input type="button" value="ファイルを選択"/> 選択されていません ← メルマガテキスト（ローカル） 変換対象のメルマガテキストファイルを指定します。
カバー画像	<input type="button" value="ファイルを選択"/> 選択されていません EPUBの表紙に使う画像ファイルを指定します。指定がないとき出版物タイトルなどからカバー画像を自動生成します。 有効な画像の拡張子はjpg、jpeg、png、gifとなります。
	<input type="button" value="メルマガをEPUB3に変換"/>

* のついていない項目も、EPUBのメタ情報などに必要なものもありますので、できるだけ入力してください。

- 著者名 : EPUBのメタ情報に入ります。また、タイトルページにも出ます。
- ISBN : EPUBのメタ情報に入ります。
- 発行所 : チェックすると入力欄が出ます。タイトルページに出ます。

発行所	<input checked="" type="checkbox"/> ← チェックすると下の入力欄が出ます
会社名 *	<input type="text"/>
住所 *	<input type="text"/>
電話番号 *	<input type="text"/>

- 発行所ロゴ : タイトルページに出ます。[ファイルを選択]をクリックして、ロゴ画像ファイルを指定してください。
- CSS テーマ : デザインテーマです。好みのものを使ってください。

- iBooks 向けメタ情報 : チェックすると、iBooks で CSS のフォント指定を有効にするためのメタ情報が入ります。
- カバー画像:リーダの書棚アイコンなどに表示される画像を指定します。[ファイルを選択]をクリックして、画像ファイルを指定してください。

メルマガ種別は、現在、次の4つあります。メルマガは作者によって書き方ルールが異なるため、作者毎のルールを選択してください。

- メルマガK
- メルマガH
- メルマガT
- メルマガU

ちなみに、この4つの種別は次の4つの有料メルマガの書き方に対応します。但し、作者が書き方を変えてしまうと、うまく変換できなくなりますので、ご注意ください。現在のところ、次の4種類のメルマガ以外を正しく変換することはできません。

- メルマガK : 小寺信良の「金曜ランチボックス」(「夜間飛行」より配信)
- メルマガH : 『堀江貴文のブログでは言えない話』
- メルマガT : 津田大介の「メディアの現場」
- メルマガU : 内田樹メールマガジン 大人の条件(「夜間飛行」より配信)

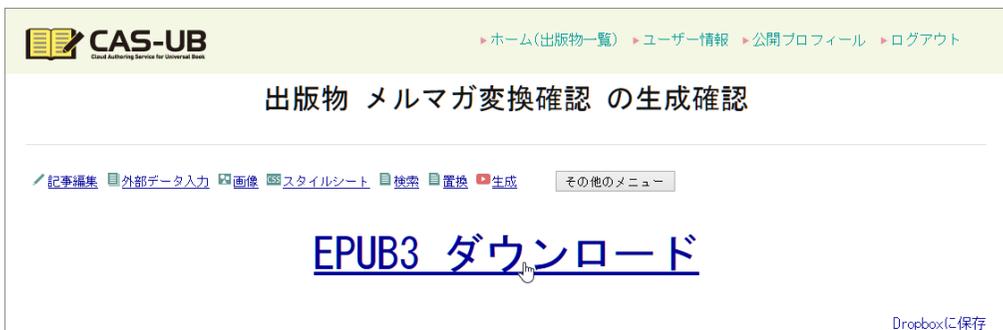
「マグマグ」より配信されているメルマガは、ファイルが分割されていますが、分割されたファイルはヘッダーとフッターを削除して、ひとつのファイルにまとめてからお試ください。

入力すべき項目をすべて入力してから、一番下の「メルマガをEPUBに変換」のボタンをクリックすると、変換が始まります。

変換には30秒~1分程度の時間がかかります。

13.1.3 EPUB3 ダウンロード

変換が完了すると次の画面になります。ブラウザのダウンロード機能を使ってEPUBをダウンロードできます。



13.2 メルマガ変換ルール

CAS-UBのメルマガEPUB変換では、「13.1.2 メルマガ変換機能のメニュー (p. 195)」の説

明にもありますように、メルマガの種別毎に変換ルールを用意しなければなりません。サービス利用してみたいというメルマガ作者の方は、メルマガ変換ルール作成についてご相談ください。

ここでは、サンプルに用意しているテンプレートの変換ルールについて、それぞれ解説します。

13.3 メルマガUテンプレート

☆メルマガUのテンプレートのサンプル兼解説です。

☆メルマガファイルの先頭行に「」で囲った文字列があると、それがメルマガのタイトルと奥付けの見出しとなります。「」で囲った文字がないとタイトルの見出しは「Untitled」となります。

☆ヘッダーページに限り、各行の行末に強制改行が入ります。

```
|メルマガ表題
└─┬───
2012年7月10日号
```

☆ヘッダーページの区切りは「└─┬───」ですが、その次の空行までが表題ページに入ります。

```
ご挨拶
みなさんこんにちは。
```

☆前書ページのタイトルは「はじめに」（固定）となります。

```
いつもメルマガUをお読みいただきありがとうございます。

=====
今週の目次
=====
```

☆目次というキーワードがある行を目次開始行と判断します。目次開始行が目次のタイトルとなります。目次開始行の前後の飾りは削除されます。

☆目次開始行の次の段落を目次の本文とします。

☆目次項目には行頭に番号をつけます。番号は「1、2…」のような半角1桁または「01、02…」のような半角数字2桁とします。

```
01 メルマガUの構成
```

☆目次項目と本文の見出しが一致しているとき、リンクを自動的に設定します。（一致していないときはリンクが設定されません。）

```
02 本文の書き方
```

- 03 小見出しの目印
- 04 その他の目印記号
- 05 最後の記事

☆空の行があるとそこで目次の終わりと見なします。

☆この行は、空行があるため、目次ページではなく、前書ページの一部となります。

01 | メルマガUの構成

メルマガUは先頭からタイトルページ、前書、目次ページ、本文（複数の記事）、フッターページから構成されます。

EPUBに変換するとき、タイトルページ、前書、目次ページ、本文記事単位、ヘッダーページでファイルを分割します。

目次ページの開始目印は「目次」というキーワード、本文記事の分割目印は、次のような飾りです。

02 | 本文の書き方

☆記事の見出し（大見出し）の前後で改行します。大見出しは、上のような形式になっていることを想定しています。

■段落区切り

行頭が改行の行を空行と言います。行と行の間に一つ以上の空行を置くと段落の区切りとなります。前の行との間に空行のない行の扱いは次のようになります。

- (1) 前の行が半角66文字以上の長さがあると、前の行とつながります。
- (2) 前の行がそれより短いとき前の行の最後に強制改行が入ります。

☆タイトルページでは例外です。各行の行末に強制改行が入ります。

■段落間の空き

段落間の空行はEPUBのメルマガ標準スタイルシートでは段落間の空きとして設定しています。

■行頭の字下げ

EPUBのメルマガ標準スタイルシートは段落先頭の字下げは「なし」の設定になっています。段落先頭の字下げは、テキストに「」（全角空白）を入力して行なってください。

☆特定の記号を小見出しのための目印として使うことができます。

☆小見出しの前には空行が必要です。また、記事の終わりの区切りまでに文章があるときに限り、小見出しとなります。

■見出し 1

行頭が■で始まる行は見出しになります。

第1回<のれん>

上のような「第+数字+回<テキスト>」形式の行も小見出しになります。

■URLの扱い

・画像、外部リンクともリンクを設定します。

○画像

<http://www.cas-ub.com/user/img/regist-here.png>

<http://www.cas-ub.com/project/cover/cover-150.jpg>

○外部リンク

<http://www.cas-ub.com>

■簡条書き

簡条書きはありません。

■区切り線

2種類の区切り線を使うことができます。

1. "—" 細い罫線 (U+2500)
2. "—" ダッシュ (U+2015)

1.

2.

■最後の記事の小見出し

☆メルマガUの「フッター（奥付け）」開始は次の形式の罫線行です。

★

メルマガフッターには、「メルマガタイトル（奥付け）」を設定します。

メルマガの終わり

13.4 メルマガKテンプレート

メルマガKテンプレート

☆メルマガKのテンプレートのサンプル兼解説です。

☆メルマガGファイルの先頭行に「」で囲った文字列があると、それがメルマガのタイトルと奥付けの見出しとなります。「」で囲った文字がないとタイトルの見出しは「Untitled」となります。

☆ヘッダーページに限り、各行の行末に強制改行が入ります。

|メルマガヘッダー

└□——

2012年7月10日号

☆ヘッダーページの区切りは「└□——」ですが、その次の空行までが表題ページに入ります。

ご挨拶

みなさんこんにちは。

いつもメルマガKをお読みいただきありがとうございます。

☆前書ページのタイトルは「はじめに」（固定）となります。

今週の目次

☆目次というキーワードがある行を目次開始と判断します。目次開始行は目次のタイトルとなります。

☆目次開始行の次の段落を目次の本文とします。

☆目次項目には行頭に番号をつけます。番号は「1、2・・・」のような半角1桁または「01、

02…」のような半角数字2桁とします。

01 メルマガKの構成

☆目次項目と本文の見出しが一致しているとき、リンクを自動的に設定します。(一致していないときはリンクが設定されません。)

02 本文の書き方

03 見出しの目印

04 その他の目印記号

05 最後の記事

☆空の行があるとそこで目次の終わりで見なします。

☆この行は、空行があるため、目次ページではなく、前書ページの一部となります。

01 | メルマガKの構成

メルマガKは先頭からヘッダーページ、前書、目次ページ、本文（複数の記事）、フッターページから構成されます。

EPUBに変換するとき、ヘッダーページ、前書、目次ページ、本文記事単位、フッターページでファイルを分割します。

目次ページの開始目印は「目次」というキーワード、本文記事の分割目印は、下のような飾りです。

02 | 本文の書き方

☆記事の見出し（大見出し）の前後で改行します。大見出しは、数字の後ろに改行以外の文字が必要です。該当する大見出しがないとき「Untitled」となります。

■段落区切り

行頭が改行の行を空行と言います。行と行の間に一つ以上の空行を置くと段落の区切りとなります。前の行との間に空行のない行の扱いは次のようになります。

(1) 前の行が半角66文字以上の長さがあると、前の行とつながります。

(2) 前の行がそれより短いとき前の行の最後に強制改行が入ります。

☆タイトルページでは例外です。各行の行末に強制改行が入ります。

■段落間の空き

段落間の空行はEPUBのメルマガ標準スタイルシートでは段落間の空きとして設定しています。

■行頭の下下げ

EPUBのメルマガ標準スタイルシートは段落先頭の下下げは「なし」の設定になっています。段落先頭の下下げは、テキストに「」（全角空白）を入力して行なってください。

03 | 見出しの目印

メルマガK独自の中見出し 記述方式

☆行の上下に下線 (U+FF3F)、上線 (U+FFE3) のある行はメルマガK独自の中見出しとなります。中見出しは、EPUB3の目次に入ります。また、見出し番号がつきます。

☆特定の記号を小見出しのための目印として使うことができます。

■小見出し1

行頭が■で始まる行は小見出しになります。

☆小見出しの前には空行が必要です。また、記事の終わりの区切りまでに文章があるときに限り、小見出しとなります。

04 | その他の目印記号

■URLの扱い

- ・画像（拡張子：png、jpg）へのリンクは、画像のダウンロードが許可されているとき画像を取り込みます。
- ・画像以外はリンクを設定します。短縮リンクは内容を見ません。

○画像

<http://www.cas-ub.com/user/img/regist-here.png>

<http://www.cas-ub.com/project/cover/cover-150.jpg>

○外部リンク

<http://www.cas-ub.com>

■箇条書き

箇条書きはありません。

■区切り線

2種類の区切り線を使うことができます。

1. "—" 細い罫線 (U+2500)
2. "＝" 等号 (U+003D)

1.

2.

05 | 最後の記事

最後の記事の本文です。

☆メルマガKの「フッター（奥付け）」開始は「——」（細い罫線）行です。

メルマガフッターには、「メルマガタイトル（奥付け）」を設定します。

メルマガの終わり

13.5 メルマガTテンプレート

☆メルマガTのテンプレートのサンプル兼解説です。

☆メルマガファイルの先頭行に「」で囲った文字列があると、それがメルマガのタイトルと奥付けの見出しとなります。「」で囲った文字がないとタイトルの見出しは「Untitled」となります。

☆ヘッダーページでは各行の行末に強制改行を設定します。

☆メルマガTには前書ページはありません。

目次

☆目次というキーワードがある行がヘッダーページの終わりとなり、目次開始と判断します。目次開始行はそのまま、目次ページのタイトルとなります。

1. メルマガTの構成

2. 本文の書き方

☆目次項目には行頭に番号をつけます。番号は「1.」のように半角数字とピリオドで区切ります。

☆目次項目と本文の見出しが一致しているとき、リンクを自動的に設定します。（一致していないときはリンクが設定されません。）

- 3. 小見出しの目印
- 4. その他の目印記号
- 5. 最後の記事

☆目次の最後には改行を入れます。記事の見出しの前の行には罫線行（「一」）と改行を置きます。区切り目印でメルマガを記事単位に分割します。

☆ダッシュ（「一」 U+2015）が目次の最後（最初の章）の区切り目印です。

1. メルマガTの構成

メルマガTは先頭からヘッダーページ、目次ページ、本文（複数の記事）から構成されます。

EPUBに変換するとき、ヘッダーページ、目次ページ、本文は記事単位に分割します。

目次ページの開始目印は「目次」というキーワード、本文記事の分割目印はダッシュ「一」（U+2015）または細罫線「一」（U+2500）とそれに続く改行です。

2. 本文の書き方

☆記事の見出し（大見出し）の前後で改行します。大見出しは、数字とピリオドで開始していなければなりません。該当する大見出しがないとき見出しが「Untitled」となります。

■段落の区切り■

行頭が改行の行を空行と言います。行と行の間に一つ以上の空行を置くと段落の区切りとなります。前の行との間に空行のない行の扱いは次のようになります。

- (1) 前の行が半角68文字以上の長さがあると、前の行とつながります。
- (2) 前の行がそれより短いとき前の行の最後に強制改行が入ります。

☆タイトルページでは例外です。各行の行末に強制改行が入ります。

■段落間の空き■

段落間の空行はEPUBのメルマガ標準スタイルシートでは段落間の空きとして設定しています。

■行頭の字下げ■

EPUBのメルマガ標準スタイルシートは段落先頭の字下げは「なし」の設定になっています。段落先頭の字下げは、テキストに「」（全角空白）を入力して行なってください。

☆各章の最後は、ダッシュ（「`—`」 U+2015）または細罫線（「`—`」 U+2500）で区切ります。章の区切りは削除されます。

3. 小見出しの目印

特定の記号を小見出しのための目印として使うことができます。

☆見出しの前には空行が必要です。また、記事の終わりの区切りまでに文章があるときに限り、見出しとなります。

■見出し 1 ■

行頭と行末を■で囲った行は見出しになります。

■Q1

行頭の「■」から「Q」と「数字」まで小見出しとなります。

□A1

行頭の「□」と「A」と「数字」まで小見出しとなります。

▼人名

行頭の「▼」は人名を見出しにすることを意味します。著者プロフィールなどに使います。

===見出し 2===

見出し 2の本文です。

==見出し 3==

【TV ラジオ】

★NHK 明日の明かり（再放送）

<見出し 4>

行頭の「<」と行末の「>」で囲った範囲が見出しとなります。

4. その他の目印記号

< URL の扱い >

◆箇条書き3

行頭の「・」を箇条書き項目の目印と見なします。

・ 箇条書き

・ 箇条書き2

・ 箇条書き3

★最初の箇条書きと二つ目の箇条書きの違いは？

【区切り線】

ハイフンの連続は区切り線と見なします。

1.

2.

3.

【罫線】

最後の記事の次にできた細い罫線「—」の位置から後ろをメルマガの奥付け（フッター）とします。奥付けのタイトルは、メルマガの先頭行の「」で括った文字列となります。

1. 細い罫線（「—」）

2. 太い罫線（「—」）

=====

メルマガの終わり

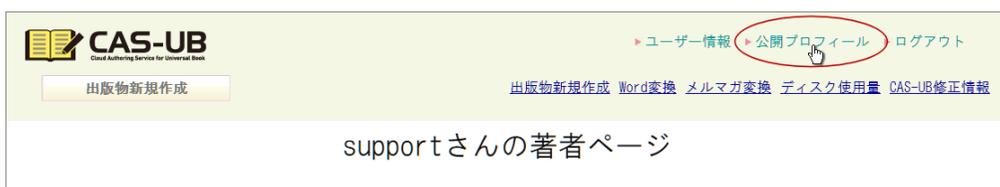
第14章 その他の情報・設定など

14.1 公開プロフィール

出版物に記載するプロフィールを「公開プロフィール」に登録しておくことで、出版物毎にプロフィールを入力する手間を軽減できます。

14.1.1 公開プロフィールの登録

登録は、画面右上にある「公開プロフィール」をクリックしてください。



プロフィールを入力したら、[保存] ボタンをクリックしてください。



The screenshot shows the '公開用プロフィール編集' (Edit Public Profile) form. The title is '公開用プロフィール編集'. Below the title, there is a description: '著書に掲載する公開用のプロフィール情報を編集します。' (Edit the public profile information to be published in the book). The form contains several input fields: '名前 (ペンネーム)' with the value 'support', 'フリガナ' with the value 'サポート', 'プロフィール (800文字まで)' with the value 'CAS-UBのユーザーサポート担当', '所属・肩書き' with the value 'CAS-UBチーム', and '公開する連絡先 (メールアドレス、電話、住所など)' with the value 'cas-support@antenna.co.jp'. At the bottom right, there is a '保存' (Save) button.

14.1.2 公開プロフィールの参照

登録した公開プロフィールは、書誌編集画面の 3.22.3 プロフィール (p. 51) の入力時に参照できます。

また、他の人がオーナーの出版物の編集チームに入っているときは、編集チームに入っている出版物の「書誌情報」からも参照されます。

公開プロフィールの参照は、書誌編集画面の「3.22.3 プロフィール (p. 51)」で、著者などのプロフィール追加時に [チームメンバーの公開プロフィールをコピー] ボタンをクリックしてください。

出版物プロフィール編集トップ

著者

名前(ペンネーム)	フリガナ	プロフィール	所属・肩書き	連絡先	処理
追加					
チームメンバーの公開プロフィールをコピーする					
戻る					

公開プロフィールが登録されている、執筆チームメンバーは、ユーザー名の左にチェックボックスが出ますので、公開プロフィールをコピーしたいメンバーをチェックしてから [コピー] ボタンをクリックすると、プロフィールがコピーされます。

チームメンバーの公開プロフィールのコピー

コピーするチームメンバーを選んでください。

	ユーザー名	名前	プロフィール
<input checked="" type="checkbox"/>	seminar01	seminar01	CAS-UBトレーニングセミナー担当
<input checked="" type="checkbox"/>	support	supprt	CAS-UBのユーザーサポート担当

公開プロフィールをコピーしたいメンバーにチェックを付けて [コピー] をクリック

コピー

戻る

プロフィール

ここに指定したものを表紙や奥付に出力します。

すでにある出版物からプロフィールをコピーする

著者

名前(ペンネーム)	プロフィール	所属・肩書き	連絡先	編集
seminar01	CAS-UBトレーニングセミナー担当	CAS-UBチーム		
supprt	CAS-UBのユーザーサポート担当	CAS-UBチーム	cas-support@antenna.co.jp	

14.2 出版物のオーナー

出版物を新規に作成すると、作成者が、その出版物のオーナーとなります。

以下の操作は、出版物のオーナーだけが行えます。

- 「書誌情報」の入力・修正 (p. 49)
- オーナー変更 (p. 215)

- タイムゾーンの変更 (p. 215)
- 執筆チームメンバーの追加・削除 (p. 216)
- 出版物のバックアップ (p. 86)・リストア (p. 87)

14.2.1 オーナー変更

他のCASユーザーを、出版物のオーナーにします。

オーナーを変更したい出版物の書誌編集画面でオーナー名（あなたのユーザー名が表示されています）の右にある[オーナー変更]ボタンをクリックすると、出版物オーナー変更画面に移ります。



書誌情報

*がついている項目は必須の項目です。

全般

オーナー名 support オーナー変更

出版物オーナー変更

旧オーナー名 support

新オーナー名

変更

[戻る](#)

新オーナー名の欄に、新オーナーのユーザー名を入力して[変更]ボタンをクリックすると、その出版物のオーナーが変更されて書誌編集画面に戻ります。既にあなたは、その出版物のオーナーではないので[オーナー変更]ボタンは表示されませんし、書誌情報の入力・修正はできなくなっています。

14.2.2 タイムゾーン

タイムゾーンは、日本の場合、GMT+9 を指定してください。

タイムゾーンの変更は、書誌編集画面に入り、一般の最後にあるタイムゾーンのドロップダウンから選択します。書誌編集画面の下端にある[保存]ボタンをクリックすると、変更が保存されます。

キーワード

100文字まで。

タイムゾーン GMT+9

例 日本標準時は、GMT+9。アメリカ東部標準時は、GMT-5。

執筆チームメンバー

すでにある出版物からチームメンバーをコピーする

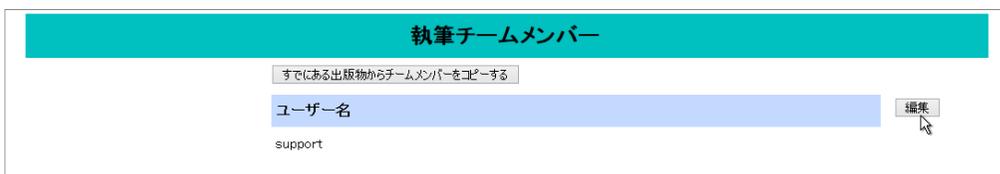
関連 3.22 表紙と奥付に使われる項目の入力 (p. 49)、14.3 執筆チームメンバー

14.3 執筆チームメンバー

CAS-UBでは、ひとつの出版物を、複数の著者や編集者によって制作できます。

複数で出版物を制作するときは、出版物のオーナー（p. 214）が、他のメンバーを執筆チームメンバーに追加してください。

執筆チームメンバーの追加は、表紙と奥付に使われる項目の入力画面（p. 49）の「執筆チームメンバー」で、ユーザー名という表示の右にある[編集]ボタンをクリックしてください、チームメンバー編集画面に移ります。



追加したいユーザー名の欄にユーザー名を入力して[追加]ボタンをクリックすると、そのユーザー名が執筆チームメンバーに追加されます。

通知:

- チームメンバーを追加しました。

チームメンバー編集トップ

ユーザー名	名前	メール	許可	処理
support	supprt	support@antenna.jp	LEGS	編集 削除
support01	不明	cas-support01@antenna.co.jp	LEGS	編集 削除

パーミッション:
L: チームメンバーリストに出す E: 編集可能 G: 生成可能 S: 生成の設定可能

執筆チームメンバーを削除したいときは、ユーザー名の右にある **削除** をクリックしてください。

また、執筆チームメンバーの権限を制限ができます。ユーザー名の右にある **編集** をクリックすると、チームメンバー編集画面に移ります。

チームメンバー編集

support01

- チームメンバーリストに出す
- 編集可能
- 生成可能
 - 生成の設定が可能

[戻る](#)

- チームメンバーリストに出す：チェックを外すと、オーナー以外は、この人がメンバーであることを確認できなくなります。
- 編集可能：チェックを外すと、記事を編集する権限がなくなります。
- 生成可能：チェックを外すと、PDFやEPUBを生成する権限がなくなります。
- 生成の設定が可能：チェックを外すと、PDFやEPUBの生成で、設定を変更する権限がなくなります。

権限を変更したら、[保存] ボタンをクリックしてください。チームメンバー編集画面に戻ります。

関連 3.22 表紙と奥付に使われる項目の入力 (p. 49)、14.2 出版物のオーナー (p. 214)

14.4 他の出版物の設定をコピーする

出版物新規作成 (p. 20) で、作成方法に「他の出版物の設定をコピーする」「他の出版物の設定と内容をコピーする」を指定したとき、次の設定が「設定コピー元出版物」からコピ

一されます。

- 出版物の種類
- 内容表示のテーマ (p. 37)
- 書誌情報 (p. 49) : 「オーナー名」「出版物識別名」「出版物タイトル」を除く、すべての設定。
- 生成 (p. 58) : 生成のすべての条件設定

14.5 記事のファイル名

記事のファイル名は、記事の追加 (p. 28) 時の日時から自動的に設定されますが、変更もできます。

ファイル名には、半角英数字と '-' だけが使用できます。

また、自動生成される記事で使用されるファイル名は指定できません。

14.5.1 使用できないファイル名

- publ
- publ-index
- opening
- cover
- nav
- toc
- ml toc
- loft
- copyright
- xnotes
- references

14.6 SVG 記事

EPUB3 では、XHTML と同様に SVG ファイルをひとつのページとして入れることができます。これを使うと、全画面をひとつの SVG 画像で表すことができます。CAS-UB では、SVG 記事でこれに対応しています。

SVG 記事は、通常の記事と同様に、記事編集画面 (p. 23) から作成できます。

SVG ファイルは、画像画面でアップロードしたものを使うか、SVG 記事の作成時にアップロードできます。SVG 記事の作成時にアップロードした SVG ファイルは画像画面には登録されませんので、SVG 画像を他の記事でも利用するときは、画像画面にアップロードしてから SVG 記事を作成してください。

SVG 記事のタイトルは本文には表示されませんが、目次に出すことはできます。SVG 記事のタイトルを目次に出したいときは、記事編集画面で、画面下側にある「タイトルを目次に出

力する」をチェックして[保存]ボタンをクリックしてください。

- 注 意
- SVG記事が表示できるかどうかはリーダーに依存します。
 - SVG記事は、EPUB3以外では、生成時にXHTMLを被せて出力します。

14.7 参考文献の自動生成

CAS-UBでは、bibファイルから参考文献の一覧を自動生成できます。

14.7.1 bibファイルの登録

bibファイルは、参考文献画面でアップロードしてください。



bibファイル内容は、PDFやEPUBの生成時に「参考文献」のページとして自動生成され、参考文献データはbibファイル内の登録順に出力されます。

bibファイルを複数アップロードしたときは、参考文献画面での登録順に出力されます。

14.7.2 出力される参考文献データの項目

参考文献データを構成する項目をフィールドと呼びます。bibファイルのフィールドの順序によらず、CAS-UBでは次の順序で出力します。現在、ユーザーによる順序変更の機能はありません。また、ここに書かれていないフィールドは出力されませんが、カスタマイズは可能ですので、お問い合わせください。

(1) 和書の場合（日本語用の出版物の種類を使用したとき）

author editor 編 「title」 『journal』 『booktitle』 publisher year 年 month 月 pages
和書ではフィールド間を空白で区切ります。

出版物の言語に関係なく常に和書の配置にしたいときは、lang フィールドを追加して、lang = {ja} としてください。

(2) 洋書の場合（英語用の出版物の種類を使用したとき）

author. editor ed. "title." journal. booktitle. address: publisher. month year. pages.

※ month は数字ではなく、文字列の短縮形で表します。

洋書ではフィールド間の区切りに'.+空白'を置きます。

出版物の言語に関係なく常に洋書の配置にしたいときは、lang フィールドを追加して、lang = {en} としてください。

14.7.3 参考文献のレイアウト

EPUBで参考文献のレイアウトを変更する場合、下記をふまえてCSSを作成してください。

- 参考文献の記事は、XHTMLのbody要素のclass属性の値（クラス名）に、references が設定されます。

例：<body class="wrapper references">

- 参考文献の一覧は、番号なし箇条書きとしています。
- li 要素の class 属性の値に、bib-entry が設定されます。

例：

<li class="bib-entry" id="u.references.antenna2013.r">

- 各フィールドデータは、span 要素の class 属性の値に 'bib-value-' + フィールド名' が設定されます。

例：

author フィールドの場合、

アンテナハウス

14.7.4 参考文献の参照

参考文献画面で、bib ファイルをアップロードしておく、ID 参照 (p. 158) で、参考文献の ID が一覧されます。本文から参考文献を参照するときは、ID 参照で参照したい参考文献の ID を選んで CAS 記法を取り込んでください。

参考資料：bib ファイル、bib 参考文献データの作り方

14.8 数式の記述

数式の表現には、MathML、LaTeX(AMSLaTeX) を使えます。

14.8.1 MathML

- \$\$~\$\$ の間に置くことができる <math> 要素はひとつだけです。<math> 要素が二つ以上あるとエラーになります。
- <math> 要素には名前空間を設定してください。名前空間を設定しないと EPUBCheck でエラーになります。

名前空間設定例

```
<math xmlns="http://www.w3.org/1998/Math/MathML">
```

14.8.2 LaTeX

- LaTeX にはドキュメントを記述する命令があります。しかし、CAS-UB では数式モードの中でドキュメント本文に属するテキストを入力しても命令としては扱われません。数式の途中でテキストを入力するときは、数式モードをいったん終了してからテキストを入力し、再び数式モードに切り替えて数式を入力しなければなりません。
- CAS-UB は、PDF と EPUB3 生成時に LaTeX コマンドを MathML に変換します。変換ができる LaTeX のコマンドは付録の「数式リファレンス」を参照してください。

14.9 EPUB3 の目次

EPUB3 には、次の目次を入れることができます。

- nav

リーディングシステムでナビゲーションに使われる目次で、EPUB3 には必須です。nav には論理目次とランドマークを入れることができます。

 - 論理目次 : 章や節などのタイトルと見出しで構成された目次です。
 - ランドマーク : 表紙や目次、索引など大まかなパートのみで構成されます。
- EPUB2 と互換の目次

リーディングシステムによっては、EPUB2 と互換の目次 (NCX 形式) を必要とするものがあるため、含めてもよいことになっています。内容は nav の論理目次と同様の構成となります。
- 本文の目次

通常の記事と同様に本文の一部として表示する目次です。CAS-UB で自動生成しますが、通常の記事と同様に手作業で作成もできます。

自動生成の場合は、nav の論理目次とは別に目次を生成するレベルを指定できます。手作業で作成した目次には記事の種類に「ユーザー作成目次」を指定してください。ユーザー作成目次があると自動生成しません。

関 連 3.25 EPUB の生成設定 (p. 60)

14.10 自動生成記事のタイトル変更

自動生成の記事のタイトルは、表紙／タイトルページ以外の記事のタイトルを任意に指定できます。

出版物設定⇒自動生成記事のタイトル設定の各記事の種類でタイトルに表示するテキストを入力してください。

- 目次
- 索引
- 図表一覧
- 図表一覧 図一覧
- 図表一覧 表一覧
- 巻末注釈
- 参考文献

の入力枠に任意のタイトルを入力します。

付録：数式リファレンス

Symbols & Environments

- %
- &
- ^
- _
- {
- }
- ~
- ¥!
- ¥#
- ¥\$
- ¥%
- ¥;
- ¥,
- ¥
- ¥&
- ¥,
- ¥:
- ¥>
- ¥¥
- ¥_
- ¥{
- ¥|
- ¥}
- align
- align*
- array
- Bmatrix
- bmatrix
- cases
- eqnarray
- eqnarray*
- matrix
- pmatrix

- smallmatrix
- subarray
- Vmatrix
- vmatrix

A

- ¥above
- ¥abovewithdelims
- ¥acute
- ¥aleph
- ¥alpha
- ¥amalg
- ¥And
- ¥angle
- ¥approx
- ¥approxeq
- ¥arccos
- ¥arcsin
- ¥arctan
- ¥arg
- ¥array
- ¥Arrowvert
- ¥arrowvert
- ¥ast
- ¥asympt
- ¥atop
- ¥atopwithdelims

B

- ¥backepsilon
- ¥backprime
- ¥backsim
- ¥backsimeq
- ¥backslash

- \backslash
- $\bar{}$
- $\bar{\wedge}$
- \Bbb
- \Bbbk
- \because
- \begin
- β
- \beth
- \between
- \bigcap
- \bigcirc
- \bigcup
- \Bigl
- \bigl
- \Biggr
- \biggr
- \Bigl
- \bigl
- \bigodot
- \bigoplus
- \bigotimes
- \Bigr
- \bigr
- \bigsqcup
- \bigstar
- \bigtriangledown
- \bigtriangleup
- \biguplus
- \bigvee
- \bigwedge
- $\binom{}{}$
- \blacklozenge
- \blacksquare
- \blacktriangle
- \blacktriangledown
- \blacktriangleleft
- \blacktriangleright
- \bmod

- $\boldsymbol{}$
- $\boxed{}$
- \bot
- \bowtie
- \Box
- \boxdot
- \boxminus
- \boxplus
- \boxtimes
- \brace
- \bracevert
- \brack
- \breve
- \bullet
- \Bumpeq
- \bumpeq

C

- \cal
- \Cap
- \cap
- $\cases{}$
- \cdot
- \cdots
- \centerdot
- \checkmark
- \checkmarkmark
- χ
- \choose
- \circledR
- \circ
- \circlearrowleft
- \circlearrowright
- \circledast
- \circledcirc
- \circleddash
- \circledS

- \forallclubsuit
- \forallcolon
- \forallcomplement
- \forallcong
- \forallcoprod
- \forallcos
- \forallcosh
- \forallcot
- \forallcoth
- \forallcr
- \forallcsc
- \forallcup
- \forallCup
- \forallcurlyeqprec
- \forallcurlyeqsucc
- \forallcurlyvee
- \forallcurlywedge
- \forallcurvearrowleft
- \forallcurvearrowright

D

- \foralldagger
- \foralldaleth
- \foralldashleftarrow
- \foralldashrightarrow
- \foralldashv
- \foralldbinom
- \forallddagger
- \forallddot
- \foralldddots
- \forallddot
- \forallddots
- \foralldeg
- \forallDelta
- \foralldelta
- \foralldet
- \foralldiagdown
- \foralldiagup

- \foralldiamond
- \forallDiamond
- \foralldiamondsuit
- \foralldigamma
- \foralldim
- \foralldisplaylines
- \foralldiv
- \foralldivideontimes
- \foralldot
- \forallDoteq
- \foralldoteq
- \foralldoteqdot
- \foralldotplus
- \foralldots
- \foralldotsb
- \foralldotsc
- \foralldotsi
- \foralldotsm
- \foralldotso
- \foralldoublebarwedge
- \foralldoublecap
- \foralldoublecup
- \foralldownharpoonright
- \forallDownarrow
- \foralldownarrow
- $\foralldownarrowdownarrow$
- \foralldownharpoonleft

E

- \forallell
- \forallemptyset
- \forallend
- \forallenspace
- \forallepsilon
- \foralleqalign
- \foralleqalignno
- \foralleqcirc
- \foralleqsim

- \forall eqslantgtr
- \forall eqslantless
- \forall equiv
- \forall eta
- \forall eth
- \forall exists
- \forall exp

- \forall gt
- \forall gtrapprox
- \forall gtrdot
- \forall gtreqless
- \forall gtreqqless
- \forall gtrless
- \forall gtrsim
- \forall gvertneqq

F

- \forall fallingdotseq
- \forall fbbox
- \forall Finv
- \forall flat
- \forall forall
- \forall frac
- \forall frac
- \forall frak
- \forall frown

G

- \forall Game
- \forall Gamma
- \forall gamma
- \forall gcd
- \forall ge
- \forall geq
- \forall geqq
- \forall geqslant
- \forall gets
- \forall gg
- \forall ggg
- \forall gimel
- \forall gnapprox
- \forall gneq
- \forall gneqq
- \forall gnsim
- \forall grave

H

- \forall hat
- \forall hbar
- \forall hbox
- \forall hdashline
- \forall heartsuit
- \forall hline
- \forall hom
- \forall hookleftarrow
- \forall hookrightarrow
- \forall hphantom
- \forall href
- \forall hskip
- \forall hslash
- \forall hspace

I

- \forall idotsint
- \forall iff
- \forall iiiint
- \forall iiint
- \forall iint
- \forall Im
- \forall imath
- \forall impliedby
- \forall implies
- \forall in
- \forall inf

- ∞
- \inftyjlim
- \int
- \intintercal
- \intintop
- \intiota

J

- \intjmath
- \intJoin

K

- \intkappa
- \intker
- \intkern

L

- \intLambda
- \intlambda
- \intland
- \intlangle
- \intlbrace
- \intlbrack
- \intlceil
- \intldotp
- \intldots
- \intle
- \intleadsto
- \intleft
- \intLeftarrow
- \intleftarrow
- \intleftarrowtail
- \intlefttharpoondown
- \intlefttharpoonup
- \intleftleftarrows
- \intLeftrightarrow

- $\intleftrightharpoonrightarrow$
- \intleftrightharpoons
- $\intleftrightharpoonspoons$
- \intleftrightsquigarrow
- \intleftthreetimes
- \intleq
- \intleqq
- \intleqslant
- \intlessapprox
- \intlessdot
- \intlesseqgtr
- \intlesseqqgtr
- \intlessgtr
- \intlesssim
- \intlfloor
- \intlg
- \intlgroup
- \intlhd
- \intlim
- \intliminf
- \intlimsup
- \intll
- \intllcorner
- \intLleftarrow
- \intlll
- \intlmoustache
- \intln
- \intlnapprox
- \intlneq
- \intlneqq
- \intlnot
- \intlnsim
- \intlog
- \intLongleftarrow
- \intlongleftarrow
- \intLongleftrightarrow
- \intlongleftrightarrow
- \intlongmapsto
- \intLongrightarrow

- $\forall\text{longrightarrow}$
- $\forall\text{looparrowleft}$
- $\forall\text{looparrowright}$
- $\forall\text{lor}$
- $\forall\text{lozenge}$
- $\forall\text{lrcorner}$
- $\forall\text{Lsh}$
- $\forall\text{lt}$
- $\forall\text{ltimes}$
- $\forall\text{lVert}$
- $\forall\text{lvert}$
- $\forall\text{lvertneqq}$
- $\forall\text{llless}$

M

- $\forall\text{maltese}$
- $\forall\text{mapsto}$
- $\forall\text{mathbb}$
- $\forall\text{mathbf}$
- $\forall\text{mathcal}$
- $\forall\text{mathfrak}$
- $\forall\text{matrix}$
- $\forall\text{max}$
- $\forall\text{mbox}$
- $\forall\text{measuredangle}$
- $\forall\text{mho}$
- $\forall\text{mid}$
- $\forall\text{min}$
- $\forall\text{mkern}$
- $\forall\text{mod}$
- $\forall\text{models}$
- $\forall\text{mp}$
- $\forall\text{mskip}$
- $\forall\text{mspace}$
- $\forall\text{mu}$
- $\forall\text{multimap}$

N

- $\forall\text{nabla}$
- $\forall\text{natural}$
- $\forall\text{ncong}$
- $\forall\text{ne}$
- $\forall\text{nearrow}$
- $\forall\text{neg}$
- $\forall\text{neq}$
- $\forall\text{newline}$
- $\forall\text{nexists}$
- $\forall\text{ngeq}$
- $\forall\text{ngeqq}$
- $\forall\text{ngeqslant}$
- $\forall\text{ngtr}$
- $\forall\text{ni}$
- $\forall\text{nLeftarrow}$
- $\forall\text{nleftarrow}$
- $\forall\text{nLeftrightarrow}$
- $\forall\text{nleftrightarrow}$
- $\forall\text{nleq}$
- $\forall\text{nleqq}$
- $\forall\text{nleqslant}$
- $\forall\text{nless}$
- $\forall\text{nmid}$
- $\forall\text{not}$
- $\forall\text{notin}$
- $\forall\text{nparallel}$
- $\forall\text{nprec}$
- $\forall\text{npreceq}$
- $\forall\text{nrightarrow}$
- $\forall\text{nrightarrow}$
- $\forall\text{nshortparallel}$
- $\forall\text{nshortmid}$
- $\forall\text{nsim}$
- $\forall\text{nsubseteq}$
- $\forall\text{nsupseteq}$
- $\forall\text{nsubseteqq}$
- $\forall\text{nsucc}$

- \nexists

O

- \odot
- \oint
- Ω
- ω
- \ominus
- \oplus
- \oslash
- \otimes
- $\overline{}$
- $\overbrace{}$
- $\overleftarrow{}$
- $\overrightarrow{}$
- $\overset{}{}$
- $\overwithdelims{}{}$
- \owns

P

- \parallel
- ∂
- \perp
-
- Φ

- ϕ
- Π
- π
- \pitchfork
- \pm
- $\pmod{}$
- $\pmod{}$
- \Pr
- \prec
- \preccurlyeq
- \preceq
- \preceq
- \precnsim
- \precsim
- \prime
- \prod
- projlim
- \propto
- Ψ
- ψ

R

- \rangle
- \rbrace
- \rbrack
- \rceil
- \Re
- \rfloor
- rgroup
- \rhd
- ρ
- \right
- \rightarrow
- \rightarrowtail
- \rightharpoonup
- \rightharpoonup

- \mathbb{R} rightleftarrows
- \mathbb{R} rightleftharpoons
- \mathbb{R} rightleftharpoons
- \mathbb{R} rightrightarrow
- \mathbb{R} rightsquigarrow
- \mathbb{R} rightthreetimes
- \mathbb{R} risingdotseq
- \mathbb{R} rmoustache
- \mathbb{R} Rrightarrow
- \mathbb{R} Rsh
- \mathbb{R} rtimes
- \mathbb{R} rVert
- \mathbb{R} rvert

S

- \mathbb{S}
- \mathbb{S} earrow
- \mathbb{S} ec
- \mathbb{S} etminus
- \mathbb{S} sharp
- \mathbb{S} shortmid
- \mathbb{S} shortparallel
- \mathbb{S} igma
- \mathbb{S} igma
- \mathbb{S} im
- \mathbb{S} imeq
- \mathbb{S} in
- \mathbb{S} inh
- \mathbb{S} mallfrown
- \mathbb{S} mallint
- \mathbb{S} mallsetminus
- \mathbb{S} mallsmile
- \mathbb{S} mile
- \mathbb{S} padesuit
- \mathbb{S} sphericalangle
- \mathbb{S} sqcap
- \mathbb{S} sqcup
- \mathbb{S} qrt

- \mathbb{S} qsubset
- \mathbb{S} qsubseteq
- \mathbb{S} qsupset
- \mathbb{S} qsupseteq
- \mathbb{S} quare
- \mathbb{S} tar
- \mathbb{S} ubset
- \mathbb{S} ubset
- \mathbb{S} ubseteq
- \mathbb{S} ubseteqq
- \mathbb{S} ubsetneq
- \mathbb{S} ubsetneqq
- \mathbb{S} ucc
- \mathbb{S} uccapprox
- \mathbb{S} ucccurlyeq
- \mathbb{S} ucceq
- \mathbb{S} uccnapprox
- \mathbb{S} uccnsim
- \mathbb{S} uccsim
- \mathbb{S} um
- \mathbb{S} up
- \mathbb{S} upset
- \mathbb{S} upset
- \mathbb{S} upseteq
- \mathbb{S} upseteqq
- \mathbb{S} upsetneq
- \mathbb{S} upsetneqq
- \mathbb{S} urd
- \mathbb{S} warrow

T

- \mathbb{T} ag
- \mathbb{T} an
- \mathbb{T} anh
- \mathbb{T} au
- \mathbb{T} binom
- \mathbb{T} ext
- \mathbb{T} herefore

- Υ Theta
- Υ theta
- Υ thickapprox
- Υ thicksim
- Υ thinspace
- Υ tilde
- Υ times
- Υ to
- Υ top
- Υ triangle
- Υ triangledown
- Υ triangleleft
- Υ trianglelefteq
- Υ triangleq
- Υ triangleright
- Υ trianglerighteq
- Υ twoheadleftarrow
- Υ twoheadrightarrow

U

- Υ ulcorner
- Υ underbrace
- Υ underleftarrow
- Υ underleftrightharrow
- Υ underline
- Υ underrightarrow
- Υ underset
- Υ unlhd
- Υ unrhd
- Υ Uparrow
- Υ uparrow
- Υ Updownarrow
- Υ updownarrow
- Υ upharpoonleft
- Υ upharpoonright
- Υ uplus
- Υ Upsilon
- Υ upsilon

- Υ upuparrows
- Υ urcorner

V

- Υ varDelta
- Υ varepsilon
- Υ varGamma
- Υ varinjlim
- Υ varkappa
- Υ varLambda
- Υ varliminf
- Υ varlimsup
- Υ varnothing
- Υ varOmega
- Υ varphi
- Υ varPhi
- Υ varpi
- Υ varPi
- Υ varprojlim
- Υ varpropto
- Υ varPsi
- Υ varrho
- Υ varsigma
- Υ varSigma
- Υ vartheta
- Υ varTheta
- Υ vartriangle
- Υ vartriangleleft
- Υ vartriangleright
- Υ varUpsilon
- Υ varXi
- Υ vdash
- Υ Vdash
- Υ vdots
- Υ vec
- Υ vee
- Υ veebar
- Υ verb

- $\mathbb{V}ert$
- $\mathbb{V}ert$
- $\mathbb{V}phantom$
- $\mathbb{V}vdash$

W

- $\mathbb{W}edge$
- $\mathbb{W}idehat$
- $\mathbb{W}idetilde$
- $\mathbb{W}p$
- $\mathbb{W}r$

X

- $\mathbb{X}i$

- $\mathbb{X}i$
- $\mathbb{X}leftarrow$
- $\mathbb{X}rightarrow$

Y

- $\mathbb{Y}en$

Z

- $\mathbb{Z}eta$

注 釈 一 覧

第 8 章 CAS 記法のマークアップリファレンス

- 1) この文字列は注の文字列です (p. 149)
- 2) この注は書籍 (紙) では章末にまとめる。(p. 149)

図表一覧

図一覧

第2章 CAS-UB による出版物の制作

- 図1 CAS-UB のログイン画面 (p. 4)
- 図2 ホーム (出版物一覧) 画面 (p. 5)
- 図3 Word 文書の印刷プレビュー (p. 6)
- 図4 Word 原稿のアウトライン (p. 6)
- 図5 出版物新規作成 (p. 7)
- 図6 ファイル名とタイトルの設定 (p. 7)
- 図7 外部データ入力をクリック (p. 8)
- 図8 原稿の Word ファイルを指定する (p. 8)
- 図9 インポート完了 (p. 8)
- 図10 最初の記事の記事編集画面 (p. 9)
- 図11 インポートが成功すると記事が三つできる (p. 9)
- 図12 書誌編集の選択 (p. 10)
- 図13 書誌編集画面下部の操作ボタン (p. 10)
- 図14 著者のプロフィール追加 (p. 10)
- 図15 著者のプロフィール項目に入力 (p. 11)
- 図16 版数と発行年月日の入力 (p. 11)
- 図17 書誌編集画面上部の操作リンク (p. 11)
- 図18 生成画面への切り替え (p. 12)
- 図19 一般設定 (p. 12)
- 図20 一般で CSS のテーマを選択 (p. 12)
- 図21 縦書の CSS のテーマを選択 (p. 13)
- 図22 EPUB3 生成 (p. 13)
- 図23 前回の生成結果をダウンロードする (p. 14)
- 図24 表紙とナビゲーション (p. 15)
- 図25 第3章の先頭部分 (p. 15)
- 図26 本文の最後と奥付け (p. 16)

第3章 CAS-UB の画面と機能

- 図1 ヒント表示を閉じる (p. 18)
- 図2 出版物新規作成画面例 (p. 20)
- 図3 記事編集画面 (p. 22)
- 図4 記事編集画面から他の画面に移ると
「記事編集」で直近の記事編集画面に戻れます (p. 22)
- 図5 記事内容編集画面 (p. 23)
- 図6 記事内容保存ボタン (p. 24)
- 図7 保存成功の通知 (p. 24)
- 図8 移りたい記事を選択 (p. 25)
- 図9 保存してないときの警告 (p. 25)
- 図10 CAS-UB で書く段落 (p. 25)
- 図11 段落の区切り (EPUB) (p. 26)
- 図12 記事一覧を出す (p. 29)
- 図13 記事一覧の表示例 (p. 29)

- 図 14 記事の移動についての操作項目 (p. 31)
- 図 15 同レベルの記事間の移動 (p. 31)
- 図 16 記事を任意の記事の下に移動する (p. 32)
- 図 17 ドラッグ&ドロップによる記事の移動 (p. 33)
- 図 18 チェックした記事が削除される (p. 33)
- 図 19 ゴミ箱を空にする (p. 35)
- 図 20 内容表示 (p. 35)
- 図 21 記事一覧から内容表示 (p. 36)
- 図 22 内容表示例 (p. 36)
- 図 23 外部データ入力画面 (p. 38)
- 図 24 ドラフトに記事があるときの表示例 (p. 42)
- 図 25 画像の画面 (p. 44)
- 図 26 アップロードする画像を指定して[画像のアップロード]ボタンをクリックする (p. 44)
- 図 27 アップロードされている画像の一覧 (p. 45)
- 図 28 画像の削除が完了すると「一覧を更新する」と表示されるのでクリックしてください (p. 46)
- 図 29 検索結果の表示例 (p. 47)
- 図 30 編集画面での検索文字列のハイライト表示例 (p. 47)
- 図 31 置換の実行 (p. 48)
- 図 32 置換元文字列の検索結果表示例 (p. 48)
- 図 33 書誌編集画面 (p. 49)
- 図 34 プロフィール入力画面 (p. 52)
- 図 35 書誌情報画面のマークアップ (例) (p. 57)
- 図 36 タイトルページのルビと縦中横 (p. 57)
- 図 37 [保存]ボタンをクリックしてから生成を実行する (p. 59)
- 図 38 生成実行時のエラー表示例 (p. 59)
- 図 39 EPUB3 生成設定 (p. 60)
- 図 40 Kindle の生成設定 (p. 67)
- 図 41 HTML ヘルプの生成設定 (p. 69)

第4章 記事の種類

- 図 1 新しい出版物の作成 (p. 75)
- 図 2 出版物の種類を変更 (p. 75)
- 図 3 記事一覧 (記事編集画面) の記事の順序 (p. 76)
- 図 4 PDF 生成 (目次) での記事の順序 (p. 77)
- 図 5 タイトルを目次に出力しない (p. 78)
- 図 6 ふたつのコンテンツ階層化 (p. 79)
- 図 7 記事の種類を設定 (p. 81)

第5章 データ管理

- 図 1 出版物を削除する (p. 89)
- 図 2 出版物の削除確認 (p. 89)

第7章 マークアップ支援機能

- 図 1 マークアップ支援ボタン (p. 95)
- 図 2 見出しのマークアップ (p. 96)
- 図 3 見出しのマークアップ 2 (p. 97)
- 図 4 番号なし箇条書き (p. 97)
- 図 5 箇条書きのネスト (p. 98)
- 図 6 項目の長い箇条書き (p. 98)
- 図 7 ブロック範囲指定・キャプションあり (p. 99)
- 図 8 ブロック範囲指定・1行目見出し (p. 99)
- 図 9 ブロック範囲指定なし (p. 99)

- 図10 ブロック画像の例 (p. 100)
- 図11 インライン画像の例 (p. 101)
- 図12 段落配置の設定例 (p. 102)
- 図13 修飾の適用例 (p. 103)
- 図14 ルビのマークアップ例 (p. 103)
- 図15 索引を指定した例 (p. 104)
- 図16 マークアップした表のテキストファイルをインクルード (p. 105)
- 図17 マークアップした表のテキストファイルを整形済みでインクルード (p. 105)
- 図18 CSV ファイルを表としてインクルード (p. 106)
- 図19 リンクの設定例 (p. 107)
- 図20 コメントの設定例 (p. 107)
- 図21 ID 参照のマークアップ支援 (p. 108)

第8章 CAS 記法のマークアップリファレンス

- 図1 見出しにルビのマークアップ (p. 117)
- 図2 見出しにルビのマークアップをしたときのPDF生成例 (p. 118)
- 図3 記事タイトルを本文・目次に出すかどうか設定 (p. 119)
- 図4 記事タイトルにルビのマークアップ (p. 120)
- 図5 記事タイトルにルビのマークアップをしたときのPDF生成例 (p. 121)
- 図6 キャプション (p. 129)
- 図7 width=30%を指定：版面の30%幅になります (p. 130)
- 図8 縦書のテーマで表示した例 (p. 147)
- 図9 親子索引 (p. 153)
- 図10 兄弟の索引 (p. 153)

第9章 CAS 記法の属性マークアップリファレンス

- 図1 フォント・ファイル管理画面の例 (p. 170)
- 図2 フォントを埋め込んだEPUBのiBooksによる表示例 (p. 171)
- 図3 システムフォント一覧の表示例 (p. 172)
- 図4 埋め込み指定したシステムフォント名の表示例 (p. 172)
- 図5 ブロックマージンの設定例 (p. 173)
- 図6 画像の回り込みなし (p. 175)
- 図7 画像の回り込み (p. 176)

第10章 コンテンツやマークアップに使う記号・文字・単位

- 図1 索引の例 (p. 179)

第11章 縦組の指定

- 図1 PDF 縦組テーマの指定 (p. 183)
- 図2 目次の扉の生成機能 (p. 185)
- 図3 リンク (p. 187)
- 図4 自動生成ページの文字進行方向設定画面 (p. 187)

第12章 EPUBのレイアウト指定

- 図1 横書・縦書テーマの一覧 (p. 189)
- 図2 CSSの調整へのリンク (p. 190)
- 図3 テーマの設定変更 (p. 191)
- 図4 「ノーマル明朝」の段落レイアウト (p. 192)
- 図5 「ノーマル明朝」の段落の字下げと空きを変更 (p. 192)

表一覧

第4章 記事の種類

表1 記事の種類一覧 (p. 72)

表2 「書籍3」の記事の種類 (p. 74)

表3 自動生成の記事の作り方 (p. 81)

第8章 CAS記法のマークアップリファレンス

表1 インラインマークアップの例 (p. 119)

表2 特殊化したブロック (p. 126)

表3 特殊化したブロック属性の種類 (p. 127)

表4 PDF生成における表のレイアウト指定 (p. 132)

表5 PDF生成における表の配置 (p. 133)

表6 CSV インクルード (p. 134)

表7 IDの種類 (p. 156)

表8 IDの種類 (p. 158)

表9 アンカー内で有効なマークアップ (p. 159)

第9章 CAS記法の属性マークアップリファレンス

表1 CAS-UB標準のクラス属性値 (p. 166)

表2 フォント名とクラス名の例 (p. 170)

表3 CAS-UBで用意している主なシステムフォント (p. 171)

表4 ブロックマージンの属性名 (p. 173)

表5 ブロック引用の中の表 (p. 174)

表6 CSS標準カラー名一覧 (p. 177)

第10章 コンテンツやマークアップに使う記号・文字・単位

表1 絶対単位 (p. 182)

表2 相対単位 (p. 182)

第11章 縦組の指定

表1 手作り記事の文字組方向 (p. 184)

表2 EPUB記事毎の文字進行方向クラス設定 (p. 186)

索引

アルファベット

ASCII 文字 113
bib ファイル 82, 220
CAS 記法
 マークアップ 91
CSS テーマの設定変更 190
CSS の調整 190
CSS のテーマ 189
CSV ファイル 133
EPUB3 の生成 13
EPUB の生成設定 60
ID 156
ID 一覧を更新する 23
ID 参照 158
ID の重複 117, 158
ID の重複エラー 59
ID の付与と参照 156
Kindle の生成設定 67
Kindle MOBI 3
PDF 生成
 表ヘッダの繰り返し 131
PDF のインポート 38
SVG 記事 218
SVG ファイルの ZIP のインポート 41
Unicode 番号指定
 文字番号参照 181
URL の参照 154
Web ページを生成 67
WordPress のインポート 38, 40
Word のインポート 38
XHTML 表の埋め込み 138

あ

後書 74
後付 75
アンカー 156
アンダーライン (CAS 記法) 145
イタリック (CAS 記法) 145
インクルード 133, 139
インポート 38
インライン数式 160
インライン範囲指定 125
インライン要素 111
上付き (CAS 記法) 148
埋め込みブロック (XHTML 表) 138
エスケープ 165, 179
エピローグ 74
円記号 (¥) 180
奥付 74, 81
奥付に使われ項目の入力 49
奥付類 75

オーナー変更 215

か

改行 113
簡条書き (CAS 記法) 121
カスタマイズ
 EPUB レイアウト 93, 191
下線 145
画像
 アップロード 43
 配置 174
 回り込み 174
画像画面 43
画像のキャプション 129
画像のサイズ指定 129, 151
画像の説明文 130
カバー画像 83
空行 111, 112
巻末注釈 74, 81
記号をマークアップ用途ではなく記号のまま表示したい 179
記事 3
記事一覧を出す 29
記事クラス名 73
記事スタイル 186
記事タイトルについて 118
記事タイトルのマークアップ 119
記事の移動 31
記事の書き方 25
記事の削除 33
記事の種類 71
 区分 73
 自動生成の記事 80
 手作りの記事 80
記事の種類役割 71
記事のタイトル 221
記事の並び替え 75
記事の入力 23
記事の分割 80
記事の保存 23
脚注 149
キャプション 126
キャプションのマークアップ 127
強制改行 (CAS 記法) 148
強制改ページ (CAS 記法) 144
強調 (CAS 記法) 145
空白文字 113
検索 46
献辞 74
圏点 (CAS 記法) 146
権利関係 74
項 74

公開プロフィール 213
後注マークアップ 82
コンテンツの階層化 78

さ

索引 74, 81
出版物の削除 89
サポートについて i
参考文献 74, 81, 219
参照 (IDの参照) 156
下付き (CAS 記法) 148
執筆チームメンバー 216
自動生成記事
 —作成 (PDF) 82
 —作成 (EPUB) 83
 —タイトル変更 221
 挿入位置 77
謝辞 74
出版物 3
出版物新規作成 7
出版物の種類 75
出版物識別名 20
章 74
書誌編集 9
書誌編集画面 49
書籍 2 75
書籍 3 75
水平線 (CAS 記法) 143
数式
 インライン数式 160
 数式の記述 220
 数式リファレンス 223
 ブロック数式 141
スタイルシート 191
図表一覧 74, 81
整形済み範囲の指定 153
整形済みブロック 136
生成時のエラー 59
節 74
設定の保存 (生成) 13
セパレーター用段落 114
属性
 ID属性 164
 親要素に属性 165
 組み込みクラス属性値 163
 クラス属性 92, 163
 —の付与 91

た

タイトルのマークアップ 119
タイトルページ 57, 74, 81
タイトル前 74
タイトルを本文に出力する 118
タイトルを目次に出力する 118
タイプライター 153
縦中横 147

奥付の— 57
タイトルページの— 57
表紙の— 57

単位

絶対単位 182
相対単位 182
段落 25
段落 (CAS 記法) 112
段落間の空き 114, 190
段落先頭行の字下げ 190
段落両端揃え 190
置換 47
注 149
テキストファイルのインポート 38, 41
電子書籍 152
テーマ 3, 93
特殊化 126
特殊化したブロック 125
特殊な文字を使いたい 181
ドラフト 42

な

内容表示 (ドラフト) 43
内容表示のテーマの選択 37

は

背景色 177
バックアップ 86
バックアップのリストア 87
範囲指定 (インライン) 151
範囲を指定する 151
番号付き簡条 122
番号なし簡条 122
半扉 74
表 130
 表 (XHTML) の埋め込み 138
 表の列幅指定 131
 ヘッダ行 131
 見出しのセル 131
表紙 74, 81
表紙画像
 EPUBの— 63
表紙と奥付に使われる項目の入力 49
表の罫線 190
ファイル名 26
フォント埋め込み 169
フリガナ 146
プレーンテキストのインポート 41
付録 74
ブロック引用 (CAS 記法) 135
ブロック画像 128
ブロック数式 141
ブロック範囲指定 125
ブロックマージン (CAS 記法) 173
ブロック要素 111
プロフィール 74

プロローグ 74
本全体の横組・縦組 183
本扉 74
本の一部を横組 183
本文 75
本文の扉 74
本文の目次 (EPUB) 83
ボールド (CAS 記法) 145

ま

前書 74
前付 75
マークアップ 27
 CAS 記法 91
マークアップ (キャプション) 127
マークアップ支援ボタン 95
見出し (CAS 記法) 115
見出しの参照 156
見出しのマークアップ 117
見出しのランク 115
見出しのレベル 116
見出しランク 79
メルマガ EPUB 変換機能の利用方法 195
メルマガ H テンプレート 207
メルマガ K テンプレート 201
メルマガ T テンプレート 204
メルマガ U テンプレート 198
メルマガ変換のルール 197
目 74

目次 27, 74, 81
目次後 74
目次に表示しない記事 77
目次の扉 185
文字組方向
 奥付 (PDF) の―― 186
 表紙 (PDF) の―― 185
 前付・後付記事 (PDF) の―― 186
文字色 177
文字番号参照
 Unicode 番号指定 181

や

ユーザー・スタイルシート 191
ユーザー付与 ID 156
用語定義リスト (CAS 記法) 124
要素 91
予約済みの記号 180

ら

ラベルなし箇条 124
リストア 87
履歴 85
リンクと URL 154
ルビ (CAS 記法) 146
ルビ
 奥付の―― 57
 タイトルページの―― 57
 表紙の―― 57

CAS-UB User Guide V4.0
CAS-UB 利用ガイド

2012年03月01日発行 V2.0初版
2016年10月19日発行 V4.0初版

著 者 CAS-SUPPORT
発 行 者 小林 徳滋
発 行 所 アンテナハウス株式会社
住 所 東京都中央区東日本橋2丁目1番6号 東日本橋藤和ビル5階
電話番号 03-5829-9021
W E B <http://www.antenna.co.jp/>
Eメール info@antenna.co.jp
